九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

及川尊雄収集 紙媒体資料目録

鎌田, 紗弓
東京大学

曽村, みずき
東京藝術大学大学院

中川, 優子

橋本, かおる
東京藝術大学

他

https://hdl.handle.net/2324/7385564

出版情報：2021-03. Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 3.0 Unported

KYUSHU UNIVERSITY

及川尊雄収集 紙媒体資料目録

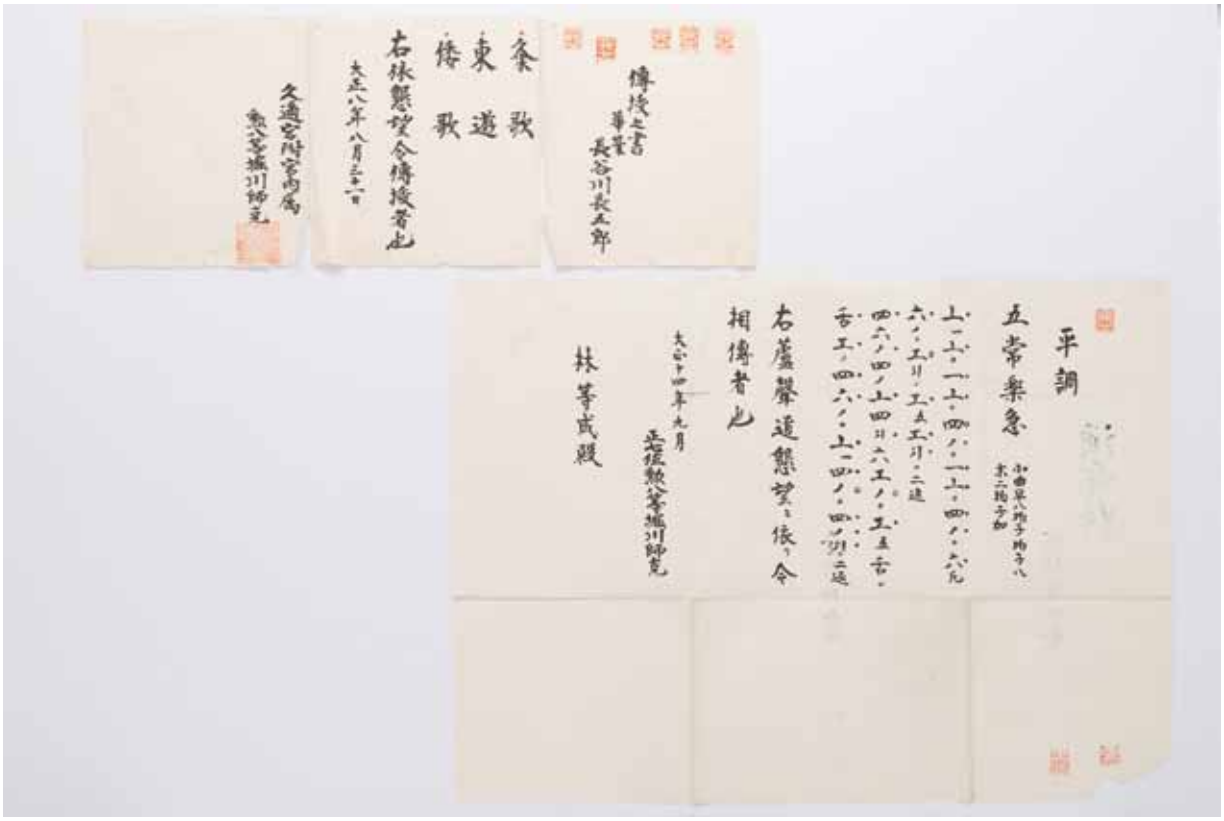
令和3(2021)年3月

独立行政法人 国立文化財機構
東京文化財研究所 無形文化遺産部

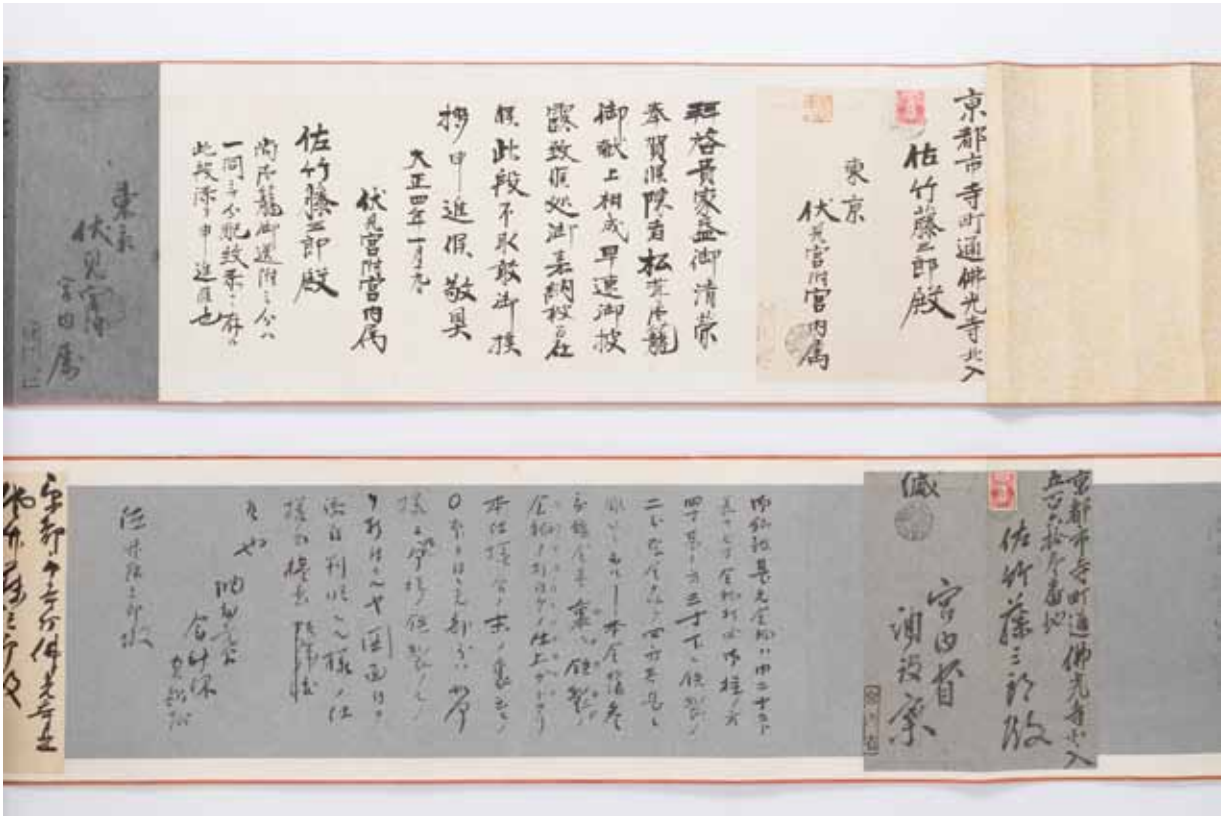
及川尊雄収集 紙媒体資料目録

令和3(2021)年3月

独立行政法人 国立文化財機構
東京文化財研究所 無形文化遺産部



上：目録番号 269 「伝授之書　筆簗　長谷川長五郎」
下：目録番号 270　林等成宛相伝証書



上：目録番号 262 「宮殿下様ヨリノ御手紙」
下：目録番号 263 「宮内省拝命御用書類」

左上：目録番号 2307 「出品願」　　右上：目録番号 2308　出品目録
下 ：目録番号 2306 「第四回内国勧業博覧会褒賞證」

左上　：目録番号 609 『琵琶新聞　第 72 号』
左下 右：目録番号 602 『琵琶新聞　第 157 号』
　　左：目録番号 603 『琵琶新聞　第 159 号』

右上　右：目録番号 604 『琵琶新聞　第 67 号』
　　左：目録番号 605 『琵琶新聞　第 68 号』
右下　右：目録番号 536 『水声　第 3 号』
　　中央：目録番号 538 『水声　第 16 号』
　　左：目録番号 539 『水声　第 20 号』

目　次

序　山梨絵美子（東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長）…… 1
目録刊行への謝辞　及川淑子…… 2

目　録

及川尊雄収集 紙媒体資料　調査の概要　中川優子 …… 4
凡例…… 7
01. 雅楽 …… 8
02. 声明 ……19
03. 琵琶楽 ……20
04. 能楽 ……29
05. 地歌・箏曲 ……36
06. 三味線音楽（地歌以外） ……40
07. 邦楽囃子 ……44
08. 胡弓楽 ……44
09. 尺八楽 ……45
10. 琴 ……51
11. 沖縄音楽 ……57
12. アイヌ音楽 ……58
13. 民俗芸能・民謡 ……59
14. 複数の音楽分野 ……61
15. その他の音楽 ……81
16. 関連分野 ……95

各　論

1. 及川尊雄旧蔵　佐竹藤三郎関係資料の紹介―大礼・大喪関係の資料を中心に
　　橋本かおる…… 116
2. 及川尊雄旧蔵　堀川久民・師克父子関係資料―「聖霊会次第」を主例として
　　鎌田紗弓…… 127
3. 及川尊雄が収集した今村権七関係資料―楽器製作者の足跡
　　前原恵美…… 137
4. 近代琵琶雑誌・会報資料にみる薩摩琵琶・錦心流の動向―及川尊雄収集資料を中心に
　　曽村みずき…… 148

結び　前原恵美（東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形文化財研究室長） …… 158

序

東京文化財研究所無形文化遺産部無形文化財研究室では、日本の伝統楽器やそれらの製作に用いられる材料・道具の調査を継続的に行っております。そうした中、日本の伝統楽器やその関連資料の収集家として著名であられた及川尊雄氏（1942-2018）のご遺族から、氏の集められた書籍、文書などの紙媒体の資料を調査する機会をいただき、平成30年10月から、それらの整理と調査を進めて参りました。

及川尊雄氏は楽器などを含む、生活の中にある「鳴るもの」や、楽器製作に使用する道具などのほかに、それらに関する膨大な資料を収集しそれらを展示公開する「及川鳴り物博物館」の館長を務めておいででした。

これらの資料群は及川氏自身の音楽研究の幅広さと深さを窺わせるものですが､紙媒体資料の中には、近代の大礼・大葬の楽器をはじめ宮内省関係の多くの仕事に関わった京都の楽器商「佐竹招慶堂」を営んだ佐竹藤三郎関係資料や、式部寮伶人堀川久民・師克父子関係資料、箏・三味線製作販売者であった今村権七関係資料、近代琵琶関係資料など、日本の音楽史研究に資する興味深い資料群が含まれています。本書は同氏が収集された紙媒体資料の目録と、それに関する考察を収めたものです。

これらの資料は、氏の遺されたものを散逸させることなく、広くご関係の方々の活用に供したいとのご遺族の御意思により弊所に寄贈され、令和３年度より広く閲覧に供するべく準備を進めております。及川尊雄氏およびご遺族に深い敬意を表しますとともに、本書が、多くの方々に活用され、日本の音楽史研究に寄与するよう願ってやみません。

令和３年３月

東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長
山　梨　絵美子

目録刊行への謝辞

このたび、夫　及川尊雄が収集した資料が東京文化財研究所の前原恵美先生をはじめスタッフの方々のご厚意で調査・保存されることになり、家族一同心よりお礼を申し上げます。

夫が亡くなってから３年近くが経ちましたが、47年間をかけて収集された和楽器、鳴り物、資料のほとんどがそのまま困ったような表情で自宅に佇んでいます。

収集のきっかけは、音の出るものへの興味から始まり、楽器の歴史や奏法、演奏者・製作者・研究家へと発展していきました。日本の音楽教育が西洋音楽偏重であることに疑問をもち、和楽器への関心が深まった面もあるようです。また、いつからか和楽器の成り立ちを解き明かしたい気持ちを強くしました。インターネットがない時代のため、骨董店に電話をかけ、楽器や資料があれば足を運んでいました。特に魅力を感じて足繁く通ったのが、京都の雅楽器店の佐竹招慶堂様です（３代目の藤三郎様は雅楽器の製作・修理者)。佐竹様は、「楽器は見て楽しむ、聞いて楽しむ、触って楽しむ、の３つが揃っていなければならない」と話していたそうです。また、自分の後に続く人のために、丹念な記録作りをしています。佐竹様の描いた楽器の絵は詳細かつ正確で驚くばかりです。

今回、東京文化財研究所に所蔵される資料にも、佐竹様に関するものが多く含まれており、佐竹様の思いも、夫を介して継ぐことができました。

退職後は、自宅近くに「及川鳴り物博物館」を開きました。すべて手作りの博物館でしたが、多くの方にお越しいただき、和楽器の素晴らしさを伝えていました。病を患ってからは、写真集の制作に取り組み、『阿弗利加(あふりか)から旅して来た日本の楽器たち　音の図書館をめざして』（アルテスパブリッシング刊）を出版しました。夫の功績をかたちに残せたことは本当によかったと思います。

私たち家族は、夫の遺志を継ぎ、鳴り物や資料が散逸せずに保存されることを希望しています。幸いにも楽器の一部はアメリカの楽器博物館に所蔵され、世界の方々に見てもらえることになり私どもも安堵しています。

そして、資料は「もう一つの及川コレクション」として、東京文化財研究所に所蔵されるだけでなく、素晴らしい目録にまとめていただきました。

楽器も資料も後世の方々の役に立てれば、本人はもちろん家族にとってもこんなにありがたく嬉しいことはありません。

重ねて感謝申し上げます。

令和３年２月15日

及　川　淑　子

目　録

及川尊雄収集 紙媒体資料　調査の概要

中　川　優　子

１．調査工程

まず平成30（2018）年10月に前原氏が及川氏自宅を訪問し、資料の点数や保管状況などを確認した。その後打ち合わせを経て、及川氏が収集した紙媒体資料の概要を掴むことを目的とし、11月11日から12月21日までのうち計４日間、調査メンバーが各２～３名でローテーションを組み、現地での資料撮影および調書の入力作業を行った。資料はご自宅２階の二部屋、および廊下に設置された本棚に収納されているため、棚や引き出し、箱ごとに番号を振り、各資料の収納場所が特定可能なかたちで調書への入力作業を進めた。おおむね通し番号を振り単体での撮影を行ったが、作業効率化のため、書籍をはじめとする一部の資料については本棚に収められたままの状態で撮影を行い、後日研究所において背表紙の情報等をもとに調書の入力を行った。

これらの現地調査を経て、すべての資料の撮影と調書の入力には数十日を要する見通しとなったため、ご家族に改めて相談し、残りの資料を研究所で一時お預かりする運びとなった。12月24日に搬出作業を行い、翌平成31（2019）年１月より研究所内にて撮影および調書の入力作業を再開、同年９月までに一通りの作業が完了した。また６月頃より、資料の形態や内容等に関する分類項目を追加し、目録化に向けてリストを整える作業を開始した。およその概要が見通せた段階で、東日本支部 第113回 定例研究会（令和２（2020）年２月１日、共立女子大学）にて「もう一つの及川コレクション―及川尊雄氏収集紙媒体資料―について」として報告した（発表者：前原恵美（東京文化財研究所）、橋本かおる（東京藝術大学）、鎌田紗弓（東京大学）、曽村みずき（東京藝術大学大学院））。

さらに上記定例研究会後、ご家族より追加資料が出てきたとのお知らせをいただいたため、それらの資料を新たにお預かりし、撮影および調書の作成を行った。そののち、すべてを併せて目録化するとともに前掲例会での発表内容を改定し、目録とともに本書に収めることとした。

２．資料の分布と整理方針

目録調書の作成にあたっては、資料の形態および内容という二つの観点にもとづいた分類を行った【表１】。

まず形態については、以下のような細目を設けて整理を行った。

「本」：研究書や辞典・事典類、写本を含む綴じられた書物など

「定期刊行物」：雑誌・新聞や演奏家団体の会報など

「論文・報告書」: 学会誌などの論文や調査報告書など
「カタログ・チラシ」: 展覧会の図録や演奏会のプログラム、チラシやポスターなど
「譜」: 楽器の楽譜、詞章本や床本、舞譜など
「メモ・ノート」: 書物からの抜き書き、楽器の特徴にかんする覚え書きなど
「書面」: 免状、楽器職人による楽器製作・修理についての書状や大福帳、博覧会への出品に関する申請書などの手書き資料
「文献その他」:上記七種にあてはまらない文献資料（楽器関連の特許資料、出典不明の複写物など）
「絵図」: 掛け軸の絵画資料や楽器の図案、絵葉書など
「視聴覚資料」: CD、LPレコード、カセットテープ、テレビ放送を録画したと思われるVHSなど
「その他」: 中身の入っていない包みや封筒など

まず文献資料はその形態が多岐に渡るため、「本」ないし「文献その他」の八つに分類した。このうちとくに「本」「定期刊行物」「論文報告書」などについては、部分的な複写物もしばしば含まれる。また「メモ・ノート」には、及川氏の自筆と思われる貴重な資料が多く含まれていれる。さらに文献以外の形態をもつ資料も確認され、これらは大きく「絵図」と「視聴覚資料」に分類した。なお目録には掲載しなかったが、及川氏の自宅には、自身の収集された楽器や、博物館等において撮影された写真類の所蔵も確認された（写真類は、撮影場所や日時、撮影対象の詳細がわからないものが多かったため、目録に含めることは断念した)。

一方内容については、主にどのような音楽ジャンルに属するかという観点から、以下の項目を立て、分類を行った。

「雅楽」「声明」「琵琶楽」「能楽」「地歌・箏曲」「三味線音楽（地歌以外)」「邦楽囃子」「胡弓楽」「尺八楽」「琴」「沖縄音楽」「アイヌ音楽」「民俗芸能・民謡」「複数の音楽分野」「その他の音楽」「関連分野」

基本的に今日の日本音楽における種目やジャンル、楽器の分類にのっとりつつ、資料の実態に即した枠組みを随時検討しながら整理を進めた。たとえば「琴」については、とりわけ一弦琴や二弦琴にかんする資料がまとまって確認されたこと、さらに及川氏自身が一絃琴の演奏家であったことをふまえ、単独の項目として加える運びとなった（なお七弦琴（古琴）については、中国音楽関連として「その他の音楽」に分類した)。また日本音楽史全般にかんするものや、上記における複数の項目にまたがるものは「複数の音楽分野」として分類した。さらに西洋音楽や中国音楽関連、世界の民族音楽や日本の土笛など、上記の日本音楽にかんする分類にあてはまらないものを「その他の音楽」、美術や工芸、各地域の風俗や考古学など、音楽に関係する諸分野の資料を「関連分野」とした。このように、時代や国・地域を問わないさまざまな音楽や隣接分野に関する内容が確認されたことは、及川氏の関心の幅広さを示しているだろう。

【資料の形態】

		文献								絵図	視聴覚資料	その他
		本	定期刊行物	論文・報告書	カタログ・チラシ	譜	書面	メモ・ノート	文献その他			
		977	502	153	522	379	288	227	191	226	40	10
雅楽	438	63	35	8	33	84	47	56	23	86	2	1
声明	24	10	0	0	2	6	0	6	0	0	0	0
琵琶楽	320	18	147	10	33	51	40	10	9	1	0	1
能楽	235	42	5	0	8	17	53	32	5	71	1	1
地歌・箏曲	142	26	5	3	13	65	10	15	2	1	2	0
三味線音楽（地歌以外）	110	38	4	1	6	22	12	7	7	5	8	0
邦楽囃子	8	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0
胡弓楽	9	2	0	2	0	0	0	1	2	0	2	0
尺八楽	205	43	33	21	17	46	9	6	22	3	2	3
琴	196	36	23	0	25	34	11	22	33	7	4	1
沖縄音楽	29	13	0	5	7	2	0	0	1	1	0	0
アイヌ音楽	13	2	1	7	2	0	0	0	0	0	1	0
民俗芸能・民謡	52	24	1	8	6	1	1	3	2	3	3	0
複数の音楽分野	678	170	162	53	130	5	74	45	22	10	6	1
その他音楽	438	172	29	7	120	44	2	16	24	16	8	0
関連分野	618	313	57	28	120	0	29	7	39	22	1	2

【資料の内容】

【表１】形態・内容にもとづく資料の分布

３．特筆すべき点

まず、及川氏による図録（『阿弗利加（あふりか）から旅して来た日本の楽器たち　音の図書館をめざして』）に掲載されている紙媒体資料のうち、少なくとも30点が確認されたことから、氏が著書の刊行にあたって、楽器コレクションと紙媒体資料との双方を活用していたことがみてとれる。そして及川氏による自筆資料をも含んだこれらの紙媒体資料群からは、楽器収集という側面にとどまらず、幅広い関心を寄せた氏の音楽への理解の様相を窺い知ることができるだろう。

さらに当紙媒体資料からは、公的機関のまとまった所蔵にはなりにくい、書簡などの私的な資料が数多く確認される。具体的には、京都の楽器商として知られる佐竹藤三郎、あるいは明治期に旧楽家以外から初めて伶人となった堀川久民やその息子師克、そして自身が製作した楽器を博覧会に出品していた今村権七らに関わる資料などである。さらに、たとえば近代琵琶などにおいては、雑誌や会報といった定期刊行物のまとまった所蔵が確認され、ここには公的機関では所蔵されていない刊・号も含まれている。当資料群は、他機関の資料と併せて活用することで、音楽史の新たな側面を明らかにする可能性をもっていると言えるだろう。

凡　例

本目録の凡例は「及川尊雄収集 紙媒体資料　調査の概要」（４頁）の資料分類や項目に準じているので、併せて参照されたい。

●分類について

【ジャンル】

資料は、関連ジャンルにより以下の16ジャンルに分類した。

01. 雅楽、02. 声明、03. 琵琶楽、04. 能楽、05. 地歌・箏曲、06. 三味線音楽、07. 邦楽囃子、
08. 胡弓楽、09. 尺八楽、10. 琴、11. 沖縄音楽、12. アイヌ音楽、13. 民俗芸能･民謡、14. 複数の音楽分野、
15. その他の音楽、16. 関連分野

※「06. 三味線音楽」は「05. 地歌・箏曲」以外の三味線音楽に関わることを指す。
※「14. 複数の音楽分野」は複数の日本の伝統音楽ジャンルに関わることを指す。
※「15. その他の音楽」は日本の伝統音楽以外の音楽ジャンルに関わることを指す。
※「16. 関連分野」は音楽以外の関連分野（哲学や宗教など）に関わることを指す。

【形態分類】

各関連ジャンルの細項目として形態別に1. ～4. に分け、1. 文献についてはさらに1-1. ～1-8. に分類した。これらの内訳は以下の通りである。

1. 文献
1-1. 本　1-2. 定期刊行物　1-3. 論文・報告書　1-4. カタログ・チラシ　1-5. 譜　1-6. 書面
1-7. メモ・ノート　1-8. 文献その他
2. 絵図
3. 視聴覚資料
4. その他

●各項目の記載について

全体を通して、文字の表記は新字体を用いる。固有名詞についてはJIS第２水準の漢字までは原資料の表記にならうよう努めたが、そのほかは通用の字体に改めた。

目録番号：全体の通し番号を付した。
資料名（内容）：
- 明らかな表題について、書名等は『』、論文・メモ等は「」を付し、シリーズの１冊である場合、表題に続けて（）で記した。　例：『雅楽　古楽譜の解読』（東洋音楽選書10）
- 複写の場合は、末尾に「複写」と記した。　例：『楽家録　自十一至二三』複写
- 本文等から内容を推定した場合は『』等に入れずそのまま記し、本文以外から推定した場合のみ続けて（）にその根拠を記した。　例：佐竹藤三郎宛礼状はがき（表書）

著者・筆者：著者・筆者以外に、編集や監修については（編）、（監修）として記した。
成 立 年：刊行年または書写年を記した。なお、江戸時代は和暦、明治時代以降は西暦で表記した。
出 版 社：出版社、団体・組織等をわかる範囲で記した。
備　　考：資料の特徴をなす事項について、簡潔に記した。

目　録

01. 雅楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1	『いにしえの雅びな世界　王朝のあそび』	切畑健ほか	1992年	紫紅社	
2	『絵本通宝志巻之二』				
3	『雅楽』（こと典百科叢書第47巻）	多忠龍	2016年	大空社	
4	『雅楽』（日本の伝統 7）	ウィリアム・マーム、東儀和太郎	1968年	淡交社	
5	『雅楽』（別冊太陽）	遠藤徹（構成）	2004年	平凡社	
6	『雅楽　王朝の宮廷芸能』（日本の古典芸能 2）	藝能史研究會（編）	1970年	平凡社	
7	『雅楽　古楽譜の解読』（東洋音楽選書10）	林謙三、東洋音楽学会（編）	1969年	音楽之友社	
8	『雅楽鑑賞』	押田良久	1969年	文憲堂七星社	
9	『雅楽講話　第壱輯』	多重雄（編）			
10	『雅楽講話　第壱輯』	多重雄（編）			
11	『雅楽雑記』複写	田中貞夫	1958年		
12	『雅楽雑記　全』				朱書あり
13	『雅楽辞典』	小野亮哉（監修）、東儀信太郎（代表執筆者）	1989年	音楽之友社	
14	『雅楽通解　楽史篇』	芝祐泰（編）	1967年	国立音楽大学出版部	
15	『雅楽通解　楽理篇』	芝祐泰（編）	1967年	国立音楽大学出版部	
16	『雅楽道』	山口善有	1976年	成願蘭若	
17	『雅楽と伎楽』（岩波講座日本文学）	田邉尚雄	1931年	岩波書店	
18	『雅楽への招待』（FM選書37）	押田良久	1984年	共同通信社	
19	『楽説紀聞　全』	松田浩瀾	享保8年		
20	『神楽・催馬楽』（岩波講座日本文学）	武田祐吉	1932年	岩波書店	
21	『楽家録　自一至十』複写	安倍季尚、正宗敦夫（編纂・校訂）	1977年	現代思潮社	表紙、第七巻～十巻の本文
22	『楽家録　自十一至二三』複写	安倍季尚、正宗敦夫（編纂・校訂）	1935年	日本古典全集刊行会	表紙、第十六巻の本文
23	『楽家録　巻之三十三』（日本古典全集）複写	安倍季尚（撰）	1935-1936年	日本古典全集刊行会	pp.1012-1013
24	『楽曲考　上』（日本楽道叢書第5編）	羽塚啓明（編）	1928年	楽舞研究会	
25	『歌儛品目　上巻』（日本古典全集）	正宗敦夫（編）	1930年	日本古典全集刊行会	
26	『カラー版　スーパーガイド of 雅楽』	教芸音楽研究グループ（編）	1996年	教育芸術社	
27	『雅亮会百年史』	小野功龍ほか（編）	1983年	雅亮会	
28	『寛文年中　管絃名器録』				「右年号ナレドモ広■広猶明和七年之記録／就而此ノ□法皇御在位トアルハ霊元／天皇ナルヤ左スレバ寛文年中之事／ト相考候」（末尾）

29	『教訓抄』	狛近真（原著）	文化3年		2冊（乾・坤）、函あり、「文化三年丙寅秋八月／従五位右近衛将監兼図書■藤泰葛泰」（奥付）
30	『教訓抄　上』（日本古典全集）	正宗敦夫（編）	1928年	日本古典全集刊行会	
31	『教訓抄　下』（日本古典全集）	正宗敦夫（編）	1928年	日本古典全集刊行会	
32	『近代日本宮廷雅楽史研究』	水原渭江（撰）	1974年	南天書業公司	
33	『群書類従　三百四十四上』	塙保己一（編）			胡琴教録上
34	『群書類従　三百四十四下』	塙保己一（編）			胡琴教録下
35	『群書類従　三百四十五』	塙保己一（編）			舞楽要録
36	『胡琴教録　下』		1942年	古典保存会	影印本
37	『故実叢書　舞楽図説　全』	大月如電	明治期カ		「乙巳七夕起筆中秋成稿　六十一翁　大槻如電」（奥付）
38	『指導版鳳笙　雅楽御稽古本　第一編』		1940年（緒言）		一部のみ
39	『縮写　集古十種　第一巻　楽器之部　附図説　完』	吾妻健三郎	1902年	東陽堂	
40	『正倉院（一）』（岩波写真文庫40）	岩波書店編集部・岩波映画制作所（編）、宮内廳書陵部（写真）	1951年	岩波書店	
41	『正倉院（二）』（岩波写真文庫56）	岩波書店編集部・岩波映画制作所（編）、宮内廳書陵部（写真）	1952年	岩波書店	
42	『正倉院楽器の研究』	林謙三	1964年	風間書房	
43	『正倉院の楽器』	正倉院事務所（編）	1967年	日本経済新聞社	
44	『正倉院宝物にみる楽舞・遊戯具』	松本包夫（編）	1991年	紫紅社	
45	『昭和資財帳10　法隆寺の至宝　面・装束・楽器』	法隆寺昭和資財帳編集委員会（編）	1989年	小学館	
46	『新訂　舞楽図説』	大月如電	1869年	六合館	2冊（左・右）
47	『隋唐燕楽調研究』	林謙三、郭沫若（訳）	1936年	商務印書館	
48	『総御楽器並■附』複写	神田大和介	辛亥五月		
49	『体源鈔』	豊原統秋、正宗敦夫（編纂・校訂）	1933年	日本古典全集刊行会	
50	『体源鈔　自四至七』複写	豊原統秋、正宗敦夫（編纂・校訂）	1933年	日本古典全集刊行会	表紙、第四巻～五巻の本文
51	『大太鼓願日記』	衛士本家			
52	『天平のひびき　正倉院の楽器』（music gallery 1）	岸辺成雄	1984年	音楽之友社	
53	『東アジア楽器考』複写	林謙三	1973年	カワイ楽譜	pp.638-651
54	『舞楽解説』	神宮司庁雅楽講習所（編）	1955年	神道文化会	
55	『舞楽図説』（故実叢書第37）	河鰭實英	1957年	明治図書出版	
56	『舞楽図説　全』				
57	『舞曲口伝』	豊原統秋（原著）			
58	『儛図　信西古楽図』	正宗敦夫（編）	1929年	日本古典全集刊行会	
59	『師長ロマン：琵琶の名器を尋ねて二十五年』	広瀬清市	2003年	広瀬清市	
60	『問襄録　全』	並河天民（原著）	明和4年		「明和丁亥之夏五以古埜家本写焉」（奥付）
61	『梁塵秘抄』（岩波講座日本文学）	志田延義	1931年	岩波書店	
62	『倭舞装束調度図』		1905年		「明治乙巳季夏 春日画所内匠少充兼近江介平在照画」（奥付）
63	『BUGAKU』	入江泰吉（撮影）ほか	1987年	なら・シルクロード博協会	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
64	『雅楽　4月号』		1931年	雅楽普及会	
65	『雅楽　5月号』		1931年	雅楽普及会	

66	『雅楽　6月号』		1931年	雅楽普及会	
67	『雅楽　7月号』		1931年	雅楽普及会	
68	『雅楽　8月号』		1931年	雅楽普及会	
69	『雅楽　新春号』		1932年	雅楽普及会	
70	『雅楽　2月号』		1932年	雅楽普及会	
71	『雅楽界　第46号』		1958年	小野雅楽会	
72	『雅楽界　第48号』		1968年	小野雅楽会	記念号
73	『雅楽界　第52号』		1975年	小野雅楽会	
74	『雅楽研究　No.1』		1968年	彙文堂書店	
75	『雅楽だより　創刊準備号』		2005年	雅楽協議会	
76	『雅楽だより　第9号』		2007年	雅楽協議会	
77	『雅楽だより　第11号』		2007年	雅楽協議会	
78	『雅楽だより　第12号』		2008年	雅楽協議会	
79	『雅楽だより　第17号』		2009年	雅楽協議会	
80	『雅楽だより　第19号』		2009年	雅楽協議会	
81	『雅楽だより　第20号』		2010年	雅楽協議会	
82	『雅楽だより　第21号』		2010年	雅楽協議会	
83	『雅楽だより　第22号』		2010年	雅楽協議会	
84	『雅楽だより　第23号』		2010年	雅楽協議会	
85	『雅楽だより　第42号』		2015年	雅楽協議会	
86	『雅楽だより　第43号』		2015年	雅楽協議会	
87	『雅楽だより　第47号』		2016年	雅楽協議会	
88	『雅楽だより　第48号』		2017年	雅楽協議会	
89	『島根新聞』記事		1960年	島根新聞社	佐竹藤三郎関連記事
90	「信義双調」		1890年	國民新聞社	『国民新聞　第100号』付録
91	『中国新聞』		1960年	中国新聞社	切り取りあり
92	『日本雅楽会会報合本　第1号～第100号』			日本雅楽会	
93	『日本雅楽会会報　第127号』		1987年	日本雅楽会	
94	『日本の美術 62　舞楽面』	西川杏太郎（編）	1971年	至文堂	
95	『日本の美術 117　正倉院の楽器』	阿部弘（編）	1976年	至文堂	
96	『日本の美術 117　正倉院の楽器』	阿部弘（編）	1976年	至文堂	
97	『日本の美術 363　舞楽装束』	河上繁樹（編）	1998年	至文堂	
98	『美　3月号　伎楽面の源流に就いて』		1931年	芸艸堂	2冊糸綴じ、竹内勝太郎「伎楽面の源流に就て（上）（下）」所収

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
99	「春日大社重要文化財鼉太鼓（左方）調査報告」	春日顕彰会（編）	1975年	春日顕彰会	
100	「春日大社重要文化財鼉太鼓（左方）調査報告書」附図「春日大社重要文化財鼉太鼓（左方）実測図」	春日顕彰会（編）	1975年	春日顕彰会	
101	『古代楽器の復元』	国立劇場芸能部（編）	1994年	音楽之友社	
102	「正倉院五絃琵琶幻想　その伝来と皇甫東朝・昇女について」複写	大河内隆			
103	「正倉院宝物「螺鈿紫檀五絃琵琶」模造品作製事前調査（楽器本体）調査所見」複写	横山円音	2013年	宮内庁正倉院事務所	『正倉院紀要　第35号』
104	「笙の不明なる四管とその日本渡伝について」	岸辺成雄、レオ・トレーナー	1952年	東洋文庫	『東洋学報　第35巻第1号』抜刷

105	「新撰横笛譜序文並びに貞保親王　私考」	福島和夫	1976年	音楽之友社	『東洋音楽研究　第39・40号』抜刷
106	「調査報告　島根県宍道町木幡家旧蔵の雅楽史料について」	南谷美保	1991年	四天王寺国際仏教大学	『四天王寺国際仏教大学短期大学部紀要　第31号』

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
107	『第28回　雅楽公演会』		1994年		プログラム、フェスティバルホール（会場）、1994年11月30日（公演日）、天王寺楽所雅亮会（出演）
108	『雅楽　鳳笙　龍笛　篳篥』			武蔵野楽器	パンフレット
109	春日大社資料館宝物殿しおり				
110	『春日大社の楽器』	春日大社宝物殿（編）	1997年	春日大社宝物殿	図録
111	『春日大社の楽器』	春日大社宝物殿（編）	1997年	春日大社宝物殿	図録
112	『春日大社の漆芸』		1981年		図録、「春日大社宝物館」（表紙）
113	『春日大社の舞楽面』	毛利久（監修）	1906年	春日大社宝物殿	図録
114	「京都　佐竹楽器定価一覧表」				
115	「京都　佐竹楽器定価一覧表」				
116	「京都　佐竹楽器定価一覧表」				
117	「京都　佐竹楽器定価一覧表」				
118	「京都　佐竹楽器定価一覧表」				
119	『佐竹商報　時難克服号』		1939年	佐竹招慶堂	
120	『佐竹商報　臨時号』			招慶堂	
121	「定価表　佐竹楽器店」				
122	「定価表　佐竹楽器店」複写		1897年		
123	『西域の音　ひちりき＝篳篥　その同族楽器も含めて』	国立劇場事業部	1982年	国立劇場	プログラム、国立劇場第31回雅楽公演、国立劇場小劇場（会場）、1982年3月4日（公演日）
124	『財団法人松江博物館所蔵　雅楽器総目録　―昭和46年―』		1971年	島根県立博物館（表紙）	
125	『親鸞聖人七百回大遠忌記念　本願寺　雅楽の夕』	大坂雅亮会	1961年カ		プログラム、本願寺会館（会場）、1961年4月6日（公演日）、本願寺（主催）
126	『親鸞聖人七百回大遠忌記念　本願寺　雅楽の夕』	大坂雅亮会	1961年カ		プログラム、本願寺会館（会場）、1961年4月6日（公演日）、本願寺（主催）
127	「徳川家楽器目録」				笙・笛・篳篥・琴・琵琶・三鼓ほか
128	『特別陳列　紀州徳川家伝来雅楽器』		1982年	東京国立博物館	図録、東京国立博物館東洋館特別展示室（会場）、1982年6月1日-6月27日（会期）
129	『第一回　特別展観　雅楽資料展　出陳目録』	福島和夫（編）	1975年	上野学園日本音楽資料室	1975年10月4日-10月6日（会期）
130	『奈良・春日大社名宝展図録　第五十九次式年造替記念　やまとの美』	春日大社・読売新聞大阪本社（編）	1994年	読売新聞大阪本社	図録、そごう美術館／天神岩田屋／近鉄アート館（会場）、1994年4月13日-5月15日／1994年5月31日-6月6日／1994年6月10日-6月22日（会期）
131	『日本雅楽会創立10周年記念公演　雅楽公演』		1972年		プログラム、国立劇場小劇場（会場）、1972年11月30日（公演日）
132	『舞楽の会陳列品目録』		1927年		目録、東京三越呉服店（会場）、1927年11月1日-11月8日（会期）
133	『舞楽面』		1979年	奈良国立博物館	図録、特別陳列「舞楽面」、奈良国立博物館（会場）、1979年11月13日-1980年1月31日（会期）
134	『舞楽用篳篥譜目録』				
135	『奉祝　天皇陛下御在位六十年　創立七十周年記念　平安雅楽会』	平安雅楽会（編）	1986年	平安雅楽会	図録、付：平安雅楽会の沿革
136	『鳳笙』			武蔵野楽器	パンフレット
137	「万歳楽　太平楽」				パンフレット、楽曲解説
138	『元紀州徳川家所蔵雅楽器目録』	島根県博物館建設促進委員会委員会内　西山虎治（編）	1956年	島根県博物館建設促進委員会	目録

139	『怜楽曹娘褌脱　長秋横笛譜より　竹・石・陶の楽器のさまざまな音色の表現』	国立劇場事業部（編）	1981年	国立劇場事業部	パンフレット、国立劇場第29回雅楽公演

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
140	「東遊伝譜」	堀川久民カ			
141	『東遊和琴譜』				
142	「壹越調」				笙譜、「文化六年四月／従五位下薩摩守豊原朝臣文秋（花押）」（末尾）
143	「壹越調」				龍笛譜
144	「壹越調　音取」ほか				龍笛譜
145	「壹越調　音取」ほか				笙譜
146	『唄物』				朗詠・催馬楽楽譜
147	『撃物譜』				鞨鼓譜
148	『郢曲』				
149	『郢曲並声明集ノ内伽陀』	堀川久民			「堀川」・「久民」（印）
150	「越天楽今様」				箏と笙の唱歌および歌詞
151	『雅楽打物総譜』		1964年	日本雅楽会	
152	『雅楽御稽古本（篳篥）』				
153	「雅楽御稽古本　内容見本」				
154	「雅楽御稽古本　内容見本」				
155	『神楽東遊譜』	堀川久民カ			「堀川」・「師克之印」（印）、表紙・裏表紙見返しの筆跡は師克
156	「神楽和琴」ほか				
157	『鞨皷譜』				
158	「鞨鼓譜」				
159	「粂歌・久米舞」	堀川師克カ			「堀川」（印）、歌・舞譜
160	「還城楽」	堀川師克カ			「堀川」（印）、舞譜
161	『公式　唱歌鳳笙譜　全』				「君ヶ代」ほか（表紙）、「累代雅楽師範家／元宮内省伶人／東儀文禮識」（緒言）
162	『公式　唱歌鳳笙譜　全』				「君ヶ代」ほか（表紙）、「累代雅楽師範家／元宮内省伶人／東儀文禮識」（緒言）
163	『公式　唱歌鳳笙譜　全』				「君ヶ代」ほか（表紙）、「累代雅楽師範家／元宮内省伶人／東儀文禮識」（緒言）
164	「五音并七声十二律（①）／久米舞・倭舞・老君子（②）／盤渉調更衣笛付物（③）」	堀川久民（①）カ／堀川師克（②）カ／不明（③）			舞譜・龍笛・篳篥譜ほか
165	『箏譜』	純成楼主人（撰）			1893年カ（「明治癸巳八月謄写」）
166	「箏譜」	東儀常城カ	天保14年		「天保十四卯年四月　筑後太秦宿祢常城」
167	『箏譜　全』				
168	『箏譜　篳篥譜』				「明治十九年之秋／水之家蛙歩／所持」（末尾）
169	「高麗壱越調」				龍笛譜
170	『高麗壱越延喜楽譜』				
171	『高麗箏　篳篥譜』				
172	『高麗箏譜』				
173	『髙麗箏譜』				
174	「高麗太鼓」ほか				高麗鉦鼓・鞨鼓・太鼓・壹鼓・鉦鼓・三鼓の楽譜
175	『高麗篳篥譜』				
176	『高麗笛箏譜』				「池田政■写之」
177	『髙麗笛譜』				「明治九年十一月　大伶人　上真節　印／大礼人　山井景順　印」
178	『髙麗笛譜』				

179	『催馬楽歌譜』				「附催馬楽笛譜」
180	『催馬楽笙譜』	堀川師克			笙の譜、「堀川」・「師克之印」（印）
181	『催馬楽笛譜』				
182	『催馬楽譜』				
183	『三鼓譜』	堀川師克			鞨鼓・一鼓・太鼓・鉦鼓の譜、「堀川」・「師克之印」（印）、「堀川師克」と記名あり
184	『三鼓譜　打物』				「大正五年十二月／山下米次郎」（表紙）
185	『指導版　鳳笙　雅楽御稽古本第一編』	佐竹藤三郎、多忠龍（校閲）	1940年	佐竹雅楽器店	
186	『指導版　鳳笙　雅楽御稽古本第一編』	佐竹藤三郎、多忠龍（校閲）	1940年	佐竹雅楽器店	
187	「春庭花輪　春庭花　八仙」	堀川師克カ			舞譜
188	『唱歌譜』	堀川師克カ			「堀川」（印）
189	『笙琵琶合譜』	堀川師克	1909年		「明治四十二年三月写之　藤原師克」、「堀川」・「師克之印」（印）
190	「笙譜」				
191	笙譜				
192	「聖霊会次第」	堀川久民			「久民」（印）
193	『神社本庁指定書　新撰　雅楽譜』	東儀和太郎（編）	1957年	宗教文化研究所	
194	「蘇合香」				笙譜
195	『俗哥笛』	堀川師克カ			「堀川」（印）
196	『大家龍吟仮名譜』	山井景順（編）	1881年		「明治十四年十一月新刊　山井景順■版」
197	『太皷　羯皷　鉦皷譜』				
198	『第二撰定狛笛譜』	堀川師克カ			「堀川」（印）
199	『天王寺楽玉笛譜　全』				龍笛譜・大鼓譜ほか、「大阪本覚寺住職■■■■／明治拾七年七月二十六日夜／述之／松■ヨリ買取リ／立合人福田證」（奥付）
200	鳥急　春鶯囀颯踏　蘭陵王　迦陵頻急				
201	「納曽利破」ほか	堀川師克カ			「堀川」（印）、箏・琵琶・笙・朗詠・久米歌・舞ほか
202	「仁和楽」	堀川師克カ			「堀川」（印）、舞譜
203	「抜頭」	堀川師克カ			「堀川」（印）、舞譜
204	篳篥譜				壱越調・平調・双調・黄鐘調・盤渉調・太食調
205	『平調　君ヶ代』	堀川師克カ			「堀川」（印）、笙・篳篥・龍笛・和琴・琵琶の譜
206	『琵琶譜』		1893年		
207	「琵琶譜」				
208	「琵琶譜」	東儀常城カ	天保10年		「天保十年己亥中冬　正六位東儀筑後太奏宿祢常城」
209	『琵琶譜　皆子』				篳篥・笙の内容を含む
210	『舞楽用龍笛譜』				
211	『舞楽用龍笛譜別巻目録』				
212	『鳳笙譜』				「大鼓譜」（末尾）
213	『鳳笙譜』	堀川久民カ			「堀川」（印）
214	『鳳笙■』				資料名の「■」は「譜」カ、折本
215	『鳳笙譜　雅楽集　第壹編』	東儀文禮（編）	1894年	東儀文禮	
216	『山城』				催馬楽譜
217	『龍笛図』				龍笛譜カ
218	「龍笛延曲譜」				「明治十三年三月吉辰　高村尚正求之」
219	「龍笛譜」				
220	龍笛譜				

221	『龍笛譜　延』				
222	『朗詠催馬楽譜』				
223	「和哥披講附物」				「安倍季任」

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
224	「乍恐奉願口上」	藤井土佐掾	寛政元年		「葉室様」宛
225	「覚」				簫、笛に関する書状
226	雅楽の曲目解説				壹越調・平調・双調・黄鐘調・盤渉調・太食調、三鼓の譜付き
227	「"雅楽の夕"収支決算中間報告書」				「11月4日」
228	楽器鑑定書カ　複写				「武蔵野笙」
229	「感謝状」	八坂神社　官弊大社八坂神社宮司正五位／勲六等杉谷正隆	1925年		
230	「訓閲集太鼓之巻」「太鼓打様之次第」	小笠原大膳大夫長時、小笠原右近大夫貞慶			
231	十二律図		1888年		「伶人長林廣継先生直伝」
232	十二律名ほか				
233	笙の竹名ほか				
234	「調遖」	大仏師　細井民部康寿ほか			「大太鼓筒同台」ほか
235	「鳳笙」	高畠■■	1892年		「銘　紫賀喜」の鑑定書下書きカ、「池田■」宛
236	「上　勘解由様」				笙関連の書状
237	「御請　笛楽庵」				
238	「覚」		宝永6年		大太鼓・大鉦鼓関連の書状
239	笙に関する書状　複写				
240	「一　武蔵野笙」		嘉永元年		笙関連の書状
241	「武蔵野笙　一巻」				笙関連の書状
242	「銘杜鵑　琵琶裏面記」		1954年		
243	「覚」				笙関連の書状
244	宮中楽器関連の書状		1916年		
245	「證」	神田大和介藤原定光	嘉永元年		「鳳笙　一管」
246	篳篥に関する書状　複写	神田大和介			「辛亥五月」
247	「武蔵野笙　一巻」ほか　複写				笙関連の書状
248	「證」ほか　複写	神田大和介藤原定光	嘉永元年		「鳳笙　壹管／銘武蔵野／頭黒漆目薄之蒔絵」
249	「三鼓寸法」（楽太鼓袋・鞨鼓袋・鉦鼓　佐竹藤三郎宛）				「佐竹藤三郎様」（封筒表）、中身は新聞を切り抜いた型紙3枚（大阪新聞など）
250	楽器献納関係の書状	佐竹藤三郎	1916年		「大正五八月六日／佐竹藤三郎」
251	楽器献納関係の書状	佐竹藤三郎	1916年		「大正五八月六日／佐竹藤三郎」
252	楽器献納関係の書状	佐竹藤三郎	1916年		「大正五八月六日／佐竹藤三郎」
253	楽器献納関係の書状	藤三郎	1916年		「森田家様」宛
254	佐竹藤三郎宛はがき	手銭白三郎			雅楽器修理の礼状
255	佐竹藤三郎宛書状	毎日新聞松江支局 小島博志			新聞記事掲載に関する書状
256	鉦鼓に関する書状	高田茂	1914年		「佐竹藤三郎様」宛
257	太鼓台ほかに関する書状		宝永7年ほか		
258	「京都国産振興博覧会褒賞之証」	京都国産振興博覧会	1927年		佐竹藤三郎宛、「鉦鼓／三等賞銅牌」
259	出版届	佐竹藤三郎	1940年		2枚、「内務大臣兒玉秀雄」宛、「京都府警察部特高課検閲係」宛、封筒に「楽譜出版届書類写」とあり

260	楠公ゆかりの横笛ほかに関する書状カ	杉渓六橋	1931年		
261	佐竹藤三郎宛書状	伏見宮附宮内属ほか	1914年 -1922年カ		巻子本(題簽なし)、佐竹藤三郎宛の書状・封筒・ハガキ10点
262	「宮殿下様ヨリノ御手紙」	伏見宮附宮内属ほか	1915年 -1918年カ		巻子本(題簽あり)、佐竹藤三郎宛の書状・封筒10点
263	「宮内省拝命御用書類」	大礼使調度部残務取扱ほか	1914年 -1920年カ		巻子本(題簽あり)、佐竹藤三郎宛の書状・封筒18点
264	「宮内省拝命書類」	佐竹藤三郎ほか	1914年 -1920年カ		巻子本(題簽あり)、佐竹藤三郎宛の書状・封筒10点、書類24点
265	「名士芳札」	子爵　高島鞆之助ほか	1896年 -1924年カ		巻子本（題簽あり）、書状・封筒7点
266	「名士芳札」	小村寿太郎ほか	1896年 -1924年カ		巻子本（題簽あり）、書状・封筒16点
267	「名士芳札」	黒川真頼ほか	1896年 -1923年カ		巻子本（題簽あり）、書状・封筒14点
268	「見積書」「請求書」「御願書」	佐竹藤三郎	1927年		「東京市／宮内省用度課長／大木彝雄様」（封筒表）、「昭和二年六月廿五日／京都市下京区寺町通綾小路下ル／中之町五百六拾三番地」（封筒裏）、大木彝雄宛
269	「伝授之書　篳篥　長谷川長五郎」	堀川師克	1919年		粂歌･東遊･倭歌の三曲､「藤原師克」（印）
270	林等成宛相伝証書	堀川師克	1925年		「大正十四年九月　正七位勲八等堀川師克　林等成殿」、裏面は京都糸竹会への酒肴料

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
271	「撃物譜」	及川尊雄			方眼紙、「大楊声　延八拍子（例　春庭楽）」ほか
272	御琴・宮太鼓ほかの装飾部分の寸法				
273	「音の配列」				便箋
274	雅楽関係書名一覧				
275	「雅楽曲目考証」	多久幸カ			末尾に「多久幸」の記名あり
276	雅楽絃楽器の調弦について				レポート用紙
277	雅楽絃楽器の調弦についてカ				レポート用紙
278	「雅楽執業抄　諸楽器の作法」	及川尊雄			ノート、資料書写し、「明治初年の大伶人達の稽古の心得に就いて延べた本」
279	雅楽の音階について	及川尊雄			レポート用紙
280	雅楽の音律について				レポート用紙
281	楽器の図像・枠寸法ほか				トレーシングペーパー・便箋・半紙・紙片ほか、うち日付記載4点あり「昭和十一年八月吉辰 太鼓枠及台（尺八寸）寸法」「昭和十一年八月吉辰 鉦鼓」「昭和拾貳年五月制定 一尺八寸用」「昭和拾参年四月写之 大阪光受寺什物」
282	「楽箏」	及川尊雄			レポート用紙、調弦・奏法ほか
283	神楽・久米舞・倭舞ほかについて				レポート用紙
284	楽器の値段計算				メモ
285	「鞨鼓」				ルーズリーフ
286	「管絃七声」				レポート用紙
287	「紀州徳川家伝来楽器コレクション」「正倉院の琵琶について」の琵琶サイズ表				プリントアウト
288	「紀州徳川家伝来楽器コレクション」「正倉院の琵琶について」の琵琶サイズ表				プリントアウト

289	「宮徴表」				レポート用紙
290	『教訓抄』『大成録』『南宮親王十操記』『魏氏楽器図・二体一差愚案鈔』ほかより抜き書き	及川尊雄			レポート用紙
291	「曲目略解」	堀川師克カ			原稿用紙､雅楽曲（催馬楽ほか歌物含む）の解説
292	篳篥の寸法				ルーズリーフ
293	「群書」	及川尊雄			レポート用紙、『群書類従』巻三百四拾一の抜き書き
294	「奚婁」	及川尊雄			ノート紙片、鶏婁鼓についての図・寸法ほか
295	「五音七声の配例」				レポート用紙
296	『故琴教録　琵琶修理　第十九』より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙
297	箏の調弦について				レポート用紙
298	箏の調弦について				レポート用紙
299	箏の調弦について				レポート用紙
300	「箏の事」「和琴」「笙」	及川尊雄			レポート用紙
301	催馬楽「石川」の篳篥譜･龍笛譜、『梁塵秘抄』より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙
302	「三ノ鼓之事」				ルーズリーフ
303	『楽家録』より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙、「七力」・笙の製法ほか
304	「芝祐泰編　雅楽通論　第一部　楽家大要」	及川尊雄			レポート用紙
305	「笙」				ルーズリーフ
306	「鉦鼓」				ルーズリーフ
307	「笙調子」				レポート用紙
308	笙の相竹ほか				ルーズリーフ
309	笙の音名と竹の長さに関するメモカ	及川尊雄			レポート用紙
310	「笙譜　慶徳・五常楽・越天楽」				メモ
311	笙･龍笛･篳篥の図解入り手引き				
312	笙･龍笛･篳篥の図解入り手引き				朱書「(注意の事）／コレハ／原稿ニアラズ／配置参考／ナリ」
313	笙･龍笛･篳篥の図解入り手引き				
314	太鼓の足・枠等の拓				トレーシングペーパー
315	「太鼓之事」				ルーズリーフ
316	太鼓枠と台調書				メモ
317	「長調短調等の係合」				便箋・レポート用紙
318	鼗鼓・鶏婁鼓についての図と寸法				ルーズリーフ
319	「倍臚タテ　楯」模写				トレーシングペーパー、寸法入り、彩色あり
320	平調止手法	及川尊雄			紙片・レポート用紙
321	「舞楽持物」	及川尊雄			レポート用紙
322	「鳳笙　音取調子」	及川尊雄			レポート用紙
323	「泰家龍笛音頭考」より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙
324	山田宗徧の琵琶に関して				レポート用紙、「胴板　行年五十歳造之　山田宗徧以前　在花押」
325	「六代小舞譜」ほか解題	及川尊雄	2012年		プリントアウト
326	「和琴」				ルーズリーフ

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
327	「井伊家伝来の雅楽器」	齋藤望	1996年		講座ほかの配布プリント

328	荻生天泉などの画の解説　複写				「定大業楽　太田天洋（朝鮮李王職雅楽）／朗詠　春過概説　奥好察／天台声明　教化　多紀道忍」（表紙）
329	雅楽演奏家の累代・交流図				「秦河勝三男後裔」「秦河勝八男後裔」「秦河勝六男後裔」「秦河勝四男後裔」「天王寺楽派 太秦姓 安倍姓 東儀氏累代交流図」、鉛筆書き
330	「雅楽　均調便覧」	羽塚啓明（識）	1915年	柳生原生堂	
331	『雅楽ニ必要抜書』	堀川師克			新聞記事切り抜きあり
332	「楽箏」複写				
333	「楽太鼓」「楽琵琶」複写				
334	「かっこの演奏姿勢」「かっこ」「三の鼓の演奏姿勢」「三の鼓」複写				
335	『近世日本の雅楽についての研究（一）』				抜刷カ
336	『箏尺之記』	堀川師克カ			「堀川」（印）
337	『指導版　鳳笙　雅楽御稽古本第一編』ほかの奥書原稿		1940年		多忠龍、豊時義、多久元
338	「鉦鼓」「演奏の写真」複写				
339	笙の竹管の銘の画像一覧　複写				
340	「図解　スケッチ原稿」		1940年（印）		封筒
341	「釣太鼓」「荷太鼓」「羯鼓」「三の皷」複写				
342	「豊原鳳笙相伝朝臣」				裏に「豊原家笙」、表裏とも鉛筆書き
343	「南都楽派 二姓 七氏 楽道累代交流譜」				鉛筆書き
344	「日本の古楽譜」ほか　複写				
345	琵琶「青山」関係資料　複写				
346	琵琶「青山」の法量ほか　複写				
347	「琵琶　銘「青山」」複写				図録の一部カ
348	「北京楽派多氏楽道累代交流譜」				鉛筆書き
349	螺鈿紫檀五絃琵琶の図　複写				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
350	「愛宕神社太鼓ノ彩色画」				
351	「一尺五寸太鼓用　鳥辺山妙見堂」		1937年		寸法ほかメモ
352	「院中青山御琵琶之写」		1889年		巻物、「（青山）実物大設計図」（外箱）、「三巻之内／第壱号」（外題）「幸野楳嶺」（外題印記）、「明治廿二年己丑七月臨写／原本烏丸神田氏蔵」
353	「火焔木箱図　其二」				「佐竹藤三郎」と記名あり
354	雅楽器・舞楽面の図				目録あり、楽器図10点、舞楽面図27点
355	楽太鼓の図				寸法入り
356	楽太鼓の図				
357	楽太鼓の図				絵具着色
358	楽太鼓の図				
359	楽太鼓の図				付記あり
360	楽太鼓の図				寸法入り
361	楽人の版画				
362	楽琵琶台と撥の図案（表面）　楽琵琶台の図案（裏面）				「昭和6年11月案」（表面）、「楽琵琶台」（裏面）、寸法入り
363	楽琵琶の図				「昭和六年十一月　案」、寸法入り
364	楽器台の装飾部分の拓影カ				

365	唐獅子の図案				「尺七寸／彩色」
366	五絃琵琶の首・胴部分、五絃琵琶の実寸図、阮咸の図ほか　複写				マイクロフィルム
367	佐竹招慶堂謹製太鼓の図				5枚、「朝鮮神宮御用品」「湊川神社御用品」
368	「三ノ皷（四天王寺）」				模写、両面
369	三ノ鼓の模写				「(三ノ鼓)」、寸法入り、彩色あり
370	「三鼓ノ枠・台製図」				
371	笏の図				
372	鉦鼓足の図				「眞如堂時代物ノ寸法」
373	鉦鼓足の図カ				
374	「鉦鼓火焔ノ型種々」				
375	鉦鼓火焔の図カ		1941年		「新型　尺八寸　昭和十六年」
376	鉦鼓火焔の図カ				拓影カ
377	鉦鼓の図				寸法メモあり
378	鉦鼓の図				
379	鉦鼓の図				
380	鉦鼓の図				
381	鉦鼓枠の図				「眞如堂時代物ノ寸法」
382	笙の図				竹管の寸法、「文化七年」ほか付記あり
383	笙の図				竹管の寸法、「古管」ほか付記あり
384	笙の図				竹管の寸法、「古管」ほか付記あり
385	笙の図				竹管の寸法、「袖笙／三ツ節」ほか付記あり
386	笙の図				竹管の寸法
387	笙の図				竹管の寸法
388	笙の竹管の図				
389	太鼓足の図				「昭和拾弐年十一月　太鼓一尺六寸用」
390	太鼓火焔の図		1938年		「昭和十三年四月吉辰官幣大社　稲荷神社　二尺ノ寸法及火焔ノ形」
391	太鼓火焔の図				端部分のみ、「二階ノ部」
392	太鼓火焔の図				拓影、「昭和十六年　上物型二尺用」
393	太鼓火焔の図				拓影カ
394	太鼓火焔の図				
395	太鼓火焔の図				
396	太鼓火焔の図				
397	太鼓火焔の図				
398	太鼓火焔の図カ				端部分のみ、拓影カ
399	太鼓火焔の図カ				
400	太鼓火焔の図カ				
401	太鼓火焔の図ほか				
402	太鼓火焔部分の図				「昭和十二年春　西本願寺　弐尺弐寸物　国宝的ノモノ」
403	太鼓火焔部分の図				寸法メモあり
404	太鼓火焔部分の図				
405	太鼓火焔部分の図				
406	太鼓火焔部分の図				
407	太鼓装飾の図カ				
408	太鼓外枠の図				「九枚之内第三号」（裏書）
409	太鼓台の図				寸法メモあり
410	太鼓の図				寸法ほかメモあり

411	「打球楽之玉　実物大図」（表面）　打球楽之杖　打球楽装束（裏面）				打球楽之杖の寸法入り、打球楽装束メモあり（裏面）
412	鼉太鼓演奏の図				
413	鼉太鼓火焔の図カ				
414	大太鼓図ほか				大太鼓図と太鼓台図カ、一部寸法入り
415	大太鼓の図カ				手書き（両面）、「昭和十三年四月写」
416	鼉太鼓面の図				
417	鼉太鼓面の図				寸法メモあり
418	巴の図				「尺八寸 巴ノ形之造」、鼉太鼓カ
419	「西本願寺本山什物　楽太鼓」				
420	「西本願寺本山什物　鉦鼓」				
421	陪膳の楯と鉾の図				
422	舞楽かぶり物の図				
423	舞楽装束と道具の図				
424	舞楽道具の図				
425	舞楽の写真葉書				
426	舞楽の道具の図				踏掛、舞楽用靴、面帽子、舞楽用太刀ほか
427	「平安神宮　鼉太鼓火焔」		1934年		「昭和九年五月之写」「実物大」
428	鉾・幡太鼓台・太鼓・鉦鼓台・鉦鼓ほかの図				巻物、彩色あり、箱入
429	萬歳楽の鳥甲カ				色紙
430	三巴の唐獅子の図				楽太鼓カ
431	蘭陵王の面　正面のスケッチ				
432	蘭陵王の面　側面のスケッチ				
433	龍笛と笙の図				「紀伊家／御蔵／笛図号寛治丸／白河帝熊野／行幸所用／多氏蔵笙／念佛丸今号玉椿」
434	「龍　鳳凰　火焔木箱図」				「佐竹藤三郎」と記名あり
435	「龍王面　西本願寺什物　天下一　河内作」（表面）「本派本願寺什物　竜王面の裏書き金文字」（裏面）				寸法入り、彩色あり

3. 視聴覚資料

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
436	『雅楽の世界』（邦楽精選40）	国際文化振興会（監修）、宮内庁楽部（演奏）			LP
437	『四天王寺舞楽』（日本音楽の魅力を探るその三）	平野健次（監修）、小野功龍、久保田敏子、大谷紀美子（協力・解説）			CD

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
438	『久米舞々譜　儛舞〻〻』				表紙のみ

02. 声明

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
439	『観音普門品』		1915年	竹内文廣堂	

440	『三上人遠忌法要声明』	大橋圓蔵（編）、多紀道忍（墨譜）	1937年	総本山知恩院三上上人遠忌局	
441	『声明の音律』	大山公淳	1929年	密教研究会	
442	『声明口伝集』	智範義芳房（写）	嘉永5年		頭注あり、「嘉永五壬子六月日於南山青厳寺表部屋写之■　智範義芳房」（奥付）
443	『浄土真宗勤行集　全』	此村庄助（編）	1939年	此村欽英堂	
444	『浄土日用勤行式　完』				豊田愛山堂（発売所）
445	『真宗　東本願寺檀信徒勤行経典』	日本仏教普及会	1971年	日本仏教普及会	
446	『仏教音楽』（東洋音楽選書6）	東洋音楽学会（編）	1972年	音楽之友社	
447	『仏教音楽史概説』	藤井制心	1949年	平楽寺書店	
448	『身延山本宝物集と研究』	平康頼（撰）、瓜生等勝（編）	1973年	未刊国文資料刊行会	

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
449	『上野学園日本音楽資料室　第四回特別展観　声明資料展　出陳目録』	福島和夫（編）	1978年	上野学園日本音楽資料室	1978年10月16日-10月31日（会期）
450	『声明の打楽器　多彩な響の表現を求めて』	国立劇場事業部（編）	1981年	国立劇場事業部	プログラム、国立劇場小劇場（会場）、1981年6月12、13日（公演日）

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
451	『改正　声明集　魚山』	溝口嘉助（編）	1911年	溝口嘉助	
452	『高野山金剛流御詠歌経典』	曽我部俊雄	1980年	高野山金剛講総本部	
453	『合行讃覚』		寛永14年		「寛永十四天十月廿九日」（表紙）
454	『声明』		文政6年		「文政六癸未歳　十一月中旬書之　釋氏聞教　花押」（奥付）
455	『声明品』	井上治作（編）	1931年	平楽寺書店	
456	『南山進流　魚山集假譜』	葦原寂照	1891年	大融寺	

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
457	『魚山蠹芥集』より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙、「魚山蠹芥集」（表紙）、「声明略頌文」ほか
458	『魚山蠹芥集』より抜き書き	及川尊雄			レポート用紙、「萬（ママ）芥集　声明」（表紙）、「諸流声明調子譜ノ事」ほか
459	「声明」	及川尊雄			レポート用紙
460	「声明」	及川尊雄			レポート用紙
461	声明系図ほか	及川尊雄			方眼紙
462	声明に関する系図カ	及川尊雄			方眼紙、「■刻署名」（冒頭）

03. 琵琶楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
463	『会員名簿並に規約　附・流門のシオリ』	錦心流琵琶一水会三河支部	1981年	錦心流琵琶一水会三河支部	
464	『錦心流　水号一覧表　附琵琶沿革及錦心流細則』複写		1926年	琵琶新聞社水声発行部	
465	『現代琵琶人大鑑』	植村武雄（編）	1961年	京絃社	
466	『現代琵琶名人録　附・最近琵琶発達史』複写	大谷荒太郎（編）	1922年	登文閣出版部	

467	『現代琵琶名人録　附・最近琵琶発達史』複写	大谷荒太郎（編）	1922年	登文閣出版部	
468	『採譜本　平曲』	藤井制心	1966年	名古屋市教育委員会	
469	『薩摩琵琶淵源録　完』	上田景二	1912年	日本皇學館	
470	『高峰琵琶大要集　全』				
471	『筑前琵琶物語　初代橘旭翁伝』	大坪草二郎	1983年	葦真文社	
472	『通俗琵琶史談』	荒牧守	1913年	元眞社	
473	『日本近代琵琶の研究』	藤内鶴了	1994年	笠間書院	
474	『続　日本近代琵琶の研究　鳥口・調口を中心とした「さわり」の音響構造』	藤内鶴了	1998年	笠間書院	
475	『肥後琵琶』	肥後琵琶保存会（編）	1991年	肥後琵琶保存会	
476	『琵琶楽大系（総論・原稿）』	日本琵琶楽協会（監修）			「解説　日本琵琶楽協会編輯部」（表紙）
477	『琵琶詩吟狸小路』	内山岳俊	1986年	日本詩吟学院岳風会北海道本部	
478	『琵琶随想』ほか　複写	田川富峯	1975年	北国出版社	奥付・図版・新聞記事引用箇所のみ
479	『平曲』	沼澤龍雄	1932年	岩波書店	
480	『平家音楽史』	舘山漸之進	1974年	芸林舎	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
481	「九州盲僧の総本山　五」複写				新聞記事の一部カ
482	「九州盲僧の総本山　五」複写				新聞記事の一部カ
483	『錦心　通巻341号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
484	『錦心　通巻342号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
485	『錦心　通巻343号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
486	『錦心　通巻344号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
487	『錦心　通巻345号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
488	『錦心　通巻346号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
489	『錦心　通巻347号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
490	『錦心　通巻348号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
491	『錦心　通巻349号』		1982年	新井潼水方	編集所は錦心流琵琶一水会本部
492	『錦心流月報　昭和7年3月号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
493	『錦心流月報　昭和7年4月号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
494	『錦心流月報　第24号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
495	『錦心流月報　第26号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
496	『錦心流月報　第27号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
497	『錦心流月報　第28号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
498	『錦心流月報　第29号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
499	『錦心流月報　第31号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
500	『錦心流月報　第32号』		1932年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
501	『錦心流月報　第33号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
502	『錦心流月報　第35号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
503	『錦心流月報　第37号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	

504	『錦心流月報　第38号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
505	『錦心流月報　第40号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
506	『錦心流月報　第41号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
507	『錦心流月報　第43号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
508	『錦心流月報　第44号』		1933年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
509	『錦心流月報　第45号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
510	『錦心流月報　第46号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
511	『錦心流月報　第47号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
512	『錦心流月報　第49号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
513	『錦心流月報　第50号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
514	『錦心流月報　第51号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
515	『錦心流月報　第52号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
516	『錦心流月報　第53号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
517	『錦心流月報　第54号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
518	『錦心流月報　第56号』		1934年	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	
519	『月刊　錦心流　第59号』		1935年	錦心流社	
520	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻1月号』		1937年	錦心流水号協会本部	
521	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻2月号』		1938年	錦心流水号協会本部	
522	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻3月号』		1938年	錦心流水号協会本部	
523	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻4月号』		1938年	錦心流水号協会本部	
524	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻第5号』		1938年	錦心流水号協会	
525	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻7・8（暑中）号』		1938年	錦心流水号協会	
526	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻第9号』		1938年	錦心流水号協会	
527	『月刊　錦心流水号協会会報　第4巻第10号』		1938年	錦心流水号協会	
528	『月刊　錦心流水号協会会報　第5巻第12号』		1939年	錦心流水号協会	
529	『月刊　錦心流水号協会会報　第6巻第1号』		1940年	錦心流水号協会	
530	『月刊　錦心流水号協会会報　第6巻第4・5号』		1940年	錦心流水号協会	
531	『国際児報　第2巻第1号』		1934年	帝国児童教育会	
532	『四絃　第52号』		1922年	一水会本部	
533	『四絃　第53号』		1922年	一水会本部	
534	『四絃　第58号』		1922年	一水会本部	
535	「三味線音楽の発生より現代迄（第88回）　肥後琵琶と古浄瑠璃」ほか　複写	田辺尚雄			同第94回までの計7回分の記事、手書きメモあり

536	『水声　第3号』		1925年	琵琶新聞社水声発行部	
537	『水声　第11号』		1925年	琵琶新聞社水声発行部	
538	『水声　第16号』		1926年	琵琶新聞社水声発行部	
539	『水声　第20号』		1926年	琵琶新聞社水声発行部	
540	『水声　第22号』		1926年	琵琶新聞社水声発行部	
541	『水声　第23号』		1926年	琵琶新聞社水声発行部	
542	『水声　第36号』		1927年	琵琶新聞社水声発行部	
543	『水声　第46号』		1928年	琵琶新聞社水声発行部	
544	『水声　第47号』		1928年	琵琶新聞社水声発行部	「山中勠水」（印）
545	『水声　第51号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
546	『水声　第52号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
547	『水声　第54号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
548	『水声　第56号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
549	『水声　第57号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
550	『水声　第58号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
551	『水声　第59号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
552	『水声　第60号』		1929年	琵琶新聞社水声発行部	
553	『水声　第62号』		1930年	琵琶新聞社水声発行部	
554	『水声　第63号』		1930年	琵琶新聞社水声発行部	
555	『水声　第65号』		1930年	琵琶新聞社水声発行部	
556	「薩摩琵琶の調子に就いて　附、駒の位置、調子の合せ方」複写	武井芝夫	1925年	琵琶新聞社水声発行部	『水声　第11号』、pp.18-21
557	『大東　第5巻第27号』		1932年	大東社	
558	「伊達家（宇和島）の琵琶「青山」　1100年ぶり名器目覚める」複写				『愛媛新聞』、「平家琵琶　青山　宇和島伊達文化保存会」の楽器写真あり
559	『筑前琵琶　旭時報　No. 68』		1991年	筑前琵琶日本旭会	
560	『筑前琵琶　旭時報　No. 88』		2001年	筑前琵琶日本旭会	
561	『筑前琵琶・紅会ニュース』		1973年		
562	「日本の古典伝える琵琶”牧師”」				
563	「日向盲僧琵琶採訪記」複写	村山道宣	1984年	名著出版	『月刊歴史手帖　第12巻3号』
564	『琵琶界　第3巻第33号』		1925年	琵琶界社	
565	『琵琶界　第3巻第34号』		1925年	琵琶界社	
566	『琵琶界　第3巻第35号』		1925年	琵琶界社	
567	『琵琶界　第4巻第36号』		1926年	琵琶界社	
568	『琵琶界　第4巻第37号』		1926年	琵琶界社	
569	『琵琶界　第4巻第39号』		1926年	琵琶界社	
570	『琵琶界　第4巻第41号』		1926年	琵琶界社	
571	『琵琶界　第4巻第42号』		1926年	琵琶界社	
572	『琵琶界　第4巻第43号』		1926年	琵琶界社	
573	『琵琶界　第4巻第44号』		1926年	琵琶界社	
574	『琵琶界　第4巻第45号』		1926年	琵琶界社	
575	『琵琶界　第4巻第46号』		1926年	琵琶界社	
576	『琵琶界　第4巻第47号』		1926年	琵琶界社	
577	『琵琶界　第5巻第48号』		1927年	琵琶界社	
578	『琵琶界　第5巻第49号』		1927年	琵琶界社	
579	『琵琶楽　第40号』		1987年	日本琵琶楽協会	新春特別号
580	『琵琶楽　第41号』		1987年	日本琵琶楽協会	
581	『琵琶楽　第42号』		1987年	日本琵琶楽協会	夏季特集号
582	『琵琶楽　第42号』		1987年	日本琵琶楽協会	夏季特集号
583	『琵琶楽　第43号』		1987年	日本琵琶楽協会	
584	『琵琶楽　第44号』		1988年	日本琵琶楽協会	新春特別号
585	『琵琶楽　第45号』		1988年	日本琵琶楽協会	

586	『琵琶楽　第46号』		1988年	日本琵琶楽協会	夏季特集号
587	『琵琶楽　第47号』		1988年	日本琵琶楽協会	
588	『琵琶楽　第48号』		1989年	日本琵琶楽協会	新春特別号
589	『琵琶楽　第50号』		1989年	日本琵琶楽協会	夏季特集号
590	『琵琶楽　第52号』		1990年	日本琵琶楽協会	
591	『琵琶楽　第53号』		1990年	日本琵琶楽協会	
592	『琵琶楽　第54号』		1990年	日本琵琶楽協会	
593	『琵琶楽　第55号』		1991年	日本琵琶楽協会	新春特別号
594	『琵琶楽　第56号』		1991年	日本琵琶楽協会	
595	『琵琶楽　第57号』		1991年	日本琵琶楽協会	夏季特別号
596	『琵琶楽　第91号』		2001年	日本琵琶楽協会	
597	『琵琶楽　第93号』		2002年	日本琵琶楽協会	
598	『琵琶楽　第101号』		2004年	日本琵琶楽協会	
599	『琵琶楽　第102号』		2004年	日本琵琶楽協会	
600	『琵琶楽　第106号』		2005年	日本琵琶楽協会	
601	『琵琶新聞　合本』		1921年	琵琶新聞社	第139-150号の合本
602	『琵琶新聞　第157号』		1922年	琵琶新聞社	
603	『琵琶新聞　第159号』		1922年	琵琶新聞社	
604	『琵琶新聞　第67号』		1930年	琵琶新聞社	
605	『琵琶新聞　第68号』		1930年	琵琶新聞社	
606	『琵琶新聞　第69号』		1930年	琵琶新聞社	
607	『琵琶新聞　第70号』		1930年	琵琶新聞社	
608	『琵琶新聞　第71号』		1930年	琵琶新聞社	
609	『琵琶新聞　第72号』		1931年	琵琶新聞社	
610	『琵琶新聞　第73号』		1931年	琵琶新聞社	
611	『琵琶新聞　第74号』		1931年	琵琶新聞社	
612	『琵琶新聞　第75号』		1931年	琵琶新聞社	
613	『琵琶新聞　第77号』		1931年	琵琶新聞社	
614	『琵琶新聞　第78号』		1931年	琵琶新聞社	
615	『琵琶新聞　第79号』		1931年	琵琶新聞社	
616	『琵琶新聞　第80号』		1931年	琵琶新聞社	
617	『琵琶新聞　第81号』		1931年	琵琶新聞社	
618	『琵琶新聞　第82号』		1932年	琵琶新聞社	
619	『琵琶新聞　第278号』		1934年	琵琶新聞社	切り抜き
620	「琵琶の名器はこうしてできる」複写				
621	『琵琶評論　第12号』		1919年	琵琶評論社	
622	『琵琶評論　第23号』		1920年	琵琶評論社	
623	『琵琶評論　第25号』		1920年	琵琶評論社	
624	『琵琶評論　第26号』		1920年	琵琶評論社	
625	『琵琶評論　第32号』		1921年	琵琶評論社	
626	『みずうみ　Vol. 3　No. 3（通巻12号）』		1974年	滋賀銀行事業部	
627	『みずうみ　Vol. 3　No. 3（通巻12号）』		1974年	滋賀銀行事業部	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
628	「近世後期青蓮院による盲僧支配の実態」	宮野弘樹	2008年	七隈史学会	『七隈史学　第9号』抜刷
629	「薩摩・筑前琵琶の歴史」複写				
630	「薩摩盲僧琵琶の誕生と展開　平家琵琶から薩摩盲僧琵琶へ、そして薩摩琵琶へ」複写	薦田治子	2006年	お茶の水音楽研究会	『お茶の水音楽論集　特別号』より、一部のみ

631	「四絃漫記」複写	早川幾忠			pp.6-7
632	『筑前琵琶　製作技術調査報告書』	筑前琵琶製作技術調査委員会（編）	1977年	筑前琵琶製作技術調査委員会	
633	「鶴田錦史聞き書き（その1）薩摩琵琶楽器製作者の系譜（前半・後半）」複写	藤内鶴了			
634	「鶴田錦史聞き書き（その2）薩摩琵琶製作者の系譜」複写	藤内鶴了			
635	「鶴田錦史聞き書き（その3）薩摩琵琶製作者の系譜（前半・後半）」複写	藤内鶴了			
636	「琵琶製作業の話」複写				pp.10-11
637	「琵琶の楽器・弾奏法・写真等」複写				

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
638	『鹿児島県歴史資料センター　黎明館　総合案内』	鹿児島県歴史資料センター黎明館（編）	1987年	鹿児島県歴史資料センター黎明館	図録
639	『荒神祭り』複写		2014年		チラシ、箱嶋家住宅（会場・主催）、2014年5月25日（公演日）
640	『故一世宗家橘旭宗先生追善　筑前琵琶橘会全国演奏大会』		1973年		プログラム、第一生命ホール（会場）、1973年3月4日（公演日）、筑前琵琶日本橘会（主催）
641	『故三世宗家　橘旭翁師追悼演奏大会』		1973年		プログラム、日刊工業ホール（会場）、1973年6月5日（公演日）、東京旭会（主催）
642	『親鸞聖人　鑽仰　筑前琵琶演奏大会』		1921年		プログラム、岡崎公園公会堂本館（会場）、1921年8月14日（公演日）、旭草会（主催）
643	『鈴木流泉　錦心流琵琶演奏』				プログラム、入間校舎オーケストラスタジオ・江古田校舎モーツァルト・ホール（会場）、10月19、21日（公演日）、武蔵野音楽大学（主催）
644	『宗家橘旭翁先生御推奨　旭琵琶糸値段表』			石毛七商店	
645	『宗家橘旭宗師歓迎　旭照教師免状披露　大演奏会』		1920年		プログラム、京都市公会堂本館（会場）、1920年12月5日（公演日）、旭照会（主催）
646	『橘筑前琵琶　旭花都会　第百回大演奏会』		1923年		プログラム、六角会館（会場）、1923年6月2日（公演日）、旭花都会（主催）
647	『筑前琵琶演奏大会』		1937年		プログラム、東宝小劇場（会場）、1937年4月15日（公演日）、大津旭紅（主催）
648	『筑前琵琶　旭登会演奏会』		1973年		プログラム、高円寺会館（会場）、1973年5月20日（公演日）、若宮旭登（主催）
649	『筑前琵琶　旭登会演奏会』		1973年		プログラム、高円寺会館（会場）、1973年5月20日（公演日）、若宮旭登（主催）
650	『第十二回　筑前琵琶紅会』		1973年		プログラム、三越劇場（会場）、1973年4月20日（公演日）、紅会（主催）
651	『第十二回　筑前琵琶紅会』		1973年		プログラム、三越劇場（会場）、1973年4月20日（公演日）、紅会（主催）
652	『第二十七回　紅会』		1987年		プログラム、三越劇場（会場）、1987年7月8日（公演日）、紅会（主催）
653	『第四十三回　筑前琵琶全国大会』		1973年		プログラム、石川県立能楽文化会館（会場）、1973年9月29、30日（公演日）、筑前琵琶日本旭会（主催）
654	『第四十三回　筑前琵琶全国大会』		1973年		プログラム、石川県立能楽文化会館（会場）、1973年9月29、30日（公演日）、筑前琵琶日本旭会（主催）
655	『第四十三回　筑前琵琶全国大会』		1973年		プログラム、石川県立能楽文化会館（会場）、1973年9月29、30日（公演日）、筑前琵琶日本旭会（主催）

656	『第四十三回　筑前琵琶全国大会』カ		1973年カ		プログラム、9月29、30日（公演日）
657	『筑前琵琶　東京旭会　春の大会』		1937年		プログラム、電気倶楽部大講堂（会場）、1937年3月27日-3月29日（公演日）、東京旭会（主催）
658	『東京旭会　筑前琵琶春の大会』		1960年		プログラム、新宿伊勢丹大ホール（会場）、1960年5月28日（公演日）、東京旭会（主催）
659	『第三十四回　筑前琵琶と吟詠の会』		1988年		プログラム、日の丸会館ホール（会場）、1988年5月29日（公演日）、筑前琵琶岐阜旭会（主催）
660	『筑前琵琶　忘年演奏旭粧会』		1973年		プログラム、高円寺会館（会場）、1973年12月8日（公演日）
661	『筑前琵琶　忘年演奏旭粧会』		1973年		プログラム、高円寺会館（会場）、1973年12月8日（公演日）
662	『鶴田錦史リサイタル』		1973年		チラシ、東京文化会館大ホール（会場）、1973年9月13日（公演日）
663	『琵琶独演会　鶴田錦史』		1973年		プログラム、東京文化会館（会場）、1973年9月13日（公演日）
664	『琵琶独演会　鶴田錦史』		1973年		プログラム、東京文化会館（会場）、1973年9月13日（公演日）
665	『平成4年　夏　特別展　平家物語本と琵琶展』		1992年		パンフレット、赤間神宮宝物殿（会場）
666	『琵琶各派名流出演　藤巻旭鴻演奏会』		1973年		プログラム、農協ホール（会場）、1973年8月26日（公演日）、筑前琵琶旭鴻会（主催）
667	『第一回"琵琶"鑑賞会』		1990年		プログラム、奏楽堂（会場）、1990年12月5日（公演日）、古典音楽研究会・同人（主催）
668	『弁才天と宗徧琵琶』				パンフレット
669	『水也田流　筑前琵琶　定期大演奏会』		1924年		プログラム、顕道会館（会場）、1924年6月28日（公演日）、深水会（主催）
670	『三美会二十周年記念　筑前琵琶演奏会』		1987年		プログラム、京都弥生会館（会場）、1987年7月28日（公演日）、京都琵琶三美会（主催）

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
671	『敦盛　上』				
672	『泉三郎』	橘智定	1920年	橘出版部	「橘旭翁作譜」（表紙）
673	「おぼろ月」				
674	『改訂　備後三郎』	橘一定	1928年	吉安延太郎	「橘旭翁作譜」（表紙）
675	『春日野』				
676	『春日野』				
677	『春日野』				
678	『川中島』	橘一定	1925年	吉安延太郎	「橘旭翁作譜」（表紙）
679	『曲譜正調　筑前琵琶歌　雪』	水也田旭嶺（編纂・作曲）	1915年	前田文進堂	
680	『曲譜明確　薩摩琵琶歌百練集下巻』	宮田秋堂（編・作曲）、徳岡壮太郎（新作・編）	1911年	朝野書店	
681	『錦心流　薩摩琵琶　弾法図解』	浅野晴水	1926年	本吉屋楽器店	
682	『錦心流琵琶　碧水会弾法音譜増訂再版』	秋本碧水（編）			「庚申の秋」（序）
683	『五絃弾譜全巻』	安倍旭洲（編）	1926年	旭洲会後援会	『五絃弾法譜　一之巻』『五絃弾法譜　二之巻』
684	『五絃琵琶弾譜　第壹巻』	橘旭翁	1927年	筑前琵琶宗家	
685	『五絃琵琶弾法譜本　全』	池畠茂徳	1927年	常磐流琵琶宗家	
686	『五絃琵琶之曲　粟津の露』	橘一定	1924年	橘筑前琵琶宗家	
687	『五絃琵琶之曲　石田三成』	橘一定	1924年	橘筑前琵琶宗家	

688	『五絃琵琶之曲　鬼界ヶ島』	橘一定	1924年	橘筑前琵琶宗家	
689	『五絃琵琶之曲　坂本城』	橘一定	1921年	橘筑前琵琶宗家	
690	『五絃琵琶之曲　裾野の雨』	橘一定	1924年	橘筑前琵琶宗家	
691	『五弦琵琶之曲　二〇三高地』	橘一定	1936年	橘筑前琵琶宗家	
692	『五絃琵琶之曲　吉野落』	橘一定	1921年	橘筑前琵琶宗家	
693	『薩摩琵琶　四絃界　前輯』	佐竹操（編輯）、泰斗児玉利純翁（校閲）	1917年	岡本偉業館	
694	『薩摩琵琶　四絃界　後輯』	佐竹操（編輯）、泰斗児玉利純翁（校閲）	1917年	岡本偉業館	
695	『新曲琵琶歌　天之巻』	宮田秋堂	1906年	美也古書房・山本文友堂	
696	『精神教育　帝国琵琶　錬磨集上』	吉水経和（編）	1911年	錦水会	
697	『高峰琵琶　初伝　中伝　奥伝弾法略譜』				
698	『初伝』				
699	『中伝』				
700	『奥伝』				
701	『高峰琵琶略譜』				
702	『橘流　筑前琵琶　太田道灌　完　改訂本』	前田梅吉（編輯）	1918年	前田文進堂	
703	『橘流　筑前琵琶　碁合戦　完』	宗家　橘旭翁先生（校閲）	1909年	大阪旭会	
704	『橘流　筑前琵琶　勾当内侍　完』	前田梅吉（編輯）	1920年	前田文進堂	
705	『橘流　筑前琵琶　湖水渡　完』	前田梅吉（編輯）	1919年	前田文進堂	
706	『橘流　筑前琵琶　備後三郎　完』	進藤宇一（編輯）、宗家　橘旭翁先生(校閲)	1921年	藤井改進堂	
707	『橘流　筑前琵琶　山崎合戦　完』	前田梅吉（編輯）	1919年	前田文進堂	
708	『弾法図解　独吟琵琶歌集』	永田錦心（編）	1926年	精文館	
709	『筑前琵琶　四絃之曲　沈男』	吉安延太郎、橘旭翁(校閲)	1924年	橘筑前琵琶宗家出版部	
710	『筑前琵琶　新曲　文豪　三島由紀夫の自決』	細井鵲郎（作詞）、押田旭窈（作曲）			演奏会パンフレット付属カ
711	「筑前琵琶奏法」				
712	『筑前琵琶弾法譜』				
713	『筑前琵琶弾法譜　上之巻』	橘旭宗(編)、橘旭翁(校閲)	1914年	筑前琵琶宗家	
714	『筑前琵琶弾法譜　下之巻』	橘旭宗(編)、橘旭翁(校閲)	1914年	筑前琵琶宗家	
715	『中伝　粟津が原』				
716	『八洲流筑前琵琶歌　蝶々』	長井秀三	1922年	長井秀三	
717	『譜附　五絃琵琶歌集　一の巻』	橘旭宗	1927年	筑前琵琶宗家橘会本部	
718	『平家琵琶譜』				
719	『星野検校著作の琵琶譜　楠美太素著作の琵琶譜』				
720	『屋島　茶山人題』				
721	『六角堂』	橘一定	1923年	橘筑前琵琶宗家出版部	

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
722	「佐倉座琵琶法師定目壹巻」	澤都（写）	宝暦10年		巻物、「宝暦十年辰四月　澤都」（奥付）
723	「教師ノ作曲承認ニ関スル規定」	筑前琵琶宗家　橘旭翁	1922年		
724	「技両試験ニ関スル規定」	筑前琵琶宗家　橘旭翁	1922年		
725	「御送金方ニ関スル件」	橘旭翁	1922年		

726	「五絃琵琶規定」	橘筑前琵琶宗家	1922年		
727	「筑前琵琶規範」	橘筑前琵琶宗家	1922年		
728	「筑前琵琶研修資料（1)」ほか	橘旭翁			
729	筑前琵琶宗家規範・五絃琵琶規定改正通知	筑前琵琶宗家　旭翁橘智定	1922年		
730	「筑前琵琶宗家規範　筑前琵琶大日本旭会々則」		1920年		
731	「筑前琵琶宗家教則」				
732	「通知」	筑前琵琶宗家	1922年		宗家維持費廃止ほかの通知
733	「大日本旭会々則」		1922年		
734	免状改正通知　「免状書換申込書」	筑前琵琶宗家	1921年		「宗家　橘旭翁殿」
735	免状料				旭会カ
736	「免状料規定」	筑前琵琶宗家　旭翁橘智定	1920年		
737	「免状料内規」「免状料内訳」	筑前琵琶宗家　旭翁橘智定	1922年		
738	宗家事務局免状申請書	大阪旭会			
739	「会費受領証」	京都旭会			
740	京都旭会免状申請書	京都旭会			
741	「大正十年　春季演奏会係員　報告」	京都旭会	1921年		
742	「入会申込書」				「京都旭会御中」
743	「入会申込書」				「京都旭会御中」
744	「旭花都会々員名簿」			旭花都会	「大正八年十一月現在」
745	「筑前琵琶　旭花都会々則」		1920年		
746	「初中伝免状申請書」「履歴書」「雅号申請書」				「筑前琵琶宗家／橘智定殿」、記入例カ
747	「初中伝免状申請書」「履歴書」「雅号申請書」	旭瑾　高木浅子	大正期		「筑前琵琶宗家／橘智定殿」
748	『大正八年二月改正　記録帳　旭瑾会』		1919年		筑前琵琶旭瑾会の会員名簿カ
749	「履歴書」	皆伝旭瑾　高木浅子	1921年		
750	「履歴書」	旭瑾　高木浅子	大正期		
751	「旭麗会教授沿革」ほか				
752	「筑前琵琶　会員票」	旭楽会・旭専会	1922年		
753	「橘会称号以上一覧表」		1923年		「橘の香新年号附録」
754	「橘流筑前琵琶京都弾奏家技芸審査絃友会々則」ほか		大正期	旭琵琶新聞社	
755	「筑前琵琶宗家教則　大日本橘会々則」「書式」	橘会本部			
756	「筑前琵琶宗家教則　大日本橘会々則」「書式」	橘会カ			
757	「入門願並誓約書」				「宗家　橘知定殿」
758	「免状料内規」	筑前琵琶宗家　旭宗橘知定	1920年		
759	「免状料内規」	筑前琵琶宗家　法音院旭宗　橘知定			
760	「免状料内規内訳（五絃教授以上ニ限ル)」				
761	「入門願　誓約書」				「筑前琵琶」

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
762	楽琵琶撥図・琵琶各部名称・琵琶寸法・調弦・掛琵琶ほか	及川尊雄			レポート用紙

763	各琵琶の柱・調子ほか	及川尊雄			レポート用紙
764	「楽・小琵琶？」	及川尊雄			紙片、展示のキャプション
765	『薩摩琵琶』（楽器の構造・調弦ほか）	及川尊雄			レポート用紙
766	『書物　便覧』（琵琶各部の名称・調弦ほか）	及川尊雄			レポート用紙
767	『筑前琵琶・平家琵琶　和琴・楽箏』	及川尊雄			レポート用紙
768	琵琶（及川尊雄所有）サイズ表	及川尊雄			プリントアウト
769	琵琶の寸法・糸巻きほか	及川尊雄			レポート用紙
770	琵琶撥図・勘所名称ほか	及川尊雄			レポート用紙
771	平家琵琶・検校系譜・薩摩琵琶ほか	及川尊雄			レポート用紙

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
772	五絃琵琶				ポスターの切り抜きカ
773	薩摩琵琶楽器図と解説　複写				
774	「薩摩盲僧琵琶」複写	鎌田久子ほか			
775	高峰琵琶・橘流筑前琵琶演奏家写真				雑誌記事の一部カ
776	『橘旭宗先生追善　筑前琵琶　橘会全国演奏大会』		1973年		チケット半券、第一生命ホール（会場）、1973年3月4日（公演日）、筑前琵琶日本橘会（主催）
777	『鶴田錦史リサイタル』		1973年		チケット半券、東京文化会館大ホール（会場）、1973年9月13日（公演日）
778	琵琶の写真記事ほか　複写				p.38
779	法隆寺金堂天蓋付属天人像の図　複写				
780	『水谷浩水師　祝総伝昇格　田中■照』				色紙

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
781	楽器の胴の模写				寸法入り、琵琶カ

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
782	弘本旭弘宛	琵琶新聞社			封筒

04. 能楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
783	『謡稽古の常道』	池内信嘉	1932年	日月社	
784	『音曲玉淵集　全』	時中庚妥（編）、今村義福（補）、大和田建樹（訂）	1899年	績文舎	
785	『花伝書　全』	世阿弥	1898年	績文舎	「謡曲花伝書」（地）、「斎藤図書」（扉に印）
786	『狂言　「をかし」の系譜』（日本の古典芸能 4）	藝能史研究會（編）	1970年	平凡社	
787	『甲戌　うたひ日記』		1934年	檜書店	
788	『小鼓芸話』	田鍋惣太郎	1958年	わんや書店	
789	『小鼓とともに』	幸祥光	1968年	わんや書店	

790	『小鼓とともに』複写	幸祥光	1968年	わんや書店	「三須家系譜」「幸家系譜」部分
791	『小鼓入門』	幸祥光	1953年	能楽書林	
792	『鼓筒図譜』	鼓筒研究会	1918年	能楽編輯所	鼓筒研究会同人誌
793	『鼓筒図譜』	鼓筒研究会	1918年	能楽編輯所	鼓筒研究会同人誌、「招慶堂　佐竹藤三郎」(印)
794	『鼓筒之鑑定』	生田耕一・山崎楽堂	1917年	わんや謡曲書肆	
795	『鼓胴集　上巻』	川畑契水	1922年	芸艸堂	
796	『猿楽考』				
797	『四座役者目録　上』	観世庄右衛門元信	承応2年		
798	『四座役者目録　下』	観世庄右衛門元信	承応2年		
799	『昭和十一年度うたひ日記』		1936年	檜書店	
800	『新改正大増補　萬葉小諷千秋楽全』		嘉永7年	菊屋七郎兵衛	
801	『薪能』(別冊太陽　日本のこころ61)	増田正造（監修）	1988年	平凡社	
802	『日用百科全書　第四十五編　謡と能』	大橋又太郎（編）	1906年	博文館	
803	『日本の名著　世阿弥』	山崎正和（編）	1969年	中央公論新社	
804	『能』(別冊太陽　日本のこころ25)	表章（構成）	1978年	平凡社	
805	『能　中世芸能の開花』(日本の古典芸能 3)	藝能史研究會（編）	1970年	平凡社	
806	『能楽家列伝　完』	横井春野（編）	1917年	正午出版社	
807	『能謡名所旧跡』	栗林貞一	1950年	檜書店	
808	『能楽具装精華』	深見坦郎	1933年	檜書店	
809	『能楽源流考』	能勢朝次	1938年	岩波書店	
810	『能楽大辞典附図』	正田章次郎・雨谷幹一（編）	1908年	吉川弘文館	
811	『能楽秘簿』		1884年		荷香堂蔵
812	『能の匠たち　その技と名品』(能楽入門2)	横浜能楽堂（編）	1999年	小学館	
813	『能のデザイン』	増田正造	1976年	平凡社	
814	『能の囃子と演出』複写	高桑いづみ	2003年	音楽之友社	「第二章　能管の奏でた音楽」p.47・奥付
815	『能の囃子と演出』複写	高桑いづみ	2003年	音楽之友社	口絵・「第一章／鼓胴の形態変化―雅楽から能へ―」の部分
816	『能の歴史』(平凡社カラー新書78)	小林責・増田正造	1977年	平凡社	
817	『能之図式巻二』				
818	『能之図式巻四』				
819	『能をたのしむ』	増田正造・戸井田道三	1976年	平凡社	
820	『拍子講義』	山崎楽堂	1924年	わんや書店	
821	『三輪　白式・神神楽』	平岡文夫（編）	1995年	平岡文夫	
822	『謡曲行脚』	俵簑舟	1922年	誠文堂	
823	『謡曲秘伝抄　全』	檜常之助	1899年	大爪堂	
824	『NHK 徳川美術館 2 表道具の美 利休「泪」の茶杓と能装束・武具』	徳川義宣（監修）、NHK名古屋放送局（編）	1989年	NHK出版	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
825	『太陽　1976年3月号 No.154 特集　能・世阿弥の生涯』		1976年	平凡社	
826	『日本の美術 477　蒔絵鼓胴』	加藤寛（編）	2006年	至文堂	
827	『楽器解説（能楽講義分冊）』複写	萍魚游人（講述）	1917年	能楽図書研究会出版部	

828	「過渡期の鼓胴その後」複写	高桑いづみ	2007年	独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所	『無形文化遺産報告　第1号』
829	「雷雲蒔絵鼓胴」複写	灰野昭郎	1983年	京都国立博物館	『学叢　5号』

1-4.　カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
830	『狂言展　和泉流宗家秘蔵による』	読売新聞社（編）、和泉元秀（監修）、森角勝（写真撮影）	1986年カ	読売新聞社	図録
831	『金剛家秘宝』	朝日新聞大阪本社企画部（編）	1983年	朝日新聞大阪本社企画部	図録、タイトル別名『金剛家能楽秘宝展』、新宿小田急／心斎橋・大丸／四条大丸／尾道市立美術館（会場）、1983年9月15日-9月28日／1983年10月6日-10月11日／1983年10月13日-10月18日／1983年10月22日-11月13日（会期）
832	『特別陳列　蒔絵鼓胴写真目録』		1937年	帝室博物館	
833	『特別展覧会　能面と能装束』	京都国立博物館（編）	1964年	京都国立博物館	図録、京都国立博物館（会場）、1964年10月6日-11月8日（会期）
834	『能　幽玄と情念の花　NOH-FESTIVAL』		1975年		パンフレット、東京・大丸デパート催事
835	『能楽資料館図録』	能楽資料館	1978年	能楽資料館	
836	『能楽資料展　下掛系統の謡本：出陳目録』	上野学園日本音楽資料室（編）	1978年	上野学園日本音楽資料室	上野学園日本音楽資料室　第三回特別展観
837	『能楽図書陳列品目録』	東京音楽学校	1914年		

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
838	『一噌流笛　大倉流小鼓　高安流大鼓　観世流太鼓　四拍子手附大成　第壹輯』複写				附言・目次のみ
839	『一調　幸流　山嵜一道師手附』				
840	『浮舟　一調一声』	「御影　山口」			
841	『英文　船弁慶　湯谷　氷室　野宮』	観世幸次郎信光（原著）、安田建（訳）	1967年	光風社書店	
842	『大倉流小鼓手附　全』	荒木賀光（編輯）	1912年	荒木賀光	
843	『観世流式例小謡集』	「訂正者　観世左近」（奥付）	1931年	檜書店	
844	『金春流太鼓手附　序之巻』	金春惣右衛門	1932年	わんや書店	
845	『縮刷　解説参考謡本　天』	丸岡桂（訂正）	1914年	観世流改訂本刊行会	
846	『縮刷　解説参考謡本　地』	丸岡桂（訂正）	1914年	観世流改訂本刊行会	
847	『地拍子　参考　高安流大鼓階梯　全』	高安鬼三（閲）、田崎延次郎	1919年	檜大瓜堂書店	
848	『高安流大鼓　序ノ巻』	安福春雄	1960年	能楽書林	
849	「玉葛」ほか				歌詞に朱で小鼓の手付あり
850	『当曲集　坤』			山本長兵衛	「久世舞　要集　下」、「貞享四年」（奥付）
851	『頭書　図式入り　万歳小謡千秋楽』		天保9年	山城屋佐兵衛	
852	「能管譜」				
853	「放下僧　一調」				
854	『森田流笛　神楽』	森田流職分会	1953年	檜書店	「森田流笛正歌」（奥付）

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
855	「鑑」	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「墨塗師扇子蒔画小鼓御鞁」「酒井元太郎様」
856	「鑑」	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「山田中将閣下」宛

857	「鑑」	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「浪扇子之蒔画小鼓御鞨　竹村先生様」
858	「鑑」	佐竹招慶堂	1913年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞨　本願寺石原様」
859	「鑑」	佐竹藤三郎	1913年		鑑定書の下書きカ、「墨塗師蕪蒔絵小鼓御鞨」「松岡新三郎様」
860	「鑑」	佐竹藤三郎	1913年		鑑定書の下書きカ、「墨塗師蕪蒔絵小鼓御鞨」「松岡新三郎様」
861	「鑑」	佐竹藤三郎	1913年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞨　東本願寺　石原家様」
862	「鑑」	佐竹招慶堂	1913年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞨」
863	「鑑」	佐竹招慶堂	1927年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師御所車蒔絵小鼓御鞨　宮村保久先生」
864	「鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「墨塗師楊柳蕪槌車小鼓御鞨」
865	「鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「墨塗師■蒔画小鼓御鞨　岩崎様」「山上先生様」
866	「鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「黒塗師楊柳蕪槌車山代小鼓御鞨　山上駒太郎様」
867	「鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「黒塗師柳様之蒔画小鼓御鞨」、「山内信之助様」宛
868	「鑑」	招慶堂			鑑定書の下書きカ、「黒塗師傘と傘袋巻画小鼓御鞨」
869	「鑑」	招慶堂			鑑定書の下書きカ、「墨塗師芭蕉蒔画小鼓御鞨」
870	「鑑」				鑑定書の下書きカ、「墨塗師秋草蒔画小鼓御鞨」
871	「鑑」				鑑定書の下書きカ、「墨塗師蕪蒔画小鼓御鞨」
872	「鑑」				鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔画小鼓御鞨」
873	「鑑」（表）「鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1908年		鑑定書の下書きカ、「一龍描金太鼓鞨／紀伊国和歌山　上野惣助様」（表）、「黒塗師舞桐花之御蒔画小鼓御鞨／醍醐様御殿」（裏）
874	「鑑」（表）「鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1911年		鑑定書の下書きカ、「時氏黒塗師小鼓御鞨　佃新之助様」宛（表）、「浪雲龍之蒔画小鼓御鞨　佃新之助様」宛（裏）
875	「鑑」（表）「鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1911年、1912年		鑑定書の下書きカ、「浪雲龍之蒔画小鼓御鞨　佃新之助様」（表）、「墨塗師秋草蒔画小鼓御鞨　高野信一郎殿」（裏）
876	「鑑」（表）「鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「楊柳蒔画小鼓御鞨」（表）、「地■扇子浪之蒔画小鼓御鞨／竹村先生様」（裏）
877	「鑑」（表）「覚」（裏）	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞨」（表）、「大谷慶次郎様／横山市造様」（裏）
878	「鑑」（表）「御鞨鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師御■蒔画小鼓御鞨」（表）
879	「鑑」（表）　鑑定書下書き（裏）	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「浪雲竜之蒔画小鼓之御鞨」（表）、「古代黒柿当団扇蒔画鼓御胴／酒井元太郎殿」（裏）
880	「鑑」（表）　鑑定書下書き（裏）				鑑定書の下書きカ、「楊柳蒔画小鼓御鞨」（表）「良阿弥二代目赤蒔画」（裏）
881	「鑑」（表）　大鼓等納品の文言試し書きカ（裏）	佐竹招慶堂	1913年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞨」（表）
882	「仮面目利書　大神書　細工各伝　不許他見」				巻物
883	「謹捧」	佐竹藤三郎	1916年		楽器献納関係の書状カ
884	鑑定書下書きカ	佐竹藤三郎	1912年		「墨塗師吹散幡四季模様蒔画大鼓御鞨」

885	鑑定書下書きカ	佐竹藤三郎	1912年		「墨塗師吹散幡四季模様蒔画大鼓御鞁」
886	鑑定書下書きカ	佐竹藤三郎			「黒塗師玉釘■蒔画小鼓御鞁／東京某／上」
887	鑑定書下書きカ	佐竹藤三郎			「樺太巻■笙壱管」
888	鑑定書下書きカ	招慶堂			「墨塗師薄折熨年蒔画小鼓御鞁」「野村様」
889	鑑定書下書きカ	招慶堂			「黒塗師柏葉蒔画大鼓御鞁」
890	鑑定書下書きカ	招慶堂			「黒塗師■蒔画小鼓御鞁」
891	鑑定書下書きカ	招慶堂			「梨地草蒔絵小鼓御鞁」
892	鑑定書下書きカ	招慶堂			「梨地草蒔絵小鼓御鞁／東京某」
893	鑑定書下書きカ	招慶堂			「黒塗師薄折熨年蒔画小鼓御鞁」
894	鑑定書下書きカ	招慶堂			「黒塗師玉釘之蒔画小鼓御鞁」
895	鑑定書下書きカ	招慶堂			「黒塗師青蒔画小鼓御鞁」、鑑定書の下書きカ
896	鑑定書下書きカほか	招慶堂			7枚綴、「野村様／上」宛
897	鑑定書の文言試し書きカ				「松岡新三郎様」
898	鑑定書の下書きカ	佐竹招慶堂			「黒塗師蔦■蒔絵小鼓御鞁／東京某」
899	鑑定書の下書きカ	佐竹藤三郎	1912年		「黒塗師神楽鈴蒔画小鼓御鞁」
900	鑑定書下書きカ	佐竹藤三郎	1910年		「古代当団扇蒔画鼓御胴／酒井源太郎様」（表）、「古代墨柿当団扇蒔絵鼓御胴／酒井元太郎様閣下」（裏）
901	「御鞁鑑」	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「墨塗師切桐葉蒔画小鼓鞁」
902	「御鞁鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「墨塗師蝶之蒔画小鼓御鞁」
903	「御鞁鑑」	佐竹藤三郎			鑑定書の下書きカ、「黒塗師楊柳様花之蒔画小鼓御鞁／山内信之助様」
904	「御鞁鑑」	佐竹招慶堂			鑑定書の下書きカ、「黒塗師菊乃蒔画小鼓御鞁／山上駒太郎様」
905	「御鞁鑑」	招慶堂			鑑定書の下書きカ、「折居孫九郎善任氏作／幸野先生様」
906	「鞁鑑」	佐竹藤三郎	1911年		鑑定書の下書きカ、「楊柳蒔画小鼓鞁」「上野惣助様」
907	「鞁鑑」（表）「鑑」（裏）	佐竹藤三郎	1912年		鑑定書の下書きカ、「黒塗師蕪蒔絵小鼓御鞁」「黒塗師蕪蒔画小鼓御鞁／武田様」

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
908	「温知叢書（猿楽沿革考）」	及川尊雄			レポート用紙
909	「器工抄録」	及川尊雄			レポート用紙、末千種勘也千種末流、大千種勢支流
910	小鼓方幸流の系図	及川尊雄			レポート用紙、人名と花押
911	小鼓方幸流の系図	及川尊雄			レポート用紙、小鼓方幸四郎次郎・五郎次郎・清五郎
912	小鼓方幸流の系図	及川尊雄			レポート用紙、小鼓方幸四郎次郎・五郎次郎・清五郎の花押
913	小鼓の打ち方の図	及川尊雄			レポート用紙、「チ」「タ」の打ち方、大倉流カ
914	三筒秘抄の抜き書き	及川尊雄			レポート用紙、太鼓のわらび手の模写
915	「都々美　小鼓」	及川尊雄			ノート用紙、別のノート紙に様々な胴の彫の模写あり
916	鼓の扱いに関するメモカ				ルーズリーフ
917	鼓の系譜	及川尊雄			レポート用紙、鼓胴の乳袋の模写
918	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙
919	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、堀田出羽ほか、胴13
920	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、「三筒秘抄」からの引用・折居弥助・玉井六兵衛・八木弥助ほか、胴6つの特色ほかの模写

921	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、天野金十郎ほか・鼓胴6つの特色ほかの模写
922	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、「三筒秘抄」からの引用、嘉玄（唐人）ほか・胴12の特色ほかの模写
923	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、多武峰初代良阿弥ほか・鼓胴作者と胴の特色のメモ
924	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、阿波勘兵衛ほか鼓胴5つ模写
925	鼓の作者と特徴	及川尊雄			レポート用紙、服部五郎左衛門ほか、鼓胴の特色の模写
926	鼓の作者と特徴ほか	及川尊雄			レポート用紙、能ガッコ　皮面の鳳凰の模写
927	鼓の目利き	及川尊雄			レポート用紙
928	『能』	及川尊雄			ノート、能楽の用語・系譜ほか
929	「能楽」	及川尊雄			レポート用紙
930	『能楽系図と四座役者目録』	及川尊雄			レポート用紙
931	「能楽小道具」				レポート用紙、神事の小道具スケッチ
932	『能楽　シテワキ　四拍子の知識』	及川尊雄			ノート
933	『能楽作物』	及川尊雄			レポート用紙、能の作物の図ほか
934	「能管　銘管七十種」	及川尊雄			方眼紙
935	『能面』	及川尊雄			ノート、能面の図ほか
936	能面の種類ほか	及川尊雄			ノート
937	太鼓・大鼓の図	及川尊雄			レポート用紙
938	大鼓胴作者系図	及川尊雄			レポート用紙、人名と胴の形を記す
939	大鼓胴作者系図	及川尊雄			レポート用紙、人名のみ

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
940	「鼓の手入れと保存法」複写				
941	『鼓筒工職系統一覧表』複写	山崎楽堂（編）			山崎楽堂編『鼓之鑑定』別篇附表
942	『昭和十二年度うたひ日記』			檜書店	書き込みあり
943	「笛の作者」「明和年間徳川家書上　七十種管録」複写				
944	『宝生流謡曲備忘録』	吉田魯洋（編著）	1931年	わんや書店	

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
945	「狂言用■染上寸法控」				
946	「小皷胴ノ箱」ほか				両面
947	「大和に於ける筒職分布図」複写	生田耕一（編）	1917年カ	わんや謡曲書肆カ	「鼓筒之鑑定後編附図　生田耕編」
948	「般若」				絵葉書
949	扇の図				朱書「金春」
950	扇の図				朱書「カ」、ほか付記あり
951	扇の図				朱書「イ」、ほか付記あり
952	扇の図				
953	扇の図				朱書「ハ」、ほか付記あり
954	扇の図				朱書「ル」、ほか付記あり
955	扇の図				
956	扇の図				朱書「タ」、ほか付記あり、左上に面の図あり
957	扇の図				
958	扇の図				朱書「ヘ」、ほか付記あり

959	扇の図				朱書「リ」、ほか付記あり
960	扇の図				朱書「梅若」
961	扇の図				付記あり
962	扇の図				
963	扇の図				朱書「ヌ」、ほか付記あり
964	扇の図				朱書「オ」、ほか付記あり
965	扇の図				朱書「ニ」、ほか付記あり
966	扇の図				朱書「チ」、ほか付記あり
967	扇の図				無地
968	扇の図				朱書「宝生」、ほか付記あり
969	扇の図				
970	扇の図				朱書「ヨ」、ほか付記あり
971	扇の図				朱書「ト」、ほか付記あり
972	扇の図				朱書「観世」
973	扇の図「金春」				流派の付記あり
974	鼓胴の図案				葡萄の図柄
975	鼓胴の図案				植物の図柄
976	鼓胴の図案				桜の図柄
977	太鼓の柄の図				
978	鼓の蒔絵の図				
979	鼓の蒔絵の図				
980	鼓の蒔絵の図				「幸五郎次郎正孚（花押）」
981	鼓の蒔絵の図				
982	鼓の蒔絵の図				
983	鼓の蒔絵の図				
984	鼓の蒔絵の図				
985	鼓の蒔絵の図				
986	鼓の蒔絵の図				
987	鼓の蒔絵の図				
988	鼓の蒔絵の図				
989	鼓の蒔絵の図				彩色あり
990	鼓の蒔絵の図				彩色あり
991	鼓の蒔絵の図				彩色あり
992	鼓の蒔絵の図				彩色あり
993	鼓の蒔絵の図				彩色あり
994	鼓の蒔絵の図				
995	鼓の蒔絵の図				彩色あり
996	鼓の蒔絵の図				彩色あり
997	鼓の蒔絵の図				彩色あり
998	鼓の蒔絵の図				付記「京都」、彩色あり
999	鼓の蒔絵の図				彩色あり
1000	鼓の蒔絵の図				彩色あり
1001	鼓の蒔絵の図				
1002	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1003	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1004	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1005	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1006	鼓の蒔絵の図				
1007	鼓の蒔絵の図				
1008	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1009	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1010	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり

1011	鼓の蒔絵の図				一部彩色あり
1012	鼓の蒔絵の図				
1013	鼓の蒔絵の図				小袖と鼓の図柄、一部彩色
1014	鼓の装飾顔料				
1015	能面と装束の図	松野奏風			

3. 視聴覚資料

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1016	『能・狂言』（邦楽大系2）	岸辺成雄（編）	1971年	筑摩書房	LP

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1017	『能面装束作物　明治十七年荷香堂』				紙の帯カ

05. 地歌・箏曲

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1018	『生田流の箏曲』	安藤政輝、吉川英史（監修）	1986年	講談社	
1019	『今井慶松芸談』	藤田俊一	1959年	日本音楽社	
1020	『楽器の事典　箏（琴）』	谷村晃（監修）、松本明（編著）	1992年	東京音楽社	
1021	『教養のための箏の常識と楽理のお話』	野村秀子	1998年	正絃社出版部	
1022	『検校の系譜』	真田淑子	1985年	金子印刷	
1023	『現代三曲展望　上巻』	田中義一	1974年	尺八日本社	
1024	『琴づくり一代　水野佐平翁』	大阪音楽大学	1970年		
1025	『箏と箏曲を知る事典』	宮崎まゆみ	2009年	東京堂出版	
1026	『この人なり　宮城道雄傳』	吉川英史	1981年	邦楽社	
1027	『作曲家 宮城道雄　伝統と革新のはざまで』	千葉潤之介	2000年	音楽之友社	
1028	『糸竹初心集の研究　近世邦楽史研究序説』	馬淵卯三郎	1992年	音楽之友社	
1029	『松韻芸話』	萩岡松韻、藤田俊一（編著）	1958年	日本音楽社	
1030	『箏曲京極流 鈴木鼓村　現代邦楽の先駆者』	吉見庄助（編）	1984年	邦楽社	
1031	『箏曲と地歌』（東洋音楽選書3）	東洋音楽学会（編）	1967年	音楽之友社	
1032	『箏曲と地唄の味ひ方』	藤田斗南	1930年	前川合名会社	
1033	『箏曲の知識』	中島雅楽之都	1936年	前川合名会社	
1034	『箏絃辞典』	石瀬雅之、中島雅楽之都（監修）	1971年	前川邦楽図書出版	
1035	『箏絃辞典』	石瀬雅之、中島雅楽之都（監修）	1971年	前川邦楽図書出版	
1036	『箏の家　八橋流箏曲の系譜』	真田淑子	1980年	風景社	
1037	『箏の基礎知識』	津田道子	1983年	音楽之友社	
1038	『津軽箏曲郁田流の研究　歴史篇』	岸辺成雄、笹森建英	1976年	津軽書房	
1039	『筑紫箏の世界　今甦る幻の古箏曲』	尾形善郎、宮崎まゆみ（編）	2003年	多久市郷土資料館	
1040	『まぼろしの琴』	持田勝穂	1974年	西日本新聞社	付: 筑紫歌都子作曲年表、参考資料

1041	『生田流箏曲と地歌三絃』	中條延行、堀田俊子	1985年	ナカ出版プロダクション	
1042	『八橋検校　いわきが生んだ近世箏曲の大家』	八橋検校没後三百年祭実行委員会（編）		八橋検校没後三百年祭実行委員会	
1043	『八橋流生田流新生田安村流次山流　箏曲　野河流三線秘曲　伝授系譜序文調編纂誌』		享和2年		

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1044	『三曲　第17巻5月号』奥付　複写	藤田俊一（編）	1937年	美妙社	
1045	「日本の音①～⑳」複写	久保田敏子			柳川検校・八橋検校・北島検校・生田検校・早崎検校・深草検校について
1046	『復刻　三曲　総目次・索引』	美妙社（編）	1978年	日本音楽社	
1047	『宮城会々報　71』		1964年	宮城会	宮城会問題特集号
1048	「山田検校と重元平八（上)」「山田検校と重元平八（二）～（四)」複写	吉村武夫	1959年ほか	邦楽の友社	『邦楽の友　47』ほか

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1049	「古箏「楓」を調査して」複写	根路銘ノブ			pp.100-103
1050	「箏の時代的変遷に関する一考察－井伊家伝来資料35点の調査と分析－」複写	宮崎まゆみ	1979年	武蔵野音楽大学	『武蔵野音楽大学研究紀要　第12号』より、pp.143-168
1051	「東洋音楽選書 (3)『箏曲と地歌』書評」	谷沢永一	1968年	関西大学国文学会	『国文学　第43号』抜刷

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1052	『御琴の栞』			圓尾琴三絃店	価格一覧
1053	『琴曲演奏会曲目』		1927年		プログラム､浅草区高原町金成倶楽部(会場)、1927年4月16日（公演日)、浦野登喜賀（主催）
1054	『久留米市制百周年記念　全国箏曲大会　筑紫箏展示目録』		1989年	全国箏曲大会実行委員会・西日本新聞社	「©平野健次」(奥付)
1055	『現金　御琴三味線仕入所』			山本卯兵衛	チラシ（紙片）
1056	『箏 ON　STAGE！　個性派国際人を育てる和楽器』			日本の伝統音楽を守る会　全国協賛専門店グループ	パンフレット
1057	『琴　三味線　しおり』			サトウ楽器	パンフレット
1058	『琴三味線の栞　日本橋　新宿三越　楽器売場』				パンフレット
1059	『箏曲大意抄』			日本音楽社	復刻版のチラシ
1060	『箏曲の伝統を守る会（第一回春期公演）　古典名曲の解明シリーズ（一）「六段」の解明と鑑賞のタベ』	星旭・大貫紀子（編）	1978年		プログラム、国立劇場大劇場（会場)、1978年2月16日（公演日)、米川文子・上原真佐喜（主催）
1061	『第38回　大津市文化祭参加　人間国宝　宮城喜代子先生をお迎えして　藤野静　滋賀県文化賞受賞ならびに　大津開軒三十五周年記念　箏曲演奏会』		1985年		プログラム、大津市民会館大ホール（会場)、1985年12月8日（公演日)、宮城会　藤野社（主催）
1062	『東京琴』			東京都邦楽器商組合	カタログ
1063	『東京琴　東京三味線』	谷垣内和子（編著）	2000年	東京邦楽器商工業協同組合	パンフレット
1064	『譜本を御愛用の方にぜひ必要品‼　箏曲楽譜挟み』				チラシ

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1065	「あすか川」から始まる譜				一枚の半紙二つ折り、譜が書き付けてある
1066	『吾嬬箏譜』		天保10年	須原屋茂兵衛	「吾嬬琴うた」（題箋）、「山田検校斗養一作／吾嬬箏譜」（表紙裏）
1067	『吾嬬箏譜』		天保10年	須原屋茂兵衛	「吾嬬琴うた」（題箋）、「山田検校斗養一作／吾嬬箏譜」（表紙裏）
1068	『吾嬬箏譜二編　全』	中能島松聲･山勢松韵･山登松齢･山木千賀（編輯）	1881年	金花堂	
1069	『生田流琴曲歌之海　上』	石田猪十郎	1889年	尾本堂	
1070	『生田流琴曲歌之海　中』	石田猪十郎	1889年	尾本堂	
1071	『生田流琴曲歌之海　下』	石田猪十郎	1889年	尾本堂	
1072	『生田流　箏のかがみ　手ほどき下』		1917年	博信堂出版楽器部	
1073	『生田流　箏のかがみ　梅の月』		1920年	博信堂出版楽器部	
1074	『生田流　箏のかがみ　替手付千鳥』		1924年	博信堂出版楽器部	
1075	『生田流　山田流　（共通）　箏のかがみ　新旧　江の島』		1927年	博信堂出版楽器部	
1076	『越後獅子』				「津山検校作曲」「昭和五．ニ．ニ七日」（表紙）
1077	「唐衣」				
1078	『琴曲指譜　表組全』	玄水（編）	寛政13年	吉田善五郎	
1079	『琴曲指譜　裏組全』	玄水（編）	寛政13年	吉田善五郎	
1080	『琴曲指譜　中組上』	玄水（編）	寛政13年	吉田善五郎	
1081	『琴曲指譜　中組下』	玄水（編）	寛政13年	吉田善五郎	
1082	『琴曲指譜　奥組全』	玄水（編）	寛政13年	吉田善五郎	
1083	『琴曲独習備忘音譜　摘草七草』	岡田卓次（編）			
1084	『琴曲洋峨　校正撫箏雅譜集上』				
1085	『琴曲洋峨　撫箏雅譜集　上』	安村検校（編）	天保5年カ	江戸書林・皇都書林	
1086	『琴曲洋峨　撫箏雅譜集　中』				
1087	『琴曲洋峨　撫箏雅譜集　中』				
1088	『琴曲洋峨　撫箏雅譜集　下』	安村検校（編）	天保5年	江戸書林・皇都書林	
1089	『琴曲洋峨　撫箏雅譜集　下』	鈴木荘太郎（編）	1906年	須原屋書店	
1090	『琴うた』	橋本（表紙）			手書きの詞章集
1091	『箏のお稽古』	中山龍次（編輯）	1936年	日本放送出版協会ほか	「婦人講座／ラヂオ・テキスト／講師　宮城道雄／社団法人　日本放送協会」（表紙）
1092	『金剛石』				
1093	『再刻　琴曲鈔　新組入　表』				「琴曲抄」（内題）
1094	『澤のなかれ』	小松景和カ			「澤のなかれ上の巻」、「明治四五の春　小松景和」（序）
1095	『神仙琴歌段曲之巻』	酔山翁（撰）カ			
1096	『神仙琴歌類集　一　ニ』	酔山翁（撰）			
1097	『神仙琴歌類集　全』	酔山翁（撰）			
1098	『神仙琴歌類集譜段曲之巻』	酔山翁（撰）			
1099	『神仙琴歌類集譜追補』	酔山翁（撰）			
1100	『神仙琴歌類集附録　一　ニ』	酔山翁（撰）			
1101	『新板　詞曲　糸のしらべ』		寛政7年	須原屋與右衛門	
1102	『清箏緑雲抄』裏組				詞章集
1103	『清箏緑雲抄』中組				詞章集
1104	『清箏緑雲抄』奥組				詞章集

1105	『箏歌集巻一』	酔山翁（撰）			「箏弾歌集巻之一目録」（内題）
1106	『箏曲歌集　三』				
1107	『箏曲大意抄　首巻』	山田松黒	1903年		
1108	『箏曲大意抄　表』	山田松黒			題箋破れあり
1109	『箏曲大意抄　裏ニ』	山田松黒			
1110	『箏曲大意抄　中三』	山田松黒			
1111	『箏曲大意抄　奥四』	山田松黒			
1112	『箏曲大意抄　新曲　弾変　五』	山田松黒			
1113	『箏曲大意抄　奥書　六』	山田松黒			
1114	『箏曲大意抄　附録』	山田松黒､片野鈴（編）	1903年	永東書店	
1115	『箏曲独稽古巻之ニ』				
1116	『弾箏歌集初編　全』	蘭溪不知老（編纂）			
1117	『弾箏歌集中編　全』	蘭溪不知老（編纂）			
1118	『弾箏歌集奥編　全』	蘭溪不知老（編纂）			
1119	『弾箏歌集附録』				
1120	『筑紫琴歌集　全』				「青柳軒秘蔵」（表紙）
1121	『標準琴曲楽譜　生田流　第壹編』	坂本歌都野、「山口巖先生校閲」（表紙）	1929年	邦楽統一会・大日本家庭音楽会	
1122	『標準琴曲楽譜　生田流　第壹編』	坂本正雄、「山口巖先生校閲／宮城道雄先生校閲／高野茂先生校閲／松坂大検校校閲」（表紙）	1940年	邦楽統一会・大日本家庭音楽会	
1123	『標準琴曲楽譜　生田流　第貳編』	大日本家庭音楽会､「山口巖先生校閲」（表紙）	1923年	伊藤順子・大日本家庭音楽会	
1124	『標準琴曲楽譜　生田流　巖上の松』	大日本家庭音楽会､「松岡大検校校閲」（表紙）	1921年	伊藤順子・大日本家庭音楽会	音楽講義録分科
1125	『撫箏雅譜大成抄　上』	高井伴寛	文化9年	津逮堂大谷仁兵衛	
1126	『撫箏雅譜大成抄　下』	高井伴寛	文化9年	津逮堂大谷仁兵衛	
1127	『撫箏雅譜大成抄　下』	高井伴寛	文化9年	勝村次右衛門ほか	
1128	『撫箏雅譜大成抄　下』複写	高井伴寛	文化9年	須原屋茂兵衛・須原屋伊八・風月荘左衛門・中川藤四郎・勝村次衛門	「箏曲相称再談」部分の複写
1129	『山登作曲箏歌集　全』	山登萬和（編）	1902年	山登萬和	

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1130	「按花地金控」				
1131	書状				
1132	箏売価明細書		1931年		
1133	「見■」				箏の価格一覧
1134	「箏曲皆伝之巻」	当道音楽会大検校 津山實春	1912年		巻物、箱あり、吉田奈良栄宛
1135	当道音楽会　大授導梅本愛子から葛野八重子宛の免状	梅本愛子	1908年		
1136	姫まつ・さくらほか				歌詞
1137	「八橋流卯下之巻」		安政3年		
1138	「八橋流琴免許之巻」		安政3年		
1139	『■行之六曲　目録』『先之手九曲　目録』『裏曲　目録』	六園鈴響	1914-1915年		巻物、複数の目録の書写しカ

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1140	琴の奏法カ	及川尊雄			レポート用紙
1141	箏・一絃琴・八雲琴の歴史など	及川尊雄			メモ

1142	箏曲の調弦について				レポート用紙
1143	箏曲の調弦について				レポート用紙
1144	箏曲の調弦について				レポート用紙
1145	箏曲の調弦について				レポート用紙
1146	箏曲の調弦について				レポート用紙
1147	箏曲の調弦について				レポート用紙
1148	箏曲の調弦について				レポート用紙・ノート
1149	箏曲の調子に関するメモカ				ルーズリーフ
1150	箏の寸法について				ルーズリーフ
1151	箏の調子について				ルーズリーフ綴
1152	「俗箏調子」				レポート用紙・ノート、箏曲の調弦ほかのメモ
1153	『筑紫箏』（秦箏語調の説明など）	及川尊雄			レポート用紙
1154	『八橋流生田流新生田安村流次山流　箏曲　野河流三線秘曲　伝授系譜序文調編纂誌』からの抜書	及川尊雄			原稿用紙

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1155	「井上重美先生著　箏三絃並列尺八楽譜」複写				曲名、譜面価格一覧
1156	「葛原勾当年譜」複写				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1157	「金瓶楼遊戯」	豊原国周	1868年		錦絵、3枚組、箏・尺八の演奏図

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1158	『箏曲・尺八　一』（邦楽大系3）	岸辺成雄（編）	1970年	筑摩書房	LP
1159	『箏曲・尺八　二』（邦楽大系4）	岸辺成雄（編）	1971年	筑摩書房	LP

06. 三味線音楽（地歌以外）

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1160	『言うて暮しているうちに　文楽説き語り』	七代目竹本住大夫（語り）、和多田勝（取材・構成）	1985年	創元社	
1161	『犬猫革のこと』	坂本光史	1972年		
1162	『音曲双書Ⅰ』	演芸珍書刊行会（編）	1973年	巌南堂書店	
1163	『音曲双書Ⅱ』	演芸珍書刊行会（編）	1973年	巌南堂書店	
1164	『音曲双書Ⅲ』	演芸珍書刊行会（編）	1973年	巌南堂書店	
1165	『会の栞』	長唄楽精会（編）	1937年	長唄楽精会	
1166	『楽理と実技　長唄の基礎研究』	浅川玉兎	1955年	浅川玉兎	
1167	『歌舞伎下座音楽』	望月太意之助	1975年	演劇出版社	
1168	『貨幣秘録　三絃考』	内藤耻叟、小宮山綏介（標柱）	文政9年	博文館	
1169	『義太夫大鑑』	秋山木芳	1918年	満州日日新聞社	
1170	『義太夫名鑑（31年版）　八世豊竹湊太夫襲名記念』	佐々木明郎（編）	1956年	義太夫教室	

1171	『杵屋正次郎之代々　附古近江名絃由来』	町田嘉章	1959年	芳村家元	
1172	『杵屋正次郎之代々　附古近江名絃由来』複写	町田嘉章	1959年	芳村家元	口絵・pp.49-105
1173	『京都の響き　柳川三味線』（京都当道会叢書 1）	津田道子	1998年	京都当道会	
1174	『三弦楽史』	中川愛氷	1980年	川辺印刷宏芸	
1175	『三絃甲乙図』		1926年		「三味線旋律表」付き
1176	『紫水式　三味線独学び』	石沢紫水	1919年	十字屋楽器店	
1177	『三味線』	倉林賢造	1929年	倉林賢造	
1178	『三味線音楽史』	田辺尚雄	1963年	創思社	
1179	『三味線音宮新書　全』	吉川由郎	1921年	北隆館	
1180	『三味せん寺の由来　附・石村近江家の代々』	浄土宗大信寺住職　中村孝之（杵屋勝州）	1997年	浄土宗宝嶋山大信寺（三味せん寺）	
1181	『三味せん寺の由来　附・石村近江家の代々』	浄土宗大信寺住職　中村孝之（杵屋勝州）	1997年	浄土宗宝嶋山大信寺（三味せん寺）	
1182	『贈呈 有縁の信者　三味せん寺の由来』複写	浄土宗大信寺住職 中村孝之（杵屋勝州）	1997年	浄土宗宝嶋山大信寺（三味せん寺）	
1183	『三味線読本』	速水哲郎	1984年	邦楽社	
1184	『三味線とその音楽』（東洋音楽選書7）	東洋音楽学会（編）	1978年	音楽之友社	
1185	『三味線の知識』	中島孝之	1969年	中島楽器製造株式会社	
1186	『三味線の知識・邦楽発声法』	富士松亀三郎	1971年	南雲堂	
1187	『三味線文献』	棚木一良	1988年	歌舞音曲研究会	
1188	『浄瑠璃史』	高野辰之	1900年	春陽堂	
1189	『初代若松若太夫　哀切なる弾き語り　説経節』	東村山ふるさと歴史館（編）	2006年	東村山ふるさと歴史館	
1190	『大信寺史　三味せん寺』	文化書院（編）	1997年	大信寺	
1191	『津軽三味線の歴史』	大條和雄	1997年	文芸津軽社	
1192	『当流浄瑠璃　三味線の人人』	細川景正		巣林子古曲会	
1193	『はじめての三味線』	NPO法人三味線音楽普及の会（編）			
1194	『風流曲三味線　上』	江嶋其磧（原著）、林美一（校訂）	1954年	未刊江戸文学刊行会	
1195	『風流曲三味線　下』	江嶋其磧（原著）、林美一（校訂）	1959年	未刊江戸文学刊行会	
1196	『文楽の人形と三味線』	桐竹紋十郎・鶴澤清二郎	1944年	文楽研究会	
1197	『まるごと三味線の本』	田中悠美子･配川美加･野川美穂子	2009年	青弓社	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1198	「石村近江の墓を尋ねて」複写	楽友子	1936年	三味線文化譜楽会	『三味線楽　昭和11年10月号』pp.47-50
1199	「浮世絵に見る三味線」	菊池明	1980年	邦楽社	『季刊邦楽　24号』
1200	「第9回　皮張り技術　紙上公開　今村権七氏　はりかへの順序」複写				
1201	『太棹　11月号』		1929年	太棹社	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1202	『東洋音楽研究　三味線の研究　第14・15号』	東洋音楽学会（編）	1958年	音楽之友社	

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1203	『"近世邦楽文化展"目録』複写				目録、長唄協会（主催）
1204	『国立劇場芸能鑑賞講座　文楽』	国立劇場事業部（編）		国立劇場事業部	プログラム
1205	『琴糸定価表（壱挺ニ付）』		1920年	小篠長兵衛糸店	「亀権」宛、裏面に入金・残金等の手書きメモあり
1206	『さすえ号商報　七月号』		1929年		パンフレット
1207	『東京三味線』			東京都邦楽器商組合	カタログ
1208	『長唄曙会演奏会（招待券）』		1932年		プログラム、安房高等女学校講堂（会場）、1932年7月26日（公演日）、稀音家四郎一（主催）

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1209	『朝顔日記　宿屋之段切大井川』			廣屋福三郎	「増補」（内題）、「小玉都／直良」（裏表紙）
1210	『熊谷陣屋之段　合邦内之段　全冊』	松隆（写）	1947年		
1211	『小うた　上』	蓼胡蝶（編輯）	1938年	館なか	「蓼胡蝶撰」（内題）
1212	『小うた　下』	蓼胡蝶（編輯）	1938年	館なか	「蓼胡蝶撰」（内題）
1213	『古今俗曲全集　第一集』	邦楽研究会（編纂）		開成館	
1214	『五線譜による　三味線のならい方』	杵屋榮左衛門		協楽社	
1215	『再板　茶見世の段　千本桜　三段目の口』		1903年	博文館	
1216	『卅三間堂棟由来　平太郎住家段』				
1217	『三味線手ほどきテキスト』	日本放送協会関東支部（編）	1930年	日本放送協会関東支部	「講師　赤星ヨウ／東京中央放送局」（表紙）
1218	『袖珍節附　長唄全集　第七編』	町田櫻園（編）	1910年	盛林堂	
1219	『浄瑠璃　佐和利集　中の巻』	豊竹君太夫	1937年	久栄堂書店	「竹本攝津大掾序／竹本大隅太夫章」（表紙）
1220	『忠臣蔵　四段目　塩冶館之段』	鶴澤清七事前田鹿之助（編輯）	1909年	加島屋　竹中清助	「晩晴氏」（表紙）、「山口信吉」（裏表紙）
1221	『長唄楽譜　第四　老松』	北村季晴（編）	1908年	共益商社楽器店	五線譜
1222	『長唄楽譜第九編　秋の色種』	北村季晴（編）			
1223	『長唄集』	佐藤緑葉（編纂･校訂）	1914年	三盟舎書店	「新訂」（目次）
1224	『野崎村の段　新版歌祭文上』	鶴澤清七事前田鹿之助（編輯）	1909年	加島屋清助書店	
1225	「本手三十二外題目録ほか」複写				三味線譜あり
1226	「丸本の一部カ」		1884年		
1227	『NHK「三味線のおけいこ」』	日本放送協会（編）	1980年	NHKサービスセンター	「NHKテキスト　講師＝菊岡裕晃」（表紙）
1228	『NHK「三味線のおけいこ」』	日本放送協会（編）	1980年	日本放送出版協会	「NHKテキスト　講師＝菊岡裕晃」（表紙）
1229	『NHK「三味線のおけいこ」』	日本放送協会（編）	1981年	NHKサービスセンター	「NHKテキスト　講師＝菊岡裕晃」（表紙）
1230	『NHK「三味線のおけいこ」』	日本放送協会（編）	1982年	NHKサービスセンター	「NHKテキスト　講師＝菊岡裕晃」（表紙）

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1231	「石村家世々」複写				石村家世々元祖～九世
1232	「石村家世々」カ　複写				石村家世々十世～十二世
1233	「石村家世々」複写				石村家世々元祖～十二世
1234	「石村家世々」カ　複写				「二世石村近江浄本／十二世石村近江幸栄／忠継」

1235	「三味線按」				
1236	三味線価格一覧				
1237	三味線の産出高カ				
1238	三味線の装飾・製造法				
1239	「證」複写	石村近江幸栄・忠継			「三絃　一面／銘　翁」「元祖楽器宗匠近江守／十二世後孫東都住／石村近江幸栄／忠継」
1240	「證」複写				「三絃　一面／銘　翁」
1241	「證」複写				「三絃　一面／銘　井筒」
1242	「證書」複写				「三絃　一面／銘飛々喜」「元祖楽器宗匠／石村近江守」

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1243	「三絃の事」	及川尊雄			レポート用紙
1244	「常磐津 家元 ヒキ初　及ビ　名取式ノ場面　清水屋三絃店の便箋の裏」複写				p.148「松竹梅板三味線の資料図」（原本掲載）
1245	「常磐津 家元 ヒキ初　及ビ　名取式ノ場面」写し				紙片
1246	山本彦五郎の綾杉のカンナ目など	及川尊雄			トレーシングペーパー、「山本彦五郎 天明年間 1781 光格天皇徳川家斉時代 270年前　三条大橋東入に住む」
1247	『義太夫　伊賀越道中双六　竹本津太夫』				レコード付録の歌詞を綴じたもの
1248	『杵屋弥之介三味線譜　勘所表（譜尺表）　―説明書付―』	青柳茂三、杵屋弥之介（考譜）		邦楽譜出版社	
1249	「芸能史例会　寛文年間の三味線工人注文ー新発見の松平大和守直矩関係史料からー（発表要旨）」				プリントアウト

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1250	三絃の調子に関する書籍　複写				
1251	「三味線」複写				事典項目カ
1252	三味線・絃楽器の特許関係書類　複写				
1253	「三味線古近江の事」ほか　複写				
1254	三味線・小鼓胴・大鼓胴の目録　複写				
1255	「三味線調弦一覧表」複写				
1256	『菅原伝授手習鑑　五段之内　寺小屋之段　豊竹古靭太夫』				レコード付録の歌詞を綴じたもの

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1257	「敦盛」を演じる役者と大薩摩を演奏する三味線弾きと唄方の図				
1258	『国宝　松浦屏風』		1984年	大和文華館	中に「婦女遊楽図屏風解説」、松浦屏風2枚
1259	三味線が描かれている浮世絵と解説　複写				「四條河原夕涼躰」、菱川師宣筆「男女相戯図」、菱川師宣筆「北楼及演劇図巻」、奥村政信筆「相戯図」、宮川長春筆「風俗図巻」
1260	三味線の稽古風景ほか				
1261	役者絵	歌川国貞	1864年		錦絵、「袖乞切平　市村家橘／逢州妹尾上栄二郎」

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1262	『義太夫』（邦楽大系5）	郡司正勝（編）	1971年	筑摩書房	LP
1263	『古曲』（邦楽大系6）	池田弥三郎（編）	1971年	筑摩書房	LP
1264	『常磐津』（邦楽大系7）	郡司正勝（編）	1971年	筑摩書房	LP
1265	『清元』（邦楽大系8）	郡司正勝（編）	1970年	筑摩書房	LP
1266	『長唄　一』（邦楽大系9）	池田弥三郎（編）	1970年	筑摩書房	LP
1267	『長唄　二』（邦楽大系10）	池田弥三郎（編）	1971年	筑摩書房	LP
1268	『上方唄・江戸唄』（邦楽大系11）	池田弥三郎（編）	1971年	筑摩書房	LP
1269	『明治百年記念盤　特選俗曲集　明治を偲ぶ三味線の唄』				LP

07. 邦楽囃子

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1270	『囃子　十一世田中伝左衛門聞書』	田中伝左衛門（11世）、今尾哲也	1983年	玉川大学出版部	
1271	『笛　その芸術と科学』	田邊尚雄	1947年	わんや書店	
1272	『笛ひとすじ』	藤舎推峰	1987年	音楽之友社	
1273	『横笛のひびき』	鯉沼廣行	1993年	池田出版事務所	
1274	『横笛の魅力』	福原百之助（6世）	1990年	新芸術社	

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1275	『しの笛のAIUEO』			東京楽譜出版社	
1276	『篠笛独稽古　全』	小川源治郎	1893年	矢島嘉平次	

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1277	落語の出囃子に使われる太鼓				ルーズリーフ

08. 胡弓楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1278	『音楽全書　第五編　胡弓之栞』	百足登	1894年	博文館	
1279	『胡弓　日本の擦弦楽器』	平野健次（監修）	1976年	日本フォノグラム株式会社	レコード解説書、「昭和五十一年度文化庁芸術祭参加」（奥付）

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1280	「初期の胡弓について　17世紀の文字資料と図像資料から」複写	加納マリ	2011年	京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター	『日本伝統音楽研究　第8号』
1281	「初期の胡弓について　17世紀の文字資料と図像資料から」複写	加納マリ	2011年	京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター	『日本伝統音楽研究　第8号』、一部のみ

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1282	石村近江作の胡弓に関するメモ				原稿用紙

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1283	「胡弓の起源」				冊子の一部分カ
1284	『胡弓　日本の擦弦楽器』	平野健次（監修）	1976年	Philips	LP、1283番の解説書

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1285	『胡弓　畦地啓司心の詩　おあします』				CD
1286	『胡弓　日本の擦弦楽器』				LP

09. 尺八楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1287	『上田流尺八　教授曲目』	中島聲峰			
1288	『音楽全書　第二編　尺八之栞』	百足登	1895年	博文館	
1289	『楽器の事典　尺八』	内藤克洋（編）、北原郁也・松本ミサヲ・松田明（共著）	1990年	東京音楽社	
1290	『関西現代尺八家名覧』複写	技藝通信社（編）	1935年	技藝通信	邦楽家名覧全集　第1輯
1291	『九孔尺八基礎練習　楽典（五線譜）』	柴田聖山	1949年	聖楽堂	
1292	『虚鐸伝記国字解』	山本守秀（解註）、木幡吹月（編）	1981年	日本音楽社	
1293	『琴古流尺八　荒木宗家　故・三世荒木古童　没後五十年記念誌』				
1294	『琴古流尺八　楽典』	佐藤晴美	1953年	琴古出版社	
1295	『琴古流尺八史観』	中塚竹禅、平野健次・上参郷祐康（監修）	1979年	日本音楽社	
1296	『五線譜から尺八譜のとり方』	田中允山	1956年	音楽之友社	
1297	『五線譜から尺八譜のとり方』	田中允山	1956年	音楽之友社	
1298	『五線譜で吹ける　やさしい尺八入門』	伊東五雲	1970年	音楽春秋	
1299	『虚無僧　谷狂竹』	稲垣衣白（編）	1985年	柏樹社（製作）、虚無僧研究会（取次元）	
1300	『吉川英治全集14　虚無僧系図　自雷也小僧』	吉川英治	1969年	講談社	
1301	『虚無僧尺八製管秘伝』	戸田泥古	1987年	葦書房	
1302	『薩摩の天吹について』	白尾國利	1972年		
1303	『敷島流尺八解説』	村本翁山	1928年	敷島学院編輯部	
1304	『尺八楽典要綱　附本曲の栞』	上田芳憧			奥付なし
1305	『尺八史考』	栗原廣太	1982年	竹友社	
1306	『尺八指南　全』	竹腰一朗	1893年	徳谷徳松	
1307	『尺八之由来 増補註解　虚鐸伝記』複写	河本逸童（増補）		楽文堂	「高見沢逸渓所蔵」（末尾）
1308	『尺八の由来増補註釈　虚鐸伝記』『一月の事ども』複写	河本逸童（増補）ほか	1925年ほか		『一月の事ども』（ニ・三、慶長十九寅年正月）、高見沢逸渓所蔵

1309	『尺八の歴史』	上野堅実	1983年	キョウワ出版社	
1310	『尺八秘義』	小林紫山	1921年	明暗根本道場	
1311	『尺八本曲と古管尺八を愛好された浦本浙潮先生』	稲垣衣白（編）	1985年	稲垣衣白	
1312	『趣味研究　尺八通解』	藤田鈴朗	1919年	美妙社	
1313	『中世歌謡の史的研究―室町小歌の時代―』 複写	井出幸男	1995年	三弥井書店	「第三章 中世歌謡と尺八の芸能」 部分
1314	『通信 速成　尺八講座（全）』	遠藤眠山	1947年カ	竹韻社	
1315	『筒簫書』 複写				別名『尺八之名物』、天理図書館所蔵本
1316	『天吹』	天吹同好会（編）	1986年	天吹同好会事務局	
1317	『独習捷径　尺八師範　全』	山本有所（編）	1895年	林甲子太郎	
1318	『都山流尺八　楽理の手引』	藤井隆山	1938年	前川合名会社	
1319	『都山流尺八受験者必携　作譜作曲の入門』	藤井隆山	1930年	前川合名会社	
1320	『都山流尺八初等教本』	星田一山・中村悟山	1940年	前川合名会社	
1321	『都山流尺八通解』	平松應山（編）	1924年	前川合名会社	都山流編集部（校閲）
1322	『都山流宗家認可 准師範合格全科の指針』	上田泰山（編）	1973年	山田政男商店	
1323	『根笹派　大音笹流　錦風流尺八本曲伝』	内山嶺月	1972年	内山武男	
1324	『普化宗史　その尺八奏法の楽理』	高橋空山	1979年	普化宗史刊行会	
1325	『普化宗小史　附普化尺八吹奏の楽理』	高橋空山	1971年	音楽研究会	
1326	『邦楽評論随筆集　尺八試論』	堀井小二朗	1969年	堀井邦楽研究所	
1327	『明暗寺所伝古典本曲要説』	明暗導主会（編）	1972年	明暗導主会	
1328	『明暗寺所伝古典本曲要説』	明暗導主会（編）	1972年	明暗導主会	
1329	『吉田晴風の一生　附尺八芸談』	藤田俊一	1962年	日本音楽社	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1330	『一音成仏　第3号』		1982年	虚無僧研究会	
1331	『一音成仏　第10号』		1985年	虚無僧研究会	
1332	『一音成仏　第12号』		1986年	虚無僧研究会	
1333	『一音成仏　第15号』		1988年	虚無僧研究会	
1334	『一音成仏　第16号』		1989年	虚無僧研究会	
1335	『一音成仏　第17号』		1989年	虚無僧研究会	
1336	『一音成仏　第17号』		1989年	虚無僧研究会	
1337	『一音成仏　第18号』		1989年	虚無僧研究会	
1338	『一音成仏　第19号』		1991年	虚無僧研究会	
1339	『一音成仏　第20号』		1990年	虚無僧研究会	
1340	『一音成仏　第21号』		1991年	虚無僧研究会	
1341	『一音成仏　第22号』		1992年	虚無僧研究会	
1342	『一音成仏　第25号』		1995年	虚無僧研究会	
1343	「音は甦る　オークラロの衰滅」 複写		1981年	杉原書店	『パイパーズ　第5号』
1344	『楽報　10　946号』		2004年	都山流尺八楽会	
1345	『可遊個人通信　尺八通信　第2号』		1993年	神田俊一	
1346	『虚無研会報　第1号』		1982年	虚無僧研究会	
1347	『虚無研会報　第9号』		1986年	虚無僧研究会	
1348	『虚無研会報　第9号』		1986年	虚無僧研究会	
1349	『虚無研会報　第44号』		2004年	虚無僧研究会	
1350	「尺八懐旧談」 複写	瀧川長晴	1926年	美妙社	『三曲　第6巻5月号』

1351	「高僧と尺八」複写	藤田鈴朗	1935年	美妙社	『三曲　第15巻12月号』
1352	『尺八評論　第8号』		1987年	尺八評論同人会	
1353	『尺八評論　第8号』		1987年	尺八評論同人会	
1354	『尺八評論　第9号』		1988年	尺八評論同人会	
1355	『尺八評論　終刊号』		1990年	尺八評論同人会	
1356	「将来管絃楽の中に堂々入り得る　新楽器として立派に成功　発明者大倉男の功績」複写		1923年4月28日カ	日報社	『東京日日新聞』
1357	「中世尺八の芸能」複写	井出幸男	1986年	草楽社	『季刊コンソート　10号』
1358	『東洋美術　一節切　第2号』		1929年	飛鳥園	
1359	『都山流楽報　昭和四年度』		1929年	中尾琳三	
1360	「如童琴古筆曲譜に就て」複写	中塚竹禅居士	1933年	美妙社	『三曲　第13巻6月号』
1361	「問題の『オークラウロ』　第一回公表会をきいて」	野村光一	1937年	東京日日新聞社	『東京日日新聞』、切り抜き
1362	「問題の『オークラウロ』　第一回公表会をきいて」複写	野村光一	1937年	東京日日新聞社	『東京日日新聞』、切り抜き

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	目録番号	成立年	出版社	備考
1363	「江戸時代の調律器一竹について」複写	西川秀利			
1364	「調査報告・現存する一節切―正倉院と虚無僧尺八のはざまで―」複写	高桑いづみ・野川美穂子	2006年	独立行政法人文化財研究所	『芸能の科学　33』
1365	「古管尺八のレントゲン写真、尺八製作者の焼き印に関する頁」複写				
1366	「尺八楽略史　吹禅の理解のために」複写	上参郷祐康	1974年		昭和49年度芸術祭参加LP『吹禅：竹保流にみる普化尺八の系譜』解説書
1367	「尺八古典本曲の現状」	徳山隆			
1368	『尺八の基礎資料収集とデータベース構築の試案　国内・国際的利用に供するために』	月溪恒子	1992年		科研報告書
1369	「尺八の音色の研究　第3報（音色と形状）」	西川秀利	1982年		『日本音響学会講演論文集』
1370	「尺八の音色の研究　第4報（音色と管長）」	西川秀利	1983年		『日本音響学会講演論文集』
1371	「尺八の音色と管の共鳴特性―尺八の研究　その1―」	西川秀利	1983年	日本音響学会	『音楽音響研究会資料』抜刷カ
1372	「尺八の音色の分析」複写	西川理山	1976年	都山流尺八楽会	『都山流尺八楽報　第601号』
1373	「尺八の魅力　本曲の魅力」	徳山隆			
1374	「中世尺八追考　伝後醍醐天皇御賜の尺八を中心に」	井出幸男	1992年	高知大学	『高知大学学術研究報告　人文科学編　第41巻』抜刷
1375	「中世尺八追考　伝後醍醐天皇御賜の尺八を中心に」複写	井出幸男	1992年	高知大学	『高知大学学術研究報告　人文科学編　第41巻』
1376	「中世尺八追考　伝後醍醐天皇御賜の尺八を中心に」複写	井出幸男	1992年	高知大学	『高知大学学術研究報告　人文科学編　第41巻』、一部のみ
1377	「天吹, 一節切の音響特性」	西川秀利	1983年		昭和58年『日本音響学会講演論文集』より
1378	「天吹及び一節切の類似性と尺八の祖型」複写	西川秀利	1993年		音楽音響研究会資料（日本音響学会）
1379	「中塚竹禅遺稿（大正篇一三）[五三]」複写	編集部			
1380	「中塚竹禅遺稿（大正篇一四）[五四]」複写	編集部			
1381	「一節切（ひとよぎり）尺八で吹かれた江戸初期の”はやり唄”『糸竹初心集』を中心に」	加藤いつみ	2009年	名古屋経営短期大学	『名古屋経営短期大学紀要　第50号』抜刷

1382	『一節切より見た日本の律、音階の変遷』	西川秀利	1995年		聴覚研究会資料日本音響学会（聴覚研究委員会・音楽音響研究委員会）
1383	「普化尺八研究の現状と課題」複写	月溪恒子	1977年	大阪芸術大学	『芸術』(4)、pp.50-60

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1384	「関西尺八製作者系統」複写		1938年	藝術通信社	『藝海』（昭和13年8月発行号）
1385	『琴古流尺八楽譜定価表』			山田楽器店	
1386	『上月円山　尺八製作大全』	毎日新聞開発株式会社			チラシ、「限定五〇〇部　豪華本　上下二巻」
1387	『「尺八と虚無僧展」出展目録』複写		1992年		
1388	『「尺八と虚無僧展」出展目録』複写		1992年		
1389	『「尺八と虚無僧展」出展目録』複写		1992年		
1390	『昭和五十一年度青木鈴慕尺八リサイタルに寄せて　神保政之輔と神保三谷の曲』	藤田定興			パンフレットカ
1391	『西園流　呉山派　春季尺八演奏会』		1926年		プログラム、浪越演舞場（会場）、1926年5月23日（公演日）、安福呉山（主催）
1392	「全国の虚無僧寺（普化宗系統）」複写				
1393	『第拾九回上田流尺八研究会』	竹翠会			プログラム、「三月二十一日正午ヨリ於中島氏宅　竹翠会」
1394	『第拾九回上田流尺八研究会』	竹翠会			プログラム、「三月二十一日正午ヨリ於中島氏宅　竹翠会」
1395	『大師範竹琳軒　平塚珖山　師範　野村成山　昇格記念　都山流尺八演奏大会番組』	都山流珖琳會	1929年		プログラム、八重学校講堂（会場）、1929年12月1日（公演日）、都山流珖琳会（主催）
1396	「大正拾四年九月弐拾六日　於中原宅研究会開催」				プログラム
1397	『都山流尺八音譜目録　上田流尺八楽譜目録』	キド楽器店	1925年カ	キド楽器店	
1398	『都山流　創立百周年記念演奏会』		1996年		プログラム、東京NHKホール（会場）
1399	『前川営業案内　第4巻第11号』複写	前川合名会社尺八部		前川合名会社尺八部	楽器・付属品カタログ
1400	『海童道を聴く会』				パンフレット、西武劇場（会場）、1974年9月11日（公演日）

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1401	「秋田■撹」ほか	琴古	文政9年		
1402	『新しい尺八教室（五線譜対照）』	田中允山	1963年	協楽社	
1403	『一閑流　尺八本曲譜　全』	清埜右門、別号淡水	弘化4年		樋口五六より滝川雅兄宛の手紙あり
1404	『オークラウロ教則本』		1936年		
1405	『表五曲二調　全』		嘉永3年		「開祖　魯秋　桃溪」（奥付）
1406	『九孔尺八独奏曲　曙』	柴田聖山	1949年	聖楽堂	「柴田聖山作曲」「変ホ長調／作品第一番」（表紙）
1407	『九孔尺八独奏曲　人形の踊り』	柴田聖山	1949年	聖楽堂	「柴田聖山作曲」「変ホ長調／作品第二番」（表紙）
1408	『九孔尺八独奏曲　想ひ出』	柴田聖山	1949年	聖楽堂	「柴田聖山作曲」「変ホ長調／作品第五番」（表紙）
1409	『九孔尺八独奏曲　狐の嫁入り幻想曲』	柴田聖山	1949年	聖楽堂	「上田芳憧　柴田聖山作曲」「作品第十一番」（表紙）
1410	『琴古流尺八楽典綱要　全』				「大正四年孟春　千代田城址の寓居に於て　川瀬順輔識」（緒言）

1411	『琴古流　尺八楽　特撰歌謡曲集』	池田逸漣	1946年	全音楽譜出版社	
1412	『琴古流尺八曲譜』		1904年		「明治甲辰重九後一日」（奥付）
1413	『琴古流尺八初学入門手引』	川瀬悌二	1970年	竹友社	
1414	『琴古流　尺八独習　正調追分節』	草野茂（編）	1943年	シンフォニー楽譜出版社	
1415	『琴古流尺八本曲　解説篇』	佐藤晴美（編纂）			
1416	『琴古流　模範尺八独習』	模範楽譜出版社編輯部（編）	1929年	模範楽譜出版社	
1417	「佐保姫曲」ほか	魯拙	安政5年		
1418	「鹿の遠音」	■藤真楯	1895年		「瀧川中和先生ニ謹呈ス」
1419	『七孔尺八独奏曲　山村の春（ギター伴奏付）』		1956年	日本七孔尺八会本部	「亀森和風作曲」（表紙）
1420	『七孔尺八独習』複写	「日本七孔尺八会会長　亀森和風」（表紙）	1971年	日本七孔尺八会	
1421	「尺八運指」				
1422	『尺八五線譜の手ほどき』	都山流　竹琳軒・都築紅山	1963年	邦楽研究会	
1423	『尺八雑曲集』		1893年		
1424	『尺八雑曲集　全』	極道酔人	1913年	東京尺八講習会	
1425	『尺八独習之友』		1893年	「出版人　篠崎国司」（表紙）	
1426	『尺八の栞　琴古流　雑曲音譜集』	林愚卿（林堅藏）	1916年	岡村書店	
1427	『尺八　端唄　御所車（春に迷ふ）三』	東京竹友社編纂部		東京竹友社	
1428	『尺八　端唄　京の四季　八』	東京竹友社編纂部		東京竹友社	
1429	『尺八独案内　上編　新式間拍子解説』	川本逸童	1919年	家庭音楽院・東京尺八講習会	
1430	『尺八独稽古』	後藤露溪	1905年	岡本仙助	
1431	「天吹運指表」複写				
1432	「洞簫尺八管」	樋口孝道	1890年	京都大本山東福寺明暗教会	
1433	「洞簫尺八管」	樋口孝道	1890年	京都大本山東福寺明暗教会	
1434	「洞簫・尺八の解説と唱歌」	琴古書	文政9年		
1435	「常磐　琴風　尺八　運指表」	トキワ楽器尺八部（編）		トキワ楽器	
1436	『都山流尺八音譜　解説　附綴譜練習（第53版）』	中尾都山（中尾琳三）	1924年	前川合名会社	
1437	『都山流尺八音譜　解説　附綴譜練習（第58版）』	中尾都山（中尾琳三）	1942年	前川合名会社	
1438	『都山流　尺八楽　百曲集』	都山流編集部（編著）	1955年	株式会社全音楽譜出版社	「宗家中尾都山先生校閲」（表紙）
1439	『都山流　尺八楽　流行歌謡曲の吹き方』	都山流編集部（編）、田中允山（編著）	1949年	株式会社全音楽譜出版社	「宗家中尾都山編輯部編」（表紙）
1440	『花がめに寄す（箏伴奏）』			日本七孔尺八会本部	「蒲原有明作詩／中村岐風作曲」（表紙）
1441	「秘曲　秋声曲」ほか	魯拙	安政6年		
1442	『一節切　音取　調子』	魯窠	元禄15年		
1443	『一節切　音取　調子』複写	魯窠	元禄15年		
1444	『木管　中伝秘曲』（内題）	魯拙	安政6年		
1445	『満洲開拓青年義勇隊用　尺八読本　全』	吉田晴風	1940年	晴風会本部ほか	「吉田晴風先生指導」（表紙）、「満蒙開拓青少年義勇軍用　尺八読本」（奥付）
1446	『NHKテキスト　尺八のおけいこ』	日本放送協会（編）	1982年	日本放送出版協会	講師：山口五郎、放送：1982年4-9月

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1447	「上田流楽報号外　第十九回免状成績表」	上田流家元	1920年		「自大正五年十月／至昭和二年三月」
1448	尺八の製作者に関する書状	「柯亭考」			「柯亭考」（末尾）
1449	尺八の製作者に関する書状　複写	「柯亭考」			
1450	尺八の製作者に関する書状　複写	「柯亭考」			
1451	近岡七四郎宛書状（表書）	大井如水			「二月十七日」（封筒裏）、「一月三日」
1452	近岡七太郎宛書状（表書）	大井如水			「一月三日」（封筒裏）、「二月十七日」
1453	中島聲峰宛はがき（表書）	山中■■			
1454	中島時一宛はがき（表書）	恵津子			
1455	『免状覚』	中島聲峰			

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1456	「尺八」（表紙）	及川尊雄			レポート用紙、笛・尺八等
1457	尺八の運指法・歌口の図ほか	及川尊雄			レポート用紙
1458	中島聲峰の住所ほか	及川尊雄			レポート用紙
1459	南北朝時代の一節切の寸法				プリントアウト、「竹川　館長」
1460	「一節切」（表紙）	及川尊雄			レポート用紙、楽器説明ほか
1461	「一節切の樺巻の数について」	及川尊雄			プリントアウト裏紙、図説『日本の楽器』掲載情報のメモカ

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1462	オークラウロの特許関係書類複写				
1463	大森宗勳の項目　複写				事典項目カ
1464	「音響往来（一）―オークラウロ聴聞記」複写	池邊常力			
1465	「開催概要　企画展「大倉喜七郎と邦楽―"幻の竪笛"オークラウロを中心に―」	公益財団法人　大倉文化財団・大倉集古館	2011年		展覧会の企画概要、企画展「大倉喜七郎と邦楽"幻の竪笛"オークラウロを中心に」、大倉集古館（会場）、2011年8月2日-9月25日（会期）
1466	「尺八教授規定」				「鶴鳴会松下秀洋」
1467	『尺八製管工具・原材料店舗紹介』	戸谷泥古	1987年		『虚無僧尺八製管秘伝』付録
1468	尺八の写真				
1469	尺八・笛の特許関係書類　複写				
1470	「準師範試験執行」		1926年		
1471	「準師範試験執行」		1926年		
1472	竹精会名簿表紙　複写		1987年	虚無僧研究会	「昭和62年8月現在」
1473	中京一風会入会申込書		大正年間		
1474	「天山荘楽談（百六）」複写	田邊尚雄			
1475	「都山流尺八製作史」複写	古曽虎山			
1476	「都山流尺八製作史」複写	古曽虎山			
1477	「日本の楽器＜2＞　尺八」				切り抜き
1478	「一節切の沿革に就て（上）」複写	中澤周簫			
1479	「一節切の話」複写	倉部心遠			
1480	「普化宗門掟書」カ　複写				
1481	「鳳鳴会々則」				

1482	「三節切について」複写				
1483	「問題の『オークラウロ』」複写	野村光一			

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1484	「皆伝・尺八曲集」				巻物、「輪園写」、「輪園」（印）
1485	「初伝・尺八曲集」				巻物、「輪園写」、「輪園」（印）
1486	尺八による門付けの図カ				色紙

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1487	『尺八本曲の源流を求めて（その二）明暗三十七世谷北無竹集Ⅱ』				カセットテープ、HT-02
1488	『地無し尺八による琴古流本曲集』	貴志清一（演奏）			CD

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1489	「一月寺　鈴法寺　両本山頭取役　尺八指南　山田弁蔵・別号琴古譜」				本の包み紙、表に朱書きで「甲」、裏に「明治27年11月19日中和所有」
1490	「一月寺　鈴法寺　両本山頭取役　尺八指南　山田弁蔵・別号琴古譜」				本の包み紙、表に朱書きで「乙」、裏に「明治27年11月19日中和所有」
1491	上田流家元から中島高憧宛				封筒のみ

10. 琴

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1492	「一絃琴」の項　複写	徳丸吉彦		平凡社	『日本音楽大事典』
1493	「一絃琴」の項　複写		1983年	神戸新聞出版センター	『兵庫県大百科事典』
1494	「一絃琴」の項　複写		1983年	神戸新聞出版センター	『兵庫県大百科事典』
1495	「一絃琴」の項　複写		1983年	神戸新聞出版センター	『兵庫県大百科事典』
1496	「一絃琴」の項　複写		1983年	神戸新聞出版センター	『兵庫県大百科事典』
1497	『一絃琴（10-①）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1498	『一絃琴（10-②）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1499	『一絃琴（10-③）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1500	『一絃琴（10-④）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1501	『一絃琴（10-⑤）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1502	『一絃琴（10-⑥）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1503	『一絃琴（10-⑦）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1504	『一絃琴（10-⑧）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1505	『一絃琴（10-⑨）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1506	『一絃琴（10-⑩）』複写	上田芳一	1914年	法木書店	
1507	『一弦琴清虚洞新譜　解説』	大西悦子	1975年	大西悦子	
1508	一絃琴に関する書籍　複写				
1509	一絃琴の図				
1510	「葛原勾当年譜」ほか　複写				
1511	『須磨琴之記』複写	加藤盛男（編）	1988年		「昭和六十三年九月　コピー及製本　加藤盛男」（奥付）
1512	『須磨琴之記』複写	加藤盛男（編）	1988年		

1513	『須磨琴之記』カ　複写				一部のみ
1514	『須磨琴の話』	加藤盛男			
1515	『竹琴唱歌　田村竹琴翁』複写	田村竹琴翁（編）	1897年	田村熊次郎	
1516	『中山琴主と八雲琴』	山本震琴	1967年	安居院飛鳥寺	
1517	『日用百科全書　第五編　琴曲独稽古』複写	大橋又太郎（編）	1895年	博文館	pp.70-71
1518	『板琴知要』複写	蘭窗居士	享和3年		
1519	『藻汐のしらべ』複写	小路玉翠（編）	1982年	中田印刷出版社	「一絃琴の起原にまつわる伝説など」の部分のみ
1520	『八雲琴　現代に伝える祈りの響き』	八雲琴をしのぶ会(編)	1989年	八雲琴をしのぶ会	
1521	『八雲琴の調べ　神話とその心』	窪田英樹	1986年	東方出版	
1522	『八雲琴の調べ　神話とその心』	窪田英樹	1986年	東方出版	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1523	「阿闍梨覚峰の伝」複写	白井繁太郎	1979年	羽曳野市史編纂室	『羽曳野史　第4号』、一部のみ
1524	「一絃琴　疎開先で耳にした"幻の音色"」		1978年	読売新聞社	『読売新聞』
1525	「一絃琴の今昔」複写		明治期	日報社	『東京日日新聞』
1526	「奥野友桂創始の連琴　幕末の哲人集に図面記録を発見」複写	伊藤浩介ほか	1991年ほか	神戸新聞社ほか	『神戸新聞』、連琴関係の新聞記事切り抜き
1527	「芸苑摘華　改善音楽の一絃琴　徳弘時ろう氏（1）～（5)」複写		1898年3月20日～4月25日	日出新聞社	『日出新聞』
1528	「雑録　須磨寺の古琴」複写	上田芳一郎	1912年	日本考古学会	『考古学雑誌　第2巻第10号』、一部のみ
1529	「〈史料〉法橋奥野友桂伝」複写	奥野春雄	1983年	大阪淡友会	『淡友会誌』
1530	「須磨琴と西宮」複写	加藤盛男	1968年	神戸史談会	『神戸史談　224』、表紙・目次あり
1531	『須磨寺宗報　第14号（3)』複写		1958年		
1532	「洲本市ズームアップ　奥野友桂と連琴（聨琴)」複写	武田清市			『寺報せんしょう　第29号』
1533	『清虚洞一絃琴山水会会報　1号』		1982年		
1534	『清虚洞一絃琴山水会会報　2号』		1982年		
1535	『清虚洞一絃琴山水会会報　3号』		1982年		
1536	『清虚洞一絃琴山水会会報　4号』		1982年		
1537	『清虚洞一絃琴山水会会報　4号』		1982年		
1538	『清虚洞一絃琴山水会会報　5号』		1982年		
1539	『清虚洞一絃琴山水会会報　6号』		1982年		
1540	清虚洞一絃琴演奏会の記事				
1541	「日本の琴　失われた琴韻を求めて⑥　懐風藻と琴」複写	伏見靖	2003年	邦楽ジャーナル	『邦楽ジャーナル　2003年9月号』
1542	『八雲琴　第2号』		1988年	八雲琴をしのぶ会	
1543	「八雲琴の起源についての疑」複写	葛原滋			pp.15-18

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1544	『あけぼの会　第三十八回　一絃琴演奏会』		2017年		プログラム、神戸芸術センター「シューマンホール」（会場)、2017年11月10日（公演日)、一絃琴あけぼの会（主催）

1545	『昭和48年度高知県芸術祭　一絃琴演奏会』		1973年		プログラム、中央公民館別館日本間（会場）、1973年11月17日（公演日）、高知県芸術祭執行委員会（主催）
1546	『第20回高知市文化祭　一絃琴演奏会　無形文化財　秋沢久寿栄先生を偲ぶ』		1968年カ		プログラム、高知市中央公民館別館（会場）、1968年5月26日（公演日）、高知市文化祭執行委員会・白鷺会・土佐婦人会（主催）
1547	『山水会一絃琴演奏会』		1980年		プログラム、埼玉会館和室（会場）、1980年5月4日（公演日）
1548	『第二回　少数絃の集い　演奏会』		1992年		プログラム、品川区立品川歴史館（会場）、1992年12月6日（公演日）、少数絃の会（主催）
1549	『第三回　少数絃の集い　演奏と講演』		1993年		プログラム、築地本願寺ブディストホール（会場）、1993年11月20日（公演日）、少数絃の会（主催）
1550	『松崎一水無形文化財指定記念清虚洞一絃琴演奏会』		1977年		プログラム、吉田記念会館（会場）、1977年10月22日（公演日）
1551	『松崎一水無形文化財指定記念清虚洞一絃琴演奏会』		1977年		プログラム、吉田記念会館（会場）、1977年10月22日（公演日）
1552	『松崎一水先生叙勲祝賀紀念　清虚洞一絃琴演奏会』		1979年		プログラム、若葉舞台（会場）、1979年11月4日（公演日）、山水会（主催）
1553	『松崎一水先生叙勲祝賀紀念　清虚洞一絃琴演奏会』		1979年		プログラム、若葉舞台（会場）、1979年11月4日（公演日）、山水会（主催）
1554	『松崎一水米寿祝賀記念　清虚洞一絃琴演奏会』		1982年	山水会	プログラム、東邦生命ホール（会場）、山水会／松崎一水（主催）
1555	『松崎一水米寿祝賀記念　清虚洞一絃琴演奏会』		1982年	山水会	プログラム、東邦生命ホール（会場）、1982年10月21日（公演日）
1556	『松崎一水米寿祝賀記念　清虚洞一絃琴演奏会』		1982年	山水会	プログラム、東邦生命ホール（会場）、1982年10月21日（公演日）
1557	『松崎一水米寿祝賀記念　清虚洞一絃琴演奏会』		1982年		チラシ（はがき）、東邦生命ホール（会場）、1982年10月21日（公演日）、山水会（主催）
1558	『第十二回　清虚洞一絃琴演奏会』		1994年		プログラム、馬橋稲荷神社参集殿（会場）、1994年5月30日（公演日）、齋藤一蓉・東京山水会（主催）
1559	『清虚洞一絃琴リサイタル　月と水』		1999年		プログラム、日本橋劇場（会場）、1999年11月1日（公演日）
1560	『清虚洞一絃琴　公演』		2003年		プログラム、セルリアンタワー能楽堂（会場）、2003年6月29日（公演日）、清虚洞一絃琴（主催）
1561	『清虚洞一絃琴　齋藤一蓉　喜寿記念リサイタル』		2003年		プログラム、セルリアンタワー能楽堂（会場）、2003年6月29日（公演日）、清虚洞一絃琴（主催）
1562	「先人展」複写		2002年		目録カ、土居町教育委員会・土居町文化協会（主催）
1563	「竹琴」複写	田村竹琴翁（緒言）			
1564	『開館五周年記念・春の特別企画展　日本琴始め―福山琴への流れ―』	広島県立歴史博物館（編）	1994年	広島県立歴史博物館	図録、広島県立歴史博物館（会場）
1565	『八雲琴演奏会』		1974年		プログラム、大本東京本部能舞台（会場）、1974年11月24日（公演日）、宮咩会関東支部（主催）
1566	『八雲琴演奏会』		1974年		プログラム、大本東京本部能舞台（会場）、1974年11月24日（公演日）、宮咩会関東支部（主催）
1567	『八雲琴演奏会』		1977年		プログラム、国立劇場（会場）、1977年5月30日（公演日）
1568	『東の栄』	藤舎蘆柯			東流二絃琴（表紙）

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1569	『東流　二弦琴唱歌集　全』	加藤芦舩（編）	1885年		「東流元祖　東京住　藤舎芦舩節付／明治十八年四月三日出版／編集人　静岡県士族　加藤芦舩　東京市浅草区新須賀町三番地／出版人　兵庫県士族　杉剛英　東京市芝区烏森町五番地／同　東京府平民　髙橋源助　東京市浅草区七軒町四番地／売捌人　荒井兵次郎　東京市芝区新桜田町三番地」（奥付）、書函入
1570	『東流二絃琴』		2002年		「於：台東区生涯学習センター」（表紙）
1571	「漁火」複写				『一絃琴譜巻之三曲操』カ
1572	『一絃琴　磯の松風』『一絃琴　愛宕の四季』複写		1951年（磯の松風本文）、1959年（愛宕の四季本文）		「佐々木信綱作詞／山城一水作曲」（磯の松風表紙）、「昭和二十六年三月大磯■立庵ニ於て庵主鈴木芳加刀自によって西行上人歌碑建立のことあり／佐々木信綱大人その日の為にとて作詞せられしに曲をつくり碑前に奏したるをしるす／山城一水」（磯の松風本文）、「鈴木芳加作詞／山城一水作曲」（愛宕の四季表紙）、「芝愛宕山ハ鈴木芳加刀自旧居のゆかり深くその愛宕神社戦災のあと昭和三十四年九月再築成りし祝典に愛宕の四季をつくりてよろこびを寄せられしに作曲して神前に奏しぬ／山城一水」（愛宕の四季本文）
1573	「一絃琴譜」複写				「漁火」カ
1574	「一絃琴譜一部」カ　複写				
1575	「一絃琴譜一部」カ　複写				
1576	『一絃琴譜巻之三曲操』複写				「六段」
1577	『観生居一絃琴譜』複写	大島秋琴		隅田陶々	「写真資料／『観生居一絃琴譜』大島秋琴著／伊勢津城隅田陶々刊／参考版本一絃琴譜」（資料表紙）
1578	『観生居一絃琴譜　完』	大島秋琴		豊住書舗	
1579	「玉簪花」複写				一絃琴歌詞
1580	『琴歌　峰岸伊■』				一絃琴の譜カ
1581	『新撰八雲琴譜　上』	近藤儀兵衛	1895年	近藤儀兵衛（雲琴堂）	「従三位出雲国造千家尊福君代／浪華吟風社々員近藤儀琴編、版権所有　雲琴堂蔵梓」（表紙裏）
1582	『新撰八雲琴譜　上』	近藤儀兵衛	1895年	近藤儀兵衛（雲琴堂）	
1583	『新撰八雲琴譜　下』	近藤儀兵衛	1895年	近藤儀兵衛（雲琴堂）	
1584	『新撰八雲琴譜　下』	近藤儀兵衛	1895年	近藤儀兵衛（雲琴堂）	
1585	『清虚洞一絃琴譜』複写				
1586	『清虚洞一絃琴譜』複写				
1587	『清虚洞一絃琴譜　巻之一』複写				
1588	『清虚洞一絃琴譜　巻之二上』複写				
1589	『清虚洞一絃琴譜　巻之二下』複写				
1590	『清虚洞一絃琴譜　巻之三上』複写				
1591	『清虚洞一絃琴譜　巻之三下』複写	徳弘時聾	1899年	徳弘時聾	
1592	『竹琴唱歌集』複写	田村竹琴翁（編輯）	1897年	田村熊次郎	
1593	「土佐の海」ほか				一絃琴歌詞
1594	「夏曲」				
1595	「牡丹」複写				一絃琴歌詞
1596	「みだれ」ほか　複写				
1597	『八雲琴　楽譜と詳解』	山本震琴	1977年	雄山閣	上下2冊、「八雲琴　全」（函）
1598	『八雲琴独習の友　上巻』	土岐達（編）		吉岡宝文軒	「明治廿五年三月」（序文）

1599	『八雲琴独習の友　下巻』	土岐達（編）	1899年	吉岡宝文軒	「明治廿六年六月」（序文）
1600	『八雲琴譜』				「神寶六律正曲教道／神伝八雲琴譜／従三位藤原信礼／中山蔵」（表紙裏）、「神伝八雲琴　家元　八雲舎／村田友琴」（奥付）
1601	『八雲琴譜』複写				
1602	『八雲琴譜』複写				

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1603	一絃琴演奏会タイムスケジュール				
1604	小木定美宛はがき	野村敏子	1979年		「一絃琴「土佐の海」歌詞　作曲／作詞　眞鍋豊平」
1605	「清虚洞一絃琴　山水会　会員名簿」（表書）				
1606	「清虚洞一絃琴　山水会　会員名簿」（表書）				
1607	「清虚洞一絃琴　山水会　会員名簿」（表書）				
1608	「中山琴主翁　紀行小録」複写				
1609	「八雲琴後援会規約」ほか　複写				
1610	「野遊録」複写		1876年		「中山琴■」
1611	「許」		1979年		及川尊雄氏の一絃琴「一洞」の免許状
1612	和歌3首の色紙				「二絃神楽元祖　七十八翁　中山八雲琴琴主？」

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1613	一絃琴関係の系譜	及川尊雄			レポート用紙
1614	一絃琴関係・麦飯真人ほかの書籍・譜等について	及川尊雄			ルーズリーフ
1615	「一絃琴勘所」				「八雲琴」「舞手装束」「菅掻の事」ほか
1616	「一絃琴伝承抜書」				紙片
1617	小沢種春の歌碑の写し				一筆箋
1618	「覚峰阿闍梨と一絃琴について」複写				
1619	覚峰阿闍梨の出生・出身・俗名・没年・略歴ほか	及川尊雄			紙片
1620	琴について				ルーズリーフ
1621	「刻字」				レポート用紙、黙雷宗淵についての抜き書き
1622	「雑誌」	及川尊雄			ルーズリーフ
1623	「写真　解説　一絃琴」	及川尊雄			厚紙
1624	「新撰八雲琴譜」「明治41年11月号　音楽界」「八雲琴譜」「東流二絃琴唱歌集」「竹琴唱歌集」「八雲琴独習の友」「八雲琴独」ほか	及川尊雄			メモ
1625	「清虚洞一絃琴演奏会プログラム」アナウンス原稿				メモ
1626	「図書目録」	及川尊雄			メモ
1627	中山琴主・八雲琴の楽譜ほかに関するメモ	及川尊雄			ルーズリーフ
1628	「濃禮（のうれい）」（万葉文字の歌と意味・十二支）	及川尊雄			原稿用紙
1629	真鍋豊平の出生・出身・俗名・没年・略歴ほか	及川尊雄			紙片
1630	「八雲系統」	及川尊雄			レポート用紙

1631	「八雲琴」	及川尊雄			
1632	「八雲琴」	及川尊雄			レポート用紙
1633	八雲琴関連の和歌	及川尊雄			原稿用紙
1634	「八雲琴について」	及川尊雄			メモ

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1635	「愛宕の四季　鈴木芳如作詞　山城一水作曲」複写				「昭和三十七年一月／山城一水」
1636	「一絃琴」複写				事典項目カ
1637	一絃琴・須磨琴に関する書籍複写	「蓁斎真鍋豊平」	「嘉永元年」		『須磨の枝折』の一部カ
1638	一絃琴・二絃琴に関する新聞記事・レコードチラシほかのスクラップ				「佐竹藤三郎氏へ／山本震琴記事の一節」（表紙）
1639	一絃琴の図　複写				「長三尺六寸六分」
1640	一絃琴の図　複写				
1641	「一絃琴　牡丹　玉簪花」複写				
1642	「一絃通志」ほか　複写				pp.107-108・424-442
1643	『観生居一絃琴譜』複写	「東都　不如睡齋王剋」			一部のみ
1644	「琴規定目」複写	「真鍋豊平」	安政三年		「安政三丙辰十二月／正親町殿／一絃琴教諭取締／役所／真鍋豊平」
1645	「琴創」複写				一絃琴の図
1646	「葛原勾当年譜　附考證」「八雲琴の起源に就いて」複写	葛原薗（編）	1915年	葛原重倫	『葛原勾当日記』カ
1647	「倉知素風先生歌集」				
1648	「少数絃の会　清虚洞一絃琴　八雲琴宮咩会　東流二絃琴」				表紙のみ
1649	『須磨琴之記』	加藤盛男	1986年		『須磨琴之記』一部･楽器写真のスクラップ
1650	「須磨琴の二妙手」複写	上田芳一郎			pp.19-21
1651	「洲本史ズームアップ　奥野友桂と連琴（聯琴）」複写	武田清市			『ラブリースモト　8月号』カ
1652	「短冊　天白陽宮律学長官中山琴主詠歌」（題箋）				短冊の包紙のみ
1653	「竹琴ノ改良」複写	「田村竹琴翁」			「明治廿五年二月五日／第一四六一号」
1654	竹琴の図　複写				「明治二十年六月十日／第参六七号／静岡県平民／田村与三郎」
1655	「中山八雲琴主生誕二百年記念」（題箋）				和歌記載の紙片あり
1656	「中山八雲琴主生誕二百年記念」（題箋）				短冊
1657	「中山八雲琴主略年譜」複写				
1658	中山八雲琴主の和歌カ				短冊、裏面に翻刻あり
1659	中山八雲琴主の和歌カ				短冊、裏面に翻刻あり
1660	「文筆彬彬、然後君子」				プリントアウト、「論語より　一絃琴中興の祖　覚峰阿闍梨書」
1661	「真鍋家に遺る覚峰の琴」複写				pp.58-63
1662	「八雲琴資料　中山琴主翁　紀行小録」				
1663	「八雲琴に学ぶ吉備うさぎのみみ」				プリントアウト、葛原勾当に関する記事
1664	「八雲琴主翁和歌写一巻　図書目録」				一絃琴書名一覧
1665	八雲琴の装飾に関する手記カ				
1666	八雲琴の楽器				楽器裏記載の文字の解読メモ付

1667	「琍琴図　友桂翁所蔵」複写				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1668	一絃琴寸法図				
1669	一絃琴の共鳴箱の図カ				寸法入り
1670	琴の寸法図				4枚
1671	「太霖式一絃琴」模写				
1672	牡丹と獅子の図				琴の装飾写しカ
1673	「八雲琴主翁　琴裏御染筆和歌写」（題箋）				掛軸
1674	八雲琴の図　複写				手書きメモ貼付あり、寸法あり

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1675	『東流二弦琴』				LP
1676	『一弦琴二弦琴』				LP
1677	『八雲琴―飛鳥保存財団』				LP
1678	『玲琴　碧い風になって』				CD

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1679	「一絃八雲の徴」				封筒のみ

11. 沖縄音楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1680	『沖縄音楽総目録　下』	高江洲義寛（編著）	1969年	沖縄タイムス社	
1681	『沖縄三線の起源と各型について』	島袋正雄（三線楽器保存育成会会長）	2000年		3月4日琉球三線の日記念限定版
1682	『海上の道　復帰20周年記念特別展　沖縄の歴史と文化』	東京国立博物館（編）	1992年	読売新聞社	
1683	『宮古の民俗文化』	下地馨	1975年	琉球出版会	
1684	『民俗芸能全集Ⅳ　琉球王朝古謡秘曲の研究』	山内盛彬	1964年	民俗芸能全集刊行会	
1685	『琉球王朝の美』	彦根城博物館（編）	1993年	彦根市教育委員会	
1686	『琉球音楽考』	富原守清	1973年	琉球文化社	
1687	『琉球音楽の研究』	平良盛吉	1967年	沖縄文化協会	
1688	『琉球芸能教範　池宮喜輝著作集』	池宮喜輝	1987年	月刊沖縄社	
1689	『琉球芸能事典』	那覇出版社編集部(編)	1992年	那覇出版社	
1690	『琉球箏曲工工四　上巻』	伊波興紀、伊波興厚、仲里陽史子	1973年	興陽会	
1691	『琉球箏曲工工四　下巻』	伊波興紀、伊波興厚、仲里陽史子	1974年	興陽会	
1692	『琉球横笛考』	玉木繁（編著）	1992年	那覇出版社	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1693	『沖縄県立博物館紀要　第13号』複写	沖縄県立博物館（編）	1987年	沖縄県立博物館	

1694	『沖縄県立博物館紀要　第15号』複写	沖縄県立博物館（編）	1989年	沖縄県立博物館	
1695	『沖縄県立博物館紀要　第17号』複写	沖縄県立博物館（編）	1991年	沖縄県立博物館	
1696	『沖縄県立博物館紀要　第26号』	沖縄県立博物館（編）	2000年	沖縄県立博物館	
1697	『蛇皮の資源量調査報告書』	沖縄県教育委員会	1980年	沖縄県教育委員会	沖縄県文化財調査報告書第34集

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1698	『企画展　沖縄の三線　～現状と課題をさぐる～』複写	沖縄市立郷土博物館（編）	1992年	沖縄市立郷土博物館	図録、沖縄市立郷土博物館（会場）、1992年11月4日-11月29日（会期）
1699	『企画展　沖縄の三線　～現状と課題をさぐる～』複写	沖縄市立郷土博物館（編）	1992年	沖縄市立郷土博物館	図録、沖縄市立郷土博物館（会場）、1992年11月4日-11月29日（会期）
1700	『―歌碑にみる―　歌・三線のふる里をたずねて』複写	沖縄市立郷土博物館（編）	1998年	沖縄市立郷土博物館	目録、第25回沖縄市立郷土博物館企画展
1701	『特別展　三線のひろがりと可能性展』	沖縄県立博物館（編）	1999年	沖縄県立博物館友の会	図録、沖縄県立博物館（会場）、1999年8月3日-9月5日（会期）、沖縄県立博物館（主催）
1702	『読谷村立歴史民俗資料館　展示案内』				パンフレット
1703	『第4回　読谷文化財展　読谷の三線』		1995年	読谷村教育委員会（文化振興課）	図録、読谷村立歴史民俗資料館（会場）、1995年3月4日-3月26日（会期）、読谷村教育委員会（主催）
1704	『琉球の文化 沖縄美術展』		1968年	徳川美術館	図録、徳川美術館（会場）、1968年4月27日-5月26日（会期）、徳川美術館・中日新聞社（主催）

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1705	『琉球箏曲　工工四　上巻』複写	「野村流師範　伊波興紀先生　伊波興厚先生　作譜」（内題）、仲里陽史子（編）		興陽会	
1706	『琉球箏曲　工工四　下巻』複写	「野村流師範　伊波興紀先生　伊波興厚先生　作譜」（内題）、仲里陽史子（編）	1965年	興陽会	

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1707	「三線はこうして作られる」複写	大城學			pp.18-21

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1708	『琉球人座楽弁躍之図』				巻物の複製（箱入り）、説明書付、沖縄県立博物館所蔵

12. アイヌ音楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1709	『樺太アイヌのトンコリ　ところ文庫2』	金谷栄二郎、宇田川洋	1986年	常呂町郷土研究同好会	
1710	『北海道大学アイヌ・先住民研究センター ブックレット　第2号　トンコリの世界』	富田友子	2014年	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1711	『北海道北方民族博物館友の会季刊誌　アークティック・サークル　No.43』		2002年	財団法人北方文化振興協会	特集「狩猟①」

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1712	『アイヌの弦楽器　トンコリ』	富田歌萌	1966年	北海道文化財保護協会	『北海道の文化　第10号』抜刷
1713	「アイヌ民族の民具 トンコリ」				
1714	『itahcara（イタハチャラ）　第4号』	「itahcara」編集事務局（編）	2004年	「itahcara」編集事務局	
1715	「楽器学からみた狩猟用具　鹿笛概説（その２）」複写	枡谷隆男	1997年	アイヌ無形文化伝承保存会	『アイヌ文化　第21号』より
1716	「芸術・娯楽…アイヌの歌舞　十　楽器」				pp.698-701ほか
1717	「トンコリの戦後史2　1977年ー1998年まで」	北原次郎太	2003年	千葉大学ユーラシア言語文化論講座	『千葉大学ユーラシア言語文化論集』、pp.67-94
1718	『北海道立北方民族博物館研究紀要　第6号』	北海道立北方民族博物館（編）	1997年	北海道立北方民族博物館	

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1719	『アイヌの楽器　ムックリ』	「製作者　鈴木紀美代」			チラシ
1720	『アイヌの楽器　ムックリ』				チラシ

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1721	『ムックリの響き　アイヌ民族の口琴と歌』	弟子シギ子ほか（演奏）	2001年	日本口琴協会	CD

13. 民俗芸能・民謡

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1722	『「おかげまいり」と「ええじゃないか」』	藤谷俊雄	1968年	岩波書店	
1723	『神楽　古代の歌舞とまつり』（日本の古典芸能 1）	藝能史研究會（編）	1969年	平凡社	
1724	『藝術としての神楽の研究』	小寺融吉	1929年	地平社書房	
1725	『筑子の起原考　古代民謡』	高桑敬親	1970年	五ヶ山筑子唄保存会	
1726	『瞽女　盲目の旅芸人』（地域文化シリーズ）	斎藤真一	1972年	日本放送出版協会	
1727	『世界の音　民族の音』	江波戸昭	1992年	青土社	
1728	『津軽世去れ節　他5篇』	長部日出雄	1974年	角川文庫	
1729	「日本における民間音楽の研究Ⅰ」（民俗文化研究所紀要　第2集）	水原渭江	1967年	民俗文化研究所	
1730	『日本の民俗音楽　第5巻　風流』	本田安次（監修･解説）	1973-76年		LP解説書、協力：文化庁
1731	『日本の民謡』	浅野建二	1966年	岩波書店	
1732	『日本の民謡』	服部龍太郎（編）	1964年	音楽之友社	
1733	『日本の民謡と民俗芸能』（東洋音楽選書1）	東洋音楽学会（編）	1967年	音楽之友社	

1734	『日本のわらべうた』		1967年	ビクター出版	LPステレオ・シート4枚入り
1735	『日本民俗芸能概論』	三隅治雄	1972年	東京堂出版	
1736	『日本民謡辞典』	仲井幸二郎・丸山忍・三隅治雄（編）	1972年	東京堂出版	
1737	『日本民謡辞典』	小寺融吉	1972年	名著刊行会	
1738	『日本民謡集』（岩波文庫117）	町田嘉章・浅野建二（編）	1960年	岩波書店	
1739	『民間の仮面　発掘と研究』	後藤淑	1969年	木耳社	
1740	『民俗芸能』（日本の伝統 8）	フランク・ホッフ、池田弥三郎	1968年	淡交社	
1741	『民俗民芸双書　瞽女の民俗』	佐久間惇一	1983年	岩崎美術社	
1742	『民謡の歴史』	松本新八郎	1965年	雪華社	
1743	『わたしは瞽女　杉本キクエ口伝』	大山真人	1977年	音楽之友社	
1744	『わらべうたの研究　共同研究の方法論と東京のわらべうたの調査報告　楽器編』	小泉文夫（編）	1969年	わらべうたの研究刊行会	
1745	『わらべうたの研究　共同研究の方法論と東京のわらべうたの調査報告　研究編』	小泉文夫（編）	1969年	わらべうたの研究刊行会	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1746	『太陽　1974年8月号 No.135 特集　日本海民謡の旅　唐大絵巻』		1974年	平凡社	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1747	「阿波踊り　歴史・文化・伝統」	阿波踊りシンポジウム企画委員会（編）	2007年	第22回国民文化祭徳島市実行委員会事務局	
1748	「隠岐島の神楽面（島後）　隠岐島音楽研究資料三」	水原渭江			『研究紀要　第5号』
1749	『佐賀県立博物館・美術館報 No.94』複写	武藤佐久二	1992年	佐賀県立博物館・佐賀県立美術館	
1750	「佐賀の民族楽器」	山崎和文	1992年	佐賀県立博物館	『佐賀県立博物館・美術館　調査研究書　第17集』、pp.51-64
1751	『静岡県指定無形民俗文化財　有東木の盆踊』	中村羊一郎	1995年	静岡市教育委員会	ふるさと民俗芸能ビデオガイドNo.14
1752	「肥後の浮立その音楽と特質」複写	西川秀利	2002年	佐世保史談会	『談林　43』
1753	『平野・有東木の盆踊り』複写	静岡市有東木盆踊り保存会（編）	1981年	静岡市教育委員会	pp.26-31・50-51・奥付
1754	「民俗芸能の楽器―佐賀の浮立を中心に―」	金子信二	1985年	佐賀民俗学会	『佐賀民俗学　第13号』抜刷

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1755	『岡田寛斎さんを偲ぶ会』				パンフレット
1756	『静岡県指定無形民俗文化財　平野の盆踊』	静岡市教育委員会	1998年		パンフレット
1757	『日本の民俗劇と人形芝居の系譜　山辺人形芝居と尻高人形芝居　特殊な一人遣い』	国立劇場事業部（編）	1975年	国立劇場事業部	プログラム、国立劇場第22回民俗芸能公演
1758	『第32回特別展　掘り起こされた音の形―まつりと音具の世界―』	山梨県立考古博物館（編）	2014年	山梨県立考古博物館	図録、山梨県立考古博物館（会場）、2014年10月8日-11月24日（会期）、山梨県立考古博物館（主催）

1759	『舞い　歌い　踊る　しずおかの四季』		2013年		チラシ、静岡市文化財資料館企画展「静岡市民俗文化財展」、静岡市文化財資料会（会場）、2013年1月3日-2月11日（会期）、静岡市無形民俗文化財保存団体連絡協議会・静岡市（主催）
1760	『無形文化財　山城舞楽の栞』			京都和楽会	パンフレット

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1761	『月鉾囃子譜』		1941年	月鉾町	

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1762	「太々神楽」				巻物、柏沢神楽の由来・次第など

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1763	カッコ舞・タタラ音頭ほか	及川尊雄			ルーズリーフ、カッコ舞は葛舞（国栖舞）の元祖、タタラ音頭（高知）
1764	「ささらだけの作り方」	及川尊雄			方眼紙
1765	『浮立』	及川尊雄			レポート用紙、浮立伝承系譜など

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1766	『大元神楽の神囃子　ヒーロー笛の実践編』				「ビデオ説明の補助として」（表紙）
1767	ゴッタン三味線の札				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1768	『京都洛北紫野（やすらい）花の図（四月十日）』				
1769	『書生の門つけ』				
1770	『高山祭絵巻』	長倉三朗（作画）	1963年	両面工房	巻物（箱入り）

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1771	『阿波踊り　ぞめき囃子の基本』				DVD
1772	『郷土芸能』（邦楽大系12）	郡司正勝（編）	1971年	筑摩書房	LP
1773	『日本民族音楽』				CD

14. 複数の音楽分野

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1774	『家元ものがたり』	西山松之助	1956年	産業経済新聞社	
1775	『美しい日本』（ロマンツアー音楽世界めぐり15）	岸辺成雄ほか	1969年	千趣会	
1776	『埋もれた楽器　音楽考古学の現場から』	笠原潔	2004年	春秋社	
1777	『江戸音曲事典』（江戸風俗図誌第7巻）	小野武雄（編著）	1979年	展望社	
1778	『江戸時代の音楽』	田邊尚雄	1928年	文教書院	

1779	『江戸の音』	田中優子	1988年	河出書房新社	
1780	『大坂音楽界の思い出』	大阪音楽大学	1975年	大阪音楽大学	
1781	『大阪音楽文化史資料（明治大正編）』	大阪音楽大学音楽文化研究所（編）	1968年	大阪音楽大学	
1782	『大阪音楽文化史資料（昭和編）』	大阪音楽大学音楽文化研究所（編）	1970年	大阪音楽大学	
1783	『音楽概論』（音楽叢書1編）	田邊尚雄	1925年	京文社	
1784	『音楽教育成立への軌跡　音楽取調掛資料研究』	東京芸術大学音楽取調掛研究班（編）	1976年	音楽之友社	
1785	『音楽教育と人間形成』	ジェームズ・L・マーセル、美田節子（訳）	1967年	音楽之友社	
1786	『音楽五十年史』	堀内敬三	1948年	鱒書房	
1787	『音楽事典1』	平凡社（編）	1954年	平凡社	
1788	『音楽事典2』	平凡社（編）	1955年	平凡社	
1789	『音楽事典3』	平凡社（編）	1955年	平凡社	
1790	『音楽事典4』	平凡社（編）	1955年	平凡社	
1791	『音楽事典5』	平凡社（編）	1956年	平凡社	
1792	『音楽事典6』	平凡社（編）	1956年	平凡社	
1793	『音楽事典7』	平凡社（編）	1956年	平凡社	
1794	『音楽事典8』	平凡社（編）	1956年	平凡社	
1795	『音楽事典9』	平凡社（編）	1957年	平凡社	
1796	『音楽事典10』	平凡社（編）	1957年	平凡社	
1797	『音楽事典11』	平凡社（編）	1957年	平凡社	
1798	『音楽事典12』	平凡社（編）	1957年	平凡社	
1799	『音楽資料探訪　東京とその周辺』	音楽図書館協議会(編)	1979年	音楽図書館協議会	
1800	『音楽粋史①　チョボクレ節からシンフォニーまで』	田辺尚雄	1953年	日本出版協同	
1801	『続音楽粋史　ステーヂからマイクロフォンまで』	田辺尚雄	1953年	日本出版協同	
1802	『音楽通史』	村田武雄	1948年	師範学校教科書	
1803	『音楽の基礎』	芥川也寸志	1971年	岩波書店	
1804	『音楽は愉し』	野村あらえびす	1946年	日本音楽雑誌株式会社	
1805	『音楽歴史図鑑』	属啓成	1951年	音楽之友社	
1806	『楽典教科書　全』	入江好治郎	1902年	入江好治郎	
1807	『楽器　歴史、形、奏法、構造』	ダイヤグラムグループ(編)、皆川達夫（監修）	1992年	マール社	
1808	『楽器からのメッセージ　音と楽器の人類学』	西岡信雄	2000年	音楽之友社	
1809	『楽器業界』（教育社新書　産業界シリーズ46）	檜山陸郎	1977年	教育社	
1810	『楽器大図鑑』複写	黒澤隆朝（編）	1938年	東京共益商社書店	「昭和16年12月18日購入」（奥付メモ）
1811	『楽器の考古学』（ものが語る歴史1）	山田光洋	1998年	同成社	
1812	『楽器への招待』（新潮文庫）	柴田南雄	1983年	新潮社	
1813	『歌舞音楽略史　乾』	小中村清矩	1888年	吉川半七	
1814	『歌舞音楽略史　坤』	小中村清矩	1888年	吉川半七	
1815	『歌舞音楽略史　上』	小中村清矩	1903年	明治書院	
1816	『歌舞音楽略史　下』	小中村清矩	1903年	明治書院	
1817	『簡易　音楽体型と楽器沿革』	中山隆次	1916年	共益商社書店	
1818	『関西音楽文化資料』		1975年	大阪音楽大学	
1819	『嬉遊笑覧　上巻』	喜多村信節（撰）、近藤圭造（校訂）	1970年	名著刊行会	
1820	『嬉遊笑覧　下巻』	喜多村信節（撰）、近藤圭造（校訂）	1970年	名著刊行会	

1821	『弓奏弦楽器　Bowed stringed-instruments』（楽器資料集3）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1983年	国立音楽大学音楽研究所	
1822	『教育用楽器の手びき』	文部省（編）	1963年	光風出版	
1823	『業界百年の大計　日本楽器業界に訴う』	坂本光史	1980年	歌舞伎家楽器店	
1824	『源氏物語の音楽』	山田孝雄	1934年	宝文館	
1825	『現代邦楽名鑑　三曲編』		1966年	邦楽と舞踊社出版部	
1826	『古事類苑　楽舞部二』	神宮司庁（編）	1998年	吉川弘文館	
1827	『鼓村襍記』	雨田光平（編）	1944年	古賀書店	
1828	『琴・Zither』（楽器資料集2）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1981年	国立音楽大学音楽研究所	
1829	『箏三味線音楽』（日本芸能セミナー）	中島警子･久保田敏子、平野健次（監修）	1984年	白水社	
1830	『五二会京都品評大会規則　附来観人心得』		1895年		「合資商報会社　印行」（裏表紙）
1831	『今日に繋がる「芸」の世界　古典芸能・大衆芸能図書目録』	地方・小出版流通センター（編）	1982年	地方・小出版流通センター	
1832	『佐屋町誌資料　第1号　吉沢検校と小松検校』	佐屋町誌編集委員会（編）	1971年	佐屋町誌編纂委員会、佐屋町教育委員会	
1833	『三曲　第17巻5月号』	安倍季尚（編）		私学講談所	
1834	『三味線一絃琴八雲琴に五音の徽を墨新法』	「万亭九世当主杉浦為充考」			
1835	『三味線、箏、尺八、調律法　欧洲音符比較対照』	森田吾郎	1909年	武田福蔵ほか	
1836	『宗教音楽』（日本宗教講座）	田邊尚雄	1934年	東方書院	
1837	『集古十種　総目録　全』	松平定信（編）		郁文舎	
1838	『集古十種　楽器之部　上』	松平定信（編）		郁文舎	
1839	『集古十種　楽器之部　下』	松平定信（編）		郁文舎	
1840	『集古十種　楽器之部　下』	松平定信（編）		郁文舎	
1841	『集古十種　第四』	松平定信（原著）、国書刊行会（編）	1908年	国書刊行会	
1842	『シルクロードの響き　ペルシア・敦煌・正倉院』（MUSICA JAPONICA 4）	宮下佐江子ほか	2002年	山川出版社	
1843	『図解　世界楽器大事典』	黒沢隆朝	1972年	雄山閣出版	
1844	『声曲類纂』（岩波文庫2677-2681）	斎藤月岑（編著）、長谷川雪堤（画図）、藤田徳太郎（校）	1941年	岩波書店	
1845	『声曲類纂　宮　上』	斎藤月岑			「巻之壹 上／平家物語之事／浄瑠璃節の始原／小野通女の事／三味線の権輿／八功神肖像」（表紙）
1846	『西洋音楽と日本音楽』	兼常清佐	1949年	三笠書房	
1847	『世界楽器入門　好きな音嫌いな音』（朝日選書370）	郡司すみ	1989年	朝日新聞社	
1848	『箏曲　ピアノの選択　長唄概論（前篇）』（家庭科学大系）	宮城道雄、福島琢郎、町田博三	1930年	家庭科学大系刊行会	
1849	『創立三十周年記念　日本・東洋音楽論考』	東洋音楽学会（編）	1969年	音楽之友社	
1850	『俗楽旋律考』（岩波文庫93）	上原六四郎	1923年	岩波書店	
1851	『俗曲評釈』	佐々醒雪（佐々政一）	1908年	忠文舎	
1852	『太鼓・Drum』（楽器資料集10）	国立音楽大学楽器学資料館（編）	1992年	国立音楽大学楽器学資料館	
1853	『大正四年四月起　琴仕入帳』	今村権七	1915年		「今村権七」（裏表紙）
1854	『大正四年四月起　職手間帳』	今村権七	1915年		「今村権七」（裏表紙）
1855	『東京大正博覧会　全国美術工芸品博覧会　雑記帳』	今村権七	1914年		
1856	『大正四年七月吉日　御見積帳御紹介控』	佐竹藤三郎	1915年		「謹進　佐竹主人」

1857	『重要書類　主人之他■■　■見■■』	佐竹藤三郎	1924年		「大正十三年五月／トシ直ス／佐竹藤三郎」（裏表紙）
1858	『大東亜の音楽』	田邊尚雄	1943年	協和書房	
1859	『東亜音楽論叢　田辺先生還暦記念』	田辺先生還暦記念論文集刊行会（編）	1943年	山一書房	
1860	『東亜楽器考』	林謙三	1962年	音楽出版社	中国語
1861	『東洋音楽論』（春秋文庫21）	田邊尚雄	1929年	春秋社	
1862	『東洋音楽論』	龍遼一	1944年	弘學社	
1863	『東洋の音楽　比較音楽学的研究』	ロベルト・ラッハマン、岸辺成雄（訳）	1960年	音楽之友社	
1864	『東洋民族の音楽』（プレンティスホール音楽史シリーズ8）	W・P・マルム、松前紀男・村井範子（訳）	1971年	東海大学出版会	
1865	『日用百科全書　第十六編　声曲自在』	大橋又太郎（編）	1895年	博文館	
1866	『日本音楽』（岩波講座日本文学）	兼常清佐	1933年	岩波書店	
1867	『日本音楽概論』	伊庭孝	1928年	厚生閣書店	
1868	『日本音楽概論』（音楽文庫32）	田辺尚雄	1951年	音楽之友社	
1869	『日本音楽概論　講義ノート』	宮崎まゆみ	1986年	宮崎まゆみ	
1870	『日本音楽・歌謡資料集〈楽譜総集篇〉』	平野健次・福島和夫（編）	1977年	勉誠社	
1871	『日本音楽講話』（家庭科学大系82）	田邊尚雄、高野辰之	1927年	文化生活研究会	
1872	『日本音楽史』	田辺尚雄	1932年	雄山閣	
1873	『日本音楽史』	鈴木鼓村	1944年	肇書房	
1874	『日本音楽史』（音楽講座17）	伊庭孝	1934年	学芸社	
1875	『日本音楽史』（音楽講座17）	伊庭孝	1934年	学芸社	
1876	『日本音楽史』（音楽文庫8）	伊庭孝	1950年	音楽之友社	
1877	『日本音楽通』	田辺尚雄	1930年	四六書院	
1878	『日本音楽と中国音楽』	滝本裕造	1998年	田中プリント	
1879	『日本音楽の在り方』	田邊尚雄	1947年	京都印書館	
1880	『日本音楽の聴き方』（サンデー毎日叢書第6編）	那智俊宣	1924年	大阪毎日新聞社・東京日日新聞社	
1881	『日本音楽の研究』（音楽叢書11編）	田邊尚雄	1926年	京文社	
1882	『日本音楽の指導』	星旭・茅原芳男・三好賢祐	1970年	正進社	
1883	『日本音楽の性格』	吉川英史	1979年	音楽之友社	
1884	『日本音楽の調子の話　邦楽音律論』	三條商太郎	1932年	厚生閣書店	
1885	『日本音楽の歴史』	吉川英史	1965年	創元社	
1886	『日本音楽の歴史』複写	吉川英史	1988年	創元社	pp.315-322
1887	『日本音楽の歴史と鑑賞』	星旭	1971年	音楽之友社	
1888	『日本音楽文化史1』（世界音楽講座 XIII 100）	給田茂太郎	1933年	春秋社	
1889	『日本楽器法』	三木稔	1996年	音楽之友社	
1890	『日本歌謡史』	高野辰之	1926年	春秋社	
1891	『日本歌謡史』	高野辰之	1926年	春秋社	
1892	『日本歌謡集成　巻六　近世篇』	高野辰之（編）	1928年、1929年	春秋社	
1893	『日本歌謡集成　南京遺響　神楽和琴秘譜　他十二篇』	高野辰之（編）			
1894	『日本歌謡の音楽と歌詞の研究』	今井通郎	1967年	学術文献普及会	
1895	『日本古典音楽文献解題』	岸辺成雄博士古稀記念出版委員会（編）	1987年	講談社	
1896	『日本粋曲　ねもと調べ』	安藤一之助（編）	1892年	博文社活版所	「音曲家扇子屋扇昇持用」（裏表紙）

1897	『日本精神と音楽』（国民精神作興叢書　第八号）	文部省社会教育局	1938年	文部省	
1898	『日本旋律と和声』	坊田寿真	1966年	音楽之友社	
1899	『日本伝統楽器小辞典』	郡司すみ（編）	2006年	エイデル研究所	
1900	『日本と世界の楽譜』（楽譜の世界3）	NHK交響楽団（編）、小泉文夫（監修）	1974年	日本放送出版協会	
1901	『日本の音楽』（別冊太陽　日本のこころ75）	小島美子・樋口昭・茂手木潔子（構成）	1991年	平凡社	
1902	『日本の音楽　歴史と理論』（国立劇場芸能鑑賞講座）	国立劇場事業部宣伝課（編）	1974年	日本芸術文化振興会	
1903	『日本の音楽と楽器』	ピゴット、服部龍太郎（訳）	1967年	音楽之友社	
1904	『日本の音楽の指導』（中学校音楽指導資料　第1集）	文部省（編）	1973年	東山書房	
1905	『日本の音楽を考える』	小島美子	1976年	音楽之友社	
1906	『日本の楽器』	高橋秀雄（総監修）、佐藤敏直（音楽監修）		小峰書店	全6巻、CD付き
1907	『日本の楽器　織りなす音・雅びの世界』	彦根城博物館（編）	1996年	彦根市教育委員会	
1908	『日本の楽器　その素材と響き』（music gallery 27）	茂手木潔子	1988年	音楽之友社	
1909	『日本の楽器　日本楽器事典』	田辺尚雄	1972年	柏出版	
1910	『日本の伝統音楽』		1970年	音楽之友社	
1911	『日本の伝統音楽』		1970年	音楽之友社	
1912	『日本の伝統芸能』	国立劇場（監修）	1973年	第一法規	
1913	『日本の伝統芸能』	本田安次	1990年	錦正社	
1914	『日本民俗図誌　第十二冊　舞楽篇』	本山桂川	1942-1944年	東京堂	
1915	『念仏のリズム　太鼓の音楽』	溝部国光	1977年	日本楽譜出版社	
1916	『万宝全書』複写				楽器に関する丁の複写
1917	『東アジア楽器考』	林謙三	1973年	カワイ楽譜	
1918	『東アジア琴箏の研究』	三谷陽子	1980年	全音楽譜出版社	
1919	『笛・Flute』（楽器資料集9）	国立音楽大学楽器学資料館（編）	1990年	国立音楽大学楽器学資料館	
1920	『笛　その芸術と科学』	田邊尚雄	1947年	わんや書店	
1921	『邦楽研究者のために』	田邊尚雄	1932年	先進社	
1922	『邦楽と人生』	吉川英史	1969年	創元社	
1923	『邦楽のあゆみ』	堂本寒星	1955年	西川貞三郎・邦楽を楽しむ会	
1924	『邦楽百科辞典　雅楽から民謡まで』	吉川英史（監修）	1984年	音楽之友社	
1925	『邦楽舞踊辞典』	渥美清太郎（編）	1956年	冨山房	
1926	『邦楽への招待』	吉川英史	1967年	宝文館出版	
1927	『邦楽用語辞典』	田辺尚雄	1975年	東京堂出版	
1928	『耳の趣味』	鈴木鼓村	1913年	佐久良書房	
1929	『民族楽器大博物館』	若林忠宏	1999年	京都書院	
1930	『明治音楽史考』	遠藤宏	1948年	有朋堂	
1931	『明治文化史9　音楽演藝編』	開国百年記念文化事業会（編）	1954年	洋々社	
1932	『有簧管楽器　Reed instruments』（楽器資料集7）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1987年	国立音楽大学音楽研究所	
1933	『有棹弾奏弦楽器　Plucked stringed-instruments with neck』（楽器資料集4）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1984年	国立音楽大学音楽研究所	
1934	『洛陽田楽記　粟田口猿楽記　梁塵秘抄口伝集』				

1935	『喇叭・Horn　Lip reed instruments』（楽器資料集6）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1986年	国立音楽大学音楽研究所	
1936	『琉球・中国音楽比較論　琉球音楽の源流を探る』	王耀華	1987年	那覇出版社	
1937	『歴史的楽器の保存学』	ロバート・L.バークレー（編）、水嶋英治（訳）	2002年	音楽之友社	
1938	『和楽器　雅楽器・琴・三弦』（シリーズ日本の伝統工芸11）	山田全一ほか（指導）	1986年	リブリオ出版	
1939	『和太鼓がわかる本』	浅野太鼓文化研究所	2002年	財団法人　浅野太鼓文化研究所	
1940	『COLOR SLIDE　日本の音楽と楽器』	日本教図編集部（編）		日本教図株式会社	
1941	『JAPANESE MUSIC AND MUSICAL INSTRUMENTS』	William P. Malm	1959年	C.E. Tuttle	
1942	『NHK日本の伝統芸能　箏曲・尺八鑑賞入門』	日本放送協会（編）	1992年	日本放送出版協会	
1943	『The ear catches the eye：Music in Japanese prints』	Amy Reigle Newland（編）、Robert Schaap（デザイン）	2000年	Hotei Pub	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
1944	『あるくみるきく　135号』		1978年	近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所	
1945	「音への愛着　感じて」				
1946	「思い出響く鳴り物1000点」			朝日新聞社	『朝日新聞』
1947	『音楽　第2巻第6号』		1925年	頌楽社	
1948	『音楽鑑賞教育　2号』		1976年	音楽鑑賞教育振興会	通算65号
1949	『音楽雑誌1』		1984年	出版科学総合研究所	
1950	『音楽雑誌2』		1984年	出版科学総合研究所	
1951	『音楽雑誌3』		1984年	出版科学総合研究所	
1952	『音楽雑誌4』		1984年	出版科学総合研究所	
1953	『音楽雑誌5』		1984年	出版科学総合研究所	
1954	『音楽雑誌6』		1984年	出版科学総合研究所	
1955	『音楽雑誌7』		1984年	出版科学総合研究所	
1956	「『楽器コレクション』一冊に」		2018年	十勝毎日新聞社	『十勝毎日新聞』
1957	「楽器に出会えます！楽器の見及川鳴り物博物館」				
1958	「観阿弥清次　時代の流れ見る天才」ほか				京都府立総合資料館蔵書印
1959	『季刊邦楽　創刊号』		1974年	邦楽社	
1960	『季刊邦楽　創刊号』		1974年	邦楽社	
1961	『季刊邦楽　創刊号』		1974年	邦楽社	特集「宮城道雄のすべて」
1962	『季刊邦楽　第2号』		1974年	邦楽社	
1963	『季刊邦楽　第3号』		1975年	邦楽社	
1964	『季刊邦楽　第50号』		1987年	邦楽社	
1965	『季刊　横笛　創刊号』		1984年	邦声堂	
1966	『季刊　横笛　第2号』		1984年	邦声堂	
1967	『季刊　横笛　第4号』		1985年	邦声堂	
1968	『季刊　横笛　第7号』		1985年	邦声堂	
1969	『季刊　横笛　第8号』		1986年	邦声堂	
1970	『季刊　横笛　第9号』		1986年	邦声堂	
1971	『季刊　横笛　第10号』		1986年	邦声堂	
1972	『季刊　横笛　第12号』		1987年	邦声堂	

1973	『季刊　横笛　第13号』		1987年	邦声堂	
1974	『季刊　横笛　第14号』		1987年	邦声堂	
1975	『季刊　横笛　第16号』		1988年	邦声堂	
1976	『季刊　横笛　第17号』		1988年	邦声堂	
1977	『季刊　横笛　第18号』		1988年	邦声堂	
1978	『京都三曲協会　創刊号』		1989年	京都三曲協会	
1979	『京都三曲協会　第2号』		1990年	京都三曲協会	
1980	『京都三曲協会　第3号』		1990年	京都三曲協会	
1981	『京都三曲協会　第4号』		1991年	京都三曲協会	
1982	『京都三曲協会　第5号』		1991年	京都三曲協会	
1983	『京都三曲協会　第6号』		1991年	京都三曲協会	
1984	『京都三曲協会　第7号』		1992年	京都三曲協会	
1985	『京都三曲協会　第8号』		1992年	京都三曲協会	
1986	『京都三曲協会　第9号』		1992年	京都三曲協会	
1987	『京都三曲協会　第10号』		1993年	京都三曲協会	
1988	『京都三曲協会　第11号』		1993年	京都三曲協会	
1989	『京都三曲協会　第12号』		1993年	京都三曲協会	
1990	『京都三曲協会　第13号』		1994年	京都三曲協会	
1991	『京都三曲協会　第14号』		1994年	京都三曲協会	
1992	『京都三曲協会　第14号』		1994年	京都三曲協会	
1993	『京都三曲協会　第15号』		1994年	京都三曲協会	
1994	『京都三曲協会　第16号』		1995年	京都三曲協会	
1995	『京都三曲協会　第17号』		1995年	京都三曲協会	
1996	『京都三曲協会　第18号』		1995年	京都三曲協会	
1997	『京都三曲協会　第19号』		1996年	京都三曲協会	
1998	『京都三曲協会　第20号』		1996年	京都三曲協会	
1999	『京都三曲協会　第21号』		1996年	京都三曲協会	
2000	『京都三曲協会　第22号』		1997年	京都三曲協会	
2001	『京都三曲協会　第23号』		1997年	京都三曲協会	
2002	『京都三曲協会　第24号』		1997年	京都三曲協会	
2003	『京都三曲協会　第25号』		1998年	京都三曲協会	
2004	『京都三曲協会　第26号』		1998年	京都三曲協会	
2005	『京都三曲協会　第27号』		1998年	京都三曲協会	
2006	『京都三曲協会　第28号』		1999年	京都三曲協会	
2007	『京都三曲協会　第29号』		1999年	京都三曲協会	
2008	『京都三曲協会　第30号』		1999年	京都三曲協会	
2009	『京都三曲協会　第31号』		2000年	京都三曲協会	
2010	『京都三曲協会　第33号』		2000年	京都三曲協会	
2011	『京都三曲協会　第34号』		2001年	京都三曲協会	
2012	『京都三曲協会　第35号』		2001年	京都三曲協会	
2013	『京都三曲協会　第37号』		2002年	京都三曲協会	
2014	『京都三曲協会　第39号』		2002年	京都三曲協会	
2015	『京都三曲協会　第40号』		2003年	京都三曲協会	
2016	『京都三曲協会　第41号』		2003年	京都三曲協会	
2017	『京都三曲協会　第42号』		2003年	京都三曲協会	
2018	『京都三曲協会　第43号』		2004年	京都三曲協会	
2019	『京都三曲協会　第44号』		2004年	京都三曲協会	
2020	『京都三曲協会　第45号』		2004年	京都三曲協会	
2021	『京都三曲協会　第46号』		2005年	京都三曲協会	
2022	『京都三曲協会　第48号』		2005年	京都三曲協会	

2023	『藝能新報　昭和31年4月1日・第9号～昭和38年4月5日・第93号』		1956-1963年	藝能新報社	末尾に『藝能通信』（昭和37年1月1日・第243号）あり
2024	『月例　美術講座　No.3』	岸辺成雄	1961年	五島美術館	「日本楽器の変遷」
2025	「古楽器の博物館」	島野健太郎	2003年		
2026	『箏　三絃　尺八　三曲　第3巻8月号』		1924年	美妙社	
2027	『箏　三絃　尺八　三曲　第4巻9月号』		1924年	美妙社	
2028	『箏　三絃　尺八　三曲　第4巻12月号』		1924年	美妙社	
2029	『箏　三絃　尺八　三曲　第5巻2月号』		1925年	美妙社	
2030	『箏　三絃　尺八　三曲　第5巻4月号』		1925年	美妙社	
2031	『古美術名品「隼」Vol38』			集出版社	「特集其の一　楽器の多彩美　日本と欧羅巴」（背表紙）
2032	「これはすごい日本一！及川鳴り物博物館」				
2033	『三曲　第4巻11月号』		1924年	美妙社	
2034	『尺八と箏曲　114号』		1967年	尺八日本社	
2035	『尺八と箏曲　114号』		1967年	尺八日本社	
2036	『尺八と箏曲　114号』		1967年	尺八日本社	
2037	『尺八と箏曲　114号』		1967年	尺八日本社	
2038	『尺八と箏曲　123号』		1968年	尺八日本社	
2039	『尺八と箏曲　128号』		1969年	尺八日本社	
2040	『尺八と箏曲　130号』		1969年	尺八日本社	
2041	『尺八と箏曲　133号』		1969年	尺八日本社	
2042	『尺八と箏曲　136号』		1969年	尺八日本社	
2043	『尺八と箏曲　137号』		1969年	尺八日本社	
2044	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2045	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2046	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2047	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2048	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2049	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2050	『尺八と箏曲　138号』		1969年	尺八日本社	
2051	「11月1日、私設博物館オープン」		2003年	東興通信社	『週刊東興通信　第2197号』
2052	『週刊東興通信　第2249号』			東興通信社	「鳴り物博物館1周年」
2053	『新邦楽　第1号』		1959年	大野恵造邦楽作品鑑賞会	
2054	『新邦楽　第2号』		1959年	大野恵造邦楽作品鑑賞会	
2055	『新邦楽　第3号』		1960年	大野恵造邦楽作品鑑賞会	
2056	『新邦楽　第5号』		1961年	新邦楽社	
2057	『新邦楽　第7号』		1962年	新邦楽社	
2058	「楽しい鳴り物博物館」	長尾栄一	2004年	毎日新聞社	『点字毎日』
2059	「著者　及川尊雄さん　阿弗利加から旅して来た日本の楽器たち」		2018年	毎日新聞社	『毎日新聞』
2060	『伝説　第2巻第1号』		1926年	日本伝説学会	
2061	「伝統の音と動物愛護」		2003年		夕刊
2062	「ドーンとオープン　鳴り物博物館」		2003年	読売新聞社	『読売新聞』
2063	「鳴り物に魅せられ」		2004年	産経新聞社	『産経新聞』
2064	「「鳴り物博物館」開く」			十勝毎日新聞社	『十勝毎日新聞』

2065	「日本の鳴り物ドーンと千点」				
2066	「人間国宝に聴く　芳村五郎治―長唄」ほか				スクラップブック
2067	「のれんめぐり第6回　伝統の京三味線技術を守つている今村権七さん」ほか				スクラップ
2068	「東久留米及川鳴り物博物館5年」			毎日新聞社	『毎日新聞』
2069	「ひと　及川尊雄さん」		2004年		
2070	『邦楽　糸竹の栞　第1号』		1915年	邦楽社	
2071	『邦楽ジャーナル　Vol.1』		1987年	邦楽ジャーナル	
2072	『邦楽ジャーナル　Vol.2』		1987年	邦楽ジャーナル	
2073	『邦楽ジャーナル　Vol.4』		1987年	邦楽ジャーナル	
2074	『邦楽ジャーナル　Vol.41』		1990年	邦楽ジャーナル	
2075	『邦楽ジャーナル　Vol.42』		1990年	邦楽ジャーナル	
2076	『邦楽ジャーナル　Vol.44』		1990年	邦楽ジャーナル	
2077	『邦楽ジャーナル　Vol.47』		1990年	邦楽ジャーナル	
2078	『邦楽ジャーナル　Vol.54』		1991年	邦楽ジャーナル	
2079	『邦楽ジャーナル　Vol.55』		1991年	邦楽ジャーナル	
2080	『邦楽ジャーナル　Vol.58』		1991年	邦楽ジャーナル	
2081	『邦楽ジャーナル　Vol.61』		1992年	邦楽ジャーナル	
2082	『邦楽ジャーナル　201号』		2003年	邦楽ジャーナル	
2083	『邦楽ジャーナル　202号』		2003年	邦楽ジャーナル	
2084	『邦楽ジャーナル　202号』		2003年	邦楽ジャーナル	
2085	『邦楽ジャーナル　204号』		2004年	邦楽ジャーナル	
2086	『邦楽ジャーナル　215号』		2004年	邦楽ジャーナル	
2087	『邦楽ジャーナル　277号』		2010年	邦楽ジャーナル	
2088	『邦楽ジャーナル　320号』		2013年	邦楽ジャーナル	
2089	『邦楽ジャーナル　322号』		2013年	邦楽ジャーナル	
2090	『邦楽ジャーナル　369号』		2017年	邦楽ジャーナル	
2091	『邦楽ジャーナル　370号』		2017年	邦楽ジャーナル	
2092	『邦楽ジャーナル　371号』		2017年	邦楽ジャーナル	
2093	『邦楽の友　6月号』		2005年	邦楽の友社	
2094	『邦楽文化』		1956年	邦楽器製作研究所	
2095	『邦楽文化』		1956年	邦楽器製作研究所	
2096	「放送の先駆者　記念週間に因みて　其頃の思出（五）」ほか				『夕刊　読売新聞』切り抜きほか
2097	『ポリフォーン　音楽評論の開かれた場　Volume5』		1989年	TBSブリタニカ	
2098	「滅びゆく肥後琵琶」「連載　"日本の音"をつくる」		1971年、1976年ほか	朝日新聞社	『アサヒグラフ』切り抜き、連載「"日本の音"をつくる」第1回～第15回（最終回）ほか
2099	「耳寄り情報　東久留米で"音"を鑑賞しよう　及川鳴り物博物館」		2006年		第285号
2100	「よみがえるか　古墳時代の琴の音」ほか		1976年ほか	中日新聞社ほか	『中日新聞』ほか、琴の調弦・奏法の紙片が同封
2101	「和楽器博物館　胸高鳴る」		2016年	日本経済新聞出版	『日本経済新聞』
2102	「和楽器博物館　胸高鳴る」複写		2016年	日本経済新聞社	『日本経済新聞』、鳴り物博物館記事
2103	「Ancient Capital Paradise For Modern Day Shoppers」		1897年	The Japan Times	『NIPPON TIMES』
2104	『PIPERS　295号』		2006年	杉原書店	「及川鳴り物博物館を訪ねて　幻の管楽器オークラロに感激！」
2105	『PIPERS　295号』		2006年	杉原書店	「及川鳴り物博物館を訪ねて　幻の管楽器オークラロに感激！」

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2106	『今こそ子どもたちに豊かな文化を　学校と芸能実演家の協働のあり方とは～和楽器の導入と表現教育への取り組み～』	社団法人　日本芸能実演家団体協議会	2001年		芸団協セミナー「芸能と教育」報告書
2107	『エリザベト音楽大学研究紀要　第21号』	エリザベト音楽大学（編）	2001年	エリザベト音楽大学	
2108	『音楽音響研究会資料』複写		1993年	日本音響学会	
2109	『音楽研究　大阪音楽大学音楽研究所年報　第10巻』	大阪音楽大学音楽研究所（編）	1992年	大阪音楽大学音楽研究所	
2110	『音楽研究　大阪音楽大学音楽研究所年報　第11巻』	大阪音楽大学音楽研究所（編）	1993年	大阪音楽大学音楽研究所	
2111	『音楽研究　大阪音楽大学音楽研究所年報　第12巻』	大阪音楽大学音楽研究所（編）	1994年	大阪音楽大学音楽研究所	
2112	『音楽研究　大阪音楽大学音楽研究所年報　第13巻』	大阪音楽大学音楽研究所（編）	1995年	大阪音楽大学音楽研究所	
2113	『音楽研究年報　第2集』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1977年	国立音楽大学音楽研究所	
2114	『音楽研究所年報　第3集』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1979年	国立音楽大学音楽研究所	
2115	『音楽研究所年報　第3集別冊』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1979年	国立音楽大学音楽研究所	
2116	『音楽研究所年報　第5集』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1988年	国立音楽大学音楽研究所	
2117	『音楽研究所年報　第6集』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1985年	国立音楽大学音楽研究所	
2118	『音楽研究所年報　第7集』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1987年	国立音楽大学音楽研究所	
2119	「『隔蓂記』に見る江戸初期芸能の諸相」複写	井出幸男	1983年		『梁塵　研究と資料　第1号』
2120	「鎌倉時代に制作された横笛―仏像胎内に納入された三例を中心に―」	高桑いづみ・野川美穂子	2004年	独立行政法人文化財研究所	『芸能の科学　31』抜刷
2121	「鎌倉時代に制作された横笛―仏像胎内に納入された三例を中心に―」複写	高桑いづみ・野川美穂子	2004年	独立行政法人文化財研究所	『芸能の科学　31』
2122	『昭和51年・52年度歴史資料調査　彦根藩資料調査報告書　井伊家伝来資料』補遺共　複写	彦根市教育委員会	1978年	彦根市教育委員会	「楽器の部」
2123	『資料紹介　井伊家伝来楽器の在銘資料（上）』複写	齋藤望	1988年	彦根城博物館	『彦根城博物館研究紀要　第1号』より
2124	『創立五十周年記念論文集　国立音楽大学』	国立音楽大学創立五十周年記念事業企画委員会（編）	1978年	国立音楽大学	
2125	『東洋音楽研究　第16・17号』	東洋音楽学会（編）	1962年	音楽之友社	
2126	『東洋音楽研究　第18号』	東洋音楽学会（編）	1965年	音楽之友社	
2127	『東洋音楽研究　第18号』	東洋音楽学会（編）	1965年	音楽之友社	
2128	『東洋音楽研究　第19号』	東洋音楽学会（編）	1966年	音楽之友社	学会創立三十周年記念
2129	『東洋音楽研究　第20号』	東洋音楽学会（編）	1967年	音楽之友社	
2130	『東洋音楽研究　第21号』	東洋音楽学会（編）	1967年	音楽之友社	
2131	『東洋音楽研究　第22号』	東洋音楽学会（編）	1967年	音楽之友社	
2132	『東洋音楽研究　第23号』	東洋音楽学会（編）	1968年	音楽之友社	
2133	『東洋音楽研究　第24・25号』	東洋音楽学会（編）	1968年	音楽之友社	
2134	『東洋音楽研究　第26・27号』	東洋音楽学会（編）	1969年	音楽之友社	
2135	『東洋音楽研究　第28・29号』	東洋音楽学会（編）	1969年	音楽之友社	
2136	『東洋音楽研究　第30・31・32・33号』	東洋音楽学会（編）	1970年	音楽之友社	

2137	『東洋音楽研究　第34・35・36・37合併号』	東洋音楽学会（編）	1974年	音楽之友社	
2138	『東洋音楽研究　第38号』	東洋音楽学会（編）	1976年	音楽之友社	
2139	『東洋音楽研究　第39・40号』	東洋音楽学会（編）	1976年	音楽之友社	
2140	『東洋音楽研究　第41・42号』	東洋音楽学会（編）	1977年	音楽之友社	
2141	『東洋音楽研究　第43号』	東洋音楽学会（編）	1978年	音楽之友社	
2142	『東洋音楽研究　第44号』	東洋音楽学会（編）	1979年	音楽之友社	
2143	『東洋音楽研究　第45号』	東洋音楽学会（編）	1980年	音楽之友社	
2144	『東洋音楽研究　第46号』	東洋音楽学会（編）	1981年	音楽之友社	
2145	『東洋音楽研究　第48号』複写	東洋音楽学会（編）	1982年	音楽之友社	表紙および「史料影印解題」（『琵琶偉業次第』・『法隆寺聖霊会声明集』）
2146	「東洋音楽研究ノート」	水原渭江			
2147	『日本の楽器　新しい楽器学へ向けて　第二十五回国際研究集会報告書』	東京文化財研究所(編)	2003年	出版芸術社	
2148	「日本美術に表現された音楽場面ー平安時代から江戸時代までの絵画にみられる楽器目録ー附録」	国立音楽大学音楽研究所（編）	1988年	国立音楽大学音楽研究所	『国立音楽大学音楽研究所年報　第5集別冊』抜刷
2149	『平安時代から江戸時代までの絵画にみられる楽器の描き起こし図録』	国立音楽大学音楽研究所（編）	1988年	国立音楽大学音楽研究所	『音楽研究所年報　第7集別冊』、日本美術に表現された音楽場面
2150	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅰ』		1987年	武蔵野音楽大学	
2151	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅱ』		1988年	武蔵野音楽大学	
2152	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅲ』		1989年	武蔵野音楽大学	
2153	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅳ』		1991年	武蔵野音楽大学	
2154	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅷ』		2001年	武蔵野音楽大学	
2155	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅸ』		2003年	武蔵野音楽大学	
2156	『武蔵野音楽大学楽器博物館研究報告Ⅹ』		2007年	武蔵野音楽大学	
2157	『PREPRINTS The 25th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property -Japanese Musical Instruments:Toward A New Organology-』	東京文化財研究所(編)	2001年		
2158	「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」複写	高桑いづみ	2009年	独立行政法人文化財研究所	『無形文化遺産研究報告　3』、p.5

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2159	『アゼルバイジャンの民族楽器』			アゼルバイジャン共和国文化省	パンフレット
2160	『上野学園日本音楽資料室　第二回特別展観「日本の歌謡資料」出陳目録』	福島和夫（編纂）	1976年	上野学園日本音楽資料室	目録、上野学園日本音楽資料室（会場）、1976年5月7日-5月9日（会期）
2161	『上野学園日本音楽資料室　第八回特別展観　日本の楽譜展―天平琵琶譜から鼓笛譜まで―　解題目録』	福島和夫、スティーヴン・ネルソン	1983年	上野学園日本音楽資料室	上野学園日本音楽資料室（会場）
2162	『浮世絵の楽器たち』	浮世絵太田記念美術館（編）	2005年	浮世絵太田記念美術館	図録、太田記念美術館（会場）、2005年10月1日-11月26日（会期）
2163	『及川尊雄　和楽器コレクション』				図録

2164	『及川尊雄　和楽器コレクション』				図録
2165	『大阪音楽大学附属楽器博物館目録』	大阪音楽大学附属楽器博物館（編）	1984年	大阪音楽大学	
2166	『大阪音楽大学付属楽器博物館目録』	大阪音楽大学付属楽器博物館（編）	1998年	大阪音楽大学	
2167	『大本書店販売目録　特集　演劇No.22　歌舞伎　舞踊　能謡　邦楽　新劇　寄席　映画』		1987年	大木書店	
2168	『大本書店販売目録　特集　演劇No.23　映画　新劇　寄席　歌舞伎　舞踊　音楽　能謡』		1988年	大木書店	
2169	『大本書店販売目録　特集　演劇No.25　映画　新劇　寄席　歌舞伎　舞踊　音楽　能謡』		1990年	大木書店	
2170	『大本書店販売目録　特集　演劇No.26　映画　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽』		1990年	大木書店	
2171	『大本書店販売目録　特集　演劇No.27　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽　映画』		1991年	大木書店	
2172	『大本書店販売目録　特集　演劇No.28　映画　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽』		1993年	大木書店	
2173	『大本書店販売目録　特集　演劇No.29　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽』		1994年	大木書店	
2174	『大本書店販売目録　特集　演劇No.33　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽　映画』		1995年	大木書店	
2175	『大本書店販売目録　特集　演劇No.37　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽』		1998年	大木書店	
2176	『大本書店販売目録　特集　演劇No.38　歌舞伎　舞踊　能謡　新劇　寄席　音楽』		1998年	大木書店	
2177	『オープン特別展　竹の楽器・ひょうたんの楽器　～音と形への工夫～』		1995年	浜松市楽器博物館	パンフレット､浜松市楽器博物館（会場）、1995年4月9日-5月7日（会期）
2178	『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館　所蔵楽器図録』		1998年	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
2179	『音と映像・楽器で知るアジアアジアの民族楽器展』複写		1987年		沖縄市教育委員会･沖縄市郷土博物館（主催）
2180	『音と人の風景』	東北歴史博物館（編）	2005年	東北歴史博物館	図録、特別展「音と人の風景」、東北歴史博物館（会場）、2005年6月21日-7月31日（会期）
2181	『音のはじめ　音楽の創まり―日本の音を聴く』	茂手木潔子（執筆・監修）､新津アートフォーラム（編）	1999年	新津市文化振興財団	パンフレット、新津市美術館（会場）、1999年3月9日-5月30日（会期）、（財）新津文化振興財団 新津市アートフォーラム（主催）
2182	『音楽文化資料　展覧会目録』	国立国会図書館（編）	1950年	国立国会図書館	
2183	『御小鼓卸定価表』			佐竹藤三郎商店	
2184	『開館七十八周年記念展　うたのほん―箏・三味線音楽を中心に―』	天理図書館（編）	2008年	天理大学出版部	目録、天理図書館2階展示室（会場）、2008年10月19日-11月9日（会期）
2185	『雅楽及声明図書展覧目録』		1916年	東京音楽学校	
2186	『楽譜音楽書総目録』			阪根楽器店	
2187	『楽器商報』			山下重一店	パンフレット
2188	『楽器たちのメッセージ　造形に込められた人々の願い　平成12年度秋季企画展』	園部文化博物館（編）	2000年	園部国際学園都市センター	図録、2000年11月11日-12月10日（会期）

2189	『楽器誕生！～日本の音の知恵と技～』	浜松市楽器博物館(編)	2000年	浜松市楽器博物館	図録、開館5周年記念第8回特別展
2190	『楽器は語る　紀州藩主徳川治宝と君子の楽』	国立歴史民俗博物館(編)	2012年	国立民族博物館・歴史民俗博物館振興会	図録
2191	『楽器目録』				手書きで「徳川家」(表紙)
2192	『歌舞・音曲の世界　浮世絵展』	日本浮世絵博物館	2003年	日本浮世絵博物館	図録、江戸開府400年記念　江戸の音楽・百花繚乱
2193	『かわもと音戯館』				パンフレット3点、所蔵リスト
2194	『館蔵品特別展示　日本の楽器展』			京都府立総合資料館	パンフレット、3月1日-3月20日（会期）、京都府立総合資料館（会場）
2195	『平成12年度秋季企画展　楽器たちのメッセージ　～造形に込められた人々の願い～』	園部文化博物館（編）	2000年	園部国際学園都市センター	図録、2000年11月11日-12月10日（会期）、園部国際学園都市センター・園部文化博物館（共催）
2196	『1998　企画展　古代の調べ　秋風に乗って古代の音色が聞こえてくる』	島根県八雲立つ風土記の丘（編）	1998年	島根県八雲立つ風土記の丘	図録
2197	『第六十一回企画展　世界の民族楽器　技が伝える時代のハーモニー』	天理大学附属天理参考館（編）	2009年	天理大学出版部	図録
2198	『第六十一回企画展　世界の民族楽器　技が伝える時代のハーモニー』	天理大学附属天理参考館（編）	2009年	天理大学出版部	図録
2199	『企画展　日本の楽器　―織りなす音・雅びの世界―』		1996年		目録、彦根城博物館（会場）、1996年10月26日-11月25日（会期）、2点
2200	『企画展　日本の音色』	福島県立博物館（編）	1991年	福島県立博物館	
2201	『企画展示　日本の楽器　音の文化史』		2008年		目録、徳川美術館（会場）、2008年11月15日-12月14日（会期）、徳川美術館・朝日新聞社 NAGOYAまちじゅうGA芸術祭参加事業（主催）
2202	『企画展示　弾・吹・打　―日本の楽器とその系譜―』	国立歴史民俗博物館(編)	1992年	財団法人歴史民俗博物館振興会	図録、国立歴史民俗博物館（会場）、1992年10月10日－11月29日（会期）
2203	『紀州徳川家伝来楽器コレクション』	国立歴史民俗博物館(編)	2004年	国立歴史民俗博物館	図録、国立民族博物館資料図録3
2204	『紀州徳川家伝来の楽器　―笛―』		2014年	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　国立歴史民俗博物館	パンフレット、2014年10月7日-11月16日（会期）
2205	『近世邦楽文化展』			長唄協会カ	目録、三越本店（会場）、長唄協会（主催）
2206	『絃　御楽器絃司』			鳥羽屋	パンフレット
2207	『第4回国際音楽学会シンポジウム関連企画　音楽の史料展　―日本と西洋、ふたつの世界による―　目録』	ロベルト・ヴリーゲン・上原一馬・木幡修介(監修)	1990年	ベルギー　フランドル交流センター	ベルギー　フランドル交流センター（会場）、1990年7月20日-8月11日（会期）、ベルギー　フランドル博物館（主催）
2208	『国立劇場　日本音楽の流れ　箏と琴』	国立劇場事業本部(編)	1975年	国立劇場事業本部	プログラム
2209	『ここまでわかった　三ケ野・明ケ島の遺跡』	磐田市教育委員会(編)	2003年	磐田市教育委員会	パンフレット
2210	『木幡家の雅楽と尺八コレクション』		1991年		目録、宍道町蒐古館（会場）、1991年1月20日-5月26日（会期）
2211	『酒井楽器工場営業部正味値段表』		1922年	酒井楽器工場	
2212	『酒井楽器店月報　昭和二年十月廿五日発行　第一年第十号附録』		1927年	酒井楽器店	パンフレット
2213	『酒井楽器店月報』		1927年	酒井楽器店	パンフレット
2214	佐竹藤三郎本店の楽器目録　複写			佐竹藤三郎本店	目録
2215	『所蔵楽器図録　Ⅳ　日本の楽器』	浜松市楽器博物館(編)	1995年	浜松市楽器博物館	
2216	『資料案内シリーズ　No.5　民俗楽器1　絃鳴楽器』	天理大学付属天理参考館（企画）	1969年	天理大学出版部	図録
2217	『シルクロードの楽器と芸能具展』	[国立劇場]調査養成部資料課（編）	1989年	国立劇場	図録、国立劇場（会場）、1989年10月14日-11月27日（会期）

2218	『世界の民族楽器　舩橋楽器資料館』			舩橋楽器資料館	パンフレット
2219	『田邉尚雄・秀雄旧蔵楽器コレクション図録』複写	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター（制作）	2006年	吉川周平	
2220	『柘植元一教授企画楽器展　ひびき　かたち　そざい　―東西の改良楽器をめぐって―』	柘植元一（監修）、東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室（編）	2004年	東京藝術大学音楽学部	パンフレット、東京藝術大学大学美術館陳列館（会場）、2004年10月21日-11月3日（会期）、東京藝術大学音楽学部・小泉文夫記念資料室・東京藝術大学美術館（主催）
2221	『テーマ展　日本の楽器・箏　―井伊家伝来資料から―』		2003年		目録、彦根城博物館（会場）、2003年11月28日-12月22日（会期）
2222	『館蔵品特別展示　伝統楽器と芸能衣装展』		1982年	京都府立総合資料館	パンフレット、京都府立総合資料館（会場）、1982年2月27日-3月22日（会期）、京都府立総合資料館（主催）
2223	『東京芸術大学音楽学部　音楽教育創始80周年記念誌』『音楽教育創始80周年記念展示目録』		1959年	音楽教育創始八十周年記念会（記念誌）、東京芸術大学音楽学部音楽教育創始80周年記念会（目録）	記念誌に目録が挟まれている
2224	『東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室　所蔵楽器目録』		1987年	芸術研究振興財団	
2225	『東京藝術大学創立90周年記念　音楽教育資料展目録』	東京藝術大学（編）	1977年	東京藝術大学	
2226	『東京国立博物館所蔵楽器リスト』ほか　複写				pp.68-73・560-565
2227	「第19回　東京三味線・東京琴　展示製作実演会」		2013年	東京邦楽器商工業協同組合	プログラム、当日用スケジュール付
2228	『東京西商報　昭和十七年八月一日発行第二百九十八号　八月号』		1942年		パンフレット
2229	『東洋の音展』		1976年	町田市立博物館	図録
2230	『時好倶楽部主催　音楽に関する展覧会誌』		1930年		東京三越（会場）、時好倶楽部（主催）
2231	『特別陳列　大名の楽器』		1991年		目録、1991年11月16日-12月15日（会期）、徳川美術館（主催）
2232	『第23回特別展　古の響き―時代を彩った楽器―』	大分市歴史資料館（編）	2004年	大分市歴史資料館	図録、付録CD「雅楽と西洋古楽の響き」
2233	『特別展　音の考古学―音具と鳴器の世界―』	茨城県立歴史館（編）	1995年	茨城県立歴史館	図録
2234	『特別展　紀州徳川家の和楽器』	和歌山市立博物館（編）	1996年	和歌山市教育委員会	図録、和歌山市立博物館
2235	『第14回特別展「シーボルトと楽器展」展示録』	シーボルト記念館（編）	2001年	シーボルト記念館	シーボルト記念館（会場）、2001年7月1日-8月31日（会期）、『第14回特別展／シーボルトと楽器展』（表紙）
2236	『特別展　天平の響　―シルクロードに楽器のルーツを探る―』	熱田神宮文化課（編）	1985年カ	熱田神宮々庁	図録、熱田神宮宝物館（会場）、1985年1月1日-1月29日（会期）、熱田神宮・中日新聞社（主催）
2237	『特別展　東洋を奏でる　民族楽器』		1983年	大田区立郷土博物館	図録、大田区立郷土博物館（会場）、1983年5月19日-6月26日（会期）
2238	『特別展　日本の古典音楽』	天理大学附属天理図書館（編）	1992年	天理大学出版部	図録、天理大学附属天理図書館（会場）
2239	『特別展「ラッパの世界」図録ジュニアのための”ゆかいなラッパたち”』	浜松市楽器博物館（編）	2005年	浜松市楽器博物館	図録、2005年3月26日-5月8日（会期）、浜松楽器博物館・アクトシティ浜松運営財団（主催）
2240	『日本音楽集団コンサートシリーズNo.59　定期演奏会　胡弓特集　胡弓　その新しい展開を求めて』		1980年		プログラム、青山タワーホール（会場）、1980年6月10日（公演日）
2241	『日本の楽器―佐竹コレクションを中心に―』	京都府立総合資料館（監修・編）	1970年	京都府立総合資料館友の会	図録、京都府立総合資料館（会場）、1970年9月1日-9月27日（会期）
2242	「日本の楽器―佐竹コレクションを中心に―　の開催にあたって」複写		1970年		図録

2243	「日本の楽器―その歴史―」複写				
2244	『日本のこころ　琴のしらべ』			K.K.ツタヤ楽器	チラシ
2245	『日本の伝統　京の太鼓』	株式会社池繁			パンフレット
2246	『浜松市楽器博物館』		1999年	浜松市楽器博物館	チラシ
2247	『浜松市楽器博物館企画展　世界の太鼓』	浜松市楽器資料館	1997年		パンフレット、楽器博物館第3展示室（会場）、1997年9月30日-10月26日（会期）、浜松市・（財）アクトシティ浜松運営財団（主催）
2248	『浜松市楽器博物館　第5回特別展　シンボルとしての楽器　―聖なる形・祈りの音―』	浜松市楽器博物館(編)	1998年	浜松市楽器博物館	図録、浜松市楽器博物館（会場）、1998年3月24日-5月10日（会期）
2249	『東アジアの"こと"』		1974年		プログラム、「1974年5月9日」（公演日、序文）、琴麗会（主催）
2250	『笛の音楽ー管楽器のいろいろ』	国立劇場事業部	1981年	国立劇場	プログラム、国立劇場第9回日本音楽の流れ、国立劇場小劇場（会場）、1981年10月16、17日（公演日）
2251	『邦楽鑑賞会　新内の会　琵琶の会』	国立劇場事業部（編）	1989年	国立劇場事業部	パンフレット、国立劇場第59回邦楽公演、国立劇場小劇場（会場）、1989年10月26日、27日（公演日）
2252	『邦楽鑑賞会　新内の会　琵琶の会』	国立劇場事業部（編）	1989年	国立劇場事業部	パンフレット、国立劇場第59回邦楽公演、国立劇場小劇場（会場）、1989年10月26日、27日（公演日）
2253	『邦楽大系　全12巻・別巻1』			筑摩書房	チラシ
2254	『堀田新五郎商店　日本の太鼓』			堀田新五郎商店	パンフレット
2255	『牧本商報　第164号』		1958年	牧本楽器株式会社	パンフレット
2256	『牧本商報　No.170』		1966年	牧本楽器株式会社	パンフレット
2257	『牧本商報　No.173』		1970年	牧本楽器株式会社	パンフレット
2258	『牧本商報　No.174』		1972年	牧本楽器株式会社	パンフレット
2259	『牧本商報　No.175』		1977年	牧本楽器株式会社	パンフレット
2260	『丸十楽器店大阪支店月報　三糸の栞　春之巻　第四十一号』	丸十楽器店大阪支店	1928年		三味線・箏の楽器・附属品カタログ
2261	『神輿　太鼓　創業文久元年　宮本卯之助商店』			宮本卯之助商店	パンフレット
2262	『都の音色』	京都文化博物館学芸第二課（編）	2002年	京都文化博物館	図録、特別展「都の音色―京洛音楽文化の歴史展―」、京都文化博物館（会場）、2002年4月6日-5月12日（会期）
2263	『雅び　和楽器目録』				
2264	『昭和52年製品価格一覧』		1977年	宮本卯之助商店	パンフレット
2265	『株式会社宮本卯之助商店　昭和五十三年一月』		1978年	宮本卯之助商店	パンフレット
2266	『株式会社宮本卯之助商店　昭和五十四年一月』		1979年	宮本卯之助商店	パンフレット
2267	『株式会社宮本卯之助商店　昭和五十九年一月』		1984年	宮本卯之助商店	パンフレット
2268	『別冊宮本卯之助商店実用カタログ価格表』		1984年	宮本卯之助商店	
2269	『宮本卯之助商店　平成三年一月』		1991年	宮本卯之助商店	パンフレット
2270	『別冊宮本卯之助商店実用カタログ　神具・祭礼具』			宮本卯之助商店	
2271	『武蔵野音楽大学楽器博物館』	吉川英史、保田和夫、菊地俊一	1967年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2272	『武蔵野音楽大学楽器博物館』		1967年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2273	『武蔵野音楽大学楽器博物館　創立五十周年』		1979年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2274	『武蔵野音楽大学楽器博物館　武蔵野音楽学園創立60周年』		1989年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット

2275	『武蔵野音楽大学楽器博物館』		2005年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2276	『武蔵野音楽大学楽器博物館』		2005年	武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2277	『武蔵野音楽大学楽器博物館』	武蔵野音楽大学楽器博物館		武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2278	『武蔵野音楽大学楽器博物館』			武蔵野音楽大学楽器博物館	パンフレット
2279	『武蔵野音楽大学楽器博物館目録 Vol.2』		1974年	武蔵野音楽大学	
2280	『武蔵野音楽大学楽器博物館目録 Vol.2』	武蔵野音楽大学楽器博物館（編）		武蔵野音楽大学楽器博物館	
2281	『武蔵野音楽大学楽器博物館目録 第3巻』	武蔵野音楽大学楽器博物館（編）		武蔵野音楽大学楽器博物館	
2282	『武蔵野音楽大学楽器博物館目録 第4巻』	武蔵野音楽大学楽器博物館（編）		武蔵野音楽大学楽器博物館	
2283	『和楽器　学校教育用』			河合楽器製作所	パンフレット
2284	『和楽器の目録　―中惣楽器店―』		1935年	中惣楽器店	
2285	『明治卅一年改正　和洋楽器品目』			矢島誠進堂	目録
2286	『Music Library　ごあんない』			民音音楽博物館音楽ライブラリー	パンフレット
2287	『PRICE LIST　MUSICAL STRINGS　INSTRUMENTS ACCESSORY』			NAKAKITA & Co. LTD,	定価表
2288	『The Collection of Musical Instruments』		1986年	Kunitachi College of Music Research Institute	

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2289	『九連環』				
2290	『紫山たて笛・よこ笛指ずかいと練習曲』				
2291	『日用百科全書　第五編　琴曲独稽古』	大橋又太郎（編）	1895年	博文館	
2292	『日用百科全書　第五編　琴曲独稽古』		1901年	博文館	
2293	『文部省中学校学習指導要領準拠　日本の伝統音楽　研究と指導　楽譜』	花村大（監修）、星旭ほか（解説）	1971年	日本コロムビア	LPレコード付属

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2294	今村楽器店　楽器販売関連書類（送り状・出品目録ほか）	今村権七			
2295	今村権七宛書状	「京都市盲唖院長鳥居嘉三郎」	1899年		箏寄付への礼状
2296	今村権七宛はがき（表書）	京都出品協会出張所			授賞通知
2297	今村権七宛はがき	石村善七	1903年		「祝壹等賞授賞／明治三拾六年／七月二日」
2298	今村権七宛はがき	関孝七			第五博覧会一等賞授賞祝い
2299	「各国諸新聞特約一覧表」、今村権七宛書状		1903年	大阪勉強社	
2300	「解説書」				「一品名　琴」「一産地　京都市上京区夷川車屋町角今村権七自宅」
2301	楽器の音律・構造ほか				

2302	亀屋権七代数・年齢の記録			今村権七宛はがき（表書）	
2303	紀念博覧会出品関連書類				
2304	箏・三味線の産出高・製造用品				
2305	箏の出品関係の書状ほか				今村権七の名入り用紙、箏
2306	「三絃御審査請願書」「第四回内国勧業博覧会褒賞證」「■回内国勧業博覧会褒賞證」「褒賞授与證」		1895年ほか		今村権七・石村善七関連書類
2307	「出品願」	今村権七	1894年		第四回内国勧業博覧会の出品目録付き
2308	出品目録	今村権七カ	1894年カ		
2309	「出品目録」	今村権七	1895年		「五二会京都品評大会」
2310	「出品目録」「審査請求書」	今村権七（差出人）	1897年		審査請求書は「創設二十五年記念博覧會事務所御中」宛
2311	「全国漆器漆生産府県連合共進会規則」	五二会			今村権七宛
2312	第四回内国勧業博覧会出品関連書類	今村権七	1894年		
2313	「第五回内国勧業博覧会出品解説書写」	今村権七	1902年		
2314	「第五回内国勧業博覧会出品解説書写」		1902年		
2315	開業沿革				
2316	開業沿革・製造人名・効用				
2317	産地製造場・素質・製造用品・製造法				箏
2318	三味線・箏の産出高				
2319	三味線・箏の産出高・製造人名・効用				
2320	三味線・箏の産地製造場・素質・製造用品・製造法				
2321	三味線・箏の産地製造場・素質・製造用品・製造法				
2322	「写　第五回内国勧業博覧会出品仮目録」	今村権七	1902年		
2323	「明治参拾六年三月一日開会第五回内国勧業博覧会出品控」		1903年		箏
2324	「明治三拾六年三月第五回内国勧業博覧会出品琴」				箏
2325	「東京大正博覧会出品解説書控」	今村権七	1914年		
2326	「訂正　東京大正博覧会　出品目録控」		1914年		
2327	「大正三年三月廿日開会　大正博出品物控」		1914年		箏
2328	東京大正博覧会出品許可書	京都府知事　大森鍾一	1914年		「出願人　今村権七」
2329	「明治二十七年九月　博覧会要書類」	今村権七			表紙のみ
2330	「明治廿九年度上リ高届」ほか	今村権七	1887年ほか		明治19-29年度
2331	「明治三十年営業名及課税標準届」ほか	今村権七	1897年		箏三味線
2332	所得届	今村権七	1897年		「京都府知事／内海忠勝殿宛、三十年五月」、三味線
2333	「写　三十一年四月三十日届　所得金高届」	今村権七	1898年		三味線
2334	「三十一年五月届　但シ三十年度　所得届」	今村権七	1898年		三味線
2335	「明治三十一年営業名及課税標準届」「営業税届明細書」	今村権七	1898年		箏三味線

2336	「右者三十二年四月廿七日届但シ（三十一年度　所得届）」	今村権七	1899年		三味線
2337	「三十二年度所得金高届　写」	今村権七	1900年		三味線
2338	「明治三十四年四月廿七日届控（但シ三十三年度　所得金高届）」	今村権七	1901年		三味線
2339	「明治三拾五年四月三十日届（三十四年度　所得金高届写）」	今村権七	1902年		三味線
2340	「明治卅六年度（一月ヨリ十二月中）上り高届」ほか	今村権七	1904年ほか		明治33－34・36年度
2341	「三拾七年一月ヨリ十二月中営業上リ高」「明治三十七年度（一月ヨリ十二月中）上リ高届」	今村権七	1905年		上京税務署長税務官白井■殿宛
2342	「上り高及諸税金」				「四十年一月ヨリ十二月中」
2343	「明治四十二年営業名及課税標準届」ほか	今村権七			箏三味線
2344	「大正十一年度上リ高」ほか	今村権七	1910年ほか		
2345	『大正八年　大福帳　四月吉日』	今村権七	1919年		
2346	箏関係の書状	西村重吉／西井伊三郎／木村忠吉	1918年		畑伝次郎、今村権七宛、箏
2347	「覚」	■木			今村御■宛
2348	音楽理論関係の文書				
2349	「解説書」				「一、品名　琴」
2350	楽器関連の書状	酒井楽器工場　酒井市郎	1922年		佐藤滝次郎宛
2351	楽器関連の書状				笛筒・古琴ほか
2352	楽器寸法一覧　複写				京都府立総合資料館所蔵楽器カ
2353	五二会関連書状	前田正名	1895年		今村権七宛
2354	五二会関連書状	五二会			今村権七宛
2355	佐竹藤三郎宛書状	木幡吹月			琵琶修理に関する書状ほか
2356	佐竹藤三郎宛書状	朝日新聞松江支局　中村聖三			新聞記事掲載に関する書状
2357	佐竹藤三郎宛封筒（表書）	中国新聞松江　古浦孝彦			
2358	佐竹藤三郎宛礼状はがき（表書）	醍醐忠直（表書）			
2359	「石崎宇三郎様方　いと殿」	鎌田春			
2360	「回章」	佐竹藤三郎	1927年		裏面に氏名・印あり
2361	「記念状」	京都工芸品展覧会会長従四位勲三等法学博士井上密	1916年		佐竹藤三郎宛
2362	「大正十三年八月十三日　古文書」	佐竹家招慶	1924年		江戸期の文書含む
2363	「積■書」				金メッキ、地金等の材料代一覧
2364	「所得金申告書」	楠シマ	1913年		
2365	「資料寄贈申出書」	及川尊雄			封筒入り、天理大学附属天理参考館宛、「胡弓琴1／琵琶1（三絃薩摩琵琶系）」
2366	「統計上届写明治卅六年四月廿二日区役所へ出ス」		1903年		「楽器製造表　明治三十五年中調査」
2367	「■物品　修繕記録」複写	西村兼太郎	1927年		「京都西村楽器店修理資料／平成八年八月二十九日」

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2368	及川尊雄所有箏のサイズ表				プリントアウト
2369	及川尊雄による論考の草稿（の一部）カ	及川尊雄			プリントアウト

2370	「大田黒元雄　音楽の始源　西洋歴史辞典」ほか	及川尊雄			レポート用紙
2371	「音楽記聞」	及川尊雄			レポート用紙
2372	音楽・装束ほか				メモパッド綴
2373	音叉の音高表示方法に関する質問事項3つ	及川尊雄			メモ
2374	音名と五行説の図カ	及川尊雄			紙片
2375	音律とヘルツの対照表	及川尊雄			紙片
2376	音律の算出法				ノート紙片
2377	雅楽器の値段カ	及川尊雄			レポート用紙、「附属」（冒頭）
2378	「楽書問答数件　温智叢書　猿楽沿革考」	及川尊雄			レポート用紙
2379	『楽琵琶』	及川尊雄			ノート、琵琶図・歌謡・箏の由来ほか
2380	『楽琵琶』	及川尊雄			レポート用紙、奏法・調弦・一弦琴・八雲琴ほか
2381	「楽舞」「仏教音楽と笙篥」ほか	及川尊雄			レポート用紙、『寧楽』（1932年11月号、寧楽発行所）所収・筒井英俊「仏教音楽と笙篥」からの抜書
2382	楽器関係代金・人名一覧ほか	及川尊雄			メモ、楽器関係代金（片面）、「年始」（片面、名前一覧）
2383	「楽記紀聞」	及川尊雄			レポート用紙
2384	楽器について	及川尊雄			レポート用紙
2385	楽器について考えたこと				ルーズリーフ
2386	楽器の写しの一部カ				トレーシングペーパー（破れ）
2387	『楽器の事』	及川尊雄			レポート用紙、日本・世界の楽器
2388	「楽器への正しい判断」	及川尊雄			レポート用紙
2389	「樺巻の事」ほか	及川尊雄			レポート用紙
2390	「紀州徳川家伝来楽器コレクション」「正倉院の琵琶について」の琵琶サイズ表				プリントアウト
2391	「琴曲　上段猿楽考　下段琴曲置鼓」「沖縄の音楽」ほか	及川尊雄			レポート用紙
2392	「古書解題」 洞簫・鳳笙・鼓等の楽器関連含む				レポート用紙
2393	『琴』	及川尊雄			レポート用紙、琴の調絃法・箏関係ほか
2394	「資材・製法」	及川尊雄			ノート、藤染め方・蒔絵・漆の製法ほか
2395	七絃琴の奏法・瑟ほか	及川尊雄			メモ
2396	「蒐集楽器目録」	及川尊雄			プリントアウト
2397	収蔵品一覧　No.1	及川尊雄	2015年		プリントアウト
2398	収蔵品一覧　No.1～4	及川尊雄	2015年		プリントアウト
2399	収蔵品一覧　No.2	及川尊雄			プリントアウト
2400	収蔵品一覧　No.3～4	及川尊雄			プリントアウト
2401	収蔵品一覧　No.4	及川尊雄			プリントアウト
2402	「浄瑠璃」	及川尊雄			レポート用紙
2403	太鼓類の寸法ほか				ルーズリーフ
2404	「No.2 デジタルカメラ撮影リスト（177枚）」	及川尊雄			プリントアウト、図録作成関係書類カ
2405	「東洋音楽特色」について	及川尊雄			メモ
2406	東洋音楽の思想と発展・日本の音楽文化とその発展ほか	及川尊雄			レポート用紙・方眼紙
2407	「中山琴主と葛原勾当　広島県西條市西条ロータリークラブにおける講座の資料」複写	及川尊雄			
2408	「日本音楽の特色」（冒頭）	及川尊雄			レポート用紙
2409	能笛筒ヒモ結び方･小鼓箱組（古代紫）ほか				ルーズリーフ

2410	笛・尺八・笙・篳篥の音名・奏法ほか	及川尊雄			ノート
2411	笛類（龍笛・能管など）の構造・寸法ほか	及川尊雄			レポート用紙
2412	「藤染メ方　音合せ法」	及川尊雄			レポート用紙、染色法・楽器関連の用語メモほか

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2413	「一絃琴」「楽琵琶」ほか　複写				
2414	「岡田和楽器　特別展示会のご案内」				プリントアウト
2415	「楽器関係特許資料」				プリントアウト
2416	「楽器関係特許資料」				プリントアウト
2417	楽器特許関連リスト				プリントアウト
2418	「感謝状」ほか		1928-1970年		ファイル内に佐竹藤三郎宛感謝状5点、新聞記事等の複写17点（重複あり）
2419	「特許関係目次内容」				プリントアウト
2420	「特許関係目次内容」				プリントアウト
2421	琵琶・琴・箏などの特許関係書類　複写				
2422	笛の特許関係書類ほか　複写				裏面に及川氏メモ（プリントアウト）あり
2423	「瞎驢眼」				演奏会の楽曲解説カ（尺八・琵琶）
2424	「木撥　都築操」ほか　複写				pp.94-95ほか
2425	「胡弓」「三曲」ほか　複写				辞典項目の複写カ
2426	「胡琴・胡弓」「三絃・三線」「三味線」複写				事典項目カ
2427	琴の調弦・奏法の紙片				
2428	「三味線師　菊岡」「琴師　重元平八」複写				pp.319-324、pp.324-329
2429	「93.鉦鼓　94.鉦鼓　95.伏鉦　98.鍔口」ほか　複写				
2430	「チンドン屋外伝」ほか　複写				pp.13-16ほか
2431	『日本音楽年表』	瀧熊吉（編）			掛軸
2432	『本物品　修繕記録』複写				「京都　西村楽器店修理資料／平成八年八月二十九日」（表紙裏）、表紙と裏表紙の複写の間に「1／銘秋聲／昭和四年／平安／西村兼太郎作」ほか、琵琶の修理記録10枚
2433	明治大正期楽器商リスト				プリントアウト
2434	「木琴　太鼓　拍板」複写				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2435	「一、大ノ箱」ほか				収蔵関連の図カ
2436	「楽器　書物入」				
2437	楽器図				錦絵
2438	楽器などの写真・ポストカード				ファイル綴じ
2439	『歌舞伎』	菱川師宣（筆）			
2440	管絃輪舞の図　複写		1982年カ	小学館カ	3枚、「S59.10.21／重文　徳川黎明会蔵「邸内遊楽図」（相応寺屏風）寛永19年以前／小学館「近世風俗図譜」6巻」ほか（手書きメモ）
2441	「切手に見る民俗楽器の世界」			国際文化通信社	ポスター
2442	鼓胴の図ほか				10枚

2443	『新板見立女流藝づくし』	荒川藤兵ヱ	1884年	荒川藤兵ヱ	
2444	太鼓の図（表面）　棚の図（裏面）				「昭和十三年四月写」（表面）、裏面寸法入り

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2445	『いろはに邦楽』				VHS
2446	『雅楽・仏教音楽・琵琶楽』（邦楽大系1）	岸辺成雄･池田弥三郎･郡司正勝（編）	1971年	筑摩書房	LP
2447	『楽譜について』				VHS
2448	『日本音楽の歩み』				LP
2449	『日本の楽器入門』	三木稔（監修・解説）			LP
2450	『illustrated history of music GREEK・ORGAN・VIOLIN・GUITAR・PIANO　目で見る音楽史　楽器編全五巻』				LP

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2451	群書解題				封筒、続群書類従完成会から佐竹藤三郎宛

15. その他の音楽

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2452	『アジアの伝統芸能』	本田安次	1992年	錦正社	
2453	『シルクロード　楽器の旅』（music gallery 34）	柘植元一	1992年	音楽之友社	
2454	『中国・朝鮮音楽調査紀行』（東洋音楽選書11）	田辺尚雄	1970年	音楽之友社	
2455	『銅鼓　南国の響き』	蒋廷瑜（原著）、岡本文雄（校・編）	1990年	岡本文雄	
2456	『東洋音楽の印象』	田邊尚雄	1941年	人文書院	
2457	『東洋の楽器とその歴史』	岸邊成雄	1948年	弘文堂	
2458	『東洋の楽器とその歴史』	岸邊成雄	1948年	弘文堂	
2459	『東洋の楽器とその歴史』	岸邊成雄	1948年	弘文堂	
2460	『銅鑼　そのルーツを訪ねて』	岡本文雄、青燈書房（編）	1995年	ビジネス教育出版社	
2461	『南洋・台湾・沖縄音楽紀行』（東洋音楽選書5）	東洋音楽学会（編）	1968年	音楽之友社	
2462	『東洋民族の音楽』	W.P.マルム、松前紀男・村井範子（訳）	1971年	東海大学出版会	
2463	『アメリカン･ルーツ･ミュージック　楽器と音楽の旅』	奥和宏	2004年	音楽之友社	
2464	『楽器図鑑』	近衛秀麿・菅原明朗	1937年	清教社	
2465	『楽器図鑑』	菅原明朗	1950年	音楽之友社	
2466	『楽器のおいたち　誕生から現代まで』	メアリ・レムナント、郡司すみ（訳）	1982年	日貿出版社	
2467	『楽器の歴史』	エマーヌエル・ヴィンターニッツ（編）、皆川達夫・礒山雅（訳）	1977年	PARCO出版	
2468	『楽器法手冊』	梁广程・潘永璋（編）	1982年	人民音楽出版社	

2469	『切手に見る世界の楽器』(music gallery 22)	江波戸昭	1987年	音楽之友社	
2470	『文明史より見たる世界の楽器 上』(世界文庫)		1924年	世界文庫刊行会	
2471	『文明史より見たる世界の楽器 下』(世界文庫)		1924年	世界文庫刊行会	
2472	『合唱指導のためのわかりやすい発声法』	下田正幸	1987年	音楽之友社	
2473	『発声と合唱の訓練』	レジナルド・ジャックス、品川三郎(訳)	1960年	音楽之友社	
2474	『変声期(歌唱団からみたその実態と指導)』	小田野正之	1974年	教育芸術社	
2475	『斬範　郷部楽器図説　玄琴　郷琵琶　散形』複写	成俔(編) カ			『楽学斬範』巻7抜粋カ
2476	『韓国の伝統音楽』	張師勛、金忠鉉(訳)	1984年	成甲書房	
2477	『李王家楽器』		1939年	李王職	
2478	『感受性はどこへ　音楽教育論集』	柳生力	1974年	音楽之友社	
2479	『教員養成大学小学校課程用　新編　音楽科教育法』	教員養成大学音楽教育研究会(編)		音楽之友社	
2480	『こどもの音楽能力をテストする』	アーノルド・ベントリー、加藤昭二・加藤いつみ(訳)	1969年	音楽之友社	
2481	『実践音楽教育　中学校音楽科』	三好賢祐ほか	1982年	暁教育図書	
2482	『中学校音楽指導事例集　歌唱指導』	文部省(編)	1965年	教育出版	
2483	『中学校音楽指導事例集　基礎的事項の指導』	文部省	1963年		
2484	『土の音　土の音作りのすすめ』	松岡敏行	1985年	松岡敏行	
2485	『土の中のメロディ』(music gallery 12)	岩永文夫	1985年	音楽之友社	
2486	『日本の土鈴』	森瀬雅介・斉藤岳南	1977年	徳間書店	
2487	『マンモスの骨でつくった楽器 旧石器人の生活と芸術』	S.N. ビビコフ、新堀友行・金光不二夫(訳)	1985年	築地書館	
2488	『三重県仏教美術資料　古磬』(三重県郷土資料叢書12)	鈴木敏雄	1968年	三重県郷土資料刊行会	
2489	『弥生の琴』	森豊	1973年	第三文明社	
2490	『弥生の土笛　よみがえった埋蔵文化財綾羅木郷台地』	ぴえりす企画集団(編著)	1979年	赤間関書房	
2491	『歴博フォーラム　日本楽器の源流　コト・フエ・ツヅミ・銅鐸』	国立歴史民俗博物館(編)	1976年	第一書房	
2492	『古楽の真髄　神祇と音楽国歌の精神』	出雲路敬和	1943年	櫻橘書院	
2493	『金剛流御詠歌楽理経典』	都築紅山	1968年	高野山金剛講総本部	
2494	『神祇　神名記　伊勢国　志摩国　写』				
2495	『神社音楽集　第一輯』		1950年	神社本庁	
2496	『世界宗教音楽史』	野村良雄	1967年	春秋社	
2497	『地球の音楽誌　神々の音、人々の音』	西岡信雄	1992年	大修館書店	
2498	『ひとことはなし　その三』	中山正善	1997年	天理教道友社	
2499	『梵鐘』	坪井良平	1928年	雄山閣	
2500	『梵鐘遍歴　霊場の古鐘をたずねて』	真鍋孝志、日本古鐘研究会(編)	2002年	ビジネス教育出版社	
2501	『ヴァイオリンの銘器』(music gallery 4)	渡辺恭三	1984年	音楽之友社	
2502	『オペラ　1600年から1900年までの舞台と演出』(人間と音楽の歴史4)	ヘルムート・クリスティアン・ヴォルフ	1985年	音楽之友社	

2503	『音楽』（ビジュアル博物館15）	ニール・アードレイ	1991年	同朋舎出版	
2504	『音楽芸術学』	田辺尚雄	1954年	明玄書房	
2505	『音楽通論』	近森一重	1949年	音楽之友社	
2506	『音楽通論』	田辺尚雄	1959年	東京電機大学	
2507	『音楽の旅』	山根銀二	1956年	岩波書店	
2508	『楽譜の歴史』（music gallery 8）	皆川達夫	1985年	音楽之友社	
2509	『管弦楽法』（音楽文化叢書2）	伊庭孝	1927年	文化生活研究会	
2510	『現代音楽を語る』	小倉朗	1978年	岩波書店	
2511	『作曲家の世界』	パウル・ヒンデミット、佐藤浩（訳）	1955年	音楽之友社	
2512	『作曲のよろこび』（ともだち・シリーズ20）	長谷川良夫	1953年	中央公論社	
2513	『少年音楽文庫　器楽と声楽のはなし 2』	林幸光	1964年	音楽之友社	
2514	『西洋音楽講話』	田邊尚雄	1915年	岩波書店	
2515	『西洋音楽史』	田辺尚雄	1957年	東京電機大学出版部	
2516	『西洋音楽史』	田辺尚雄	1957年	東京電機大学出版部	
2517	『西洋音楽物語』	大田黒元雄	1954年	音楽之友社	
2518	『題名のない音楽会』	黛敏郎	1977年	角川書店	
2519	『遍歴の音』	属啓成	1972年	音楽之友社	
2520	『名曲解説全集10　独奏曲　上』		1962年	音楽之友社	
2521	『木管楽器とその歴史』	アンソニー・ベインズ、奥田恵二（訳）	1965年	音楽之友社	
2522	『ヨーロッパ音楽旅行案内』	福原信夫	1976年	音楽之友社	新版
2523	『自習　太鼓の打ち方』	見村雅生	1961年	明文社	
2524	『自習　太鼓の打ち方』	見村雅生	1961年	明文社	
2525	『新版　打楽器事典』	網代景介・岡田知之	1994年	音楽之友社	
2526	『複式複打法教本　組太鼓　日本の太鼓』	御諏訪太鼓楽園	1994年		
2527	『嘉峪関魏晋墓磚壁画楽器考』	牛龍菲	1980年	甘粛人民出版社	
2528	『江戸時代の琴士物語』	岸邊成雄	2000年	有隣堂	
2529	『琴学心声　乾』				
2530	『琴史初編』	許健（編著）	1977年	人民音楽出版社	
2531	『古琴初階』	沈草衣・查阜西・張子謙（編）	1961年	音楽出版社	
2532	『古琴初階』	沈草衣・查阜西・張子謙（編）	1961年	音樂出版社	
2533	『古代支那の音楽』（東亜研究講座64輯）	石井文雄	1935年	東亜研究会	
2534	『玉堂琴譜　序』	皆川淇園、「半花老人」カ（写・奥付）	1986年カ（奥付）		「維時昭和六十一年丙寅春日／中京之後任半花老人録之」（奥付）
2535	『琴学大意抄』	荻生徂徠（原著）、倉田正賢（写）	天保4年		
2536	『蒹葭堂琴譜』複写				内閣文庫所蔵本
2537	『七絃琴録』				
2538	『七絃秘抄』	石河佐渡守（原著）、定美（写）	1966年		「美濃国駒塚領主石河佐渡守原著による」（表紙）、「時于昭和丙午初冬定美写之 原本濃州駒塚領主壱万石　尾州潘（ママ）老石河佐渡守書」（奥付）
2539	『支那行商人とその楽器』	中島幸三郎	1941年	富山房	
2540	『上代支那正楽考　孔子の音楽論』	江文也	1942年	三省堂	
2541	『上代支那正楽考　孔子の音楽論』	江文也	1942年	三省堂	
2542	『青湾茗醾図誌　魁』複写	山中吉郎兵衛（編）	1876年		
2543	『聖門楽誌』複写		乾隆11年		1746年

2544	『全唐詩中的楽舞資料』複写	中国舞踏芸術研究会、舞踏史研究組（編）	1958年	音楽出版社	
2545	『中央音楽学院民族音楽研究所叢刊　宋姜白石　創作歌曲研究』	楊蔭瀏・陰法魯合	1957年	音楽出版社	
2546	『中国音楽再発見　楽器篇』（瀧遼一著作集1）	瀧遼一	1991年	第一書房	
2547	『中国音楽史参考図片　第一輯説明』複写			音楽出版社	「楽器」（表紙）
2548	『中国音楽史参考図片　第二輯説明』複写			音楽出版社	「絃楽器」（表紙）
2549	『中国音楽史参考図片　第三輯説明』複写			音楽出版社	「管楽器　打楽器」（表紙）
2550	『中国音楽史参考図片　第四輯説明』複写			音楽出版社	「楽譜」（表紙）
2551	『中国音楽史参考図片　第五輯』	中央音楽学院民族音楽研究所（編）	1957-1959年	音楽出版社	
2552	『中国音楽史参考図片　第五輯説明』複写			音楽出版社	「楽曲　楽譜」（表紙）
2553	『中国音楽史参考図片　第六輯説明　銅器及石刻上楽舞図象』複写			音楽出版社	
2554	『中国音楽史参考図片　第七輯説明　五代王建墓楽舞浮彫』複写			音楽出版社	「石刻、石窟、墓、石筐　図」（表紙）
2555	『中国音楽史参考図片　第八輯説明　琵琶壱輯』複写			音楽出版社	「壁画中乃絃楽器」（表紙）
2556	『中国音楽史参考図片　第九輯説明　北朝的伎楽天和伎楽人』複写			音楽出版社	
2557	『中国音楽指南』	仁和沈寄人	1924年（民国13年）	世界書局	
2558	『中国音楽文化史』	水原渭江		香港日本学術交流委員会	
2559	『中国楽器図誌』	刘东升・胡传藩・胡彦久（編著）	1987年	轻工業出版社	
2560	『中国古代の音の遺産』	岡本文雄	1988年	岡本文雄	
2561	『中国少数民族楽器』	楽声（編著）		民族出版社	
2562	『中国と琉球の三弦音楽』	王耀華	1998年	第一書房	
2563	『中国の音楽』	村松一弥	1965年	勁草書房	
2564	『中国の楽器』	簡其華ほか（編著）、石黒健一（訳）	1993年	シンフォニア	
2565	『中国の三弦とその音楽』	王耀華	1998年	第一書房	
2566	『東西楽制之研究』	毛光祈	1990年	上海書店	
2567	『唐代の楽器』（東洋音楽選書2）	東洋音楽学会（編）	1968年	音楽之友社	
2568	『唐代の楽器』（東洋音楽選書2）	東洋音楽学会（編）	1968年	音楽之友社	
2569	『敦煌伝統民歌』	甘粛省敦煌昙文化館（編）			
2570	『二胡演奏法』	张韶、汤良徳（編著）	1973年	人民文学出版社	
2571	『白石道人歌曲通考』	丘琼蓀	1955年	音楽出版社	
2572	『跋曲音楽研究』				
2573	『琵琶初歩』				
2574	『六代小舞譜』	朱載堉（撰）			「古舞　総論学古歌舞以永転二字為衆妙之門　六代小舞譜　鄭世子臣載淯謹撰」（包紙）
2575	『おもちゃが奏でる日本の音』（music gallery 43）	茂手木潔子、竹内敏信（写真）	1998年	音楽之友社	菅野由弘・吉川和夫（作曲）、CD付き
2576	『音楽読本』	山田耕筰	1935年	日本評論社	
2577	『音楽読本』	山田耕筰	1935年	日本評論社	
2578	『関西音楽関係団体総覧　1971』	西岡信雄（編）	1971年	大阪音楽大学	

2579	『近世前期歌謡集(三節切初心書・他)』(古典文庫第620冊)	神田俊一、神田幸一(編)	1998年	古典文庫	
2580	『この道はいつか来た道　ふるさとの歌がきこえる「こころの歌」』	吉野晴朗(写真)	2003年	ピエ・ブックス	
2581	『新版　音楽五十年史』	堀内敬三	1948年	鱒書房	
2582	『製造元祖横浜風琴洋琴ものがたり』	横浜市歴史博物館・横浜開港資料館(編)	2004年	横浜市歴史博物館・横浜市ふるさと歴史財団	
2583	『大正琴の世界』	金子敦子	1995年	大正琴協会・音楽之友社	
2584	『大正琴図鑑』	金子敦子(監修)	2003年	全音楽譜出版社	
2585	『瀧廉太郎の生涯と作品』(音楽文庫)	遠藤宏	1950年	音楽之友社	
2586	『通信教授音楽講義録分科　通信教授　ヴァイオリン講義録　第一編』	大日本家庭音楽会	1916年	伊藤霜子	
2587	『通信教授音楽講義録分科　通信教授　ヴァイオリン講義録　第二編』	大日本家庭音楽会	1916年	伊藤霜子	
2588	『通信教授音楽講義録分科　通信教授　ヴァイオリン講義録　第三編』	大日本家庭音楽会	1916年	伊藤霜子	
2589	『通信教授音楽講義録分科　通信教授　マンドリン講義録　第貳編』	大日本家庭音楽会	1927年	坂本光	
2590	『通信教授　復音大正琴講義録　第一編』	大日本家庭音楽会(編)	1925年	大日本家庭音楽会	
2591	『日本音楽の源流を探る　古代より近世までの音楽文化史』	小倉理三郎	1994年	芸術現代社	
2592	「三笠宮殿下と浪花節と私」	水川清一	1972年		著者：大阪音楽大学学長・理事長、抜き刷りカ
2593	『大和声学教程』	長谷川良夫	1956年	音楽之友社	
2594	『ヤマハ草創譜　洋楽事始から昭和中期までの70年余をふりかえる　1885-1959』	三浦啓市	2012年	按可社	
2595	『洋楽伝来史　キリシタン時代から幕末まで』	海老澤有道	1983年	日本基督教団出版局	
2596	『リズム　日本人の音感覚とリズム』	藤田竜生	1976年	風濤社	
2597	『吹風琴唱歌軍歌俗曲清楽独案内』複写	吉武常吉	1898年	秀友堂	奥付のみ
2598	『唐人唄と看々踊　附田邊尚雄述　九連環の曲と看々踊』(東亜研究講座第54輯)	浅井忠男	1933年	東亜研究会	
2599	『明笛清笛　独習案内』	香露園主人	1909年	松陽堂書店	
2600	『音楽の源泉　民族音楽学的考察』	クルト・ザックス、ヤープ・クンスト(編)、福田昌作(訳)	1970年	音楽之友社	
2601	『京都書院アーツコレクション239　民族楽器大博物館』	若林忠宏	1999年	京都書院	
2602	『国立民族学博物館　諸民族の文化と相互理解』(世界の博物館22)	梅棹忠夫・祖父江孝男(編)	1979年	講談社	
2603	『世界の民族音楽辞典』	若林忠宏(編著)	2005年	東京堂出版	
2604	『ハンガリーの民俗音楽』	ゾルターン・コダーイ、関鼎(訳)	1971年	音楽之友社	
2605	『民族音楽・出会いの旅』(音楽選書51)	江波戸昭	1987年	音楽之友社	
2606	『民族音楽概論』	藤井知昭ほか(編)	1992年	東京書籍	
2607	『コロムビア50年抄史　1910-1960』	青木礼一(編)	1960年	日本コロムビア株式会社	

2608	『道のし■■』		1924年	官幣大社春日大社社務所	
2609	『音楽社会学』	M. ウェーバー、安藤英治ほか（訳解）	1967年	創文社	
2610	『最近科学上より見たる音楽の原理』	田邊尚雄	1916年	内田老鶴圃	
2611	『Archaeology of INDIAN MUSICAL INSTRUMENTS』	K. Krishna Murthy	1985年	Sundeep Prakashan	
2612	『Asian musics in an Asian perspective : report of Asian Traditional Performing Arts 1976』	Koizumi Fumio, Tokumaru Yoshihiko, Yamaguchi Osamu ; assistant editor, Richard Emmert（編）	1977年	Heibonsha : Academia Music	
2613	『Atlas of musical instruments of the peoples inhabiting the USSR』	K A Vertkov; G Blagodatov; Ė I͡Azovitskai͡a	1975年	State Publishers Music	
2614	『Bagpipe』（楽器資料集8）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1988年	国立音楽大学音楽研究所	
2615	『Harp・Lyre』（楽器資料集5）	国立音楽大学音楽研究所（編）	1985年	国立音楽大学音楽研究所	
2616	『KOGIRE-KAI AUCTION CATALOGUE ONGU』				
2617	『MUSIC A Pictorial Archive of Woodcuts & Engravings』	Jim Harter	1980年	Dover Publications	
2618	『Music of the Billion: An Introduction to Chinese Musical Culture』	David Mingyue Liang	1985年	C F Peters Corp	
2619	『Musical instruments and their symbolism in Western art』	Emanuel Winternitz	1979年	Yale University Press	
2620	『Musical Instruments of India』	B. Chaitanya Deva	2000年	Munshiram Manoharlal Publishers	
2621	『Musical instruments of the world』	the Diagram Group	1976年	Facts on File	
2622	『MUSIK Sehen Staunen Wissen』		2009年	Gerstenberg Verlag	
2623	『STUDIES IN INDONESIAN MUSIC』	Margaret J. Kartomi（編）	1978年	Centre of Southeast Asian Studies, Monash University	
2624	『Survey of Korean Arts: traditional music』	National Academy of Arts	1973年	National Academy of Arts	
2625	『THE MUSIC OF CHINA』	Bliss Wiant	1965年	Chung Chi Publications	
2626	『THE MUSIC OF INDIA Vol.1』	Ram Avtar	1986年	Pankaj Publications	
2627	『Venda Children's Songs: A Study in Ethnomusicological Analysis』	John Blacking	1995年	University of Chicago Press	
2628	『■国音楽史』			香港太平書局出版	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2629	「楽器博物館⑤めずらしい材料」		1990年	サンケイ新聞写真ニュースセンター	『サンケイカラー百科　第590号』
2630	『おんかん　音楽鑑賞教育　通巻383号』		2000年	音楽鑑賞振興財団	
2631	『教育音楽　中学・高校版　第27巻10号（通号321号）』		1983年	音楽之友社	
2632	『教育音楽　中学・高校版　第29巻2号（通号338号）』		1985年	音楽之友社	
2633	『教育音楽　中学版　第21巻第7号（通冊246号）』		1997年	音楽之友社	

2634	『教育音楽　中学版　第21巻第10号（通冊249号）』		1997年	音楽之友社	
2635	「教えて　古代の音色」				切り抜き、「2009.6.25／アサヒ！」（手書きメモ）
2636	『季刊　考古与文物』	考古与文物編集部（編）	1980年	陝西人民出版社	創刊号
2637	「古代音楽史の空白埋める　宮城県名取市で発見「清水の笛」解明進む」	井川一久		朝日新聞社	『朝日新聞（夕刊）』切り抜き
2638	「4000年前の石の横笛　縄文の調べ、鋭く高く　四音階、能管に似る」複写		1976年	朝日新聞社	『朝日新聞』
2639	『古美術　No. 30　特集　浦上玉堂―その人と作品』	藤本韶三（編）	1970年	三彩社	季刊誌
2640	「七弦琴　日本の琴学と琴士」複写	岸辺成雄	1988年	草楽社	『季刊コンソート　10月号』
2641	『たいころじい　第1巻』		1988年	十月社	
2642	『たいころじい　第1巻』		1988年	十月社	
2643	『たいころじい　第22巻』		2002年	浅野太鼓文化研究所	特集「楽器の木」
2644	『たいころじい　第23巻』		2003年	浅野太鼓文化研究所	特集「革」
2645	『たいころじい　第24巻』		2003年	浅野太鼓文化研究所	特集「太鼓のかたち」
2646	『笛の文化史　創刊号』			和泉村	
2647	『笛の文化史　第2号』		1996年	和泉村教育委員会	
2648	『季刊　地球2』		1975年	山城組出版局	
2649	『季刊　地球3』		1975年	山城組出版局	
2650	『季刊　地球4』		1975年	山城組出版局	
2651	『季刊　地球5』		1975年	山城組出版局	
2652	『季刊　地球6』		1976年	山城組出版局	
2653	『季刊　地球7』		1976年	山城組出版局	
2654	『季刊　地球8』		1976年	山城組出版局	
2655	『季刊　地球9』		1977年	山城組出版局	
2656	『季刊　地球10』		1977年	山城組出版局	
2657	『季刊　地球11』		1977年	山城組出版局	
2658	『季刊　地球12』		1978年	山城組出版局	
2659	『季刊　地球13』		1978年	山城組出版局	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2660	『季刊　音楽教育研究　第48号』	音楽之友社（編）	1986年	音楽之友社	
2661	「七絃琴と玄琴の比較研究」複写	三谷陽子	1970年	音楽之友社	『音楽学　第16号』より、pp.105-122
2662	「特別遺跡　登呂遺跡　発掘調査概要報告書　Ⅱ」複写		2001年	静岡市教育委員会	『静岡市埋蔵文化財調査報告　第57号』
2663	「難波宮跡出土のコト柱について」	野川美穂子	2006年	財団法人大阪府文化財センター	『財団法人大阪府文化財センター調査報告書144　大坂城址3』抜刷
2664	『浜松市楽器博物館フィールドワーク報告書　Vol.4　アフリカ・タンザニアの楽器―平成12（2000）年度 国外フィールドワーク―』	浜松市楽器博物館（編）	2002年	浜松市楽器博物館	
2665	『浜松市楽器博物館フィールドワーク報告書　Vol.5　ピアノづくりのれきし』	浜松市楽器博物館（編）	2003年	浜松市楽器博物館	
2666	『民族音楽研究論文集　第2集』	中央音楽学院民族音楽研究所（編）	1957年	音楽出版社	

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2667	『一般楽器の目録』			エサキヤ楽器店	
2668	『描かれた音楽　西洋楽器と出会った日本絵画』	神戸市立博物館（編）	2003年	神戸市立博物館	図録
2669	『楽器目録　1960年』			「三木楽器株式会社」「発行所　大阪開成館」	
2670	『花カルタトランプ　ピンポン道具　楽器値段表』			大廣楽器店	
2671	『浜松市楽器博物館　第4回特別展　「ペルシアの楽器」　図録』	浜松市楽器博物館(編)	1997年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、1997年3月25日-5月11日（会期）
2672	『浜松市楽器博物館　第6回特別展　遊牧民の楽器～モンゴルの大草原より～　図録』	浜松市楽器博物館(編)	1999年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、1999年3月27日-5月6日（会期）、浜松市・財団法人アクトシティ浜松運営財団（主催）
2673	『浜松市楽器博物館　第7回特別展　メキシコ・グアテマラ楽器紀行　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2000年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2000年3月25日-5月7日（会期）、浜松市楽器博物館・財団法人浜松市文化振興財団（主催）
2674	『浜松市楽器博物館　特別展　オセアニアの楽器　図録　祈りと踊りの楽器たち』	浜松市楽器博物館(編)	2001年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2001年3月24日-5月6日（会期）
2675	『浜松市楽器博物館　ジャワ・ガムラン　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2001年	浜松市楽器博物館	企画展「ジャワ・ガムラン」、浜松市楽器博物館（会場）、2001年10月2日-11月18日（会期）
2676	『浜松市楽器博物館　特別展　アフリカの楽器　～さがしものはここにある～　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2002年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2002年3月26日-5月6日（会期）
2677	『浜松市楽器博物館　ハーモニカとリードオルガン　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2002年	浜松市楽器博物館	企画展「ハーモニカとリードオルガン」～国産洋楽器誕生の息吹～、浜松市楽器博物館（会場）、2002年10月16日-11月24日（会期）
2678	『浜松市楽器博物館　特別展　楽器と20世紀　―夢と憧れ・創造と忘失―　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2003年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2003年3月25日-5月6日（会期）
2679	『浜松市楽器博物館　特別展　図録　夢のかたち・夢のおと　～おもちゃと音の造形～』	浜松市楽器博物館(編)	2004年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2004年3月27日-5月6日（会期）
2680	『浜松市楽器博物館　企画展　親指ピアノ　図録』	浜松市楽器博物館(編)	2007年	浜松市楽器博物館	浜松市楽器博物館（会場）、2007年11月3日-12月2日（会期）、浜松市楽器博物館・財団法人浜松市文化振興財団（主催）
2681	『企画展　古代の音色』		2002年		チラシ、神戸市埋蔵文化財センター（会場）、2002年10月5日-11月17日（会期）、神戸市教育委員会（主催）
2682	『企画展　古代の音色』		2002年		チラシ、神戸市埋蔵文化財センター（会場）、2002年10月5日-11月17日（会期）、神戸市教育委員会（主催）
2683	『企画展　古代の音色』	神戸市教育委員会文化財課	2002年	神戸市教育委員会文化財課	神戸市埋蔵文化財センター（会場）、2002年10月5日-11月17日（会期）、神戸市教育委員会（主催）
2684	『馨石』				パンフレット、「日本万国博地方自治体館出展」
2685	磬石に関する解説				チラシ
2686	『古代楽器（厄よけ楽器）　ささら』	大瀬国隆（製造責任）			チラシ（解説文）、こきりこ唄の歌詞・こきりこの歴史・こきりこ板ささらの解説
2687	『秋季特別展　古代の琴』複写		1992年	橿原市千塚資料館	図録、橿原市千塚資料館（会場）、1992年10月24日-11月29日（会期）
2688	『秋季特別展　古代の琴』複写		1992年	橿原市千塚資料館	図録、橿原市千塚資料館（会場）、1992年10月24日-11月29日（会期）
2689	『重要文化財「琴を弾く埴輪」』	（財）相川考古館			チラシ、展示品解説
2690	『甦る古代琴の音色』複写				パンフレット

2691	「ドグーのここが知りたいシリーズ　土笛は本当に笛なの？の巻」				チラシ、旭川市博物館考古展示解説
2692	『卑弥呼の音楽会―ま･つ･り･の･ひ・び・き―』	大阪府立弥生文化博物館（編）	2000年	大阪府立弥生文化博物館	図録、平成12年秋季特別展「卑弥呼の音楽会―まつりのひびき―」、大阪府立弥生文化博物館（会場）、2000年10月7日-12月3日（会期）
2693	『文具―永青文庫名品選』複写	細川護貞（編）	1978年	木耳社	図録、「白高麗明笛」の部分のみ
2694	『よみがえる古代の神々』			磐田市教育委員会	パンフレット
2695	『天理参考館常設展示図録　世界の生活文化　世界の考古美術』	天理参考館（編）	2001年	天理参考館	
2696	『サントリー音楽文化展　素顔のベートーヴェン』	サントリー（編）	1983年	サントリー	図録、サントリー美術館（会場）、1983年10月21日-11月20日（会期）
2697	『所蔵楽器図録　Ⅰ　ヨーロッパの気鳴楽器』	浜松市楽器博物館(編)	1995年	浜松市楽器博物館	
2698	『所蔵楽器図録　Ⅲ　ヨーロッパの鍵盤楽器』	浜松市楽器博物館(編)	1995年	浜松市楽器博物館	
2699	『西洋楽器目録 ILLRUSTRATED CATALOGUE OF ORGANS』		1904年	共益商社楽器店	カタログ、中にチラシあり
2700	『ベルギー　フランドルの音楽史料展』				チラシ、ベルギー　フランドル交流センター（会場）、1990年9月3日-10月31日（会期）、ベルギー　フランドル交流センター（主催）
2701	『第44回企画展　ニューギニア　アフリカ　アジア　太鼓の世界　神々との交信　陶酔の響き』	天理大学附属天理参考館（編）	2002年	天理大学附属天理参考館	図録、天理大学附属天理参考館3階企画展示室・1階ホール（会場）、2002年10月9日－2003年1月8日（会期）
2702	『東京　宮本神輿太皷店型録　昭和47年1月』		1972年	宮本神輿太皷店	パンフレット
2703	『日本の伝統　京の太鼓』			三浦太幸堂	パンフレット
2704	『和太鼓　2003年度版和太鼓(教材用）太鼓センター総合カタログ』		2003年	太鼓センター	パンフレット
2705	『先進工芸社有限公司』				パンフレット
2706	「隋・唐代の楽器演奏の図録」複写				2枚、pp.156-157
2707	『第三回特別展　敦煌壁画復元楽器　～古代シルクロード・莫高窟からのメッセージ～』	浜松市楽器博物館(編)	1996年	浜松市楽器博物館	図録、浜松市楽器博物館（会場）、1996年9月28日-10月27日（会期）
2708	『中国中央楽団』		1974年	NHKホールほか	東京NHKホールほか（会場）、1974年10月14、15日（公演日）、日本中国文化交流協会・日本放送協会・読売新聞社（主催）
2709	『特別展　曽侯乙墓』		1992年	日本経済新聞社	図録
2710	『「敦煌莫高窟壁画からの復元楽器」図録』	大阪音楽大学音楽博物館（編）	2007年	大阪音楽大学音楽博物館	
2711	『伊太利プグリシー会社製　ギターNo.205』				チラシ
2712	『伊太利プグリシー会社製　マンドラNo.3FF』				チラシ
2713	『伊太利プグリシー会社製　虫印　ギター』				チラシ
2714	『伊太利虫印マンドリン』				チラシ
2715	『イムペリアル　アッコーデオン(独逸製錨印小型)』				チラシ
2716	ヴァイオリン関係商品一覧				チラシ
2717	『お年寄りも子供も弾ける琴ギター　茨城で生まれた銅鐸型新楽器！』			イナミ楽器製造株式会社	パンフレット
2718	『小野楽器店楽器目録』				
2719	『オルガンの保存と簡単な修理法』			日本楽器製造株式会社	パンフレット

2720	「会員増員へ御願い」			日本バイオリン研究所内趣味の音友会	チラシ
2721	「掛鈴の説明書　伊勢松阪市中町」	中西正弘堂主			チラシ（解説文）
2722	『企画展図録　大正琴の世界』	浜松市楽器博物館(編)	2008年	浜松市楽器博物館	図録、浜松市楽器博物館企画展「大正琴の世界」、浜松市楽器博物館（会場）、2008年11月9日-2009年2月1日（会期）
2723	『絃類元価表』			河野商店	
2724	『古代銘作ヴヮ井オリン（証明書附)』				チラシ
2725	『昭和三年三月　御大典紀念大景品付品付特売原価表（追加号）(第四十一号)』			星野楽器店	チラシ
2726	『鹿印ハーモニカ』			「鹿印ハーモニカ製作所」「総発売元　大広楽器店」	チラシ
2727	「シカブエ」「キジブエ」ほか複写				図録カ
2728	『十字屋タイムス　第三十二巻三月号』		1929年	十字屋楽器店	パンフレット
2729	『大正八年十月改正　定価表』			十字屋楽器店	
2730	十字屋楽器店販売書籍概目			十字屋楽器店	パンフレット
2731	『定価表』				「獨逸國アーノルドボイト製作／ヴァイオリン」ほか
2732	『独逸グロートリアン・スタインウエッヒ』			総代理店アカシヤ	チラシ
2733	『獨逸國アーノルドボイト製ヴヮ井オリン』				チラシ
2734	『獨逸製（高級）ヴヮ井オリン弓』				チラシ
2735	『東京楽器仕入案内　三月号』		1932年	帝国発明社	パンフレット
2736	『独奏用・合奏用アコーディオン　ACCORDION　2007』			トンボ楽器製作所	パンフレット
2737	『トンボ楽器　カタログ』			トンボ楽器株式会社	パンフレット
2738	『トンボ手風琴』複写			トンボハーモニカ手風琴製作所	チラシ
2739	『トンボ七十年の歩み』			トンボ楽器製作所	パンフレット
2740	『トンボ七十年の歩み』			トンボ楽器製作所	パンフレット
2741	『トンボ七十年の歩み』			トンボ楽器製作所	パンフレット
2742	『トンボ七十年の歩み』			トンボ楽器製作所	パンフレット
2743	『ナカキタ月報　昭和三年三月号』		1928年		パンフレット
2744	『(プグリシー会社製)　伊太利虫印絃楽器』			河野商店	チラシ
2745	『(プグリシー会社製)　伊太利虫印絃楽器』			河野商店	定価表
2746	『ぼくらの　トンボ手風琴』	トンボ手風琴研究部(編)	1936年	トンボ・ハーモニカ手風琴製作所	パンフレット
2747	「昔なつかしいビードロ玩具ポッペン」	井上重義（解説）			説明書
2748	『本居宣長遺跡　鈴屋』	松阪市			パンフレット
2749	『本居宣長記念館』	本居宣長記念館			パンフレット
2750	『本居宣長記念館』			財団法人　鈴屋遺蹟保存会	パンフレット
2751	『ヤマハ　もつきん』			日本楽器	パンフレット
2752	『ヤマハの楽器』				チラシ
2753	『山葉オルガン』			日本楽器製造株式会社	パンフレット
2754	『山葉オルガン』			日本楽器製造株式会社	パンフレット
2755	『山葉オルガン　改正定価表』				「昭和十二年七月一日改正」

2756	『山葉オルガン特売』		1919年	「小田楽器商会」「日本楽器製造会社」	チラシ
2757	『洋楽器原価表』			大広楽器店	「昭和六年五月改正」
2758	『我社の現況』			日本楽器製造株式会社	パンフレット
2759	『真柱継承奉告祭記念特別展　世界民俗楽器』		1968年	天理大学出版部	パンフレット、天理参考館（会場）、1968年10月（会期）
2760	『世界の民族楽器コレクション総合カタログ』				パンフレット、「西武百貨店池袋店9F楽器売場」
2761	『特別展　世界の　民族楽器展』				チラシ、とっとり県民カレッジ連携講座、あおや郷土館（会場）、1997年年5月13日-6月27日（会期）
2762	『民俗資料図版集　Ⅴ　楽器②』			天理参考館	天理大学附属天理参考館からの手紙付（10月18日付）
2763	『ヴァイターホン蓄音器』				チラシ
2764	『オーゴン蓄音器』				パンフレット、「無共鳴硬質長音道／日英米専売特許」
2765	『オルソフォニック吹込　ビクターレコード　総目録　（邦楽）　昭和八年』		1933年	日本ビクター蓄音器株式会社	
2766	『オルソフォニック　日本ビクターレコード　邦楽総目録』	恒松寛次	1936年	日本ビクター蓄音機株式会社	
2767	『音響　ラジオ･電蓄　楽器･トーキー　第2巻第4号・通巻第7号』		1948年	オーム社	パンフレット
2768	『興趣横溢　レコードアルバム界の脅威　RECORD-KEES』			三谷重蔵商店	パンフレット
2769	『キングダム号蓄音器型録』				パンフレット、「第百三十三号」
2770	『豪華を誇る驚異的最優秀品ケンコク電動蓄音器』				チラシ
2771	『コロムビアレコード　リーガルレコード　邦楽　総目録　昭和十五年版」	川添利基	1940年	日本蓄音器商会	
2772	『テレビアン　電気蓄音機（高級ラヂオ組込）』			山中無線電機株式会社	パンフレット
2773	「奉祝記念新発売　アカツキ号ポータブル蓄音器」			宮地商店	チラシ
2774	『ポリドールレコード　（邦楽・洋楽）　総目録　（昭和六年）』		1931年	日本ポリドール蓄音機商会	
2775	『ユニヴァーサル蓄音器』				チラシ
2776	『ラヂオ兼用電気蓄音機（四球式）　テレビアンC-400号』			山中電機株式会社	パンフレット
2777	『ポリフア一式　ポリドール蓄音器　型録』			日本ポリドール蓄音器商会	パンフレット、「第百三十三号」
2778	『音楽図書目録』		1922年	共益商社書店	
2779	『Ancient MUSICAL INSTRUMENTS of Western Asia』	Joan Rimmer	1969年	The British Museum	図録
2780	『Hornniman Museum: Musical Instruments』	Inner London Education Authority	1970年		
2781	『Musée d'Instruments Anciens de Musique』				パンフレット
2782	『SEMBIANZA』	大阪音楽大学　音楽博物館（編）	2005年	大阪音楽大学	図録
2783	『Musée de la musique/Touchez la musique Pacours interactif pour tous』				パンフレット
2784	『G.H.HÜLLER　GERMANY 高級木管楽器』				チラシ
2785	『SENSATIONAL ANNOUNCING, BEST GRAMOPHONE-VITAPHONE』			OSAKA-GODO TALKING MACHINE CO.	チラシ

2786	『SUZUKI'S　CATALOG　楽器蓄音器卸値段表』			鈴木楽器店	

1-5. 譜

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2787	紙腔琴譜カ				
2788	『Deagan　Musical　Dinner Chime　Music』		1917年		
2789	『Historic Percussion a Survey』			Tactus Press	
2790	『La Boîte à joujoux』			Durand & fils	
2791	『なりもの練習譜　（三曲）』	天理教教会本部修養科（編）	1976年	天理教道友社	
2792	『みかぐら笛及打物練習合譜　附練習要項』		1961年	天理教教会本部修養科	
2793	『ヨーキン　鉄琴　独まなび』			柏屋楽器問屋	
2794	『音楽全書　第参編　明清楽之栞』		1894年	博文館	
2795	『音頭稽古本』				
2796	『音頭稽古本』				
2797	『音頭稽古本』				
2798	『歌劇《夕鶴》』	木下順二（作）、團伊玖磨（作曲）	1976年	全音楽譜出版社	
2799	『楽隊用吹奏楽器教本』	小畠賢八郎	1919年	京都十字屋楽器店	「陸軍　一等楽長　小畠賢八郎著」
2800	『活奏　曲譜　軍楽　進行曲』				巻物、「紙腔琴／配用／活奏曲譜」（表紙裏）
2801	『活奏　曲譜　唱歌　蝶々』				巻物、「紙腔琴／配用／活奏曲譜」（表紙裏）
2802	『活奏　曲譜　大祭祝日唱歌　君が代』				巻物、「紙腔琴／配用／活奏曲譜」（表紙裏）
2803	『活奏　曲譜　端唄　かっぽれ』				巻物、「紙腔琴／配用／活奏曲譜」（表紙裏）
2804	『完全無欠　大正琴　独案内　第一集』		1925年	三盟舎書店	
2805	『金婚賀莚　日の出マーチ　君が代マーチ』				大正14年9月謄写、表紙のみ
2806	『月琴楽譜』複写		1877年	群仙堂	中井新六（編）カ
2807	『研易習琴齋琴譜　上巻』		1961年		中華民国50年辛丑盛夏（序文）
2808	『研易習琴齋琴譜　中巻』		1962年		中華民国51年壬寅春（序文）
2809	『研易習琴齋琴譜　下巻』		1963年		中華民国52年癸卯夏（序文）
2810	『古今今様集　全』	加藤凞（編）	1878年	聚星館	
2811	『古箏独奏曲』	梁在平	1967年	Chinese Classical Music Association	
2812	『合唱のためのコンポジション第5番　鳥獣戯画』	間宮芳生（作曲）		全音楽譜出版社	
2813	『最新　明笛独習』	加茂六郎	1938年	シンフォニー楽譜出版社	
2814	『祭祀楽神楽歌曲集　第一編』	多忠朝（編）	1937年	神社音楽協会	
2815	『三曲練習譜』		1952年	天理教校修養科	
2816	『三味線・尺八・箏曲・洋楽器と合奏が楽しめる　大正琴』	鈴木琴城		東京楽譜出版社	
2817	『四群のための形象』	三木稔（作曲）	1998年	全音楽譜出版社	
2818	『七絃琴譜■■■』		天保7年		「七絃琴十六曲目録」（内題）
2819	『小学唱歌集　初編』	文部省音楽取調掛	1886年	文部省	
2820	『上洋琵琶譜』		1876年	文琳書屋	巻上・中・下の3巻
2821	『新式楽器　陽琴歌譜　独案内』	池田長七（編）	1900年	池田長七	

2822	『新版　オルガン速成』	シ、メーソン先生（校閲）（ママ）、帝国音楽協会（編纂）	1927年	岡田日榮堂	
2823	『神教歌譜　全』	権大教正権田直助（編述）	1881年	大山阿夫利神社社務所	
2824	『尋常小学唱歌　第一学年用』	文部省（編纂）			
2825	『俗楽源譜　信』複写		1892年		「玄琴　伽倻琴　琵琶各絃撃挑之法／方響令歩虚子譜」（表紙）、「俗楽源譜巻之六」（内題）
2826	『長唄　えちごじし　第十二編』	大正琴研究会（作譜）	1920年	池田楽器店	
2827	『鉄道歌』			東京鉄道局・新橋運輸事務所・新橋保線事務所・新橋電力事務所	「東京音楽学校ニ委嘱シテ曲譜ヲ附セラレタルモノナリ」（表紙）
2828	『八十八鍵　深川』			日本楽器製造株式会社	巻物、「澤田柳吉調和」（表紙）、「紙腔琴／配用／活奏曲譜」（表紙裏）
2829	『民族器楽合奏　丰収鐲鼓』		1973年	人民文学出版社	「彭修文、蔡惠泉編曲」（表紙）
2830	『明清楽　独まなび』	大塚寅藏	1909年	京都十字屋楽器部	

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2831	「先進工芸社有限公司国楽器価目表」	先進工藝社			
2832	「長嶋検校壱巻」（題箋）	澤都（写）	宝暦10年		巻物、「宝暦十年庚辰四月寫之　澤都」（奥付）
2833	七絃琴の沿革や楽器の形状ほか				「一絃琴譜　七絃琴譜」（外題）、朱書

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2834	「演奏楽器の扱①韓国」	及川尊雄			便箋綴、韓国の楽器図・演奏図ほか
2835	楽器の模写				寸法入り
2836	楽器の模写				佐竹藤三郎本店のポスター（住所、電話番号入り）の裏面、寸法入り
2837	古琴の寸法について				ルーズリーフ
2838	「古舞」「六代小舞譜」複写				ルーズリーフ綴
2839	「七絃」	及川尊雄			レポート用紙、琴家略伝
2840	七絃琴の資料名ほか	及川尊雄			レポート用紙
2841	「七絃琴譜図解々説」	及川尊雄			レポート用紙・紙片、『七絃琴譜図解解説』からのメモや模写
2842	太鼓の図・寸法				ノート紙片
2843	笛の樺巻の手順				ルーズリーフ
2844	「明清楽琵琶」「洋琴」「月琴」「木琴」「蛇尾線」「洞簫」「明清楽清笛」「明笛」「提琴」	及川尊雄			レポート用紙
2845	『洋楽　完』（楽器・作曲家の絵）	及川尊雄			レポート用紙
2846	「洋楽器」「唐獅子の（瓦飾り）」手書き絵ほか	及川尊雄			ノート
2847	「洋楽器と中央アジヤの楽器」	及川尊雄			レポート用紙
2848	揚弓道具・揚弓的太鼓　複写	及川尊雄			書き込みなし
2849	揚弓道具・揚弓的太鼓　複写	及川尊雄			書き込みあり

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2850	「石製品」「土笛」「北海道江別町発見の土笛様土製品」複写				
2851	玩具ハーモニカ・大正琴・太鼓ほかの楽器写真　複写				書籍の一部カ

2852	「14　玉堂製琴」				図録の一部カ、七絃琴のカラー写真・解説付き
2853	ケ・ブランリ美術館所蔵楽器写真ほか				プリントアウト
2854	「九つの道具」ほか　複写				事典項目カ、p.335・475
2855	「古代琴（板式）」				展示キャプションカ
2856	「コラム　音楽の源流をさぐる」複写				
2857	「坐福原清会　篠笛独稽古その二」複写				
2858	「清楽の図」「月琴の図」				
2859	「参考資料　吹風琴に関する特許や実用新案」				プリントアウト
2860	「世界の民族音楽と楽器及び国際交流の記録」複写				
2861	太鼓・木琴ほかの特許関係書類　複写				
2862	『中日第二届　箏楽欣賞会』ほか　複写		1976年		「大西悦子徴集／一弦琴資料」（裏表紙）、「東洋音楽学会第26回大会」資料ほか
2863	「土笛を出土した高石野遺跡」複写				
2864	「展示物　福山市ホームページ」				プリントアウト
2865	貼石遺構付近出土木製品に関する書籍　複写				
2866	ピアノ・オルガン・風琴などの特許関係書類　複写				
2867	『b・e　民族楽器etc.』複写				
2868	東アフリカの楽器解説　複写				
2869	マンドリンの特許関係書類　複写				
2870	「南アジア（S.ASIA）」複写				
2871	『民俗資料図版集　V　楽器②』			天理参考館	包みのみ
2872	「楊弓的太鼓」複写				朱書で書き入れあり
2873	陸軍鼓隊用鼓笛の価格一覧ほか　複写				

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2874	アウロス・弓型ハープ等をもつ女性の図				
2875	「音楽絵葉書」				9枚、教育音楽1月号別冊付録
2876	『楽聖　現代有名画家による音楽家デッサン集』		1972年	株式会社内外物産美術部	10枚セット函入り
2877	楽器の模写				響穴・響板・槽・頚・脚柱・肘木ほか、寸法入り
2878	楽器を演奏する天部の図カ				12枚
2879	楽器の絵柄の切手				8枚
2880	楽器の絵柄の切手				12枚
2881	切手、韓国の琵琶の絵		2008年		
2882	「宮楽図」				「丙寅初冬辛夫画」、「祝無功行書七絶」（外箱）、箱蓋裏に書付あり
2883	「七生舞楽図（併）楽器図」				
2884	「土笛　江別市旧町村農場出土」複写				1枚
2885	『日本　万歳　百選百笑』				「支那人形／ 骨皮道人」

2886	笛・琴の楽器図ほか				「永久三乙未年請出以法隆寺御本写畢之／慶後記／明応四丁卯年五月三日請出謹写／藤原朝臣大和介」
2887	『吹よせ　壱　三十六葉』				36枚
2888	『婦女人相十品　相観 歌麿考画』				「ポッピンを吹く女」の図
2889	「CHINESE PAPER-CUTS」				笛演奏の図（中国の剪紙）

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2890	『石笛鎮魂』				CD
2891	『韓国音楽選集　VOL.4』	国立国楽院・指揮：金琪洙（演奏）		国立国楽院	LP
2892	『鯉沼廣行　篠笛小曲集　幻の笛』				CD
2893	『心　宗次郎』				CD
2894	『長崎の月琴』				LP
2895	『星の大地　深草アキ　秦琴』				CD
2896	『盲僧紹介』	永田法順･高木清玄（演奏）			カセットテープ、永田法順　宮崎県延岡市（A面）、高木清玄　大分県国東（B面）
2897	『NHKスペシャル　人生を奏でる家』				VHS

16. 関連分野

1. 文献

1-1. 本

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
2898	『青い森の縄文人とその社会 縄文時代中期・後期編』（図説ふるさと青森の歴史シリーズ2）	青森県埋蔵文化財調査センター（編）	1992年	青森県文化財保護協会	平成3年度、青森県教育委員会
2899	『青葉の笛』	小池義人	1972年	大本山須磨寺	
2900	『阿闍梨覚峰の伝』	白井繁太郎	1958年	大阪府立図書館	
2901	『飛鳥･奈良時代の文化　全六講』	羽田亨（編）	1955年	武田薬品工業	
2902	『安土・桃山』（日本歴史シリーズ10）	岡本良一	1966年	世界文化社	
2903	『出雲大社由緒略記』	出雲大社	1973年	出雲大社社務所	
2904	『出雲文化財散歩』	石塚尊俊、近藤正	1973年	学生社	
2905	『基礎　古文書のよみかた』	林英夫（監修）	1998年	柏書房	
2906	『一の糸』	有吉佐和子	1965年	新潮社	
2907	『厳島』	厳島神社社務所（編）	1938年	厳島神社社務所	
2908	『絃の聖域』	栗本薫	1980年	講談社	
2909	『岩波　中国語辞典』	倉石武四郎	1963年	岩波書店	
2910	『インドの石窟彫刻　インドの芸術』	阿部展也、町田甲一	1957年	座右寶刊行会	
2911	『雲林院明神棟札写』				
2912	『江戸』（江戸時代図誌4）	西山松之助、吉原健一郎（編）	1975年	筑摩書房	
2913	『江戸細密工芸尽し』（別冊太陽　日本のこころ66）		1989年	平凡社	
2914	『江戸の十手コレクション』	井出正信（監修）	1995年	里文出版	
2915	『江戸の町 上　巨大都市の誕生』	内藤昌、穂積和夫（イラストレーション）	1982年	草思社	
2916	『絵本とゲーム Picture books & games』（おもちゃ博物館11）	多田敏捷（編）	1992年	京都書院	

2917	『エンチゥ（カラフト・アイヌ）の物質文化』（北海道ライブラリー9　北方の民具2）	河野本道	1979年	北海道出版企画センタ	
2918	『大坂』（江戸時代図誌3）	岡本良一（編）	1976年	筑摩書房	
2919	『大須繁昌記』	名古屋市文化財調査保存委員会（編）	1960年	名古屋市文化財調査保存委員会	
2920	『お稽古事独習全書』		1951年	主婦の友社	主婦の友　昭和26年新年特大号附録
2921	『御賄所恒例』		天保6年		
2922	『音楽音響学』	田邊尚雄	1951年	音楽之友社	
2923	『押出遺跡』	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館(編)	2007年	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	
2924	『芥子園画伝　巻四』	王概等（編）			
2925	『解説梵語学』	榊亮三郎	1970年	永田文昌堂	
2926	『改定増補　公卿辞典』	坂本武雄（編）、坂本清和（補訂）		国書刊行会	
2927	『ガイドブック　兵庫の博物館1973』				
2928	『『加越日記』にみる父子象　北陸路の弘綱と信綱』	北川英昭			
2929	『仮面の美』	金子良運	1969年	社会思想社	
2930	『家紋大図鑑』	丹羽基二	1971年	秋田書店	
2931	『カラー　城と城下町』	能坂利雄	1971年	山と渓谷社	
2932	『カラー　城と城下町』	能坂利雄	1971年	山と渓谷社	
2933	『観光の伊豆下田港　唐人お吉物語一代記　遺物と史蹟』	堀内天嶺（絵画･解説）	1958年	上田春耕社	総天然色版
2934	『汉語基础知■』				
2935	『観瀑図誌』	鎌田政挙	1882年	淡水社	
2936	『漢文訓読の初歩』	山本巖		原柳社	
2937	『季刊人類学　6-1』	京都大学人類学研究会	1975年	講談社	
2938	『季刊人類学　6-2』	京都大学人類学研究会	1975年	講談社	
2939	『季刊人類学　6-3』	京都大学人類学研究会	1975年	講談社	
2940	『季刊人類学　6-4』	京都大学人類学研究会	1975年	講談社	
2941	『木地師の習俗1　滋賀県・三重県』	文化庁文化財保護部（編）	1968年	平凡社	
2942	『木地師の習俗2　愛知県・岐阜県』	文化庁文化財保護部（編）	1969年	平凡社	
2943	『畸人伝の中抜写　かたそきの記』	上賀越氏逸（写）	文化3年		「文化三年丙寅秋九月　従四位上賀越氏逸」ほか（奥付）
2944	『木のこころ職人の技』	増田俊彦	1999年	ゴマブックス	
2945	『宮廷の文化と生活』（岩波講座日本文学）	櫻井秀	1932年	岩波書店	
2946	『宮殿調度図解　附　乗物考』	関根正直	1913年	六合館書店	
2947	『京ことば』	中田余瓶（編）	1958年	中田與兵衛	
2948	『暁齋画談　内篇巻之上』	瓜生政和（編）、河鍋洞郁（画）	1887年	岩本俊	
2949	『暁齋画談　内篇巻之下』	瓜生政和（編）、河鍋洞郁（画）	1887年	岩本俊	
2950	『暁齋画談　外篇巻之上』	瓜生政和（編）、河鍋洞郁（画）	1887年	岩本俊	
2951	『暁齋画談　外篇巻之下』	瓜生政和（編）、河鍋洞郁（画）	1887年	岩本俊	
2952	『京都』（江戸時代図誌1）	林屋辰三郎・森谷尅久（編）	1975年	筑摩書房	
2953	『京都』（明治大正図誌10）	梅棹忠夫・森谷尅久（編）	1978年	筑摩書房	
2954	『京都・伝統の手仕事』	朝日新聞社（編）	1965年	朝日新聞社	

2955	『京都の老舗Ⅱ』（老舗シリーズ保存版5）			徳間書店	
2956	『京の匠』	高田秀利	1973年	鹿島研究所出版会	
2957	『享保の改革』（日本歴史シリーズ14）	大石慎三郎（編）	1966年	世界文化社	
2958	『共和政治国書』				朱書きあり
2959	『儀禮図説　巻二』				
2960	『近古文芸温知叢書』	岸上操（編）	1891年	博文館	
2961	『近世大名の美と心　彦根・井伊家』	難波田徹（編）	1992年	芸艸堂	
2962	『禁中年中行事略』				
2963	『頭書増補訓蒙図彙巻之四』		寛政元年	皇都書林	
2964	『頭書増補訓蒙図彙大成　四』	中村惕斎（編）			「梅園蔵書」（扉裏）
2965	「頭書増補訓蒙図彙　巻之八　器用」	中村惕斎（編）	元禄8年		
2966	『増補　訓蒙図彙　天文一　地理二　居処三』	中村惕斎（編）			
2967	『増補　訓蒙図彙　人物四　身体五　衣服六　宝貨七』	中村惕斎（編）			
2968	『増補　訓蒙図彙　器用一 八　器用二 九　器用三 十　器用四 十一』	中村惕斎（編）			
2969	『口遊　第六十七合』	源為憲（原著）			「文政四年庚巳九月日／令修理畢／寺社奉行所」（内題）
2970	『グローバルワイド　最新世界史図表』	第一学習社編集部（編著）		第一学習社	
2971	『黒谷に眠る人びと』（黒谷文庫8）	北川敏於	1990年	金戒光明寺	
2972	『桑の仕立方』		1925年	大日本蚕糸会秋田支会	「兵庫県農林技手　長岡澄夫　兎塚村駐在」（裏表紙）
2973	『群書系図部集　第一』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2974	『群書系図部集　第二』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2975	『群書系図部集　第三』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2976	『群書系図部集　第四』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2977	『群書系図部集　第五』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2978	『群書系図部集　第六』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2979	『群書系図部集　第七』	塙保己一（編纂）、太田藤四郎（補）	1973年	続群書類従完成会	
2980	『藝州厳島名所図会』	岡田清	1975年	日本資料刊行会	全2巻
2981	『けいせい色三味線　けいせい伝受紙子　世間娘気質』（新日本古典文学大系78）	江島其磧・長谷川強（校注）	1989年	岩波書店	
2982	『芸人風俗姿』（江戸風俗史2）	足立直郎	1957年	学風書院	
2983	『芸能辞典』	演劇博物館（編）	1953年	東京堂出版	
2984	『現行神社祭式行事作法教本』	長谷晴男、山田孝雄（校）	1946年		非売品、「神宮皇学館大学長文学博士山田孝雄先生校閲」「神宮皇学館大学附属専門部助教授　長谷晴男著」
2985	『原色図解　伝統工芸技法大事典　上』			東陽出版	
2986	『現代職人伝』	大谷晃一	1978年	朝日新聞社	
2987	『言文一致』				
2988	『源平の盛衰』（日本歴史シリーズ5）	遠藤元男ほか（編）	1966年	世界文化社	

2989	『工芸鏡　上』	横井時冬	1927年	六合館	
2990	『工芸鏡　下』	横井時冬	1927年	東陽六合館出版	
2991	『工藝百科大図鑑　第壱輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1936年	工藝百科大図鑑刊行会	
2992	『工藝百科大図鑑　第弐輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1936年	工藝百科大図鑑刊行会	
2993	『工藝百科大図鑑　第参輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1936年	工藝百科大図鑑刊行会	
2994	『工藝百科大図鑑　第四輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1936年	工藝百科大図鑑刊行会	
2995	『工藝百科大図鑑　第六輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
2996	『工藝百科大図鑑　第七輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
2997	『工藝百科大図鑑　第八輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
2998	『工藝百科大図鑑　第九輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
2999	『工藝百科大図鑑　第拾輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
3000	『工藝百科大図鑑　第拾壱輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1937年	工藝百科大図鑑刊行会	
3001	『工藝百科大図鑑　第拾弐輯』	国府田範造、五姓田芳（校閲）	1963年	工藝百科大図鑑刊行会	
3002	『広告風俗帳　広告昔ばなし』	松本剛	1970年	書苑	
3003	『皇室大百科　昭和五十年記念』	塩田勝（編）	1975年	朝日通信社	
3004	『考証　江戸事典』	南條範夫（編）	1964年	人物往来社	
3005	『考証　前賢故実』	菊池武保（原著）、菊池武丸・山下重民（編）	1903年	東陽堂支店	11冊、「明治三十六年三月十三日発行 東陽堂支店」（十巻・十一巻奥付）
3006	『五経図彙　巻上』	松本愚山（編）、林師彪（校）	寛政3年	北村四郎兵衛ほか	
3007	『五経図彙　巻中』	松本愚山（編）、林師彪（校）	寛政3年	北村四郎兵衛ほか	
3008	『五経図彙　巻下』	松本愚山（編）、林師彪（校）	寛政3年	北村四郎兵衛ほか	
3009	『五経図彙　巻之上』複写				
3010	『国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈　神戸市立博物館』	神戸市立博物館（編）	2000年	神戸市体育協会	
3011	『古今工芸図彙』	国府田範造（編）	1938年	照文社	
3012	『古今漆工通覧』	高木如水	1912年	桜樹軒	
3013	『古式に見る皇位継承「儀式」宝典』（別冊歴史読本絵解きシリーズ）		1990年	新人物往来社	改訂版
3014	『御即位大嘗祭　資料図譜　全』	清岡長言	1913年	京都史蹟会	
3015	『後醍醐天皇と高野山』	鷲尾順敬	1939年	総本山　金剛峯寺	
3016	『古代のメインロード　山陽道沿線物語』	神戸市教育委員会文化財課（編）	2001年	神戸市教育委員会文化財課	
3017	『骨董集　巻之一（上編上之巻）』	醒斎（山東京伝）	明治期	松雲堂書店	
3018	『骨董集　巻之二（上編中之巻）』	醒斎（山東京伝）	明治期	松雲堂書店	
3019	『骨董集　巻之三（上編下之巻前）』	醒斎（山東京伝）	明治期	松雲堂書店	
3020	『骨董集　巻之四（上編下之巻後）』	醒斎（山東京伝）	明治期	松雲堂書店	
3021	『骨董の旅』	光芸出版編集部（編）	1979年	光芸出版	西篇カ
3022	『骨董の旅』	光芸出版編集部（編）	1979年	光芸出版	東篇カ
3023	『骨董の旅Ⅳ　中国・四国・九州』		1979年	光芸出版	
3024	『骨董掘り出し旅行』	創樹社美術出版（編）	1980年	創樹社美術出版	

3025	『骨董屋入門』	光芸出版編集部（編）	1978年	光芸出版	
3026	『古典図説』	麻生磯次（編）	1965年	明治書院	
3027	『古典要語有職図辞典』	野本米吉	1952年	武蔵野書院	
3028	『古美術保存の知識』	登石健三	1970年	第一法規	
3029	『御宝物図絵』	南都法隆寺			
3030	『御宝物図絵』	南都法隆寺			
3031	『コミグラフィック　日本の古典　源氏物語　須磨～藤裏葉』	桑田次郎（画）、辻真先（構成）	1982年	暁教育図書	
3032	『金剛講必携』	高野山金剛流詠監室（編）	1996年カ	高野山金剛講総本部	
3033	『婚礼』（別冊太陽　日本のこころ10）	小笠原清信・遠藤武・金津滋（構成）	1975年	平凡社	
3034	『細工』（クラシックパターンシリーズ　江戸の模様2）	マール社編集部（編）	1983年	マール社	
3035	『冊封使　中国皇帝の使者』	沖縄県立博物館友の会（編）	1998年	沖縄県立博物館	
3036	『薩摩見聞記　全』	本富安四郎	1898年	東陽堂	
3037	『薩摩の伝統工芸』（かごしま文庫25）	飯田正毅	1995年	春苑堂出版	
3038	『三礼図　自一至四』	聶崇義（註）、菊池南陽（校）	宝暦11年	北村四良兵衛	
3039	『三礼図　自五至十』	聶崇義（註）、菊池南陽（校）	宝暦11年	北村四良兵衛	
3040	『三礼図　自十一至十五』	聶崇義（註）、菊池南陽（校）	宝暦11年	北村四良兵衛	
3041	『三礼図　自十六至二十』	聶崇義（註）、菊池南陽（校）	宝暦11年	北村四良兵衛	
3042	『シーボルト『日本』図録　第3巻』	中井晶夫（訳）	1978年	雄松堂書店	
3043	『色彩の考古学 「もの」から見た歴史の色』	神戸市教育委員会文化財課（編）	2000年	神戸市教育委員会文化財課	
3044	『史実江戸　第五巻』	樋口清之	1968年	芳賀書店	
3045	『実用　新修　雑祭式講義全書』	河野鐵憲	1937年	会道社	
3046	『実用漆工術』	石井吉次郎、一戸清方	1909年	博文館	
3047	『支那街頭風俗集』	宮尾しげを	1939年	実業之日本社	
3048	『写真明治大正60年史　1868-1926』	毎日新聞社図書編集部（編）	1956年	毎日新聞社	
3049	『趣味娯楽　芸能百科事典』	石黒敬七（監修）	1962年	東京書院	
3050	『正倉院』	小川晴暘（編）	1946年	高桐書院	
3051	『正倉院』	和田軍一	1955年	東京創元社	
3052	『正倉院と天平人の創意』（太陽正倉院シリーズⅣ）	関根真隆（監修）	1981年	平凡社	
3053	『商人日用書状箱大全』	龍章堂（筆）		摂都書林・五維堂	
3054	『少年工芸文庫　第十四輯　漆器の巻』	石井民司	1903年	博文館	
3055	『諸書抜写　全』	氏逸（写）			奥付あり
3056	『秦曲正名閾言』	北門子	1931年	渤海茂一	
3057	『神君御文』				
3058	『真言宗大本山　仁和寺門跡要誌』	石堂惠猛	1921年	仁和寺社務所	
3059	『神職宝鑑　上編』	半井真澄（編）	1899年	碧梧書院	
3060	『神職宝鑑　下編』	半井真澄（編）	1899年	碧梧書院	
3061	『新全国骨董の旅』	光芸出版編集部（編）	1993年	光芸出版	
3062	『清俗紀聞　巻之一』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	
3063	『清俗紀聞　巻之二』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	

3064	『清俗紀聞　巻之三・四・五』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	
3065	『清俗紀聞　巻之六・七・八』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	
3066	『清俗紀聞　巻之九・十・十一』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	
3067	『清俗紀聞　巻之十二・十三・跋』	中川忠英	寛永11年	西宮太助	
3068	『新版　漢字源』	藤堂明保・松本昭・竹田晃（編）	1994年	学習研究社	
3069	『新編　古文書入門』	高橋磌一（編）	1971年	河出書房新社	
3070	『新編　博物館学』	倉田公裕、矢島國雄	1997年	東京堂出版	
3071	『人倫訓蒙図彙』	田中ちた子・田中初夫（編）		渡辺書店	
3072	『図説梵字　密教の壁　悉曇参究』	徳山暉純	1974年	木耳社	
3073	『図典　神具と祭礼具』	出雲路敬直（編）、景山春樹（監修）	1978年	鎌倉新書	
3074	『青灣茶会図録　天』『青灣茶会図録　地』『青灣茶会図録　人』	田能村直入	文久3年	河内屋吉兵衛ほか	3冊1包
3075	『世界の民族と国家』	総合文化史研究会	1965年		
3076	『世界舞踊史』	クルト・ザックス、小倉重夫（訳）	1972年	音楽之友社	
3077	『全国古美術店案内　骨董の旅』	光芸出版編集部（編）	1978年	光芸出版	
3078	『全国古民具骨董　蚤の市案内』	竹日忠司	1984年	光芸出版	
3079	『原色日本の美術 20　染織・漆工・金工』	山辺知行、岡田譲、蔵田蔵		小学館	
3080	『総合日本史図表』	坂本賞三、福田豊彦（監修）	1997年	第一学習社	
3081	『増補校正　武用弁略　智』	木下義俊（編）、裴衣齋負暄子（校）			備器之部六　馬事之部七
3082	『創立10周年記念　和魂漢才字典』	藤堂明保（監修）、平井充良（編）	1983年	太陽神戸銀行	
3083	『続燕石十種　第一巻』		1980年	中央公論社	
3084	『続燕石十種　第二巻』		1980年	中央公論社	
3085	『続燕石十種　第三巻』		1980年	中央公論社	
3086	『素書国字解　坤』	荻生徂徠	明和6年	京都書林・江戸書林	
3087	『太平楽府』	胡逸滅方海、惠莱安陁羅（校）	明和6年（序）	只見屋調助・大井屋左平次	
3088	『竹』（ものと人間の文化史10）	室井綽	1973年	法政大学出版局	
3089	『玉菊とその三味線　完　知十編述』	岡野知十	1920年	小田原書房	
3090	『玉くしげ』	本居宣長（原著）			
3091	『多摩の新景』	田中清	1997年	田中清	
3092	『玉鉾百首』	本居宣長（原著）			朱書きあり
3093	『地位等級規則　地位詮論順席細目』		1876年カ		朱書あり、「当県第百四拾号（中略）明治九年六月三十日 愛知県令安塲保和」（1丁表）
3094	『智譜拙記抜書』		享保17年		「享保十七年卯月八日 従五位上賀茂縣主垂宝」（奥付）
3095	『西蔵・印度の文化』	岩井大慧	1942年	日光書院	
3096	『中華民族服飾900例』	孔令生（編）	2002年	雲南人民出版社	
3097	『中国学芸大辞彙』	近藤杢	1936年	立命館出版部	
3098	『中国故事物語』	常石茂（編）	1978年	河出書房新社	
3099	『中国の土偶　陶磁大系34』	佐藤雅彦	1972年	平凡社	
3100	『中日大辞典』	愛知大学中日大辞典編纂所（編）	1968年	中日大辞典刊行会	
3101	『徴古館陳列品略解』		1937年	神宮徴古館農業館	
3102	『勅語』				「髙峰真利子」の記名（裏表紙）

3103	「土笛　江別市旧町村農場出土」複写				
3104	『つつみの記　上の巻』	安齋伊勢（編）	天保11年		「包結図説」「静幽堂蔵梓」（扉裏）
3105	『鉄笛倒吹　風外老人弁　完』				「原明順蔵書」（印）
3106	『伝統芸能』		1972年	日本伝統芸能同交会	
3107	『天理教要義』	生駒藤雄	1950年	天理教道友社	
3108	『天理教要覧』	天理教教会本部（編）	1955年	天理教道友社	
3109	『天理参考館四十年史』	天理大学附属天理参考館	1973年	天理大学出版部	
3110	『藤園雑歌　長哥　■■』	松田直兄	弘化4年	出雲寺万次郎ほか	
3111	『東大寺と正倉院』（博物館文化史シリーズ8）	石田茂作（監修）、矢島恭介ほか（編著）	1953年	妙義出版社	
3112	『東北おもしろ博物館』	加藤貞仁	2001年	無明舎出版	
3113	『とかち野残照　及川博詩集』	及川博	1984年	及川博	
3114	『徳川十五代将軍総覧』（別冊歴史読本伝記シリーズ5）	百年社（編）	1977年	新人物往来社	
3115	『特集　明治のファッション』（よみうりカラームックシリーズTheあんてぃーくVOL.13）	田中宏治（編）	1992年	読売新聞社	
3116	『難得成就秘密法』				「不許他見者之」（末尾）
3117	『日本楽府』	頼山陽	文政13年		「文政十三年庚寅之冬月発行／江戸　須原屋伊八／大坂　河内屋茂兵衛／京都　吉田屋治兵衛」（奥付）
3118	『日本貨幣カタログ　1990』	日本貨幣商協同組合（編）	1989年カ	日本貨幣商協同組合	
3119	『日本芸能人名事典』	倉田喜弘、藤波隆之（編）	1995年	三省堂	
3120	『日本史要覧　年表・事典対照式』（シグマベスト）	芳賀幸四郎（編著）	1966年	文英堂	
3121	『日本「神社」総覧』（別冊歴史読本事典シリーズ）		1991年	新人物往来社	
3122	『日本神代文字　古代和字総観』	吾郷清彦	1975年	大陸書房	
3123	『日本の郷土玩具』（カラーブックス10）	木下亀城・篠原邦彦	1972年	保育社	
3124	『日本の職人』（角川選書86）	吉田光邦	1976年	角川書店	
3125	『日本の手づくり工芸』		1982年	読売新聞社	改訂新版
3126	『日本の人形芝居』	安田武	1976年	平凡社	
3127	『日本の文様15　楽器・調度』	今永清二郎ほか（編）	1988年	小学館	
3128	『日本風俗史講座　第3号』	長坂金雄（編）	1927-1929年	雄山閣	
3129	『日本風俗史講座　第4号』	長坂金雄（編）	1927-1929年	雄山閣	
3130	『日本風俗史図録　上巻』	江馬務	1945年	星野書店	
3131	『日本礼式図鑑』	日本神道宗家（編述）	1928年	日本神道宗家	
3132	『農業と林業』（京都府の民具2）	福田栄治（編）	1978年	京都府立総合資料館	
3133	『幕藩制の動揺』（日本歴史シリーズ16）	奈良本辰也（編）	1967年	世界文化社	
3134	『発掘された日本列島 2002　新発見考古速報』	文化庁（編）	2002年	朝日新聞社	
3135	『話の大事典　1』	日置昌一	1950-1951年	万里閣	
3136	『話の大事典　2』	日置昌一	1950-1951年	万里閣	
3137	『話の大事典　3』	日置昌一	1950-1951年	万里閣	
3138	『話の大事典　4』	日置昌一	1950-1951年	万里閣	

3139	『花の京都御所』	長谷章久	1971年	毎日新聞社	
3140	『埴輪の楽器［楽器史からみた考古資料］』	宮崎まゆみ	1993年	三交社	
3141	『彦根・清涼寺の美術』	彦根城博物館（編）	1991年	彦根市教育委員会	
3142	『彦根屏風への誘い』	彦根城博物館（編）	1998年	彦根市教育委員会	
3143	『美術工芸品の取り扱いと保存・管理上の注意 「指定文化財（美術工芸品）管理必携」稿』	文化財保護委員会事務局 美術工芸課（編）	1987年		
3144	『秘書禁他見 壱』				朱書あり
3145	『百人一首拾穂抄共ニ』		天和元年	北村季吟	「錦江亭」「百人一首拾穂抄共ニ」（表紙）
3146	『風流洞物語 京都随筆』	山田忠男	1963年	洛味社	
3147	『福岡県史 文化史料編2 盲僧・座頭』	西日本文化協会（編）	1993年	福岡県	
3148	『ふくしまの曙』（歴春ふくしま文庫49）	藤原妃敏	2006年	歴史春秋社	
3149	『袋物細工の技術 全』	山田きよ子・種村なか子	1909年	大蔵書店	
3150	『婦人宝典 巻の一』		1916年		
3151	『ぶらり骨董散歩 東京古美術店案内』		1990年	淡交社	
3152	『文化財の保存と修復』（NHKブックス301）	岩崎友吉	1977年	日本放送出版協会	
3153	『平安朝時代の風俗』（日本風俗史講座）	芝葛盛	1935年	雄山閣	
3154	『平家物語の考察』（岩波講座日本文学）	友枝照雄	1931年	岩波書店	
3155	『法隆寺』	小学館（編）	2006年	法隆寺	
3156	『法隆寺宝物考証』	禿氏祐祥（編）	1932年	龍谷大学史学会	
3157	『星の図』	小倉伸吉	1913年	大鐙閣	
3158	『戊辰正月 肥後藩小山氏文音写』		1868年		
3159	『梵漢阿弥陀経』		安永2年	文政堂 藤井佐兵衛	「明治四拾壱年二月二日求之」等の書入れあり
3160	『蒔絵』	荒川浩和	1962年	熱海商事	
3161	『蒔絵大全 巻四』	大岡春川、太田助二郎（画・編）	1889年	小林文士	
3162	『松浦屏風と大和文華館』（朝日・美術館風土記シリーズ12）	朝日新聞社（編）	1983年	朝日新聞社	
3163	『幻の琴師』	麻井紅仁子	1997年	梅里書房	
3164	『マヤ文明･インカ文明の謎』（グラフィティ・歴史謎事典6）	落合一泰、稲村哲也	1990年	光文社	
3165	『密教大辞典 1』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3166	『密教大辞典 2』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3167	『密教大辞典 3』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3168	『密教大辞典 4』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3169	『密教大辞典 5』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3170	『密教大辞典 6』	密教辞典編纂会（編）	1968-1970年	法蔵館	
3171	『南太平洋 楽園に帰る』	佐藤秀明（写真）、野田知佑（文）			
3172	『民族のことばの誕生』（日本語の歴史1）	亀井孝、大藤時彦、山田俊雄（編）	1963年	平凡社	
3173	『むすひの記 下の巻』	伊勢貞丈	元治元年	静幽堂	「包結記」（版心）

3174	『明治三十年一月　創設二十五年記念博覧会規則』	五二会京都雑貨部事務所	1897年	京都合資商報会社	
3175	『明治天皇御大喪記』	坂本辰之助	1912年	至誠堂書店	
3176	『明治の沖縄』	佐久田繁	1972年	月刊沖縄社	1896年6月発行「沖縄風俗図」の復刻版
3177	『明治を伝えた手』	杉村恒	1969年	朝日新聞社	
3178	『冥途の飛脚』	近松門左衛門、鶴見誠・吉永孝雄（編）	1972年	桜楓社	
3179	『銘木　床之間用材之栞』			瀬山商店	
3180	『メキシコ　インディオとアステカの文明を探る』	マイケル・D.コウ、寺田和夫・小泉潤二（訳）	1975年	学生社	
3181	『目で見るふれあいの言葉　百万人の手話』	丸山浩路	1989年	ダイナミックセラーズ	
3182	『盲唖人物伝』	村上久吉	1943年	潮文閣	
3183	『盲人の生活』（生活史叢書34）	大隈三好、生瀬克己（補訂）	1998年	雄山閣	
3184	『盲人の歴史』	谷合侑	1996年	明石書店	
3185	『本居宣長小伝』	山田勘蔵	1968年	松坂市役所	
3186	『ものしり事典　芸能娯楽篇　上』	日置昌一	1953年	河出書房	
3187	『ものしり事典　芸能娯楽篇　下』	日置昌一	1953年	河出書房	
3188	『茂呂毛路古々於保江』				朱書、花押あり
3189	『文部省検定済教科書　木工材料2』	中村源一	1954年	実教出版	
3190	『柳田國男入門』	大藤時彦	1973年	筑摩書房	
3191	『ヤマダチ　山と暮らし　失われゆく狩りの習俗』（第37回特別展）		1998年	遠野市立博物館	
3192	『大和古物散策』	岡本彰夫	2000年	ぺりかん社	
3193	『有職故実図鑑』	河鰭実英（編）	1971年	東京堂出版	
3194	『横笛との出会い』	美濃晋平	1981年		
3195	『例解古語辞典』	佐伯梅友・森野宗明・小松英雄	1986年	三省堂	
3196	『歴史参考　集古図譜』	好古社出版部（編）	1906年	青山堂ほか	
3197	『蘆花浅水』	早苗会（編）	1935年	芸艸堂出版部	
3198	『六郷のカマクラ　国指定重要無形民俗文化財』				
3199	和歌・人名などの記録				「佐竹たみ所有」（奥付）、朱書あり
3200	『和漢三才図会』	寺島良安	1906年	吉川弘文館	
3201	『和漢三才図会』	寺嶋良安	1906年	吉川弘文館	
3202	『和漢三才図会　第一冊』	寺島良安	1901年	中外出版社	序（pp.1-14）・凡例（pp.1-2）・目録（pp.1-10）・巻之一〜巻之二十（pp.1-414）
3203	『和漢三才図会　第二冊』	寺島良安	1901年	中外出版社	目録（pp.11-23）・巻之二十一〜巻之五十二（pp.415-774）
3204	『和漢三才図会　第三冊』	寺島良安	1901年	中外出版社	目録（pp.25-40）・巻第五十三〜巻之第七十一（pp.775-1190）
3205	『和漢三才図会　第四冊』	寺島良安	1901年	中外出版社	目録（pp.42-50）・巻第七十二〜巻之第八十一（pp.1191-1522）
3206	『和紙』（別冊太陽　日本のこころ40）	吉岡幸雄（構成）	1982年	平凡社	
3207	『和紙の文化史』	久米康生	1976年	木耳社	
3208	『Festschrift　1000 Jahre Rellinghausen』	Hans Schroer	1995年	Festkommitee	
3209	『NHK　国宝への旅　18』	NHK取材班	1989年	日本放送出版協会	

3210	『NHK　徳川美術館　1　奥道具の華　源氏物語絵巻と初音の調度』	徳川義宣（監修）、NHK名古屋放送局（編）	1988年	NHK出版	

1-2. 定期刊行物

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3211	『NATIONAL GEOGRAPHIC 世界地図に描かれた日本　第11巻第4号』		2005年	日経ナショナル ジオグラフィック社	
3212	『アート・トップ　182号』		2001年	芸術新聞社	特集「アジアの宗教美術　信仰から生まれた多彩な造形」
3213	『熱田神宮　宝物館だより No.23』	岡田芳幸（編）	1985年	熱田神宮宝物館	
3214	『大阪春秋　No. 117』		2004年	新風書房	
3215	『歌舞伎　第20号』		1973年	松竹株式会社	
3216	『画報　千年史　第3集』		1958年	国際文化情報社	
3217	『画報　風俗史　第1集』		1957年	国際文化情報社	
3218	『画報　風俗史　第7集』		1958年	国際文化情報社	
3219	『画報　風俗史　第8集』		1959年	国際文化情報社	
3220	「九州で発見の銅鐸鋳型」		1980年	京都新聞	『京都新聞』
3221	『教育じほう　370号』		1978年	東京都新教育研究会	
3222	『芸術生活　第26巻第5号』		1973年	芸術生活社	
3223	『月刊文化財　31号』		1966年	第一法規	
3224	『皇室の名宝01　正倉院　北倉（週刊朝日百科）通巻1218号』		1999年	朝日新聞社	
3225	『皇室の名宝03　正倉院　南倉（週刊朝日百科）通巻1220号』		1999年	朝日新聞社	
3226	『骨董ファン　VOL.19』		2001年	西洋堂	
3227	『サライ　199号』		1997年	小学館	
3228	『散歩の達人　113号』		2005年	交通新聞社	
3229	『週刊朝日百科日本の歴史5　中世Ⅰ　平家物語と愚管抄』		1986年	朝日新聞社	
3230	『太陽　1969年5月号/No.71 特集　元禄・その美　その暮らし』		1969年	平凡社	
3231	『太陽　1974年5月号/No.132 特集・大正時代』		1974年	平凡社	
3232	『太陽　1976年9月号/No.160 特集　古地図を歩く』		1976年	平凡社	
3233	『太陽　1993年9月号/No.387　特集　アジア骨董紀行　香港・台湾篇』		1993年	平凡社	
3234	『多摩ら・び 2004 No.27 特集　五日市線沿線』		2004年	けやき出版	
3235	『茶のあるくらし　なごみ3 '92』		1992年	淡交社	
3236	『翼の王国　No. 6』		2007年	ANA「翼の王国」編集部	
3237	『遠江　16号』	浜松史跡調査顕彰会専門委員会	1993年	浜松史跡調査顕彰会	
3238	「日中平和友好条約を1日も早く」				新聞記事
3239	『日本の美術 16　仏具』	蔵田蔵（編）	1967年	至文堂	
3240	『日本の美術 20　近世初期風俗画』	武田恒夫（編）	1967年	至文堂	
3241	『日本の美術 25　木竹工芸』	木内武男（編）	1968年	至文堂	
3242	『日本の美術 86　像内納入品』	倉田文作（編）	1973年	至文堂	
3243	『日本の美術 132　職人尽絵』	石田尚豊（編）	1977年	至文堂	

3244	『日本の美術 304　漆芸―伝統工芸』	柳橋眞（編）	1991年	至文堂	
3245	『美術の窓　No.74』		1989年	生活の友社	
3246	『風俗画報　第15号』		1890年	東陽堂	
3247	『風俗画報　第59号』		1893年	東陽堂	
3248	『風俗画報　第76号』		1894年	東陽堂	
3249	『風俗画報　第100号』		1895年	東陽堂	
3250	『風俗画報　第102号』		1895年	東陽堂	
3251	『風俗画報　第104号』		1895年	東陽堂	
3252	『風俗画報　第166号』		1898年	東陽堂	
3253	『風俗画報　第242号』		1901年	東陽堂	
3254	『風俗画報　総細目　第6分冊（第143～165号）』	朝倉治彦（編）	1976年	明治文献版	
3255	『風俗研究　第44号』		1924年	風俗研究會	
3256	『筆之友　第186号』		1915年	書道奨励協会本部	
3257	『文協文芸　第17号』			清水町文化協会	
3258	『文藝春秋デラックス　1975年新年号　目で見る日本史・忠臣蔵の元禄』		1975年	文藝春秋	
3259	『ほんとうの時代　通号163号』		2004年	PHP研究所	
3260	『目の眼　No.387』		2008年	里文出版	
3261	『文部科学時報　＜特集＞ユネスコが創る未来 持続発展教育（ESD）　第1608号』		2010年	文部科学省	
3262	『八雲立つ　風土記の丘 No.152～155合併号』複写		1999年	島根県立八雲立つ風土記の丘	
3263	『Cultivate　NO. 35』		2010年	文化環境研究所	
3264	『FRONT　124号』		1999年	リバーフロント整備センター	特集「和楽器　水にかかわる音の世界」
3265	『FRONT　124号』		1999年	リバーフロント整備センター	特集「和楽器　水にかかわる音の世界」
3266	『FRONT　124号』		1999年	リバーフロント整備センター	特集「和楽器　水にかかわる音の世界」
3267	『NATIONAL GEOGRAPHIC 世界地図に描かれた日本　第11巻第4号』		2005年	日経ナショナル ジオグラフィック社	

1-3. 論文・報告書

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3268	「岩手県陸前高田市　堂の前貝塚」複写	岩手県陸前高田市教育委員会（編）	1972年		
3269	『神奈川県鎌倉市蔵屋敷東遺跡 江ノ電鎌倉ビル建設工事に伴う中世市街地遺跡の発掘調査概報』	江ノ電鎌倉ビル発掘調査団（編）	1983年	江ノ電鎌倉ビル発掘調査団	
3270	『藝能文化史　第5号』	芸能文化史研究会（編）	1982年	芸能文化史研究会	
3271	「剣鉾考」	出雲路敬	1971年	京都精華女子高等学校	『京都精華学園研究紀要　第9輯』抜刷
3272	『考古学雑誌　第66巻第1号』		1980年	日本考古学会	
3273	『国立民族博物館研究報告　第166号』	国立民族博物館（編）	2011年	国立民族博物館	
3274	『正倉院紀要　第22号』	宮内庁正倉院事務所（編）	2000年	宮内庁正倉院事務所	
3275	『資料館紀要　第8号』		1980年		
3276	『資料館紀要　第11号』		1983年		
3277	「壬申検査社寺宝物図集と正倉院宝物」複写	木村法光	2000年	宮内庁正倉院事務所	『正倉院紀要　第22号』pp.41-51
3278	『天理参考館報17』		2003年	天理参考館	

3279	『東北学　Vol.3　狩猟文化の系譜』	赤坂憲雄（責任編集）	2000年	東北芸術工科大学東北文化研究センター	
3280	「土製模造品の調査」複写				
3281	『富ノ沢（2）遺跡6　富沢（3）遺跡』	青森県教育委員会	1993年	六一書房	青森県埋蔵文化財調査報告書第147集
3282	『長野県考古学会誌―縄文中期試験論特集　28号』複写	長野県考古学会（編）	1977年		
3283	『日本考古図録大成第四輯　梵鐘』	坪井良平	1930年	日東書院	
3284	『日本舞踊研究』	日本舞踊協会（編）	1963年	日本舞踊協会	「1963／4」（表紙）
3285	『日本文學誌要　第32号』複写	法政大學國文學會(編)	1985年	法政大學國文學會	
3286	『浜松市楽器博物館フィールドワーク報告書　Vol. 1』	浜松市楽器博物館(編)	1998年	浜松市楽器博物館	
3287	『浜松市楽器博物館フィールドワーク報告書　Vol. 2　国外フィールドワーク　パナマ・グアテマラ・メキシコ』	浜松市楽器博物館(編)	1999年	浜松市楽器博物館	
3288	『彦根城博物館研究紀要　第7号』	彦根城博物館（編）	1996年	彦根城博物館	
3289	『彦根城博物館研究紀要　第8号』	彦根城博物館（編）	1997年	彦根市教育委員会	
3290	『彦根城博物館研究紀要　第10号』	彦根城博物館（編）	1999年	彦根市教育委員会	
3291	『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告12　江平遺跡（第二分冊）』	財団法人福島県文化振興事業団（編）	2002年	福島県教育委員会・財団法人福島県文化振興事業団・福島県土木部	福島県文化財調査報告書第394集
3292	『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告12　江平遺跡（第三分冊）』複写	財団法人福島県文化振興事業団（編）	2002年	福島県教育委員会・財団法人福島県文化振興事業団・福島県土木部	福島県文化財調査報告書第394集
3293	『星塚・小路遺跡の調査』	天理市教育委員会(編)	1990年	天理市教育委員会	天理市埋蔵文化財調査報告第4集
3294	『前田遺跡（第Ⅱ調査区）』		2001年	八雲村教育委員会	八雲村文化財調査報告19
3295	『明治大学大学院紀要　文学篇第28集』複写	明治大学大学院（編）	1991年	明治大学大学院	1990年度

1-4. カタログ・チラシ

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3296	『アジアの芸能文化』	石川県立歴史博物館、岐阜市歴史博物館(編)	1990年	石川県立歴史博物館	図録
3297	『アゼルバイジャンの銅工芸品』			アゼルバイジャン共和国文化省	パンフレット
3298	『井伊家名宝展』	中日新聞（編）	1986年	中日新聞	図録、東京・伊勢丹美術館／名古屋・松坂屋本店リビンザー階（会場）、1986年1月4日-1月19日／1月23日-1月28日（会期）、東京新聞／中日新聞（主催）
3299	『石川県立郷土資料館』				パンフレット
3300	『インカ帝国・　三千年展』	寺田和夫（編）	1978年	読売新聞社	図録
3301	『インド古代美術展』	日本経済新聞社企画部	1963年カ	日本経済新聞社	図録、東京国立博物館／京都市美術館(会場)、1963年11月3日-1964年1月12日／1964年1月26日-3月15日（会期）
3302	『受け継がれてきた　しずおかの民俗文化』	静岡市無形民俗文化財保存団体連絡協議会(編)	2012年	静岡市無形民俗文化財保存団体連絡協議会	パンフレット
3303	『美しい文字　故宮文物宝蔵新編―書法篇』				
3304	『宇和島伊達家伝来品図録』	宇和島市立伊達博物館・宇和島伊達文化保存会（編）	2007年	宇和島市立伊達博物館	
3305	『第11回永青文庫展　明・清の美術と工芸』		1981年	熊本県立美術館	図録、熊本県立美術館（会場）、1981年9月12日-10月18日（会期）

3306	『エチオピア国宝展　太陽と獅子と武勇の帝国』		1970年	読売新聞社	図録、小田急百貨店本館（会場）、1970年4月4日-4月21日（会期）
3307	『江戸のデザイン展　初公開印籠根付コレクション』	静嘉堂文庫美術館(編)	2000年	静嘉堂文庫美術館	図録、静嘉堂文庫美術館（会場）、2000年9月30日-11月26日（会期）
3308	『えびす様の総本宮　美保神社略記』				パンフレット
3309	『大阪音楽大学 水川記念館案内』	大阪音楽大学			パンフレット
3310	『大津土産　吃又平名画助刀　前編』				カタログ
3311	『沖縄の歴史』	大阪市立博物館、朝日新聞社（編）	1972年	大阪市立博物館、朝日新聞社	図録、東京・三越／大阪・市立博物館／名古屋・オリエンタル中村ほか（会場）、3月7日－3月12日／3月18日－4月16日／4月18日－4月23日ほか（会期）、三隅治雄（当時　東京国立文化財研究所）ほか協力
3312	『陰陽魔除　信州の木彫　道神面　宮田嵐村』	日本民芸社			チラシ、松本名所　信州庶民館信州（松本・里山辺）（会場）
3313	『開館五周年　加賀文化の華　前田綱紀』	石川県立美術館（編）	1988年	石川県立美術館	図録、石川県立美術館（会場）、1988年10月1日-10月26日（会期）
3314	『春日大社』				パンフレット
3315	『春日大社　古神宝宝物図録』	春日大社社務所（編）		春日大社社務所	
3316	『春日若宮　おん祭と古神宝』				図録
3317	『金城商報　10月号　第133号』		1931年	金城ゴム商会	パンフレット
3318	『歌舞伎筋書　第78号』	木村松次郎（編）	1905年	木村松次郎	プログラム（筋書）、「当ル巳歳弥生興行／歌舞伎座狂言／筋書」（表紙）
3319	『川越まつり』				パンフレット
3320	『企画展示　古代人と動物』	神戸市教育委員会文化財課（編）	1993年	神戸市教育委員会	図録､神戸市埋蔵文化財センター(会場)、1993年8月17日-9月26日（会期）
3321	『大正弐年拾壹月　九州帝国大学　医科大学　祝賀会記録』	九州帝国大学医科大学内　記念祝賀会本部(編)	1913年	九州帝国大学医科大学内　記念祝賀会本部	
3322	『京・揚屋文化の粋　角屋名品図録』	狩野博幸（編）	1992年	角屋文芸社	
3323	『大正八年五月狂言　帝国劇場筋書』		1919年		プログラム（筋書）
3324	『京都の美術工芸　その伝統と精粋　万博記念特別展』	京都市美術館	1970年	京都市美術館	
3325	『京都府立　総合資料館』			京都府立総合資料館	パンフレット
3326	『京に生きづく手しごと展　”伝産法”非指定品をあつめて』	北澤康男（文）		京都市経済局伝統産業課	パンフレット、京都市伝統産業会館（会場）、2月25日-3月1日（会期）、京都市経済局伝統産業課（主催）
3327	『近世大名の生活と美―徳川美術館の名品を集めて―』	徳川美術館（編）	1985年	岐阜市歴史博物館	図録、開館記念特別展、岐阜市歴史博物館（会場）､1985年11月1日-12月1日（会期）
3328	『近世大名の美と心　井伊家伝来の名宝』	彦根城博物館（編）	1987年	彦根城博物館	図録
3329	『桑名今昔　歴史と未来を刻む、水郷のまち』				パンフレット、「桑名市勢要覧」（表紙）
3330	「国内開催博覧会関係資料所在一覧」複写				
3331	『国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈』	神戸市立博物館（編）	1982年	神戸市健康教育公社	
3332	『国立民族学博物館　総合案内』	国立民族学博物館(編)	1977年	民族学振興会	図録
3333	『国立歴史民俗博物館』	国立歴史民俗博物館	1983年	講談社	図録
3334	『古面の美　信仰と芸能　特別陳列　古代の人面・鬼面』	京都国立博物館（編）	1980年	京都国立博物館	図録、京都国立博物館（会場）、1980年10月7日-11月24日（会期）
3335	『座臥両用　新案特許　書見台』				チラシ
3336	『真田家と佐久間象山』			長野市観光協会・松代観光事業振興会	パンフレット、「長野市真田宝物館・真田邸　松代藩文武学校･象山記念館」（表紙）

3337	『真田と象山』			長野市	パンフレット
3338	「三府翫弄品問屋」	三木伊作			広告カ
3339	『シーボルトと日本　日本・オランダ修好380年記念』	京都国立博物館、東京国立博物館、朝日新聞社（編）	1988年頃	朝日新聞社	図録、京都国立博物館／名古屋市博物館／東京国立博物館（会場）、1988年3月29日-5月5日／1988年5月14日-6月12日／1988年6月21日-7月31日（会期）
3340	『シーボルト父子のみた日本　生誕200年記念』	ドイツ-日本研究所・東京都江戸東京博物館、国立民族学博物館（編）	1996年	ドイツ-日本研究所	図録、林原美術館／東京都江戸東京博物館／国立民族学博物館（会場）、1996年2月10日-11月19日（会期）
3341	『鹿　知床博物館第18回特別展』	増田泰（作成）	2001年（第2刷）	斜里町立知床博物館協力会	1996年10月1日-12月21日（会期）
3342	『式内大社　杜本神社略記』			杜本神社々務所	パンフレット
3343	『時代や書店目録　第144号　幕末明治の錦絵・一枚摺』		2010年	時代や書店	
3344	『島根県立博物館』				パンフレット
3345	『正倉院展目録』	奈良国立博物館	1961年	奈良国立博物館	1961年10月22日-11月5日（会期）
3346	『正倉院展目録』	奈良国立博物館	1967年	奈良国立博物館	1967年10月22日-11月5日（会期）
3347	『正倉院展目録』	奈良国立博物館	1967年	奈良国立博物館	1967年10月22日-11月5日（会期）
3348	『正倉院展目録』	奈良国立博物館	1975年	奈良国立博物館	1975年10月26日-11月9日（会期）
3349	『正倉院宝物目録』	東京国立博物館	1981年	東京国立博物館	東京国立博物館（会場）、1981年10月31日-11月25日（会期）
3350	『正倉院展 2006 The 58th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	奈良国立博物館	2006年	奈良国立博物館	
3351	『平成十八年　正倉院展』	奈良国立博物館	2006年	奈良国立博物館	第58回
3352	『平成二十二年　正倉院展』	奈良国立博物館	2010年	奈良国立博物館	第62回
3353	『じょうもん発信』複写		1993年	岩手県立博物館	図録、部分的に複写、第8回国民文化祭記念、第37回企画展
3354	『市立旭川郷土博物館』				パンフレット
3355	『資料館紀要　第7号』	京都府立総合資料館（編）	1979年	京都府立総合資料館	
3356	『新案特許第八八五四六号　座臥両用　高低傾斜　自由書見台』				チラシ
3357	『図録　第2集』	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（編）	1978年	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	
3358	『全国発明くふうコンクール　第24回入選作品一覧』		1983年		パンフレット、東京日本橋・三越本店7階（会場）、1983年2月1日-2月6日（会期）、社団法人発明協会・NHK（主催）
3359	『中華人民共和国シルクロード文物展　陝西・甘粛・新疆出土漢-唐』		1979年	読売新聞社	図録、東京国立博物館／大阪市立美術館（会場）、1979年3月20日-5月13日／1979年5月19日-7月8日（会期）、東京国立博物館・日本中国文化交流協会・読売新聞社／大阪市立美術館・日本中国文化交流協会・大阪商工会議所・読売新聞大阪本社（主催）
3360	『中国敦煌壁画展』	毎日新聞社（編）	1982年	毎日新聞社	図録、日本橋・高島屋／なんば高島屋／四条高島屋ほか3会場（会場）、1982年4月8日-5月3日／1982年5月5日-5月18日／1982年6月3日-6月22日ほか（会期）
3361	『徴古館陳列目録』		1942年	神宮徴古館農業館	目録
3362	『津南町歴史民俗資料館』	津南町歴史民俗資料館			パンフレット
3363	『津南町歴史民俗資料館』	津南町歴史民俗資料館			パンフレット
3364	『天皇陛下御即位十年記念　皇室文化と平成』		1999年	社団法人時事画報社	
3365	『第32回企画展　おもちゃ絵の世界』	天理大学附属天理参考館（編）	1996年	天理大学附属天理参考館	図録、天理大学附属天理参考館（会場）、天理大学附属天理参考館（主催）
3366	『第38回企画展　中国の玩具』	天理大学附属天理参考館（編）	1997年	天理大学出版部	図録、天理大学附属天理参考館（会場）、1997年6月28日-8月4日（会期）

3367	『第42回企画展　真柱継承奉告祭記念　華ひらいた縄文の世界　東北　亀ヶ岡文化』	天理大学附属天理参考館（編）	1998年	天理大学出版部	図録、天理大学附属天理参考館（会場）、10月16日-12月6日（会期）
3368	『天理ギャラリー第26回展　原始仮面　呪術的人間のさまざまな顔』		1970年	東京天理教館	図録、天理ギャラリー（会場）、1970年3月16日-6月30日（会期）
3369	『天理ギャラリー第46回展　日本の古活字本』		1977年	東京天理教館	パンフレット
3370	『天理ギャラリー第156回展　青銅のまつり―光と音の幻想』	天理大学附属天理参考館（編）	2015年	天理ギャラリー	図録、天理ギャラリー
3371	『東京国立博物館　資料館　利用案内』			東京国立博物館	パンフレット
3372	『東京国立博物館　資料館案内2012』	東京国立博物館学芸企画部・博物館情報課情報資料室（編）	2013年	東京国立博物館学芸企画部・博物館情報課情報資料室	パンフレット
3373	『友好都市・行田市交流企画展東国の埴輪たち』	桑名市博物館（編）	2002年	桑名市博物館	図録
3374	『東国の埴輪たち出品目録』		2004年		桑名市博物館（会場）、2004年9月18日-10月20日（会期）
3375	『東寺　弘法大師と密教美術』	東寺文化財保護部(編)	1973年	弘法大師御誕生千二百年記念事業部	図録
3376	『彰考館蔵　水戸徳川家名宝展』	徳川美術館（編）	1973年	徳川美術館	図録、1973年9月29日-10月28日（会期）、財団法人水府明徳会彰考館・財団法人徳川黎明会徳川美術館・中日新聞社（主催）
3377	『新版　徳川美術館蔵品抄①　徳川美術館の名宝』	徳川美術館	1995年	徳川美術館	図録
3378	『開館60周年記念　春季特別展　徳川美術館の名宝』		1995年	徳川美術館	図録、徳川美術館（会場）、1995年4月15日-6月4日（会期）、徳川美術館・中日新聞社（主催）
3379	『徳川美術館展』				図録
3380	『特別展　古神宝　神々にささげた工芸の美』		1989年	奈良国立博物館	図録、奈良国立博物館（会場）、1989年3月11日-4月9日（会期）
3381	『特別展　正倉院宝物』		1981年		ポスター、東京国立博物館（会場）、1981年10月31日-11月25日（会期）
3382	『特別展　縄文人と弥生人　～その時代を生きた人々の表情～』	神戸市教育委員会文化財課（編）	1998年	神戸市教育委員会文化財課	図録､神戸市埋蔵文化財センター(会場)、1998年10月3日-11月15日（会期）、神戸市教育委員会（主催）
3383	『特別展　繭と糸　～養蚕と機織の道具と信仰』	東村山ふるさと歴史館(編)	2002年	東村山ふるさと歴史館	パンフレット
3384	『特別展　むかしの音を見る　音の民俗学　―生活の中の音の再発見―』		1985年		図録、静岡市立登呂博物館（会場）、1985年4月2日-5月30日（会期）
3385	『特別展　絵巻』		1974年	東京国立博物館	図録、東京国立博物館（会場）、1974年10月10日-11月24日（会期）
3386	『特別展覧会　平家納経と厳島の秘宝』	京都国立博物館（編）	1972年	京都国立博物館	図録、京都国立博物館（会場）、1972年10月7日-11月5日（会期）
3387	『土俗玩具大番付』		1998年		1921年大阪発行のものを復刻
3388	『特許電子図書館サービス　利用マニュアル』		1999年	特許庁	パンフレット
3389	『第五回内国勧業博覧会出品目録　第九部　教育・学術・衛生及び経済　別館』	第五回内国勧業博覧会事務局	1903年	第五回内国勧業博覧会事務局	目録
3390	『名古屋市博物館特別展　ええじゃないかの不思議―信仰と娯楽のあいだ』	名古屋市博物館（編）	2006年		図録、名古屋市博物館
3391	『ナショナル受信機　招待景品付大売出し』				チラシ
3392	『日光東照宮の宝物』	日光東照宮社務所(編)	1985年	日光市山内	図録

3393	『日本館　2005年日本国際博覧会政府出展事業』	経済産業省（企画）、アサツー ディ・ケイ（編集・制作）	2005年	経済産業省	図録
3394	『第一回　日本象牙工芸展』		1996年	日本象牙美術工芸組合連合会	図録
3395	『日本の美「かざりの世界」展』	カタログ編集委員会（編）	1988年	NHKサービスセンター	図録
3396	「昭和13年度　入学案内」	東京高等音楽学院	1938年		パンフレット
3397	『人形文化資料　展覧会目録』	国立国会図書館（編）	1949年	国立国会図書館	
3398	『版画展　音楽のあるイメージ The Fun of Musical Prints』	Arcadia	1990年	Arcadia	図録、Arcadia（会場）、1990年11月13日-11月30日（会期）
3399	『彦根・清涼寺の美術』	彦根城博物館（編）	1991年	彦根市教育委員会	
3400	『百万石文化園　江戸村』			日本放送出版協会	パンフレット
3401	『仏教工芸の美　堂内荘厳の粋をあつめて』		1982年	奈良国立博物館	図録、特別展「仏教工芸の美　堂内荘厳の粋をあつめて」、奈良国立博物館（会場）、1982年4月29日-5月30日（会期）
3402	仏像関係図録　複写				
3403	『法会用具の美』	東寺（教王護国寺）宝物館（編）	1989年	東寺（教王護国寺）宝物館	図録、平成元年春季特別公開「秘宝　法会用具の美」展、東寺宝物館（会場）
3404	『法隆寺献納宝物目録』	東京国立博物館（編）		東京国立博物館	
3405	『北海道開拓記念館　総合案内』	北海道開拓記念館(編)		北海道開拓記念館	
3406	『北海道の馬文化　第61回特別展』	北海道開拓記念館(編)	2005年	（社）北海道開拓記念館、開拓の村文化振興会	図録、北海道開拓記念館
3407	『みやび』		1982年	大槻装束店	パンフレット
3408	『武蔵野美術大学・民俗資料展 くらしの造形17　ぱいぬかじ ―沖縄の風土と民具―』		2006年	武蔵野美術大学美術資料図書館民俗資料室	図録、武蔵野美術大学美術資料図書館2階展示室13号館2階民俗資料室ギャラリー（会場）、2006年10月28日-12月6日（会期）、武蔵野美術大学美術資料図書館（主催）
3409	『明治村』				パンフレット
3410	『博物館明治村』			博物館明治村	パンフレット、財団法人 博物館明治村（会場）、3月1日-2月末日（会期）
3411	『モンゴル秘宝展』				図録
3412	『ラヂオと電気蓄音機　テレビアンC-480号』			山中電機株式会社	チラシ
3413	臨済宗妙心寺派大本山妙心寺パンフレット				
3414	『Terres lointaines : Collections d'outre-mer du Musée d'Aquitaine. Cultures et sociétés』	P. Matharan	1991年	Cultures et sociétés	図録
3415	『THE Y.T. SysTEM "VIOLEYOR"　CATALOGUE』			高原電機製作所	パンフレット、「第百三十三号」

1-6. 書面

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3416	阿川安太夫宛の書状		慶長3年		冒頭に「源氏伊勢物語切紙之儀」とあり
3417	「口上」	ちよせ			
3418	「大仏之入目定」	太閤秀吉公三奉行／増田右衛門尉長盛筆写	慶長18年		愛山徳正寺什物
3419	歌に関する書カ				印記あり
3420	絵画関連の書状	衛士藤井土佐掾	寛政元年		「冷泉中納言 葉室中納言 風早三位 御雑掌御中」
3421	歌詞集				須磨、明石ほか
3422	賀茂神社に関する書面				
3423	賀茂神社に関する書面カ		宝永6年		「宝永六巳丑年五月」
3424	「画柳の記」				扇形

3425	漢詩とその注釈カ				
3426	弓道の弦に関する書カ				
3427	軍記カ				安土桃山以降、破れ・虫食い多
3428	『庚申三月　井伊家一条』				「癸亥三月 御所御書附写」（表紙）
3429	作品名等の一覧				
3430	詩歌の解釈カ				
3431	「受思鈴木芹波」				「故川岡恩人十五尊霊謝恩祭偶咸」
3432	「春興賦」				虫食い多数、裏面に「三省」
3433	「全国漆器漆生産府県総合共進会規則」		1898年カ		1898年4月13日～6月10日まで京都府京都市で開催された「全国漆器生産府県総合共進会」出品に関する規則
3434	「長防士民会議書」		元治2年		
3435	通貨とその由来に関する文献の抜き書きカ				
3436	「貞丈随筆ハ壱ノ門ニ左ノコトリ見」				
3437	「濃礼」				
3438	祓詞の書付				
3439	『日置流指南哥』	賀茂縣主季雄、賀茂縣主氏高（写）	明和7年、文久3年		弓道関係
3440	船に関する書				
3441	『文林良材之中　抜書　全』				
3442	妙楽寺　御隠居宛書状	本居中衛			
3443	『明治未夏　な■　紀州』				「式部」
3444	「八鬼神巻之弐」				

1-7. メモ・ノート

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3445	印影　複写				
3446	『器　多武峯』	及川尊雄			楽器の素材ほかメモ
3447	「漆」「樺巻の巻き方　秘書」	及川尊雄			レポート用紙、「漆」（漆の使用法等について）8枚、「樺巻の巻き方　秘書」7枚
3448	漆塗りの手順・用途など				方眼紙
3449	神社関係物品価格一覧				
3450	「智恵の庫　あいうえを順」	及川尊雄			レポート用紙
3451	本居宣長の歌と肖像画				紙片、模写カ

1-8. 文献その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3452	漢詩文の写しカ				「石井■■写」
3453	漢詩文の写しカ				「桑海女史若●」（●は亠に鸞、本文）
3454	漢詩文の臨書カ				筆書
3455	漢詩文の臨書カ				「北筑産井上彦■」、筆書
3456	「京都商工人名録」複写		1903年		目次（pp.4-5）・本文（pp.52-53）
3457	「京都商工人名録」複写		1907年		「京都府立図書館印」あり、凡例　目次（p.1）・本文（pp.30-31）
3458	「京都商工人名録」複写		1919年		「京都府立総合資料館蔵書印」あり、目次（pp.6-7）・本文（pp.108-109 ）
3459	「京都商工人名録」複写		1922年		「京都府立総合資料館蔵書印」あり、目次（pp.6-7）・本文（pp.150-151）
3460	「京都商工人名録」複写		1924年		「京都府立総合資料館蔵書印」あり、目次（pp.6-7）・本文（pp.112-113）
3461	「京都商工人名録」複写		1925年		目次（pp.6-7）・本文（pp.120-121）
3462	「京都商工人名録」複写		1927年		「京都府立総合資料館蔵書印」あり、目次・本文（pp.134-135）

3463	「京都商工人名録」複写		1929年		目次（pp.8-9）・本文（pp.182-183）
3464	「京都商工人名録」複写		1935年		目次（pp.4-5）・本文（pp.174-175）
3465	「京都商工人名録」複写		1937年		「京都府立総合資料館蔵書印」あり、目次（pp.4-5）
3466	「京都商工人名録」複写		1937年カ		p.225
3467	「近鉄　旅情の住所録　5　奈良・明日香村」				
3468	クロパト将軍ほか写真の一部				
3469	「硬玉製大珠」複写				
3470	十干関連の表				
3471	『秀歌大体』	近衛予楽院（筆）	1924年	東京美術書院	
3472	「第6章　接合」複写				
3473	『特許分類別総目録』ほか　複写	特許庁（編）		技報堂	複数の特許関係書籍総目録の部分複写
3474	蜷川家と式胤の略歴ほか　複写				米崎清実『蜷川式胤「奈良の筋道」』カ、pp.437-461
3475	『日本美術史資料　第一輯　飛鳥時代　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　飛鳥及奈良時代前期美術史年表／飛鳥時代概説」(紙ケース)
3476	『日本美術史資料　第二輯　奈良時代前期　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　奈良時代前期概説／法隆寺金堂壁画及乾漆解説」(紙ケース)
3477	『日本美術史資料　第三輯　奈良時代後期(上)　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　奈良時代後期の遺作より見たる東大寺と新薬師寺／法華堂不空羂索観音像宝冠解説／伽藍配置の変遷」(紙ケース)
3478	『日本美術史資料　第四輯　奈良時代後期(下)　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　奈良時代後期年表／奈良時代後期解説」(紙ケース)
3479	『日本美術史資料　第五輯　正倉院　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　正倉院史年表／正倉院概説」(紙ケース)
3480	『日本美術史資料　第六輯　平安時代前期　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　平安時代前期年表／平安時代前期概説」(紙ケース)
3481	『日本美術史資料　第七輯　平安時代後期　上　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　平安時代後期年表／平安時代後期概説」(紙ケース)
3482	『日本美術史資料　第八輯　平安時代後期　下　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　平安時代阿弥陀堂建築の分類／木寄法・寄木造の説明／平安時代諸建築実測図」(紙ケース)
3483	『日本美術史資料　第九輯　鎌倉時代後期　上　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　鎌倉時代在銘仏像年表／仏師系図」(紙ケース)
3484	『日本美術史資料　第十一輯　室町時代　十六枚三十二頁』	美術史資料刊行会(編)	1937年	飛鳥園	紙ケースの中に図版を含む紙片(カード)16枚、「附　室町時代年表・室町時代概説」(紙ケース)
3485	「年齢早見表」複写				
3486	「春如海」				筆書
3487	「人似秋鴻来有信事如春夢了無痕」				筆書
3488	「本朝中興将軍略記」複写				
3489	和歌短冊カ				「宣秀」
3490	「ZEN-ON　MUSIC CALENDER 1989」			全音楽譜出版社	1枚（7・8月）のみ

2. 絵図

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3491	『江戸図鑑綱目　坤』	石川俊之（図）	元禄2年春（復刻カ）	相模屋太兵衛	
3492	『延享三年板　江戸大絵図』	石川流宜（図）	延享3年（復刻カ）	出雲寺和泉掾	包み紙あり
3493	五字額	南嶺座主大僧正智等カ			絹地に墨で「鶴舞千年樹」とあり
3494	『天保　改正　御江戸大絵図』	高井蘭山（図）	天保14年（復刻カ）	岡田屋嘉七	旧版元禄9年
3495	「大■の箱」				寸法等メモ
3496	花押の敷き写し				
3497	花押の敷き写し				
3498	花押の敷き写し				
3499	花押の敷き写し				
3500	花押の敷き写し				
3501	歌舞伎草紙絵葉書				
3502	『儀禮図説　巻二』				
3503	『国宝　信貴山縁起』			便利堂	巻物の複製（箱入り）、説明書付
3504	「丹列馬治村花踊附物番附」			板元えちごや	巻物、「■■四年亥九月吉日」、筒入
3505	箱の寸法図				
3506	踏掛（ふかけ）、足かせ、舞踊用靴（しかい）の模写				
3507	武具・太鼓ほかの図				
3508	『分間江戸大絵図　完』	金丸彦五郎影直（図）	文政11年（復刻カ）	須原屋茂兵衛	
3509	鳳凰の図案				
3510	三ツ面子守衣裳図				4枚
3511	木版画『旭松』の複製カ	円山応挙（原画）			「応挙」の記名と印あり、木箱（シール「七十九号」）入
3512	龍の頭部の図				

3. 視聴覚

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3513	『邦子のCatch on　東京＃193』				VHS、2006.1.7OA

4. その他

目録番号	資料名（内容）	著者・筆者	成立年	出版社	備考
3514	「京羽弐重ノ書　壱冊」				包み紙あり
3515	『水急不流月』				色紙の書

各　論

及川尊雄旧蔵　佐竹藤三郎関係資料の紹介
―大礼・大喪関係の資料を中心に

橋　本　かおる

１. はじめに

佐竹招慶堂は、皇室関係の仕事を数多く手がけた江戸末期創業の京都の楽器商である。その代表的な仕事として、天皇の代替わりに伴う儀式である大礼・大喪用の楽器の調進が挙げられる。及川鳴り物博物館の館長を務めた及川尊雄氏（1942～2018）が収集した、楽器に関する紙媒体資料（以下、及川コレクション）には、佐竹招慶堂に関するまとまった数の資料が確認された。及川氏のご家族によると、これらは及川氏が同店に何度も足を運んで譲り受けたもののほか、独自に収集したものであるとのことであった。資料の多くは、二代目当主の佐竹藤三郎（1873～?、以下代数を省略する）に関するもので、書状、楽器の鑑定書や修理記録、定価表、新聞記事のスクラップ、賞状など内容は多岐にわたる[1)]。これらは、楽器の背景にある歴史や文化、その製作者や製法に至るまで、幅広い関心を有した及川氏ならではの資料群であり、同氏のコレクションを特徴づける重要な要素の一つであるといえよう。本稿ではこれらを「佐竹藤三郎関係資料」（以下、佐竹資料）と呼ぶこととし、現在の整理状況に基づきその一部を紹介したい。

佐竹資料は及川氏宅の複数個所の棚や箱に収納されていた。一部には「佐竹さん関係」といったメモ書きが付され、まとめて収められていたものもあるが、その中には佐竹招慶堂とは関係がないと思われる資料も少なからず混在している状態であった。一方、佐竹の名前が明記されていないものでも、その内容から同店に関連する資料であると推察されるものも数多く確認された。そのため、全ての資料の精査が出来ていない現時点では、佐竹資料の厳密な点数の把握には至っていない。

本稿では、佐竹資料の全体像をつかむ第一段階として、次の２つの資料に着目する。１つ目は、７巻の巻子本に仕立てられている約100点の佐竹藤三郎関係書状、２つ目は佐竹招慶堂が受注した楽器に関する書類や当主の手記が１冊に綴じられている『重要書類』である。これらは、大正期の佐竹招慶堂の活動を詳細に、かつ多面的に伝えるものであり、膨大な佐竹資料を読み解くうえでも、大きな手掛かりになると考えられる。両資料の概要を紹介するとともに、皇室御用達店としての仕事の中核を成した、大礼・大喪に関する記録に焦点を当て、佐竹藤三郎の楽器商としての活動の一端を考察する。

２. 佐竹資料の概要―佐竹藤三郎関係書状（巻子本）と『重要書類』

2-1. 佐竹藤三郎関係書状（巻子本）

及川コレクション内の佐竹藤三郎関係の書状類は、一部を除き約100点が７巻の巻子本に仕立てられている[2)]。封筒は表書きと裏書きが見えるように開いた状態で、書状と組み合わせて本紙に糊付けされ、

ハガキは四隅を糸で本紙に固定する形で装訂されている。これらは、内容ごとに７巻に分類され、内６巻には表紙に題簽が貼り付けられている。各巻の題簽に記されたタイトルは以下のとおりである。

A　　表紙・題簽なし（261）
B　「宮殿下様ヨリノ御手紙」（262）
C　「宮内省拝命御用書類」（263）
D　「宮内省拝命書類」（264）
E～G「名士芳札」（265～267）
※（　）内は及川コレクションの目録番号

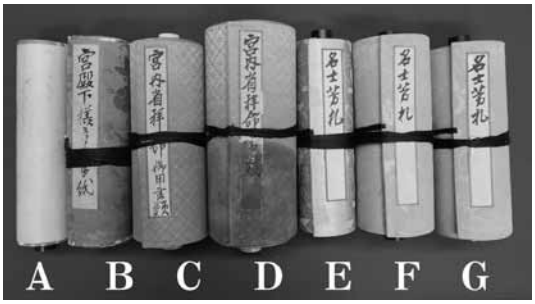


図１　佐竹藤三郎関係書状（巻子本）

A～Dには、佐竹藤三郎宛の大正期の書状またはハガキが収められている。その内容は、伏見宮や久邇宮などの皇室関係者を差出人とする書状のほか、大礼･大喪に関する書状などである（【表１】参照）。なお､Dには書状だけでなく､楽器の修理仕様書や､大礼･大喪用の楽器製作に携わった「塗物師」や「糸物商」など、様々な分野の職人から提出された請求書類も収められている。E～Gには、A～Dと同じく佐竹宛の書状も数点含まれるが、楽友会や宮内省式部職雅楽部関係者を宛先とする明治期の書状が多くを占める[3)]。佐竹以外を宛先とするこれらの書状が、どのような経緯で入手されたのかはわかっていない。A～Gに収録された書状はいずれも時系列には並んでいないが、日付や消印から時期が特定できるものだけでも、明治29（1896）年６月から大正13（1924）年１月まで、30年近い幅があることが確認された。

【表１】大礼・大喪関係書状類一覧（巻子本 A・C・D所収）

	巻	体裁	宛名	差出人	日付	内容
1	A	ハガキ	-	宮内省調度寮	大正3年12月17日付	納入品検査の連絡（大礼）
2	C	書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	宮内省調度寮／大礼使調度部残務取扱	〔大正〕3年12月2日付	納品催促（大礼）
3		書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	宮内省調度寮	〔大正〕3年12月15日消印	仕様書提出依頼（大礼）
4		書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	宮内省内大礼使調度部	〔大正〕3年3月20日付	書類提出依頼（大礼）
5		書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	大喪使用度部	〔大正〕3年5月6日付	見積書訂正依頼（大喪）
6		封筒のみ	佐竹藤三郎	大礼使調度部	〔大正〕4年11月2日消印	-
7		書状（封筒なし）	佐竹藤三郎	大礼使調度部	〔大正〕？年10月6日付	納入品検査の連絡（大礼）
8		書状（封筒なし）	佐竹藤三郎	大礼使調度部	〔大正〕？年10月9日付	納入品検査の連絡（大礼）
9		書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	大礼使調度部	〔大正〕？年11月2日付	見積書提出依頼（大礼）
10		書状（封筒あり）	佐竹藤三郎	元大礼使残務取扱	〔大正3年〕12月15日付	納品場所の指示（大礼）
11	D	封筒のみ	佐竹藤三郎	元大礼使調度部残務取扱	〔大正〕3年6月11日消印	-
12		封筒のみ	佐竹藤三郎	宮内省元大礼使残務取扱	〔大正〕4年3月13日消印	-
13		封筒のみ	佐竹藤三郎	大礼使主計部	〔大正〕4年10月30日消印	-
14		書類	宮内省大礼使調度部	佐竹藤三郎	-	楽器の数量、価格、仕様に関する書類3点（大礼）

15		書類	佐竹御店	滝井信景	〔大正3年〕5月31日付	大喪用楽器の銀箔押代金等の請求書（大喪）
16		書類	佐竹楽器店	塗物師 西村正次郎	大正3年5月31日付	大喪用楽器の漆塗代金の請求書（大喪）
17		書類	佐竹商店	水原庄太郎	大正3年5月30日付	大喪用楽器の金物代金の請求書（大喪）
18		書類	佐竹藤三郎	蒔絵師 森音次郎	大正3年5月31日付	大喪用楽器の漆塗・銀箔押代金の請求書（大喪）
19		書類	佐竹御店	小西丑松	大正3年4月21日付	大礼用鉦鼓製作代金の請求書（大礼）
20		書類	佐竹藤三郎	糸物商 宮脇■次郎	大正3年5月30日付	大喪用楽器の房飾代金等の請求書（大喪）
21		書類	佐竹	佐々木	〔大正3年〕5月31日付	大喪用楽器の撥製作代金等の請求書（大喪）
22		書類	佐竹藤三郎	伊藤芳三郎	大正3年5月31日付	大喪用楽鉦鼓製作代金の請求書（大喪）
23	D	書類	佐竹	加■七兵衛	大正3年5月30日付	大喪用荷太鼓木地代金等の請求書（大喪）
24		書類	佐竹藤三郎	松田康次郎	大正3年5月31日付	大喪用楽器の彩色代金の請求書（大喪）
25		書類	佐竹藤三郎	松浦儀平	-	大喪用楽器の金物・皮代金等の請求書（大喪）
26		書類	佐竹御店	上田助太郎	大正3年5月31日付	大喪用楽器の木地代金等の請求書（大喪）
27		書類	佐竹藤三郎	奥村平三郎	大正3年5月30日付	大喪用楽器の銀箔押代金等の請求書（大喪）
28		書類	佐竹	椎名	大正3年5月付	大喪用楽器の雲彫代金の請求書（大喪）
29		書類	佐竹楽器店	美藤運送店	大正3年5月31日付	運送料の請求書（大喪）
30		書類	佐竹御店	塗物師 北川球三	大正3年5月30日付	大喪用楽器の漆塗代金の請求書（大喪）
31		書類	佐竹	赤尾要次郎	大正3年5月31日付	大喪用鉦鼓枠・棒代金等の請求書（大喪）

※本表の日付は、書状本文に記載されている日付または封筒宛名面の消印に基づく。筆者が書状の内容から推定した年号は〔〕で記す。
※本表に記載した書状以外に、大正4年の大礼との関連が推測される、鼉太鼓等の修理に関する書状が数点ある。

2-2.『重要書類』

本資料は先述の巻子本資料のうち、A～Dと同時代の佐竹招慶堂の内部資料である。縦27.5cm、横20cm、丁数357丁の大和綴の資料で、表紙の一部が剥落しているが、辛うじて「重要書類」の文字が読み取れる[4]。裏表紙には「大正十三年五月／トシ直ス／佐竹藤三郎」とある。また、小口部分には小さな紙でインデックスが付けられており、〈宮内省〉〈大正八年度五月〉〈楽箏之事〉〈能楽器□〉〈□□器〉[5]〈佐竹家〉の項目が

図２　『重要書類』
（目録番号：1867）

ある。本資料には、佐竹招慶堂が受注した楽器に関する資料や書状・電報の写しがあり、発注元と佐竹招慶堂との相互のやり取りが残されている点に特徴がある。さらに、楽器の仕様書、図案、新聞記事のスクラップのほか、佐竹の手記など多岐にわたる内容が記されている。

佐竹藤三郎関係書状（巻子本）と『重要書類』は、同時代の出来事を様々な側面から伝えるものであり、両資料を合わせて検証することで、大正期の佐竹招慶堂の動向を立体的に把握することが可能になると思われる。

3. 佐竹藤三郎の活動―大礼・大喪の記録を中心に

3-1. 佐竹藤三郎について

大正期の京都の代表的な商店が掲載されている『京都の実業界』[6] では、二代目当主・佐竹藤三郎について次のように紹介されている。

> 本邦楽器界の泰斗／招慶堂　佐竹藤三郎商店／◎担はれし至大の光栄
> 日本の楽器商界にあって最も信望を有するは本店を京都市寺町通仏光寺北入に置く佐竹藤三郎商店である。（中略）同店は高貴の御用を為したること幾度なるを知らず、嘗て　明治天皇　昭憲皇太后の御大喪に対しては御用楽器を謹製上納しまた畏くも御大典の御楽器は悉く同店の謹製になったもので、当主佐竹氏は特に御大典御当日は御式中参殿を許されたる至大の光栄を担はれたのであった。

このほか、『京都ダイレクトリー』[7] にも当主の経歴や店の紹介文が掲載されている。また、『皇室御用達ものがたり』[8] には、皇室御用達店の一つとして佐竹招慶堂が取り上げられ、歴代当主について簡略に紹介されている。本項ではこれらの資料のほか、明治・大正期の商工人名録等と『重要書類』の記述を参照しつつ、佐竹藤三郎の生い立ちや佐竹招慶堂を継いだ経緯を追う。

『重要書類』の〈佐竹家〉の項目には、藤三郎の家族関係が詳細に記されている。藤三郎の実父は浅野藤七（1830？～1895）、実母は冨士子（旧姓鎌田、1837～1917）である。藤七はもとの名前を野口千代麿といい、その両親（藤三郎の父方の祖父母）は、伊勢国宮川小俣村で代々宮川の運上を領す野口家の左右馬の娘･一意と､尾張国尾越町で「鷹役番」を務めていた浅野家の東五郎であった。二人は訳あって離別したが、野口家が断絶したことにより、息子の千代麿は野口家から浅野家に引き取られた。その後､浅野藤七と改名し元治元（1864）年頃に京都で楽器商を興したという。『京都ダイレクトリー』には、藤七について「其壮年時代は音楽に趣味を有し殊に浄瑠璃の如き其嗜好の最なりしが、王政維新の変遷に遭遇し遂に京都に来りて楽器商を始む」とある。藤七の名前は、明治11（1878）年発行の『売買ひとり案内』[9] にも「三味線琴商」として掲載されている。

藤三郎は明治６（1873）年に６人兄弟の５番目として生まれた[10]。長男の福太郎が早世したため、藤三郎の10歳違いの兄・亀次郎が家業を継いだ。浅野亀次郎の名前は、『都の魁』[11] および『買物必携今世京羽二重』[12] に「琴三味線卸小売」または「琴三味線商」として掲載されている。父親の藤七は明

図３　佐竹藤三郎[14]
（『重要書類』所収）

治28（1895）年に敦賀への出張中に亡くなっているため、少なくとも明治30年代以降の商工人名録や博覧会記録等にみられる「浅野藤七」の名前は、亀次郎が父親の名前を継いだものと推測される[13]。藤三郎も幼い頃から家の仕事を手伝い、兄・亀次郎と箏用の桐の丸太の買入に出かけたことなどが『重要書類』の記述から読み取ることができる。

一方の佐竹家は、『皇室御用達ものがたり』によると創業者の佐竹藤兵衛が江戸末期に楽器販売商を興したとある[15]。佐竹藤兵衛には梅子と辰子の２人の娘があり、辰子の次女・民子が佐竹家の養女となった。『京都ダイレクトリー』では、藤三郎について「前途有望の資にて有りながら次男の故を以て、出でて京都壬生に在住する旧佐竹藩士佐竹家の分家を襲ぎ、明治二十四年現所に移りて営業を営み屋号を招慶屋と称す」とある。つまり、年代は不明だが、藤三郎が民子と結婚して佐竹家と養子縁組をしたと予測される。藤三郎が佐竹家に入家した経緯については、『重要書類』にも若干の記載があるが、年代や内容には詳細が不明なところも多い。例えば、同資料の「佐竹家履歴」と題した頁には、「佐竹家ハ無職ニ付キ明治□年一月三十才ニシテ楽器及ビ有職商ヲ開店ス」とある。江戸末期に創業したはずの佐竹家が「無職」と書かれているのも疑問だが、年号が欠字になっているものの、藤三郎の年齢から推測すれば、明治36（1903）年頃に楽器商として本格的にスタートしたことになるだろうか。さらに、藤三郎が皇室との関係をどのように築いていったのかを知る上で、この「有職商」というのが具体的に何を指すのか、今後検討していく必要があるだろう。

『重要書類』の〈佐竹家〉の項目には明治30年代の記録が乏しく、藤三郎がいかに楽器商としての手腕を発揮し、皇室の御用をつとめるに至ったのか、その経緯を読み取ることはできない。再び多くの記録が残されるようになるのは、佐竹招慶堂にとって大きな転換点となった明治45年以降のことである。

3-2. 明治天皇大喪

大正元（1912）年の明治天皇の大喪は、近代における最初の大規模な天皇の葬儀であった[16]。それから僅か４年の間に、昭憲皇太后の大喪、大正天皇の大礼と相次いで国家的規模の行事が挙行された。当時これらの皇室行事においては、すでに雅楽は欠くことの出来ないものになっており、佐竹藤三郎はその裏方として一連の行事に携わることとなった。

及川コレクション内には、佐竹招慶堂が発行した「佐竹商報」が２点ある[17]。そのうち、「佐竹商報　時難克服号」には、題字の横に佐竹招慶堂が手掛けた皇室関係の仕事一覧が記載されている。以下にその一部を引用する[18]。

賜御用拝命之光栄

明治天皇御大喪御用楽器謹製	大正元年九月三日
昭憲皇太后御大喪御用楽器謹製	大正三年三月十日
大正天皇御即位御大礼御用楽器謹製	大正四年九月十五日

大正天皇御大喪御用楽器謹製	昭和二年一月二十六日
今上天皇御即位御大礼御用楽器調進	昭和三年九月二十六日
明治神宮御用楽器謹製	大正九年十月十六日
伊勢神宮神部署御用楽器謹製	昭和三年三月二十五日
久邇宮御殿御用楽器謹製	大正七年二月
	同八年十月

これらの業績は佐竹招慶堂の広告類に度々掲載され、皇室御用達店というイメージが強調されている。広告の中には上記の業績一覧の先頭に「大正元年以来弊堂無上ノ光栄」と書かれているものもあり、このことから佐竹藤三郎が最初に手掛けた皇室関係の大仕事が、明治天皇の大喪であったことがわかる[19]。明治天皇大喪に関する佐竹の書状は本コレクションに残されていないため、まずは『重要書類』の記述をもとにその経緯を追いたい。

明治45年７月30日に明治天皇が崩御すると、その日のうちに大喪使官制が公布され、大喪に関する一切を司る大喪使が宮中に置かれた。８月６日には大喪の儀を９月13日から15日の３日間に行うことが決定している。『重要書類』によると、佐竹は８月６日に高田装束の高田茂[20]から「東京宮内省ヨリノ御用の由」との電報を受け取り、翌７日の夜に京都を発ち、８日には麹町区中六番町の高田の自宅へ寄ってから宮内省調度部に参上している。調度部では、三代前からの出生地、年齢等の調査があり、「御舟入」に関する楽器類の注文を受けた。同資料には、「其時七月十三日御舟入ト申上ル其時ニ御用ノ楽器ヲ／座太鼓座鉦鼓座鞨三鼓ノ御用之依仰／御下命トノ事ニ付キ小生恐悦至極ノ至リ他ニモ楽器／御用商人モ以前有候ニ未熟小生ニ御下命トノ事」との記述がある[21]。佐竹はその日のうちに京都に戻り、僅か４日で注文の三鼓を用意し、11日には店員の赤尾要次郎とともに再び調度部に参上した。そこで、霊柩の安置されている槻宮[23]へ案内された後、大喪儀当日に使用する楽器について改めて注文を受けている。『重要書類』には「宮内省御用拝命控」という原稿用紙が綴じられており、下記にその内容の一部を引用する。

図４　大喪用楽器一式[22]（『重要書類』所収）

明治天皇御登遐之砌
　御召蒙リ東京宮内省エ出頭仕候／御舟入之御用御楽器全部御用拝命仕候
　右御上納仕候仝日豊明殿ニ於テ／御霊柩ノ御壁代ノ御用白羽二重織
　御戸張之御手傳ヲ被申附候
御大喪用具

御当日御用ヒ被為在御道楽器／御一ノ鼓一ツ　御荷鉦十二　御荷太鼓十二

右東ノ御溜へ御上納仕候

桃山御陵用御楽器

御式用　御鞨鼓　御太鼓　御鉦／御荷鉦四基　御荷太鼓四基

右御上納仕候

御大喪

御当日桃山御陵並ニ停車場御手傳ノ御用モ仰付ラレ候／御鉾御棋御弓

御楽器ノ御飾付方仰付ラレ陳列／申上候

楽器の納品に関する記録は同資料に残されていないが、及川コレクション内の別の佐竹の手記には、同年９月３日に「大喪御用楽器全部携参上ス」とあり、５日の午後３時に馬車２台で正殿の横に楽器を陳列し、帰京後に伏見桃山の手伝いに行ったことが記されている[24)]。

3-3. 昭憲皇太后大喪と大正天皇大礼

巻子本A・C・Dには【表１】に示した通り、大礼・大喪関係の書状類が30点ほど収められている。その中で、封筒宛名面の消印および書状内に記された日付から最も古いものと推測されるのが、大正３（1914）年３月20日付の大礼使調度部を差出人とする次の書状である。

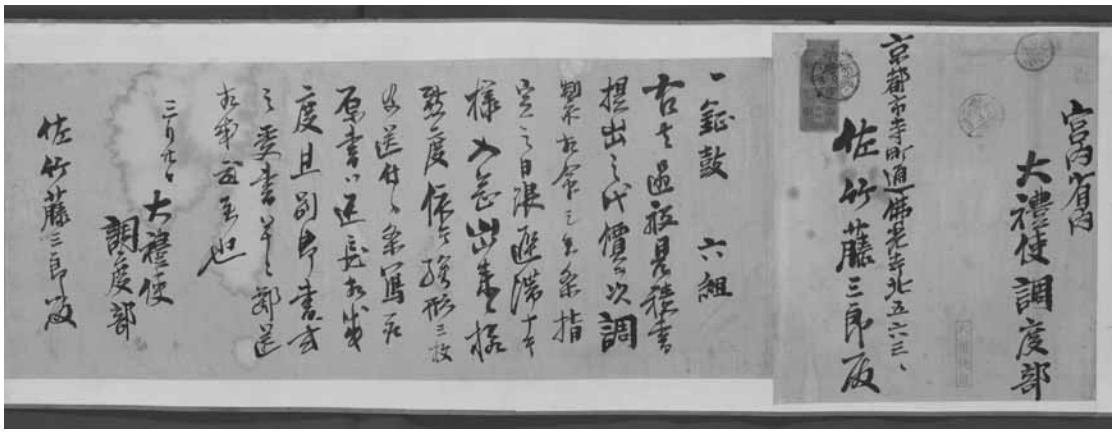


図５　宮内省内大礼使調度部から佐竹藤三郎宛の書状（大正３年３月20日）
（巻子本C所収、目録番号：263）

内容をみると、この書状以前に大礼用の「鉦鼓六組」が佐竹に発注されており、すでに見積書のやり取りや納品日の指示があったことがわかる[25)]。注文されている鉦鼓は「六組」という数から、鉦鼓という１つの楽器名ではなく、即位礼紫宸殿の儀で用いられる６対の鉦と鼓を指すと考えられる。即位の礼の中でも中心となる紫宸殿の儀では、中庭に色とりどりの旛が立てられ、その前に鉦と鼓が左右に６基ずつ並んだ。これらは参列者の起立着席および敬礼の合図に使用され、当時の宮内省式部職雅楽部の楽長であった芝葛鎮、林広継を含む12名の楽人がこの役を務めた。

即位礼は当初大正３年秋に実施される予定だったが、４月11日に昭憲皇太后が崩御したため、翌年に

延期された[26]。『重要書類』には、「元大礼使調度部残務取扱」から佐竹宛に届いた大正３年４月12日付の書状の一部と思われる写しがあり、鉦鼓６組の製造を中止する旨が記されている。佐竹自身も大正３年４月12日の大阪朝日新聞の記事「大喪使総裁決定」と、大正３年４月14日同紙記事「大喪使職掌決定」をスクラップし、大喪使の職員を確認していたようだ。また、日付の記載はないが、昭憲皇太后崩御の後、佐竹が名古屋へ出かけた際には、宮内省から連絡があったらすぐ知らせるよう家の者に予め頼んでいる。その予想通り、名古屋での逗留中に電報が届いたと知らせが入り、佐竹は急遽帰京し、翌日には宮内省に参内して大喪用楽器の注文を受けている。

大正３年５月６日付の大喪使用度部を差出人とする書状を見ると、昭憲皇太后の大喪に際し、佐竹に「道楽用／鉦鼓　壱対／一ノ鼓　壱個／三鼓　弐組」が発注されている[27]。

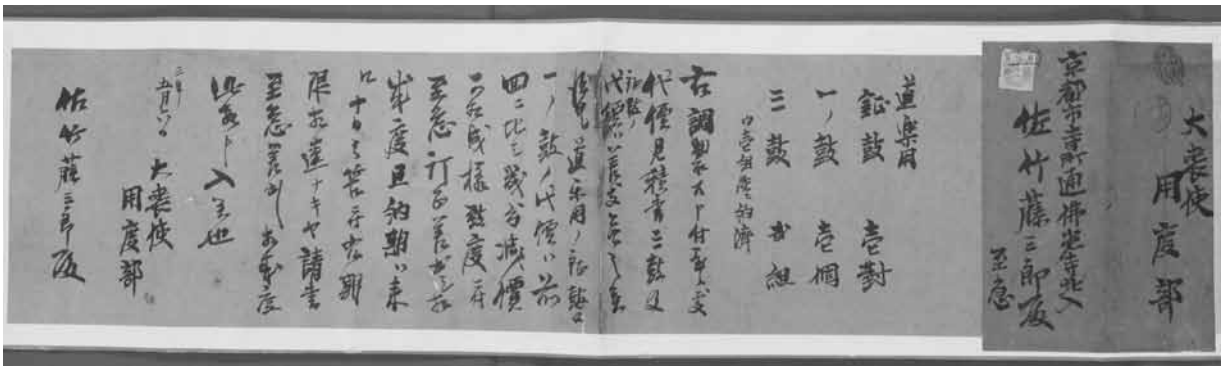


図６　大喪使用度部から佐竹藤三郎宛の書状（大正３年５月６日）
（巻子本C所収、目録番号：263）

上記の書状には、これらの楽器の金額を減価した訂正版の見積書を提出するようにという旨と、納期は変わらず５月10日であるといった内容が記されている。書状の表書きに「至急」とあるように、昭憲皇太后の大喪儀は５月24日から３日間にわたり執り行われるため、４月12日の大礼用鉦鼓製造の中止連絡の後、かなり慌ただしく準備がなされていた様子がうかがえる[28]。

『重要書類』には、大礼・大喪用楽器の装飾部分の細かな寸法や、彩色の指示が記された図案の写しがあるほか、仕様書の写しも収録されている。また、楽器を調整するにあたって材料を仕入れた人物、楽器各部の製作者やその候補者の名前も書き留められており、佐竹招慶堂の楽器商としての役割の一端を伝えている。先に述べたように、巻子本Dには大礼・大喪用楽器の製作に携わった職人に関する書類が多数収められているので、これらの資料を丹念に見ていくことで、当時の楽器製作現場の実状により迫ることができるであろう。

3-4.「皇室御用達店」としての佐竹招慶堂

大正４（1915）年４月に再び大礼使官制が公布されると、佐竹のもとにも大礼用の鉦鼓に再び着手するよう知らせが入った[29]。鉦鼓を納品したのち、大正４年11月に開催された大礼の大饗には佐竹も招かれ、「萬歳楽」の舞楽や「五節舞」、「久米舞」などを鑑賞した際の手記が残されている。

佐竹招慶堂と皇室との関係の深さは巻子本に収録された書状類からも推察されるが、『重要書類』に

は当時の華々しい雰囲気を伝えるエピソードが残っている。大正２（1913）年８月７日に伏見宮貞愛親王、伏見宮博恭王、同妃経子が佐竹招慶堂を訪れ、店内から祇園祭の山鉾行事を見物した[30)]。この訪問は、前日になって急に電話で告げられたようで、佐竹は職人たちと徹夜で家の準備を整えている。同様の訪問は大正５（1916）年７月にも行われた。佐竹招慶堂は大正７年３月に東京に支店を開店するなど、その後も順調な仕事ぶりがうかがわれる[31)]。『京都の実業界』に記された「本邦楽器界の泰斗」「斯界の権威」といった佐竹への評価は、佐竹招慶堂のこうした華やかな時代を背景としていると思われる。

４. まとめ

本稿では、大礼・大喪に関係する佐竹資料の一部を取り上げ、二代目当主・佐竹藤三郎の活動を概観するにとどまったが、これらの資料は当時の雅楽界の舞台裏ともいえる、楽器商の仕事を今に生き生きと伝えるものである。今後これらの資料が、多くの専門の方の目に触れる機会を持つことで、及川コレクションの資料的な価値を、より多角的に評価していくことができるのではないかと考えている。

また、今回は紙数の都合上、三代目当主の佐竹藤三郎について触れることが出来なかった。同氏は自ら楽器の製作・修理も手がけ、二代目の後を継いで皇室関係の仕事も担った。三代目が収集した楽器群は京都府立総合資料館に「佐竹コレクション」として納められている[32)]。これらは、三代目・佐竹藤三郎が楽器の資料館を作りたいという願いから集めてきたものであり、その思いは及川氏とも響き合うものであるように思う。及川コレクションには同氏に関する書状や、その活動を伝える新聞記事のスクラップなどもあり、今後それらの資料についても詳細に検討していきたい。

主要参考文献

井出潔・柴田鶴蔵編『京都ダイレクトリー』京都ダイレクトリー発行所、1915年。
京都府立総合資料館編『日本の楽器―佐竹コレクションを中心に』京都府立総合資料館、1970年。
京都文化博物館編『京都文化博物館化期間25周年記念・京都府総合資料館会館50周年記念　京都・美のタイムカプセル』京都文化博物館、2013年。
宮内庁編『明治天皇紀　第十二』吉川弘文館、1975年。
宮内庁編『昭憲皇太后実録　下巻』吉川弘文館、2014年。
宮内省図書寮編修『大正天皇実録　補訂版　第四』ゆまに書房、2019年。
実業新聞編集部編『京都の実業界』京都実業協会、1918年。
塚原康子『明治国家と雅楽　伝統の近代化/国学の創成』有志舎、2009年。
寺内直子『雅楽の〈近代〉と〈現代〉―継承・普及・創造の軌跡』岩波書店、2010年。
日本文化祭発見研究室編『皇室御用達ものがたり―ロイヤルブランドの技と心』祥伝社、2001年。

《注》

1）及川コレクションには佐竹招慶堂三代目当主の佐竹藤三郎（1912?～1981）に関する資料も含まれる。同氏は自ら楽器の製作・修理も手がけ、二代目の後を継いで皇室関係の仕事も担った。本稿では主として二代目・佐竹藤三郎に関する資料を扱うため、代数の表記は省略する。

2）現時点では、これらの書状類が誰の手によって巻子本に仕立てられたのかはわかっていない。また、及川コレクション内には巻子本に装訂されていない佐竹藤三郎関係の書状も複数ある。

3）D～Fの巻子本には、明治29年６月15日に発生した明治三陸地震の救恤金義捐を目的とする音楽会（明治29年７月４日開催）について、入場券に関するやり取りが多数含まれる。宛名の多くは楽友会もしくは楽友会会長・岩倉具綱であり、差出人は音楽会の招待者と推測される。

4）表紙には「重要書類」に続いて「主人之他■■■見■■」と筆書きされている。本稿では本資料を『重要書類』と呼ぶこととする。

5）欠損により解読不能。

6）実業新聞編輯部編『京都の実業界』京都実業協会実業新聞社、1918年、176頁。

7）井出潔・柴田鶴蔵編『京都ダイレクトリー』京都ダイレクトリー発行所、1915年、247～248頁。

8）日本文化祭発見研究室編『皇室御用達ものがたり―ロイヤルブランドの技と心』祥伝社、2001年、106～109頁。

9）原田与三松編『売買ひとり案内』清文堂、1878年、49頁。

10）二代目・佐竹藤三郎の生年は『京都ダイレクトリー』に基づく。

11）石田有年編『都の魁』石田戈次郎、1883年、275頁。

12）石田才次郎編『買物必携今世京羽二重』石田有年、1884年、52頁。

13）明治36年発行の小倉政次郎編『第五回内国勧業博覧会受賞人名録』（東浪館書房、1903年、73頁）には「篳篥龍笛／万寿寺通本上神明町／浅野藤七」の記載があり、これは二代目の浅野藤七（亀次郎）のものであると考えられる。なお、同書「和琴」部門には「寺町通仲之町／佐竹藤三郎」の名前も掲載されている。

14）写真下部に「明治天皇大喪御供ノ砌御下賜ノ服装　京都佐竹招慶堂主」とある。

15）『重要書類』によると佐竹家は秋田佐竹家にルーツがあり、数百年前から京都の壬生村に住み「扇屋藤兵衛」と名乗った。しかし、それ以前のことは天明の大火によって資料が焼失したため詳細はわからないとある。

16）近代における最初の大喪は明治30（1897）年の英照皇太后の大喪である。

17）「佐竹商報　時難克服号」（1939年3月発行、目録番号：119）、「佐竹商報　臨時号」（発行年不明、目録番号：120）。

18）引用の中で「昭憲皇太后御大喪御用楽器謹製　大正三年三月十日」とあるが、正しくは「大正三年五月十日」であると思われる。

19）「佐竹藤三郎本店の楽器目録　複写」（発行年不明、目録番号：2214）

20）高田家は宮中内蔵寮御用装束調進方高田家の家業を受け継ぎ、宮中御装束の製作に携わってきた家柄である。高田は何らかの形で佐竹と宮内省をつなぐ役割を果たしていたのではないかと推測される。

21)『明治天皇紀』によると、いわゆる納棺の儀式にあたる「御舟入の儀」は７月31日にすでに済んでおり、佐竹が差しているのは８月13日に行われた「殯宮移御の儀」のことであると思われる。『大正天皇実録』の８月13日の記述をみると、「午後一時大喪使諸員、殯宮と定められたる正殿の装飾を行ひ、左右後三面に白色の帛を以て壁代を作り、前面に同色の帛にて御幌を、緑白色の平絹を用ひたる御簾と共に懸け、中央に簀薦を鋪きて御座となし、御後に屏風を立て御内榻を御座の傍に置く」とあり、『重要書類』に綴じられている「宮内省御用拝命控」の、佐竹が御舟入の儀の楽器を上納した同日に「御霊柩ノ御壁代ノ御用白羽二重織御戸張之御手傳ヲ被申附候」という記述とも一致する。

22）写真下部に「宮内省御用楽器仕上リ階上陳列　京都市寺町佛光寺上ル佐竹招慶堂」とある。

23）『重要書類』では「豊明殿」と記されている。

24）目録番号：888。鑑定書の下書きと一緒に明治天皇大喪に関する佐竹の手記が綴じられている。

25）大礼使官制の公布は大正２年11月21日のことであり、その後佐竹のところにも大礼用楽器の注文があったと思われる。

26）大正３年４月11日、昭憲皇太后の崩御により大礼使官制は廃止され、「登極令」（明治42年皇室令第１号）の第18条の規定により、即位の礼及び大嘗祭の延期が発表された。同時に、宮中には大喪使が置かれた。４月21日には大喪儀の期日が５月24日、25日、26日に定められた。

27）鉦鼓1対とは道楽用の荷鉦鼓と荷太鼓のこと、三鼓（鞨鼓、太鼓、鉦鼓）は２組とあるため、東京と京都それぞれの奏楽用のものと推測される。

28）『重要書類』によると、佐竹は大喪用楽器の納品期日の前日である５月９日午後８時に店員２名を連れて東上し、調度寮で納品する楽器の検査を受けている。その際、鉦鼓の「雲形」に変更すべき点が見つかり、早速直すよう指示を受けている。

29）『重要書類』には同年8月に宮内省から届いた電報の写しがあり、以前提出した仕様書の通り鉦鼓の製造に慎重に着手するよう記されているが、別の頁にある宮内省に提出した書類の写しをみると、４月12日以降すでに何度かやり取りがあったものと思われる。

30）山鉾行事は本来7月17日に行われる予定であったが、この年は明治天皇涼闇中のため８月７日に延期された。

31）東京支店は神田区今川小路二丁目二番地に開店し、支店長は店員の中川久七が務めた。

32）「佐竹コレクション」は三代目・佐竹藤三郎が収集した楽器群で、雅楽器から、歌舞伎の下座音楽の楽器、明清楽や民俗芸能の楽器まで日本音楽の大半の分野の楽器が網羅されている。昭和44年と昭和47年に約100点が京都府に寄贈され、現在は京都府立総合資料館で所蔵されている。

及川尊雄旧蔵　堀川久民・師克父子関係資料
―「聖霊会次第」を主例として

鎌　田　紗　弓

１．はじめに

前原氏・橋本氏・曽村氏・中川氏とともに行った調査において、筆者は無形文化遺産部における資料群の整理検討およびリスト化を担当した。及川尊雄氏が収集された膨大な紙媒体資料の内容を一点ずつあらためる作業のなか、思いがけず出会ったものの一つとして、堀川久民・師克父子に関係する資料群について報告する。

堀川久民（1833～？）と堀川師克（1860～1938）は、旧楽家外で初の式部寮伶人となった人物とその長男である。堀川家は徳大寺家の諸大夫（家司）で[1)]、久民らは一般への神楽・舞楽伝習の許可（明治６年［1873］）を機に雅楽課に所属した[2)]。東上と欧州楽伝習、京都出張所廃止（明治10年［1877］）後は雅楽課を辞して関西における奏楽活動や民間雅楽の普及育成に尽力したことなど、その足跡には、遷都にともなう体制の変化が強く反映されている。彼らの書き残した資料としては、17冊にわたる奏楽の記録『楽事記』（上野学園大学日本音楽史研究所蔵）や20点以上におよぶ雅楽譜（京都大学附属図書館蔵）が知られ、寺社・宮家などにおける雅楽出向演奏の実態や、幕末・明治の雅楽曲レパートリーの変遷を検討する上でとりあげられている（三島 1999、南谷 1995）。

本稿では、及川氏旧蔵のコレクションから発見された堀川父子関係資料について、先にふれた他機関所蔵の資料と照らし合わせながら内容と特徴を概観する。その上で、とくに「聖霊会次第」をとりあげ、記載される内容に光を当てる。これらを通して、「明治期から大正・昭和にかけての京都雅楽界の中心的存在」（福島 1999）と目された久民・師克の活動や彼らをとりまく雅楽環境について、本資料がどのような時期や側面を明かしうるのか考察していきたい。

２．資料の内容と特徴

まず断っておきたいのは、本稿で紹介する資料群は「堀川父子の資料」として一括されていたわけではないということである。内容・形態ともに多岐にわたる紙媒体資料のなか、当初から半紙・厚紙などを綴じた雅楽譜の多さは目をひくものがあったが、大半は序文・跋文・前書・奥書などを備えず、書写者や成立背景を明らかにすることは難しいように思われた。しかし調査を進めるなか、点在していた譜の幾つかに「堀川」の印が確認され、次いで「久民」や「師克」の名が記されたものも現れた。これをきっかけに、印・記名のない譜についても筆跡や形状を関連資料（稿末の別表参照）と照らし合わせ、計24点を堀川父子関係資料と推定するに至った[3)]。

堀川久民・師克関係と思われる資料の一覧を、次に【表１】として掲げる。

【表１】及川尊雄旧蔵　堀川久民・師克父子関係資料一覧

筆跡・形状等のみから堀川父子関係と判断したものには、書写者に「*」を付した。また印の種類について、後掲【図１】に対応する略号で示した。

目録番号	資料名	種別	書写者	形態(cm)〔丁数〕	備考（記名・印・書写年等）
140	「東遊伝譜」	譜(歌・舞)	久民カ*	19.6×13.5〔9〕	一歌・駿河歌・求女子(ママ)、駿河舞・求女子(ママ)
149	『郢曲並声明集ノ内伽陀』	譜(歌)	久民	12.7×17.0〔21〕	印AC「堀川」D「久民」
155	『神楽東遊譜』	譜(歌)	久民カ	19.4×13.3〔27〕	印AF「堀川」E「師克之印」、表紙・裏表紙見返しの筆跡は師克
159	「粂歌・久米舞」	譜(歌・舞)	師克カ	20.0×13.8〔3〕	印F「堀川」
160	「還城楽」	譜(舞)	師克カ	20.1×14.2〔7〕	印F「堀川」、乱声・破・入手、破は篳篥の譜字併記
164	「五音并七声十二律（①）／久米舞・倭舞・老君子（②）／盤渉調更衣笛付物（③）」	譜(複数)	久民カ*（①）／師克カ*（②）／不明（③）	19.8×13.8〔6〕	舞・龍笛・篳篥譜ほか
180	『催馬楽笙譜』	譜(笙)	師克	20.1×13.8〔8〕	印AF「堀川」E「師克之印」、安名尊・山城・席田・蓑山・伊勢海・更衣
183	『三鼓譜』	譜(打物)	師克	20.0×13.7〔5〕	印A「堀川」E「師克之印」、「堀川師克」の記名、鞨鼓・一鼓・太鼓・鉦鼓の譜
187	「春庭花輪(ママ)　春庭花　八仙」	譜(舞)	師克カ*	19.7×13.5〔2〕／19.8×14.0〔3,貼込1〕	1曲目と2曲目以降とで紙が異なる。篳篥の譜字併記
188	『唱歌譜』	譜(複数)	師克カ	20.1×13.8〔10,後半数丁空白〕	印F「堀川」、壱越調君ヶ代･千万の軍(明治廿五年六月大神基万撰)･学の道。笙・篳篥・龍笛・箏・琵琶・和琴の譜を含む
189	『笙琵琶合譜』	譜(笙・琵琶)	師克	19.8×13.8〔40〕	「明治四十二年三月写之　藤原師克」、印F「堀川」E「師克之印」
192	「聖霊会次第」	次第/譜(篳篥)	久民	18.4×10.4〔19〕	印B「久民」
195	『俗哥笛』	譜(龍笛)	師克カ	15.7×11.8〔10〕	印G「堀川」、春さめ　二上り/十日夷子　三下り/カツホレ節　二上り/四社　二上り/大津絵　二上り/高山　二上り/お竹とん　二上り/権兵衛　三下り/順礼歌/ヤアトコセ
198	『第二撰定狛笛譜』	譜(高麗笛)	師克カ	20.2×14.2〔7〕	印F「堀川」
201	「納曽利破」ほか	譜(複数)	師克カ	20.2×13.9〔13,貼込1〕	印F「堀川」、箏･琵琶･笙･朗詠･久米歌･舞ほか
202	「仁和楽」	譜(舞)	師克カ	19.9×14.0〔2〕	印F「堀川」
203	「抜頭」	譜(舞)	師克カ	20.0×14.0〔3〕	印F「堀川」、出手・破
205	『平調　君ヶ代』	譜(複数)	師克カ	20.1×14.2〔3〕	印F「堀川」、笙･篳篥･龍笛･和琴･琵琶、譜字に詞章を併記
213	『鳳笙譜』	譜(笙)	久民カ	19.9×13.4〔32〕	印C「堀川」
269	「伝授之書　篳篥　長谷川長五郎」	伝授書	師克	18.1×49.2	大正八年八月三十一日､印H「藤原師克」､粂歌・東遊・倭歌
270	林等成宛相伝証書	伝授書	師克	38.8×52.7	「大正十四年九月　正七位勲八等堀川師克　林等成殿」、篳篥譜付き。裏に「酒肴料　京都糸竹会　金弐拾五円」

291	「曲目略解」	抜書等	師克カ*	23.1×16〔5，挟込1〕	原稿用紙、曲目解説（催馬楽等含む)
331	『雅楽ニ必要抜書』	抜書等	師克	16.8×24.7〔5〕	表紙「堀川」・本文中「師克」の記名、冒頭「五條天神社ニ於テ講演覚」、昭和8年の新聞貼込あり
336	『箏尺之記』	抜書等	師克カ	16.1×11.8〔6〕	印G「堀川」、冒頭に「杉浦為光撰」

執筆時点の整理状況で、堀川父子関係資料としては譜19点、伝授書が２点、抜書の類が３点挙がっている。譜の点数のみをみれば、主たる所蔵先である京都大学附属図書館に並ぶことは特筆に値する。ただし及川氏旧蔵の譜は一点あたりの丁数が比較的少ない傾向にあり、いずれも装丁が施されていない(これは『千早振』等、上野学園大学日本音楽史研究所蔵の譜に共通する)。資料によっては本文にやや墨消しや雑然とした朱・鉛筆の書き込みも見受けられ、それらはあまり体裁を整える必要のない、私的な記録として書かれたことが想像される。本文から成立年代をよみとれる資料は４点に限られるが、その中でも『笙琵琶合譜』の書写年とする明治42年［1909］から、『雅楽ニ必要抜書』に貼り込まれた新聞記事が示す昭和８年［1933］までの24年にわたっている。

筆跡は師克のものが多い。久民の筆跡は６点に見えるが、『神楽東遊譜』には後から加えたらしい師克の印･記名がある[4)]。また本資料に見られる印は８種類で（図１)、筆跡に同じく、「久民」の例はB「聖霊会次第」・D『郢曲並声明集ノ内伽陀』一例ずつと少ない。一方で他機関所蔵の関連資料にはこのうち６種（A・B・C・E・F・G）のほか、「藤原久民」「堀川久民」、さらに【図１】に掲げたものとは形の異なる「堀川」や「藤原師克」の印が確認された。印の使い分け自体から明確な変遷を見いだすことは難しいが、全体を眺めると「藤原久民」をはじめとする久民の印が複数あるもの、また「堀川」印のなかではF・GよりA・Cの押されているものの成立が早そうである。【表１】にFのみという例が目立

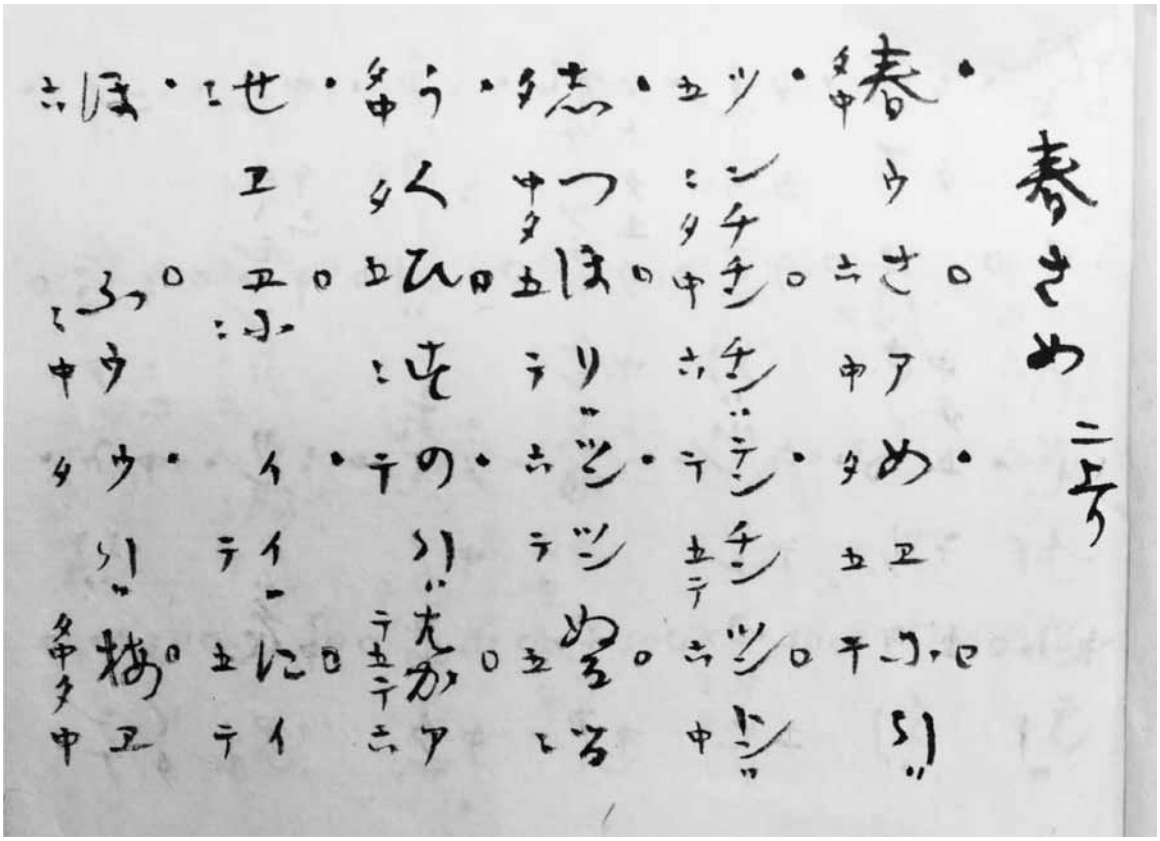
【図１】及川尊雄旧蔵資料に見られる堀川関係の印一覧：(左上から）A「堀川」、B「久民」、C「堀川」、D「久民」／E「師克之印」、F「堀川」、G「堀川」、H「藤原師克」

つことからも、及川氏旧蔵の資料は、他機関に所蔵される譜よりも後年に書かれたものが多くを占めると考えられる。

記載される成立年代の幅や筆跡・印をふまえると、及川氏のコレクションに含まれる資料は、明治13～33年［1880～1900］について記す『楽事記』よりも後の時期の、堀川父子による雅楽教授の活動や寺社との関わりの実際について示すものと捉えられる。蒐集経緯をたどることができない以上は推測の域を出ないことだが、師克の没年である昭和13年［1938］までは彼の手元にあった可能性が高いだろうか。

「聖霊会次第」の検討へうつる前に、ほか２点、興味をひかれた譜にふれておきたい。ひとつは『神楽東遊譜』で、詞章の間を縫うように譜字が示され、歌と楽との対応が書き込まれている。〈求女(ママ)子〉については譜（24丁裏～25丁表）に記した２種の詞章とは別に、『楽事記』に再三挙がる北野社を含む11種の詞章が掲げられている（26丁表、「伊勢神宮・春日・同若宮・松尾・平野・稲荷・大原野・日吉・八阪・北野・住吉」）。また『俗哥笛』は俗歌、すなわち世間に流行する歌の名の通り、いわゆる俗曲の詞章や三味線の口唱歌に龍笛の譜字が並ぶ譜である。《春雨》《十日夷子》《カッポレ節》といった曲目が続くなか、「江戸まで届く」という詞を含んだ当時の関西の流行り唄と思われるもの（８丁裏～９丁裏）や、「補陀洛や岸うつ波は三熊野の　那智のお山にひびく滝津瀬」いう御詠歌の文句（10丁表～10丁裏）などを含む。堀川父子が生きた時代・地域性を映し出している資料と言えよう（図２）。

【図２】『俗哥笛』抜粋（１丁表）



３.「聖霊会次第」について

ここからは堀川父子関係資料24点のうち、とくに「聖霊会次第」に焦点をしぼって内容を見ていく。

四天王寺（大阪市天王寺区）で毎年催される聖霊会は、舞楽四箇法要の形式に則り、江戸時代に至るまで連綿と続けられてきた儀礼である。しかし明治遷都を受け、奏楽・舞楽を担ってきた天王寺楽人の多くが明治３年［1870］までに東上を命ぜられたことで、その伝承は断絶の危機に直面する。明治12年［1879］には再興がかなうも、その後も大正10～14年［1921～1925］、昭和９～15年［1934～1940］の断絶を経て現在に至る。それらを受けた規模の縮小を経る前は、六時堂における法要の前後を、現在では行われなくなった太子堂での四箇法要（前半：唄・散華～講問、後半：梵音～回向）がはさむ「入れ子構造」だったことが指摘されている（南谷 2011）。

及川氏旧蔵の「聖霊会次第」は、すべて久民の筆跡による。表紙に題はなく、資料名は冒頭の記載から仮称されている。法要全体の式次第というより楽人の動きにかかわる部分、とくに奏楽・舞楽について記し、舞楽は「㊊」、奏楽は「●」と曲名の前に朱書して篳篥の譜字を掲げている。また末尾には、本文中に例を示さなかった音取・調子の類の譜が付されている。譜字が紙面の大半を占めるので、内容的には「次第順に記された篳篥譜」とすべきかもしれない。ただし「聖霊会次第」に記されているのは孔名のみで唱歌譜がなく、さらに小譜字の区別も為されていないので、音価など旋律の詳細については不明な点が多い。

久民と師克が天王寺楽所雅亮会の活動に携わっており、久民の次男・久之（1863～1929）は「四天王寺の舞楽の再興にかかわる」[5] とされていることをふまえると、これは明治12年［1879］の再興に関係する資料という可能性が考えられる。こちらも推測の域を出ないことではあるが、この点について確認するためには、まず次第の記載がどのような時期の実態を示すかをおさえておく必要があるだろう。次に、「聖霊会次第」の大まかな次第と曲目をまとめる【表２】。

【表２】「聖霊会次第」に記される式次第と奏楽・舞楽の構成

（南谷 2011:3-4）を参考に作成[6]。「聖霊会次第」の記載内容について、江戸時代には行われ現行では省略されている部分に囲みを、江戸時代の例と現行例とで内容が異なり前者にならう部分に二重下線を付した。雅楽曲について、表中では舞楽のみ〈 〉で括って区別した。備考は右欄に番号のみ注記し、欄外に記す。

区分	「聖霊会次第」		備考
	法要の次第	雅楽の奏楽・舞楽	
太子堂法要	記載なし	なし	※１
導入部	御幸 伽陀 御手水	安城楽 附物 〈振鉾〉 〈蘇利古〉 河水楽	※２ ※３

供養法要部	登高座 伝供 祭文	廻杯楽 十天楽 菩薩、獅子 出楽：承和楽、退出楽：北庭楽 〈迦陵頻〉〈胡蝶〉	
四箇法要部	唄 散華 大行道 讃 梵音 錫杖 下高座	出楽：賀王恩、退出楽：なし 出楽：天人楽、退出楽：なし 鳥向楽、〈一曲〉 〈万歳楽〉 出楽：白柱 〈延喜楽〉 出楽：延喜楽 〈桃李花〉 〈登天楽〉 長慶子	
入調舞楽		〈安摩〉、〈散手〉、〈貴徳〉〈太平楽〉、〈狛鉾〉、〈壱鼓〉、〈胡徳楽〉、 〈甘州〉、〈林歌〉、〈陵王〉、〈納曽利〉、〈蘇莫者〉、〈八仙〉、〈賀殿〉、 〈地久〉、〈還城楽〉、〈抜頭〉、〈陪臚〉	※４
還御	還御	還城楽	
太子堂法要	記載なし	老君子、甘州、三台塩、五常楽、扶南、陪臚、鶏得	※５

※１　「聖霊会次第」の記載は伶人の参集に始まり、冒頭の太子堂法要については不明。
※２　現行の次第（「道行」に相当）では、壱越調音取と《道楽》が奏されるが、「聖霊会次第」本文は江戸時代の例と同じく「御幸」に黄鐘調調子と《安城楽》である。
※３　現行では惣礼（総礼）伽陀のみに省略されているが、「楽道類聚」（「摂州四天王寺年中行事」）から聖霊会の伽陀はかつて惣礼・中度・回向の三段を備え、惣礼では右方、中度は左方、回向は左右両方が附物をしたと考えられている（近藤 2008:61-62）。「聖霊会次第」の当該部分は「舞台揩下ニテ／●黄鐘附物　三段」と注記したうえで篳篥の譜字を示す。ただし続く譜に伽陀の唱え方や付所の記載はなく[7]、この文言は旧次第が残ったものと考えられる。
※４　現行では両導師の下高座ののち、〈太平楽〉の舞の途中で出堂して退出、その後舞楽1曲の終了後に解散となる。江戸時代の例では、〈太平楽〉を含む18曲から成るが、日没を基準に２曲ないし４曲を省略することが多い（南谷 2011:4）。
※５　本文は、「同夜太子講」として曲名のみを列挙する。法要の次第は不明。

表中に囲みや二重下線で示した通り、「聖霊会次第」から読みとれる式次第や奏楽・舞楽の構成は、明治・大正・昭和の断絶を経た現行例よりも、江戸時代の例に近い。「御幸」「大行道」「還御」といった移動をともなう儀礼の名称が見え、舞楽法要に続く「同夜太子講」の記載がある。つまり前後に太子堂法要を備える「入れ子構造」をとどめた時期を念頭に置いているようだが、典拠の作成時に伝承が保たれていたかは定かでない。※５に注記したとおり、六時堂で営まれる四箇法要部とは対照的に、「還御」後の奏楽については梵音・錫杖といった法要の次第が全く記されていない。全体的な記載の丹念さからすると、この部分だけ法要・奏楽ともに何の注記もなく曲名を列挙する形になるのは、やや不自然に思われる。

先に述べたとおり「聖霊会次第」は唱歌の記載や小譜字の区別を欠くが、時期を遡る記録として、譜

の内容にも少しふれておきたい。昭和15年[1940]の再興に拠る『聖霊会用遠楽譜』(雅亮会発行)[8]と、「聖霊会次第」の伽陀附物の記載を比べると【表３】のようになる。あくまでも譜字の並びとしての比較ではあるが、左欄に（→①）～（→⑥）が順序だてて注記されたように記載は『聖霊会用遠楽譜』とほぼ一致し、異同は主として繰り返し方がやや違うことによる。『聖霊会遠楽譜』では、前半で4つの短いフレーズ①～④が二返ずつ繰り返されるが、「聖霊会次第」の対応箇所には「二返」の記載がない。冒頭（→①）のみが①と同じ繰り返しとなり、（→②）・（→③）・（→④）では、フレーズ全体ではなく、後半部分（「四六四。」・「丄丅。丅」）のみが繰り返されている。また（→⑥）には、『聖霊会用遠楽譜』の⑥には見られない「四六四。」が二度入っている。数度の断絶よりも前に作成された久民の記録と、現行の譜字の並びとにそれほど差がないと確認されたことは示唆に富む。

【表３】「聖霊会次第」と『聖霊会用遠楽譜』における伽陀附物の記載

左欄に「聖霊会次第」当該部分の譜字（本文１丁裏～２丁表、計６行）を掲げ、右欄には（近藤　2008:67-70）に基づき、現行譜の記載内容を、近藤氏がフレーズのまとまりごと付した仮番号①～⑥で分割して示した。左欄「聖霊会次第」において、およそ①～⑥に対応する箇所の冒頭に（→①）～（→⑥）の注記を加え、譜字の並びに『聖霊会用遠楽譜』との異同がみられる箇所には囲みを付した。

「聖霊会次第」						『聖霊会用遠楽譜』（平成７年度版）所収の譜					
（→①） 丄丅。丅丄丅。丅丄丅丄四。四六四。四六	（→②） 四。四六四六凡。丄丅。丅丄丅。丅丄丅丄四。	（→③） 四六四。四六四。四六四六引。凡六。六。凡六	（→④） 四六四。四六四。四六四六引。凡六。六。凡六	（→⑤） 四六四六凡火凡工凡引。	（→⑥） （付止）凡六四。四六四。四六四。四六四六凡。丄	①テヱリ引。チ引。 丄丅丅	②テヱ　リ　レヱラ。タアルラ引。 丄　丅　丄四　四六四 返二	③タアルラリイヤ。テヱリ引。チ引。 四六四　凡　丄　丅　丅 返二	④テヱ　リ　レヱラ引。タアルラ引。 丄　丅　丄四　四六 返二	⑤タアルラリ。イヤアリ引。チ引。トヲリラアリ。タアリイヤアルロ引。 四六四六　凡　六　六　凡　六四　六　四　六　凡　工凡	⑥（止手）トヲリラ引。タアルラアリイヤ。テヱリ引。チ引。テヱリイヒ。チ引。 凡　六四　四六四　六　凡　丄　丅　丅　丄　丅　ノ　丅
丅。丅。四丅ノ丅引											

４．おわりに

ここまでとりあげてきた資料は堀川久民･師克父子の記録であるとともに、明治に至っていわゆる“中央”となった東の式部寮ではなく、門戸は開かれたものの公の拠点を失った西の雅楽環境がどのように支えられたかという具体相を示すものである。本稿は及川尊雄氏が収集された紙媒体資料のうち、まず堀川父子が記したと推定されるものにかぎって概要を把握し、資料的価値の一端を示すことに重きを置いた。個々の詳細については、諸史料･楽書類との突き合わせなど、検討の余地が大いに残されている。また雅楽関係にかぎっても、及川氏の旧蔵資料にはこの他、堀川父子とゆかりが深かったことが指摘されている多久幸の名が記されたもの、より年代の古そうな譜など見受けられ、より専門的な調査・整理の進展が待たれる。

【別表】関連調査資料一覧[9)]

所蔵機関	書名	書写者	備考（記名・印・書写年等）	カード目録（マイクロフィルム番号）
京都大学附属図書館	『雅楽鳳笙譜』	堀川師克カ		8-60 カ 21（P3026）
	『雅楽高麗楽箏譜』	堀川久民	印「堀川」「堀川久民」	8-60 カ 22（P2830）
	『雅楽鳳笙譜』	堀川師克	冒頭に印「堀川」「久民」／末尾に「堀川師克」記名と印「藤原師克」	8-60 カ 23（P2820）
	『雅楽鳳鳴譜』	堀川師克	冒頭に印「藤原久民」／末尾に「藤原師克」記名と印「師克之印」	8-60 カ 24（P2836）
	『雅楽高麗篳篥譜』	堀川久民	印「堀川久民」「藤原久民」	8-60 カ 26
	『雅楽箏曲譜附 催馬楽』	堀川久民	印「堀川」「久民」「藤原久民」	8-60 カ 27（P2821）
	『雅楽萬秋楽』	堀川久民カ	印「堀川」、表紙は師克によるものか	8-60 カ 29（P2831）
	『雅楽撰定外篳篥譜』	堀川久民	印「堀川」「藤原久民」､「藤原久民」（記名）	8-60 カ 30（P2842）
	『雅楽稽古順次覚』	堀川師克カ		8-60 カ 31（P2838）
	『雅楽礼讃舞平調律旋楽拍子』	堀川久民・師克カ	印「堀川」、複数の筆跡	8-60 カ 34（P2812）
	『雅楽篳篥譜壱越調』	太秦文均	印「堀川」「藤原久民」	8-60 カ 35（P2825）
	『雅楽箏笛合譜』	堀川久民	印「堀川」「久民」	8-60 カ 37（P3017）
	『雅楽箏曲譜』	堀川久民	印「堀川」「藤原久民」	8-60 カ 38（P2833）
	『雅楽八十八曲目録』	堀川久民カ		8-60 カ 39（P2816）
	『雅楽撰定外龍笛譜』	堀川久民	印「堀川」「藤原久民」､「藤原久民」（記名）	8-60 カ 40（P3525）
	『雅楽龍笛譜』	堀川久之	印「堀川」、明治8年書写	8-60 カ 41
	『雅楽催馬楽笛譜』	堀川師克カ	印「堀川」	8-60 カ 42（P2834）
	『雅楽催馬楽篳篥譜』	堀川久民	印「久民」「堀川久民」、明治6年書写	8-60 サ 9（P2835）
上野学園大学日本音楽史研究所	『楽事記』	堀川久民・師克	17冊、明治13～33年	-
	『散手破陣楽　序破　箏譜』	堀川久民カ	明治16年書写	-
	『高麗楽琵琶譜』	堀川久民・不明	印「堀川」「藤原久民」、別の筆跡を含む	-
	『千早振』（歌譜、付物譜）	堀川師克カ		-
	『故高畠千畝翁撰歌催馬楽』	堀川師克カ	印「堀川」	-

参考文献

遠藤　徹「堀川久民・師克」、『雅楽を知る事典』付録「【小辞典②】人名・家名」、東京堂出版、2013年、297～298頁。

小野功龍監修、藤原憲・小野真編『雅亮会百年史：創立百二十年を越えて』（増補改訂版）、天王寺楽所雅亮会、2008年１月。

近藤静乃「四天王寺聖霊会における伽陀付物の音楽的考察　―現行例を中心に―」、『東京藝術大学音楽学部紀要』第34集、2008年３月、59～76頁。

福島和夫「『楽事記』堀川久民父子記 ―明治期の京都における雅楽関係記録―」、『日本音楽史研究：上野学園日本音楽資料室研究年報』第２号、1999年、150頁。

正宗敦夫編纂・校訂『地下家伝』21-26、日本古典全集刊行会、1938年。

三島暁子「堀川久民 ―幕末明治の雅楽受容を考える―」、『日本音楽史研究：上野学園日本音楽資料室研究年報』第２号、1999年、162頁。

南谷美保「江戸時代における雅楽の伝播 ―三方楽所楽人と雅楽愛好家との交流を例として―」、『IBU四天王寺国際仏教大学短期大学部紀要』第34号、1994年３月、146～175頁。

――――「江戸時代末期の雅楽曲のレパートリー―『明治撰定譜』に収録された曲目との関連についての一考察―」、『IBU四天王寺国際仏教大学短期大学部紀要』第35号、1995年３月、１～25頁。

――――「江戸時代の聖霊会における御幸・大行道・還御―移動を伴う法儀についての考察―」、『四天王寺大学紀要』第52号、2011年９月、１～26頁。

《注》

１）『地下家伝』巻廿四によれば、堀川家は112年間絶えていたところ、天保13年［1842］久民の相続により再興された。徳大寺家との関わりは実父・淡川康民（1776～1842）より継承している。

２）久民が明治７年［1874］、師克・久之が翌８年に任官。雅楽課所属以前については、（南谷1994:161）が『楽所日記』の記載から、嘉永５年［1852］に東儀文均に入門した「堀川筑州」が久民と思われることを指摘する。

３）久民の次男久之については、筆跡を確認できる資料が１点（京都大学附属図書館蔵『雅楽龍笛譜』）に限られたこともあり今回は検討対象から外している。

４）久民の筆跡による本文・印に、師克の記名や印が加わっている類似の例としては、京都大学附属図書館蔵『雅楽鳳鳴譜』・『雅楽鳳笙譜』が挙げられる。

５）"おおみち-ひさゆき【大道久之】", JapanKnowledge　内『日本人名大辞典』、2021-02-12 参照。

６）南谷氏は「【表-１】現在と江戸時代の聖霊会の次第の比較」として、『四天王寺年中法事記』・『四天王寺法事記』・『摂州四天王寺年中行事』・『四天王寺三大会手文』を参考に江戸時代の聖霊会の次第をまとめ、平成23年［2011］の例と対照している。

７）なお現行の伽陀（総礼伽陀）では、第一句「敬礼救世観世音」を句頭が唱えたのち、二句目・三句目は略され、第四句「開演妙法度衆生」の同音（斉唱）から三管が一斉に吹き始める。⑥の止手のフレーズに達することはほとんどなく、声明が終わったら自然に吹きとめるという（近藤2008:68）。

8）現在聖霊会で行われている奏楽は本資料所収の譜に基づく（ただし現行の伽陀付物では、笙は異なる譜を演奏している）。なお『聖霊会用遠楽譜』の作成段階で参照されたと思われる資料は、昭和20年［1945］の戦火に遭って焼失したとのことである（近藤　2008:63）。

9）各機関の目録にはこのほか『雅楽篳篥壱越平調』・『雅楽撰定外鳳笙譜』（京都大学附属図書館）、『（創立二十週年記念祝賀神祭堀川先生喜寿算賀式）記念記』（上野学園大学日本音楽史研究所）等が含まれたが、2019年12月時点で所在不明とのことで未見。

及川尊雄が収集した今村権七関係資料
―楽器製作者の足跡

前　原　恵　美

１．はじめに

及川尊雄氏が収集した紙媒体資料の整理に関わる機会を得て、まずはその幅広さに圧倒された。しかしそのうちに何度か繰り返し出てくる名前に気づくようになった。それが「今村権七」である。最初はその「今村権七」がいかなる人物かよくわからなかったが、次第に京都で代々続く箏・三味線の製作者が継承している名前で、店舗名が「亀屋」、通称「亀屋権七」とも、それを略して「亀権（かめごん）」とも呼ばれたということがわかってきた。幅広い日本の楽器や音具（実際には日本に留まらないが）を収集し、自ら「及川鳴り物博物館」館長として楽器の魅力を伝え続けた及川氏であるから、楽器製作者について関心を抱いていても不思議ではない。本稿では、『及川尊雄収集 紙媒体資料目録』に掲載された今村権七関係資料を概観し、この楽器製作者の足跡を辿ってみたい。なお、及川氏収集の「今村権七資料」一覧は、文末に【表】として掲載したので適宜参照されたい。

本稿は令和２（2020）年２月１日に行われた（一社）東洋音楽学会東日本支部第113回定例研究会での共同報告[1]「もう一つの及川コレクション―及川尊雄氏収集紙媒体資料―について」での筆者の発表を元に改稿したものである。

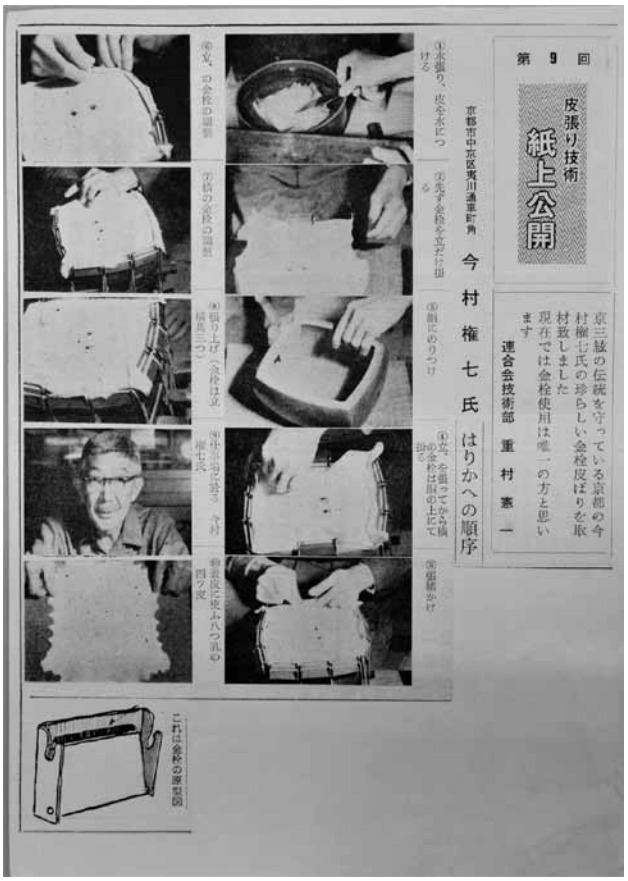
２．及川氏の「今村権七」への関心

及川氏の楽器コレクションの集大成とも言える図録『阿弗利加（あふりか）から旅して来た日本の楽器たち 音の図書館をめざして』のp.135とp.136に、今村権七が製作した三味線の写真が掲載されている。p.135には、「京都今村正房[2] 作」として六つ折れ三味線と書付が載っており、この三味線は書付によって明治28（1895）年４月１日～７月31日に京都市岡崎公園で開催された「第四回内国勧業博覧会」に出品されたものとわかる。また、p.136にも六つ折れ三味線が二段の木箱に収まっている写真が掲載され、胴内に「京都　今村正房　亀屋権七」と書かれた部分写真も一緒に収められている。これらの写真はいずれも「工夫された三味線」という項で取り上げられており、ほかにも、主流の三つ折れ三味線ではない、二つ折れや六つ折れ、九つ折れの三味線など、一工夫した手の込んだ三味線が取り上げられている。このことから及川氏は、楽器製作の技術そのものにも関心を寄せていたのではないかと推察される。

もう一つ、及川氏が今村権七の製作技術に注目していたと思われる資料がある。目録番号1200である（【図１】、【表】参照）。出典不明ながら、同じ頁の複写が５枚あり、右上に「第９回　皮張り技術　紙上公開」と見出しがある。見出しの下の枠内に以下のように書かれている。

京三絃の伝統を守っている京都の今村権七
氏の珍しい金栓皮ばりを取材致しました
現在では金栓使用は唯一の方と思います
連合会技術部　重村憲一

【図１】目録番号1200



見出しの左には「京都市中京区夷川通車街角　今村権七氏　はりかへの順序」とあって、今村権七が金栓を使って三味線の革を水張りしている写真が、工程に従って10枚並べられ、それぞれ短く説明が加えられている。現在は三味線の革はほとんどが乾張りで、革を留めるのにも金栓ではなく木栓を使う。記事がいつのものか不明であるが、この時点ですでに金栓は珍しかったようで、紙面の左下には「これは金栓の原型図」として､手書きのスケッチまで載っている。この紙面を５枚も複写していることから、及川氏は楽器製作の稀少な技術や、そのための道具にも関心があったと思われる。

このように、及川氏は以前から今村権七に着目して、楽器そのものだけでなく製作者に関する資料も集めていたようで､本目録にも今村権七関連資料と確定できるものが45点[3]ある（【表】）。この「今村権七」がどのような製作者であったのか、以下、及川資料[4] を見ていく。

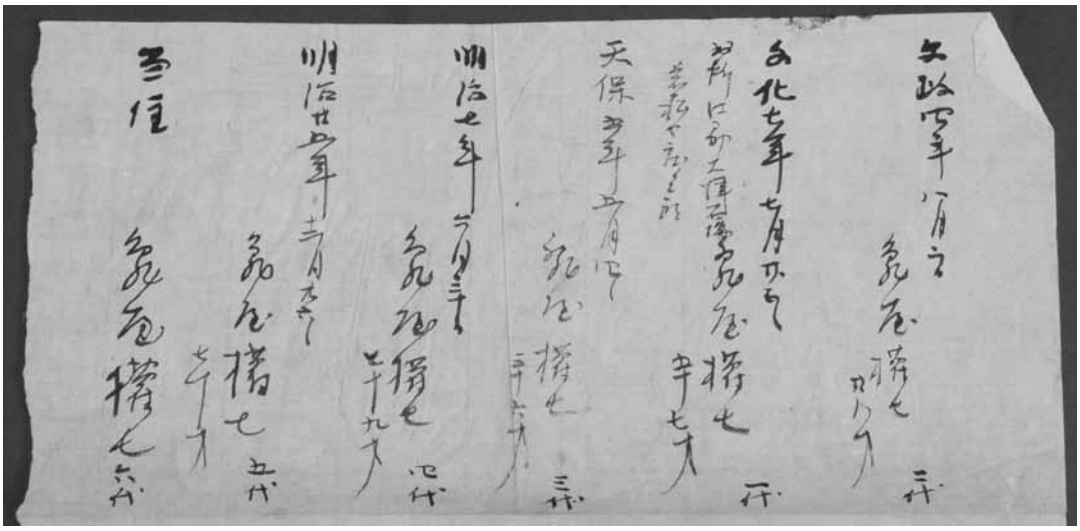
３．今村権七関係資料の全体像と代々の今村権七

末尾の【表】は､及川氏が収集した今村権七関係資料を内容別に５つに分けたものである。すなわち、①今村権七に関する記事（３点）、②広報・経理・販売関係書類（19点）、③はがき・書状関係（６点）、④博覧会･展覧会関係書類（14点）､⑤「五二会」関係資料（３点）である。このうち⑤は､後述のように、④の書類から展覧会にかかわることがわかった。これらの今村権七資料には、楽器製作者の経理・営業に関する資料と、博覧会・展覧会に関する資料の、大きく二本の柱があると見てよかろう。②についてはまだ読み込めていない資料が多いので、以下④を中心に⑤との関わりに触れながら、今村権七のルーツをたどることにする。

まず、①の目録番号2302がその起点になる。①の目録番号1200、2067は比較的近年の今村権七に関する記事を集めたものだが、目録番号2302は性格が全く異なる。紙片を上下に二つ折りにし、上半分に手書きで代々の今村権七について書き付けている（【図２】｡文字の書かれている上部のみを拡大したもの）。これによれば、少なくともこの書付が記された時点で亀屋権七すなわち今村権七は六代を数え、それぞれの没年は初代が文化７（1810）年（享年57才）、二代が文政４（1821）年（享年28才）、三代が天保５

（1834）年（享年36才）、四代が明治７（1874）年（享年79才）、五代が明治25（1892）年（享年70才）、六代が当代ということになる。これでおよその代々の活躍した時代が推定できるのだが、さらに「④博覧会・展覧会関係書類」と及川資料以外の地誌類を用い、初代から順に足跡を追う。

【図２】目録番号2302　亀屋権七代数・年齢の記録（紙片の折り目から上半分）

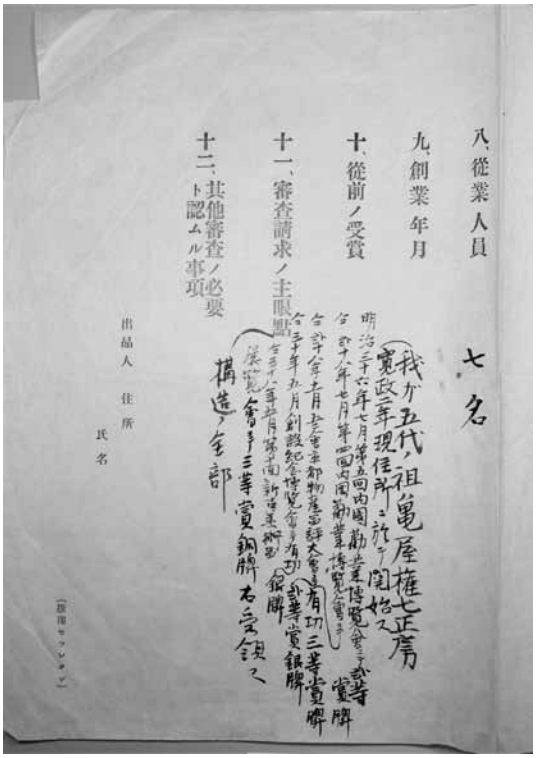


４．創業者・初代今村権七

初代の動向を知るのに、まず目録番号2300「解説書」を見てみる（【図３】）。この「九､創業年月」の欄に､「我ガ五代ノ祖亀屋権七正房／寛政二年現住所ニ於テ開業ス」とある。このことからこの「解説書」を書いたのは五代今村権七と知れる。また、創業が寛政２（1790）年であり、当時の住所は「③はがき・書状関係」を見る限り、（表記の仕方が少々違うことはあるが）変わっていないので､「上京区車屋町通り夷川上ル」である。

初代の生年は不明だが、前項で確認したように没年は文化７（1810）年なので、創業年に違和感はない。初代は宝暦３（1753）年[5]に生まれ、寛政2（1790）年に現在の上京区で箏・三味線業者として「亀屋」を開き、そののち20年ほどで亡くなった。創業して20年の間製作を続けてから次代に譲り渡しているのだから、創業者として箏・三味線店の礎は築けたと見てよかろう。

【図３】目録番号2300 「解説書」(左半分)



5. 早世した二代今村権七

二代は、文政４（1821）年に享年28才の若さで亡くなっている。生年は寛政５（1793）年だから、二代が生まれる３年前に初代を亡くしており、亀屋の技術も人脈も引き継ぐことはなかった。しかも二代自身が、当時としても比較的若くして亡くなっているので、次代を育てることも十分にはできなかったのではないか。この二代の時代には、地誌類などの資料にも今村権七の名は見つかっていない。また、及川資料にも見当たらない。創業二代にして、今村権七の亀屋は、早くも継承の危機を迎えたといえるかもしれない。

６．続く三代今村権七も若くして亡くなる

三代も天保５（1834）年に享年36才で亡くなっているので、二代ほどではないが若くして生涯を閉じた。三代の生年が寛政10（1798）年ということは二代と５才差なので、２人は兄弟ないし義兄弟と考えるのが自然である。長く生きなかったとはいえ、三代は23才まで二代とともに過ごし、両名とも「今村権七」を継いでいるので、箏・三味線製作を行っていたと推察される。

三代の時期の及川資料はなく、地誌類にも今村権七の名は未見だが、亀屋の系統は四代へと引き継がれた。

７.二代、三代に代わって亀屋を立て直した四代今村権七

四代は、没年から遡ると寛政７（1795）年の生まれということになる。四代は、二代より２才年下、三代より３才年上ということになるので、二代から四代の関係は複雑だ。仮に三人を兄弟に例えれば、長男が二代を継ぐも早世、三男が三代を継ぐも長くは生きられず、四代を継いだ次男が79才まで生き、亀屋を存続させて次代に受け渡した、という具合である。ただし、比較的長命であった四代は、良い技術も持ち合わせていたらしく、２点の地誌類にこの時期の今村権七の名前が見受けられる。

まず、文久３（1863）年刊の『文久改正　花洛羽津根（からくはつね）　三』[6]に「琴三味線所／琴／夷川堺町東／亀屋権七」（39ウ）とあり、これが管見では今村権七情報の初出である。さらに翌文久４（1864）年の『都商職街風聞（みやこあきないしょくちまたのふうぶん）』[7]にも「琴三味線所／夷川堺町東／同[琴]／かめや権七」（43ウ）と記されていて、亀屋の商いが順調だったことをうかがわせる。この時期にはすでに二代､三代とも亡くなっているので、その後、地誌に名が載るくらいにまで亀屋を盛り返したのは四代の功績と言ってよい。ただ、及川資料には、まだ四代に関する資料は出てこない。

８.五代今村権七による亀屋維持

二代、三代と代替わりが頻繁に起こっていた今村権七だが、四代になってようやく箏・三味線製作も軌道に乗り、地誌にその名が登場するようになった。これを継いだ五代目は、文政５（1822）年生まれ

という計算になり、四代が亡くなるまで52年を一緒に過ごしたことになる。そこからさらに18年、亀屋を牽引した。四代の技術や人脈を継承するに十分な時間を過ごしたと推測される。ただし、この期間も及川資料、地誌類ともに情報が見当たらない。

９.六代今村権七と亀屋の全盛期

9-1.六代今村権七の生没年とその後

六代は【図２】を書いた本人なので、ここには没年を記していないが、前掲【図３】の「十、従前ノ受賞」の項を見ると、少なくとも明治28（1895）年から明治35（1902）年にかけて、たびたび受賞を重ねるなど活躍しているとわかる。さらに五代と六代の間が途切れていないと想定すると、六代の生年は少なくとも最初の受賞時より３年前の五代の没年、すなわち明治25（1892）年までは遡ることができるし、現実的に受賞年齢を考慮すれば、生年はさらに20年程度は前であろう。つまり、おそらく六代は明治初期には生まれ、大正ないし昭和初期まで活躍したと想定することに、それほど無理はないと考える。それでは六代以降の今村権七はどうなったのだろうか。

『明治を伝えた手』（杉村恒、昭和44（1969）年、朝日新聞社）のpp.58-59には、見開きで箏製作者としての「今村権七」が取り上げられている。文章中に履歴に関わる情報はほとんどないが、幸い箏の中削りをしている今村権七の横顔写真が掲載されている。また、先に取り上げた【図１】の写真にも、年代は不明だが今村権七の顔が写っている。この写真を比べると、断言はできないものの、両者は非常によく似ているので同一人物と思われ､年代も近いように見える。いずれの写真も高齢の今村権七なので、六代の跡を継いだ晩年の七代ではなかろうか。六代と七代の生没年について、現段階では推測を重ねることしかできないが、六代は明治から昭和のはじめ、七代が明治末から昭和に生涯を送ったと想定しても、それほど大きな誤差はないように思う。またそのように想定すると、今村権七関係の及川資料は、実はほとんどが六代に集中しているとも言えるのだ。もっとも、二代、三代、四代の年齢が近かったことを思えば、今後さらなる情報収集が必要である。いずれにせよ【図１】に写る今村権七は現在では亡くなっており、そのご子息は跡を継いでおらず、現在その血縁にあたる方は箏･三味線の製作には関わっていない[8)]。

9-2.六代の博覧会・展覧会出品と受賞

【図３】の受賞歴を見るにつけ、六代の積極的な博覧会・展覧会への出品と、そこでの受賞歴には目を見張るものがある。ここでは六代が箏・三味線製作で活躍した時代を明治後半から昭和のはじめと想定して、その活躍を概観する。

及川資料およびその他の関連資料をもとに、六代の出品した博覧会・展覧会を列挙すると以下のようになる。

①第四回内国勧業博覧会[9)]　明治28（1895）年４月１日～７月31日（京都市岡崎公園）

→有功三等賞牌

参考）及川資料：目録番号2300、2307、2312、2308、2306、2329

その他の資料：『第四回博覧会必携京阪十大家名誉録』[10]、『第四回内国勧業博覧会出品部類目録』[11]、『第四回内国勧業博覧会授賞人名録』[12]、『第四回内国勧業博覧会名誉鑑　第二巻』[13]

②五二會京都物産品評大会　明治28（1895）年11月

→二等賞銀牌

参考）及川資料：目録番号2300、2309、2353、2354

③創設記念博覧会　明治30（1897）年５月

→有功銀牌

参考）及川資料：目録番号2300、2310

④第五回内国勧業博覧会　明治36（1903）年3月1日～7月31日（大阪市天王寺今宮）

→二等賞牌

参考）及川資料：目録番号2300、2313、2322、2297、2298

その他の資料：『第五回内国勧業博覧会受賞人名録』[14]

⑤第十回新古美術品展覧会　明治38（1905）年

→三等賞銅牌

参考）及川資料：目録番号2300

⑥東京大正博覧会　大正３（1914年）３年３月20日～７月31日東京市上野公園地）

参考）及川資料：目録番号1855、2325、2328

このように見てくると、六代と見られる今村権七は、たびたび博覧会や展覧会に出品し、受賞も重ねた。そしてその出品・受賞に比例して地誌類にも頻繁に掲載されるようになり[15]、ますます評判が高まり、「今村権七」の亀屋は最盛期を迎えたといってもよかろう。六代については、上記②に関連して「五二會」とのつながりを示す及川資料が興味深いので、次項で紹介する。

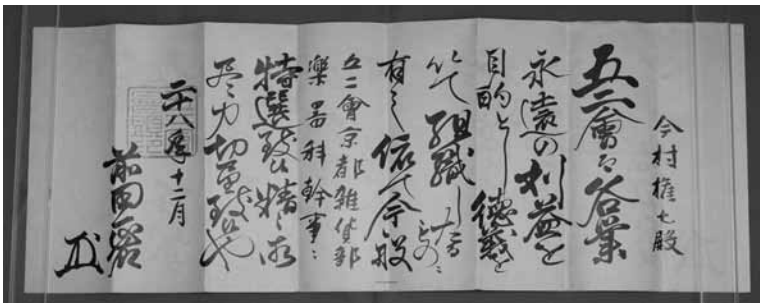
9-3.六代と五二會、前田正名

五二會の「五」は織物、陶器、銅器、漆器、製紙、「二」は雑貨、敷物を表す。これらの伝統的な輸出工芸品七業者の団体を組織化し、競争して切磋琢磨することにより産業振興、さらには国力増強を目指した組織が五二會である。ちなみに、楽器は「二」の雑貨に含まれる。五二會は中央本部を京都に置き、各府県に府県本部、事業部、支部を置いて全国組織を持っていた。この五二會を立ち上げた人物が前田正名（1850－1921）である。薩摩藩の漢方医の家に生まれた前田は、フランスに留学した経験を活かして、パリ万博への日本産物出展に尽力したことでも知られる。その功績あって、後に大蔵省御用掛商務局勤務となり、大隈重信の元で在来産業の振興に取り組んだ経歴を持つ。その前田正名が産業振興のシステムとして明治27（1894）年に立ち上げたのが「五二會」である。

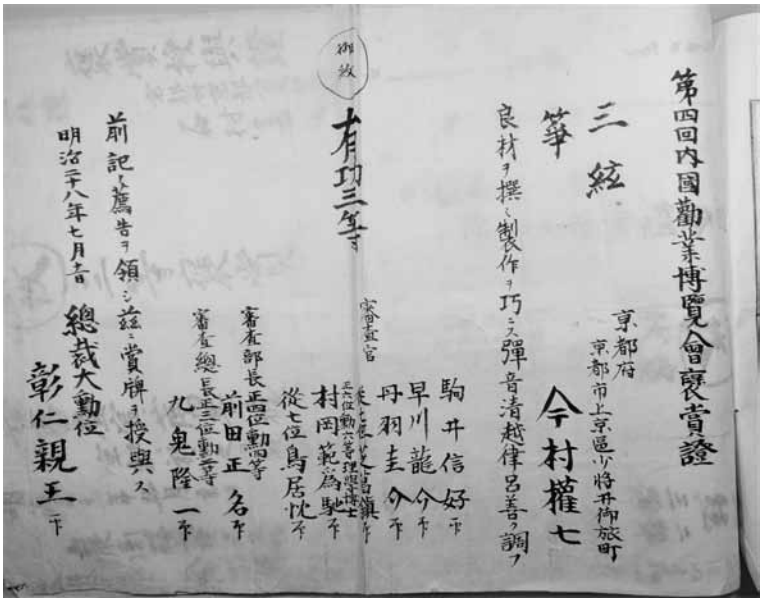
及川資料には、前項の②五二會京都物産品評大会出品に前後して、六代と前田正名の関係を示す資料が３点ある（目録番号2353、2311、2354）。中でも目録番号2353は、前田と六代の関係を直接示す資料として重要である（【図４】）。この書状は前田が六代に当てて書いたもので、前田が五二會の「雑貨部

楽器科幹事」に六代を特選する内容になっている。楽器製作を産業振興の一部と考え、「楽器科」として五二會に組み込んでいた前田による、六代の抜擢と言える。この書状が書かれたのは明治28（1895）年12月とあるが、これが同年７月に前項①第四回内国勧業博覧会で有功三等賞牌を受賞し、同年11月に②五二會京都物産品評大会で二等賞銀牌を受賞した直後だということも見逃せない。ちなみに、五二会幹事になった六代は、明治30（1897）年刊行の『全国品評会事務報告』「五二會全国品評会出品監理委員人名」に、雑貨部の管理委員として名が見えるので、早速幹事としての務めを果たしていたようだ[16]。また、目録番号2306にも注目すべき記述がある（【図５】）。これは、第四回内国勧業博覧会褒賞證の写しだが、ここに審査部長として前田の名前が記されているのだ。

【図４】目録番号2353　五二会関連書状



【図5】目録番号2306 「褒賞授与證」（写し）



これらの情報を総合すると、審査部長を務めた第四回内国勧業博覧会で、さらに4カ月後には自ら組織した五二會の京都物産品評大会で、急速に六代と近づいた前田が、その一か月後に五二會の雑貨部楽器科幹事に六代を推し、その後、六代は五二會の組織内でも品評会出品監理委員を務めるほど深く関わっていったと見ることができる。六代が、博覧会・品評会を通して前田および五二會、さらには楽器製作という産業の振興に関わるようになっていった過程が読み取れて、興味深い。

10. おわりに

「今村権七」の名を、現在継いでいる箏・三味線製作者はいない。七代と思われる今村権七は『明治を伝えた手』の中で、「ほんものの音がどんなもんやらよう分からんようになってしもうた世の中や、琴づくりもこの辺でしまいですわ」と笑ったという。この本が出版されてすでに50年近くが過ぎようとしている。明治以前の音を知る人もほとんどいなくなった。しかし及川資料に触れると、音を支えた製作者たちの日常のやりとりや営業努力、博覧会や展覧会出品の緊張感、または受賞の喜びが線になって繋がってくる。「今村権七」だけを取り上げても、わからないことや読み切れていない及川資料がまだ多い。今後も資料を読み進めて、特に六代を取り巻く楽器製作環境に近づきたいと思う。

末筆ながら、楽器本体や演奏家だけでなく製作者にも目を向けて、後世に貴重な資料を残してくださった及川尊雄氏に敬意と謝意を表すとともに、これらの資料の調査を許してくださったご家族のみなさまに深謝いたします。

参考文献については、本文、【表】、注に書誌情報を含めたので、紙面の都合上、別項を立てなかった。

【表】及川氏収集の「今村権七関係資料」一覧(内容別・成立年順)

①今村権七に関する記事

目録番号	資料名（内容）	成立年	備考
1200	「第9回　皮張り技術　紙上公開　今村権七氏　はりかへの順序」複写		
2067	「のれんめぐり第6回　伝統の京三味線技術を守つている今村権七さん」ほか		スクラップ
2302	亀屋権七代数・年齢の記録		今村権七宛はがき（表書）

②広報・経理・販売関係書類

目録番号	資料名（内容）	成立年	備考
2330	「明治廿九年度上リ高届」ほか	1887年ほか	明治19-29年度
1853	『大正四年四月起　琴仕入帳』	1915年	「今村権七」（裏表紙）
1854	『大正四年四月起　職手間帳』	1915年	「今村権七」（裏表紙）
2331	「明治三十年営業名及課税標準届」ほか	1897年	箏三味線
2332	所得届	1897年	「京都府知事／内海忠勝殿宛、三十年五月」、三味線
2333	「写　三十一年四月三十日届　所得金高届」	1898年	三味線
2334	「三十一年五月届　但シ三十年度　所得届」	1898年	三味線
2335	「明治三十一年営業名及課税標準届」「営業税届明細書」	1898年	箏三味線
2336	「右者三十二年四月廿七日届但シ（三十一年度　所得届）」	1899年	三味線
2337	「三十二年度所得金高届　写」	1900年	三味線
2338	「明治三十四年四月廿七日届控（但シ三十三年度　所得金高届）」	1901年	三味線
2339	「明治三拾五年四月三十日届（三十四年度所得金高届写）」	1902年	三味線
2299	「各国諸新聞特約一覧表」、今村権七宛書状	1903年	大阪勉強社
2340	「明治卅六年度(一月ヨリ十二月中)上り高届」ほか	1904年ほか	明治33～34・36年度
2341	「三拾七年一月ヨリ十二月中営業上リ高」「明治三十七年度（一月ヨリ十二月中）上リ高届」	1905年	上京税務署長税務官白井■殿宛
2344	「大正十一年度上リ高」ほか	1910年ほか	
2345	『大正八年　大福帳　四月吉日』	1919年	

2294	今村楽器店　楽器販売関連書類（送り状・出品目録ほか）		今村権七
2343	「明治四十二年営業名及課税標準届」ほか		箏三味線、今村権七

③はがき・書状関係

目録番号	資料名（内容）	成立年	備考
2295	今村権七宛書状	1899年	箏寄付への礼状、差出人：「京都市盲唖院長鳥居嘉三郎」（本文「京都市盲唖院長鳥居嘉三郎」（本文）
2297	今村権七宛はがき	1903年	「祝壹等賞授賞／明治三拾六年／七月二日」、差出人：石村善七
2346	箏関係の書状	1918年	畑伝次郎・今村権七宛、差出人：西村重吉・西井伊三郎・木村忠吉
2296	今村権七宛はがき（表書）		京都出品協会出張所より授賞通知
2347	「覚」		今村御■宛、差出人：■木
2298	今村権七宛はがき		第五博覧会一等賞授賞祝い、差出人：関孝七

④博覧会・展覧会関係書類

目録番号	資料名（内容）	成立年	備考
2307	「出品願」	1894年	第四回内国勧業博覧会の出品目録付き
2312	第四回内国勧業博覧会出品関連書類	1894年	今村権七
2308	出品目録	1894年カ	今村権七カ
2306	「三絃御審査請願書」「第四回内国勧業博覧会褒賞證」「■回内国勧業博覧会褒賞證」「褒賞授与證」	1895年ほか	今村権七・石村善七関連書類
2309	「出品目録」	1895年	「五二会京都品評大会」
2310	「出品目録」「審査請求書」	1897年	審査請求書は「創設二十五年記念博覧會事務所御中」宛
2313	「第五回内国勧業博覧会出品解説書写」	1902年	今村権七
2322	「写　第五回内国勧業博覧会出品仮目録」	1902年	今村権七
1855	『東京大正博覧会　全国美術工芸品博覧会雑記帳』	1914年	今村権七
2325	「東京大正博覧会出品解説書控」	1914年	今村権七
2328	東京大正博覧会出品許可書	1914年	「出願人　今村権七」、差出人：京都府知事　大森鍾一
2305	箏の出品関係の書状ほか		今村権七の名入り用紙、箏
2329	「明治二十七年九月　博覧会要書類」		表紙のみ、今村権七
2300	「解説書」		「一品名　琴」「一産地　京都市上京区夷川車屋町角今村権七自宅」

⑤「五二会」関係資料

目録番号	資料名（内容）	成立年	備考
2353	五二会関連書状	1895年	今村権七宛、差出人：前田正名

2311	「全国漆器漆生産府県連合共進会規則」		今村権七宛、差出人：五二会
2354	五二会関連書状		今村権七宛、差出人：五二会

《注》

1）他の共同発表者は、橋本かおる、鎌田紗弓、曽村みずきの各氏。

2）今村権七のこと。

3）実際はいくつもの資料が一まとまりになっていたり、綴じられていたりするものもあるので、厳密な点数は45点をはるかに超えるとも言える。

4）以後、本稿では及川氏が収集した紙媒体資料を「及川資料」と記す。

5）本稿では、数え年と満年齢の違いを取り置いて、便宜的に満年齢で推定する。

6）文久３（1863）年、清水換書堂主人・編、東洞院上珠数屋町　闡教舘、早稲田大学図書館蔵。ここにある「亀屋権七」はすなわち「今村権七」のこと。

7）文久４（1864）年、橋本太右衛門･東林芳兵衛･田中屋專助･編、京都書林、京都府立総合資料館蔵。

8）筆者は今村権七の親類にあたる方に電話で話を伺う機会があったが、今村権七についてはほとんどご存じないとのことだった。

9）内国勧業博覧会は、ほかに以下の３回開催された。

第一回内国勧業博覧会　明治10（1877）年８月21日～11月30日　於：東京上野公園

第二回内国勧業博覧会　明治14（1881）年３月１日～６月30日　於：東京上野公園

第三回内国勧業博覧会　明治23（1890）年４月１日～７月31日　於：東京上野公園

10）明治27（1894）年、高橋敬・編・発行、国立国会図書館所蔵。p.61に「琴三線商／上京区夷川車屋町角／今村権七」。

11）明治28（1895）年､第四回内国勧業博覧会事務局､国立国会図書館蔵。p.246に「琴／同（二）　同（三）　三味線（四）　同（五）　同（六）　同（七）／同夷川通車／屋町角少将御／旅町／今村権七」。

明治28（1895）年、柳田壮･編、拡業会出張所、国立国会図書館蔵。p.132「有効三等賞の項」に「三絃、箏　京都市上京区／少将御旅町　今村権七／良材ヲ選ミ製作ヲ巧ニス弾音清越律呂善ク整フ／部長　正四位勲四等前田正名／審査官　従七位鳥居沈　正六位勲六等理学博士村岡範為馳／従七位芝葛鎮　丹羽圭介　早川龍介　駒井信好」。

12）明治28（1895）年、国立国会図書館。p.114「有効賞三等」の項に「三絃、箏　同夷川車屋町角／今村権七」。

13）明治36（1903）年、小倉政次郎・編、東浪館書房、国立国会図書館蔵。p.44「京都府　一等賞」の項に「箏　今村権七」。目録番号2300（【図３】）には二等賞とあり、矛盾が見られる。

14）該当する地誌類には以下のようなものがある。

『京都案内都百種　全』辻本治三郎・編、尚徳館、『京都案内都百種　全』辻本治三郎・編、尚徳館、明治27（1894）年、国立国会図書館所蔵（p.190）。

『京華要誌　上』京都市編纂部 編、明治28（1895）年、国立国会図書館所蔵（p.188）。

『交信資要』商工重宝社、国立国会図書館蔵、明治45（1912）年、国立国会図書館所蔵（p.38「京都府　楽器」の項）。

『京都実業界』佐藤純吉・平野熊蔵・編、博信社、明治45（1912）年、国立国会図書館所蔵（p.47「琴三味線商」の項）。

『日本全国商工人名録』商工社、大正５（1916）年、国立国会図書館所蔵（p.41「京都府　楽器」の項）。

『大正名人録』島内登志衛・編、黒潮社、大正７（1918）年、国立国会図書館所蔵（p.108「楽器師和楽器」の項）。

『改版　京都商工人名録』京都商工人名録発行所・編、京都商工人名録発行所、大正11（1922）年、国立国会図書館所蔵（p.151「琴三味線」の項）。

16）五二会京都本部、明治30（1897）年、国立国会図書館所蔵（p.27）。

近代琵琶雑誌・会報資料にみる薩摩琵琶・錦心流の動向
―及川尊雄収集資料を中心に

曽　村　みずき

１．はじめに

及川鳴り物楽器博物館には80点余りもの琵琶の楽器が所蔵され、展示室には「琵琶の間」が設けられるほどであった。博物館図録『阿弗利加（あふりか）から旅して来た日本の楽器たち 音の図書館をめざして』（2018）には、珍しい形状の琵琶も多く掲載され、そのコレクションの貴重さがうかがえる。今回の調査からは、楽器同様に紙媒体の琵琶の資料が多数確認でき、及川氏の琵琶への関心の高さが改めて推察された。本目録の「03.琵琶楽」[1]のジャンルに分類される所蔵資料は、全部で320点あり、単一の邦楽ジャンルでは、雅楽に次いで２番目に多かった。とくに近代琵琶（薩摩琵琶・筑前琵琶）に関する資料には、雑誌・会報や楽譜（琵琶歌本）、免状申請に関する書類など、貴重な資料が多数所蔵されていた。本稿ではこれらのうち、昭和戦前期に刊行された雑誌・会報資料に注目してみたい。

従来の近代琵琶研究では、近代琵琶界の動向を具体的に示す資料として、雑誌や会報が調査対象の中心であった。薦田治子（2014）は、雑誌・会報などの歴史資料の所蔵調査に取り組み、主に国立国会図書館（以降、「国会図書館」と記載）に所蔵される、琵琶愛好家向けの月刊誌『琵琶新聞』（1909～1944）および薩摩琵琶の一流派である錦心流の機関誌『水声』[2]（1925～1930）の、記事のデータベース化を行った。及川尊雄収集紙媒体資料には、琵琶の雑誌や会報などの定期刊行物が147点あり、さらに、薦田による調査でも未確認の資料が多数含まれていた。そこで本稿では、所蔵点数の多い薩摩琵琶・錦心流の会報を取り上げ、具体的な資料の内容から組織の動向を整理する。なお、本稿では及川氏が収集した紙媒体資料を「及川コレクション」と表記して示すこととする。

２．及川コレクションにおける近代琵琶の雑誌・会報資料の所蔵状況とその特徴

及川コレクションでの近代琵琶の雑誌・会報資料には、前述の『琵琶新聞』『水声』のほか、各流派・会派で刊行されたさまざまな機関誌が確認でき、その所蔵一覧を次ページに掲載した（【表１】）。多種多様な資料が所蔵される点はさることながら、ある程度まとまった数で資料が収集されている点も、及川コレクションの特徴である。

これらの資料は、戦前はA5サイズ、戦後はB5サイズの冊子体で刊行された。国会図書館にはマイクロフィルムで所蔵されているため、色や装丁は不明な点もあったが、実物をみると着色が施されており、表紙は毎号異なる色づかいを用いるなど、装丁の工夫も確認できた。記事の内容は、新作琵琶歌の詞章や解説、演奏会の報告・予告・批評、回顧録が中心で、その他組織からの通信欄として、免状昇伝者の一覧が掲載された機関誌もある。記事の執筆は主に、演奏家や作詞家が担当し、読者からの投稿もあっ

【表１】 及川コレクションにおける近代琵琶関連雑誌・会報類一覧

●戦前

	雑誌・会報名（目録番号）	主なジャンル	巻・号（発行年月）	点数	発行地	発行所	主幹、編集者	備考
1	琵琶新聞（601-619番）	近代琵琶	139-150（192201-12），157, 159（192207, 09），67-75（193008-193104），77-82（193106-193201），278（193410）	19	神田区表神保町3番地、67号以降：本郷区湯島三組町、278号：牛込区矢来町87番地	琵琶新聞社	椎橋重吉（松亭）	1909年2月創刊、1944年6月終刊、途中休刊あり
2	四絃（532-534番）	薩摩・錦心	52, 53, 58（192203, 04, 09）	3	芝区桜川町17番地	一水会本部	須田清一（春園）	1917年冬創刊
3	水声（536-556番）	薩摩・錦心	3, 11（192503, 11），16, 20, 22, 23（192604, 08, 10, 11），36（192712），46, 47（192810, 11），51, 52, 54, 56-60（192903, 04, 06, 08-12），62, 63, 65（193002, 03, 05）	21	表猿楽町1番地、36号以降：本郷区龍岡町33番地	琵琶新聞社水声発行部	椎橋重吉（松亭）	1925年1月創刊、1930年6月終刊
4	錦心流月報（492-518番）	薩摩・錦心	1932・3, 4（193203-04），24, 26-29（193205-09），31-33（193211-193301），35, 37, 38, 40, 41（193303, 05, 06, 08, 09），43-47（193311-193403），49-54, 56（193405-11）	27	芝区桜川町旧17番地	錦心流琵琶宗家事務所一水会本部	酒井幽泉	1930年5月創刊、創刊当時の発行者は梶並貫水、1932年1月より酒井
5	月刊　錦心流（519番）	薩摩・錦心	59（193503）	1	品川区西大崎1-68	錦心流社	酒井啓太郎（幽泉）	『錦心流月報』に続く号数か
6	月刊　錦心流水号協会会報（520-530番）	薩摩・錦心	4・1-5, 7/8-10（193712-193805, 08-10），5・12（193912），6・1, 4/5（194001, 05）	11	芝区桜川町21番地	錦心流水号協会本部	鈴木鉦次郎、第5巻第12号以降：谷侃三	1935年10月創刊、1940年5月終刊
7	琵琶評論（621-625番）	筑前	12（191904），23, 25, 26（192004, 06, 07），32（192101）	5	大阪市北区堂山町582	琵琶評論社	芝快蔵	1918年創刊
8	琵琶界（564-578番）	筑前	3・33-35（192510-12），4・36, 37, 39, 41-47（192601, 02, 04, 06-12），5・48, 49（192701, 02）	15	福岡市外三角	琵琶界社	古野茂	1923年2月創刊
9	大東（557番）	筑前	5・27（193201）	1	大阪市港区弁天町3丁目5	大東社	木村岩松（旭城、主幹）、天野喜右衛門（編輯）	

●戦後

10	琵琶楽（579-600番）	近代琵琶	40-48（198701-198901），50（198907），52-57（199001-199107），91（200108），93（200201），101, 102（200401, 04），106（200504）	22	東京都港区西新橋1-11-7、43号以降：港区新橋6-10-1田中ビル3階 91号以降：新宿区西新宿4-14-17新宿パークサイド永谷305号	日本琵琶楽協会	遠藤鶴東、41号以降：荒川洲帆、91号以降：須田誠舟	1960年2月創刊、42号の発行地は「港区西新橋6-10-1田中ビル3階」
11	錦心（483-491番）	薩摩・錦心	341-349（198203-11）	9	栃木県足利市緑町1丁目3260（発行）、東京都豊島区南池袋3-15-11内田ビル2階（編集）	新井潼水方（発行）、錦心流琵琶一水会本部（編集）	中谷襄水	
12	筑前琵琶 旭時報（559-560番）	筑前・旭会	No. 68（199108），88（200108）	2	千代田区三番町3、88号：千代田区三番町3-2	筑前琵琶日本旭会	筑前琵琶日本旭会	

（筆者作成、2021/3/1現在の整理状況に基づく）

〈凡例・注記〉

・及川コレクション資料および薦田（2014）を参照。
・戦前に刊行された資料のうち、薦田（2014）に記載のない巻号を含む場合は、網掛けをした。
・「主なジャンル」のうち「近代琵琶」は薩摩・筑前琵琶およびそれぞれの各流派を含むことを示す。
・号数の記載がない場合は、「刊行年・刊行月」と示した。また、資料自体に号数の誤りがある場合でもそのまま記載した。
・戦前期の発行地は、市の記載がないものはすべて東京市である。
・刊行途中で情報に変更がある場合は、「●号（以降）：」として記載したが、これは及川コレクション内に限定した情報である。
・『琵琶新聞』1922年発行分は合本のため12号分で1点と数えた。また『水声』には記事の複写が1点含まれている。

た。雑誌資料は、いわば琵琶界の動向がリアルタイムで記録されたものであり、近代琵琶史を連続的かつ具体的に読み解くことができる。

３．錦心流の組織と機関誌

薩摩琵琶は、明治初期に東京へ進出して以降大正期にかけて全国的に流行した、近代琵琶楽の一つである。及川コレクションには、薩摩琵琶の一流派である錦心流の機関誌が、戦前期で５種類所蔵されており、また比較的まとまった数が収集されていた。本章では、及川コレクション所蔵の各錦心流機関誌の変遷に沿って、これらの記事内容から読み取れる錦心流組織の展開について記述する。なお、補足的に国会図書館所蔵『琵琶新聞』『水声』も参照した。

3-1.『四絃』

錦心流の創始者・永田錦心（1885～1927）は、自身の琵琶会として明治39（1906）年に「黄嘴会」を創設した。その後、明治41（1908）年に「永」の字をとって「一水会」と改称し、翌年には門弟昇伝者に「水」号を授与する雅号制度を設けた。一水会が創立されて４年後の明治45（1912）年春には、錦心流で初めての会報『**琵琶界**』が、酒井幽泉が主幹となり創刊された[3)]。そして大正６（1917）年初冬には、当時300人余りの水号者の熱望により、錦心流機関誌として『**四絃**』が主幹・須田春園により刊行された。及川コレクションには、大正11（1922）年刊行の３点が所蔵される。また『琵琶界』『四絃』ともに、いつ頃まで刊行が続いたのかは、現時点では不明である。

【図１】『四絃』表紙

『四絃』は当初、印刷部数1000部に対して500部の残本があった。その後、大会や例会といった琵琶演奏会での出張販売なども行った結果、４年ほどで1000部を捌けるようになり、大正10（1921）年夏の時点では2000名近くの愛読者を得た。また、翌大正11年時点での水号者は2400名を超えたといい、『四絃』創刊当時から８倍にも増加した（春園生 1922、28～29頁）。

3-2.『水声』

錦心流門弟が激増する中で、永田錦心は次第に、「全国水号者を啓蒙せずんば、琵琶の棄てらるゝこと」を憂慮し、錦心流の機関誌の必要性を感じるようになった（椎橋 1925、３頁）。そこで錦心は、当時『琵琶新聞』を発行していた椎橋松亭（重吉）に要請し、大正14（1925）年に錦心流機関誌として『**水声**』が創刊された[4)]。本誌は国会図書館などにも所蔵されているが、及川コレクションでは全66号の約３分の１である、20点が確認できた。

水号者の人数の推移は、『水声』創刊直前の大正13（1924）年12月には3800名を超え、大正15（1926）年12月現在では5061名、昭和４（1929）年11月現在では6746名と、さらに増加し続けており、錦心流の

人気ぶりがうかがえる[5]。

【図２】『水声』表紙

大正15（1926）年には、昇伝制度の最上級である総伝の門弟のうち、技術が優秀だと認められた高弟に、永田錦心より「錦」号を与える制度が設けられた。しかし、昭和２（1927）年に永田錦心が亡くなると、錦心流の体制に大きな変革が起こる。二世宗家は錦心の息女・永田瑞枝が継承したが、まだ幼かったこともあり、錦号所有者の幹部が中心となって宗家を補佐し、組織運営を行った。しかし、昭和５（1930）年３月には、錦心流幹部らの告発により、同じく幹部の水藤枝水（1895～1976）およびその養女である錦琵琶[6]宗家・水藤錦穣（1911～1973）が錦心流から除名されるという事件が起きた。さらに翌月には、錦心流幹部の中で対立が起こり、永田瑞枝を二世宗家と仰ぐ「一水会本部派」と、芸術を本意として永田錦心の遺志を尊重する「錦心流本部派」とに袂を分かつこととなった。この一連の分裂騒動については、『水声』で詳しく取り上げられたが、その内容は錦心流本部側の立場からの記述であった。そして『水声』は、錦心流機関誌としての役割を解かれ、昭和５年６月に終刊となった。その後椎橋は、休刊していた『琵琶新聞』の発行を同年８月より再開した。『琵琶新聞』では錦心流の近況なども報じられたが、両派の演奏会同席禁止により琵琶会への来場者が分散される状況が指摘され（1930、２～４頁）、錦心流の分断は琵琶界全体にも影響を及ぼしたと考えられる。

3-3.『錦心流月報』

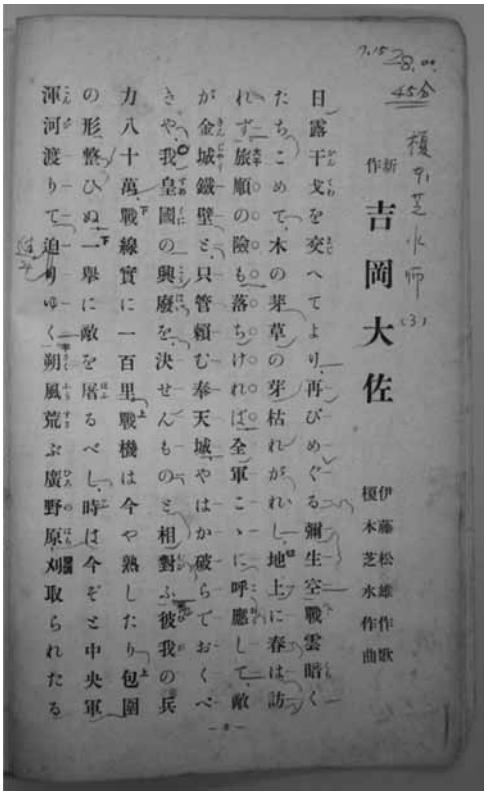
本節以降で取り上げる及川コレクションの雑誌は、すべて一水会本部側の機関誌である。錦心流組織の分裂直後、一水会本部は宗家管轄の会報として昭和５（1930）年５月に『**錦心流月報**』を創刊した。当初は梶並貫水が編輯を担当していたが、昭和７（1932）年１月からは酒井幽泉に担当が移行した。内容は、永田錦心に関する回顧録や、新作琵琶歌の詞章、演奏会情報などが掲載される。本誌は、当初は新聞体であったが、昭和７年に雑誌体へと体裁を変更した（高松 1932、１頁ほか）。及川コレクションには、途中欠号はあるものの、雑誌体となって以降の昭和７年３月号[7]から第56号[8]（昭和９年11月刊行）までの27点が所蔵される。先行研究で調査対象とされた雑誌資料には、部分的に所蔵が確認できていなかった時期があったが、及川コレクション所蔵『錦心流月報』は、そのうちの昭和７～９（1932～34）年をカバーするものであり、一部の流派の機関誌ではあるものの、琵琶界の動向をより連続的に把握できるようになった。またこの期間は、昭和６（1931）年に勃発した満州事変以後と重なるが、琵琶界では同時代の時局物の琵琶歌が多く作られた時期でもあり、新作発表時期の特定にもつながる演奏会・琵琶歌本発売情報が多数掲載されている点でも貴重である。

【図３】『錦心流月報』表紙

ここで、『錦心流月報』内で確認できた複数の書き入れを紹介したい。この書き入れは、及川氏が資料を入手するよりも前の所持者によるものだと推測されるが、これらはどれも新作の詞章掲載記事で散見された。またその内容から、昭和７（1932）年11月８日夜に開催された「新曲講習演奏会」で聴取した際に書き留めたものだと推定できた（1932、32頁ほか）。以下に、演奏記録と書き入れ内容を対照させた【表２】を掲載する。

【表２】「新曲講習演奏会」演奏記録（「演奏会」[9] 掲載順、『錦心流月報』を参照し筆者作表）

演奏者	曲目	詞章掲載号	書き入れ内容（冒頭）
榎本芝水	吉岡大佐	昭和７年４月号	「7.15～8.00／45分／榎本芝水師（3）」
松田静水	枚方堤	27号	「8.53～9.20／松田静水師（5）」
浅野晴水	四條畷	26号	なし
長島華水	肉弾烈士	24号	「9.28～／長島華水氏」
谷暉水	小栗栖	28号	なし
新谷桂水	西中尉	29号	「新谷桂水氏（2）」
小山田賞水	竹生島	29号	「小山田賞水氏（1）」



【図４】《吉岡大佐》の書き入れ

演奏会は夜に開催されたため、例えば榎本芝水の「7.15～8.00」「45分」という書き込みからは、榎本の演奏が午後７時15分から８時までの45分間であったことが推測される（【図４】右上）。また、長島華水の演奏開始時間は午後９時28分だと推定すると、終演は午後10時を越えた頃だったと考えられる。一人の演奏時間が比較的長く、琵琶会が夜遅くまで開催されていたことはしばしば雑誌記事でも確認できたが、その様子が具体的にうかがえた。さらに、線で表記した節回しや、「地／大干」などの琵琶の旋律句（短い旋律型の名称）の記載からは、録音資料などがない場合でもある程度の音楽情報が得られる（【図４】詞章内）。そして楽曲によっては、詞章の大幅なカットや書き換えも確認できた。書き入れからは、以上のようなさまざまな情報を読み取ることができ、さらには機関誌読者の会報の活用方法の実態が垣間見えた。

次に一水会本部の当時の状況についてふれる。一水会本部の幹部･松田静水によれば、分裂当時から昭和８（1933）年までの間で会員数は7000人余りとなり、宗家・錦心の在世当時と同じように建て直すことができたという（1933、

18～19頁）。さらに、錦心流本部派に属していた錦号者の中には、一水会に復帰する者も次第に現れるようになった。

順調に思われた一水会本部の活動であったが、『琵琶新聞』第278号では、一水会本部の幹部が審査を行う昇伝試験が「有名無実」の状況となったため、試験は門人の各教師が行い、免状申請は宗家直接の扱いとなることが報じられた（1934、４頁）。その記事に対して『錦心流月報』第54号では、審査は従来の方式から変更はないと記載された（1934、28頁）。しかし、その翌月刊行の第56号では一転して、同年12月以降は錦心流宗家事務所を一時閉鎖し、『琵琶新聞』の既報通り、審査制度は各教師による責任で実施され、奥伝以上の免状は文書にて直接宗家に申請して下附されるという制度改革が行われることが報じられた（幽泉 1934、20～22頁）。この発表を受けた『琵琶新聞』第280号では、この改革は事務所閉鎖による経費削減や宗家の収入減額により、各教師の収益向上を企図するものであり、錦心流の状況改善につながる「宗家の大英断」だと評価された（1934、１頁）。そして宗家直属の雑誌として創刊された『錦心流月報』は、組織改編により宗家とは関係を断つこととなった。

3-4.『月刊　錦心流』

組織改編に伴って宗家から離れた『錦心流月報』は、発行者であった酒井幽泉個人により、『**月刊　錦心流**』と名称を変えて存続された。

【図５】『月刊 錦心流』表紙

及川コレクションには、第59号（昭和10年３月刊行）の１点が所蔵されている。『錦心流月報』の最終号と考えられる第56号では、それに続く12月号と新年号を合併させた「新年特大号」を、昭和９（1934）年12月20日に発行予定としていたことから、『月刊　錦心流』の号数は、『錦心流月報』を受け継いだものだと推測される[10]（幽泉1934、20～21頁）。その後『月刊　錦心流』がいつ頃まで刊行されたかは不明である。また、資料冒頭には折り込みで「ひろく宗家直属流門諸士水号協会員諸士に告ぐ」と題した通告文が挟み込まれていたが、内容や日付が「昭和十五年五月」と記載される点から、『月刊　錦心流水号協会会報』（以下、『水号協会会報』と記載）最終号の一部ではないかと推測される（内容詳細は次節にて記述）。

昭和９年12月16日には、「流門の和平向上、一致団結、利己専横を排し、宗家中心の下に集まる水号者有志」（傍点ママ）による「錦心流琵琶水号協会」（以下、「水号協会」と記載）が創立された。水号協会が、前述の宗家による組織改編を受けて発足が決まったのかは定かではないが、新組織として宗家を支え、会員相互の団結を図った（1935、18～19頁）。また、これまで錦心流の異なる会派は、演奏会の同席出演が避けられていたが、「流門発展普及の為め何等差支なきもの」と判断された、大館錦棋を宗家とする大館派と輝錦凌を宗家とする輝派の錦号者とは、同席出演が可能となった（1935、19頁）。大館と輝は、錦心流分裂当初は錦心流本部派に属していたが、どちらも昭和９年に独立して、宗家としてそれぞれ流儀を立てていた。このような演奏家の会派の移動や独立により、錦心流奏者の関係性がいっそう複雑な

様相を呈してきた中で、『琵琶新聞』第283号には演奏会の同席の範囲を明確に示した記事も掲載された（1935、１頁）。

3-5.『月刊　錦心流水号協会会報』

昭和９（1934）年12月に創立した水号協会の会報として、昭和10年10月に『**水号協会会報**』が創刊された。主幹は鈴木鉦次郎で、及川コレクションで確認できる範囲では、第５巻第12号以降は谷侃三が担当した。及川コレクションには､第４巻１月号から第６巻第４・５号まで（昭和13年１月～昭和15年５月）のうちの11点が所蔵される[11)]。第４巻以降は、日中戦争開戦以降と時期が重なるため、次第に戦時色が濃い内容となり、陸軍・海軍それぞれの慰問演奏の詳細な記録なども確認できた。

【図６】『水号協会会報』表紙

前述の『月刊　錦心流』第59号に挟み込まれていた通告文は、宗家事務の担い手変更の通達であった。昭和９年の組織改編後は、宗家が自宅にて事務作業を行ったが、宗家家族の健康面などを考慮し、昭和15（1940）年５月以降は、宗家事務の一切を水号協会に移譲することになり､実質水号協会が宗家の役割を担うこととなった。そこで、同年８月末には水号協会の解散式を挙行し、先進・後進の会員を加えて、錦心流を統括する新たな「錦心流琵琶一水会本部」として再出発することとなった。

一方『琵琶新聞』第345号は、この組織の改編を「宗家廃止」という直接的な文言で報じている。さらに、離合集散を繰り返した錦心流の演奏家たちに対しては､「殊に祖流を等しくする同門の士として、親和協力すること」を大切に､「新たに流派を樹てし人々も、旧より独立してゐる人々も、深く省みて互に相励まし、相扶け斯道振興の一路に邁進」すべきとした（1940、１頁）。その後は昭和19（1944）年まで刊行が続いた『琵琶新聞』だが、錦心流についての記事は、分裂当初に錦心流本部派であった、あるいは一水会本部から独立した演奏家関連のものが多く、新たな一水会本部の記事はほとんどみられなかった。

『水号協会会報』第６巻第４・５号では、水号協会解散に伴い『水号協会会報』は終刊として、新たな会報を創刊するという通告がなされた。さらに仮称として「錦心流会報」の記載がみられたが、実際に刊行されたかどうかは不明である（錦心流水号協会 1940、扉１頁）。

ここまで、錦心流の組織の変遷を会報の内容から読み解いてきたが、流派の動きと雑誌・会報の推移を以下の【表３】にまとめる。

【表３】錦心流の動向と雑誌・会報の推移（筆者作表、ゴシックは錦心流機関誌の創刊）

年.月	流派の動き	雑誌・会報発行
1906	「黄嘴会」創設	
1908	「一水会」へ改称	
1909	「水」号の授与創始	『琵琶新聞』創刊（1909、一時休刊）
		『琵琶界』創刊（1912）／**『四絃』**創刊（1917）
1926	「錦」号の授与創始	**『水声』**創刊（1925）
1927	宗家・永田錦心没	
1930.3	水藤枝水・錦穣親子、錦心流除名	
1930.4	錦号所有者幹部内での対立	**『錦心流月報』**創刊（1930.5）
	→一水会本部派 対 錦心流本部派	『水声』終刊（1930.6）／『琵琶新聞』再刊（1930.8）
1934.12	宗家事務所を一時閉鎖	『錦心流月報』終刊（1934.11？）
	「水号協会」設立	**『月刊 錦心流』**創刊（1934.12？）
		『水号協会会報』創刊（1935.10）
1940.5	錦心流事業の一切を水号協会に移譲	『水号協会会報』終刊（1940.5）
	→新たに「一水会本部」設立	『錦心流会報』として継続？

４．まとめ

以上より、及川コレクションの近代琵琶雑誌・会報資料から、新たに明らかになった点が大きく三つ挙げられる。まず一つが、錦心流の一水会本部派の詳細な組織変遷の実態である。これまでの調査では、『水声』終刊後はほぼ『琵琶新聞』のみでしか錦心流の動向を把握することができず、琵琶界の記述に偏りが生じてしまう課題もあった。しかし今回の会報調査により、分裂後の一水会本部は宗家に属する団体として、組織改編を重ねて運営された状況について、具体的に提示することができた。

二つ目は、戦時期における琵琶界の活動状況である。戦争との関連がしばしば指摘される琵琶界だが、満州事変勃発後の昭和７～９（1932～34）年の時期は、これまで資料の所蔵がほとんど確認できなかったために、実態として琵琶がどれほど戦争に関与したのか詳らかでない点も多かった。本稿では、記事内容の精査には至らなかったが、時局物琵琶歌の初演情報といった記録が確認できたことで、今後レパートリーの変遷の検討も可能となるだろう。

三つ目は、当時の会報の活用方法である。推測の域を出ないが、実際の書き入れ内容からは、会報が単なる読み物としてのみならず、門弟の演奏技能の習得にも直接寄与する雑誌であったことが読み取れた。その内容をさらに詳細に検討することで、演奏家ごとの節回しの特徴の分析や、復元演奏なども実現できるのではないか。

及川コレクションは、未だ発展途上にある近代琵琶研究の進展に大きく貢献する、意義深い資料群だといえよう。今後は筑前琵琶も含めて、その他の会派の会報や琵琶歌本、免状発行などの貴重資料から、組織の動向や音楽内容について研究を進めていきたい。

参考文献

及川尊雄『阿弗利加（あふりか）から旅して来た日本の楽器たち 音の図書館をめざして』東京：及川鳴り物博物館、2018年。

薦田治子『近代琵琶楽の成立と展開　―基礎資料の収集―』平成23～25年度科学研究費助成事業〔学術研究助成基金助成金（基盤研究（c））〕研究成果報告書、東京：武蔵野音楽大学、2014年。

日本琵琶楽協会編『創立50周年記念　日本琵琶楽協会のあゆみ』東京：日本琵琶楽協会、2009年。

本文中で参照した雑誌・会報記事（刊行順）

●及川コレクション所蔵

春園生「第一の希望より第二の希望へ＝創業既に成りぬ、いざや向はん守成の地へ＝」『四絃』第58号、1922年、28～29頁。

「錦心流水号一覧表」『水声』第60号、1929年、３～47頁。

「錦心流の近状」『琵琶新聞』第67号、1930年、19頁。

「琵琶界全般のために錦心流両派の妥協を望む」『琵琶新聞』第68号、1930年、２～４頁。

「新作　吉岡大佐」『錦心流月報』昭和７年４月号、1932年、８～15頁。

「新作琵琶歌　肉弾烈士」『錦心流月報』第24号、1932年、６～７頁。

高松春月「明るく往かう」『錦心流月報』第26号、1932年、１～２頁。

「錦心流琵琶歌　四條畷」『錦心流月報』第26号、1932年、10～11頁。

「編輯後記」『錦心流月報』第26号、1932年、裏表紙裏。

「新作琵琶歌　枚方堤」『錦心流月報』第27号、1932年、10～11頁。

「新曲　小栗栖」『錦心流月報』第28号、1932年、14～15頁。

「新曲　竹生島」『錦心流月報』第29号、1932年、14～15頁。

「新作琵琶歌　西中尉」『錦心流月報』第29号、1932年、17頁。

「新曲講習演奏会」『錦心流月報』第31号、1932年、32頁。

「演奏会」『錦心流月報』第32号、1932年、24～25頁。

松田静水「迎春雑記」『錦心流月報』第33号、1933年、18～19頁。

「急告　免状取扱に就て」『錦心流月報』第54号、1934年、28頁。

幽泉　酒井流水「月報編輯部より」『錦心流月報』第56号、1934年、20～22頁。

「水号協会欄」『月刊　錦心流』第59号、1935年、18～19頁。

松田静水「一水会物の始め」『錦心流水号協会会報』第４巻１月号、1937年、８～16頁。

「ひろく宗家直属流門諸士水号協会員諸士に告ぐ」『錦心流水号協会会報』第６巻第４・５号カ、1940年、折り込み。

錦心流水号協会「はしがき」『錦心流水号協会会報』第６巻第４・５号、1940年、扉１頁。

●国会図書館所蔵

椎橋松亭「『水声』の創刊に臨みて」『水声』第１号、1925年、２～４頁。

中田冥外生「大正十三年の錦心流画報」『水声』第１号、1925年、11頁。
『錦心流水号一覧表　附琵琶沿革及錦心流細則』琵琶新聞社水声発行部、1926年。
「錦心流の免状申請は宗家直接扱ひとなる」『琵琶新聞』第278号、1934年、４頁。
「錦心流宗家の大英断　事務改革による教師の福音」『琵琶新聞』第280号、1934年、１頁。
「錦心流の同席範囲」『琵琶新聞』第283号、1935年、１頁。
「錦心流永田宗家の解消＝免状発行廃止となる＝」第345号、1940年、１頁。
「一水会々報　水号協会の解散と一水会新体制」第349号、1940年、５頁。

《注》

１）「03.琵琶楽」には近代琵琶の薩摩琵琶･筑前琵琶のほか､平家琵琶や盲僧琵琶､肥後琵琶なども含むが､雅楽で用いられる楽琵琶は「01.雅楽」に分類した。

２）本稿では、以下、資料名、演奏者名、引用文は新字体に統一して表記した。

３）及川コレクションで確認できる同名資料の『琵琶界』は、大正期から昭和期にかけて刊行された筑前琵琶の会報であり、錦心流のものとは別の雑誌である（【表１】８参照)。

４）椎橋は、発刊の経緯の記述の中で、それまでの「似非機関誌」が廃刊したことについても触れているが、この雑誌が『四絃』を指しているのかは不明である。

５）人数は､それぞれ『水声』第１号（1925､11頁)､『錦心流水号一覧表　附琵琶沿革及錦心流細則』(1926､表紙裏)､『水声』第60号（1929、４頁）参照。

６）錦琵琶は、永田錦心の発案をもとに、水藤錦穣により大正15（1926）年に考案された新しい構造の琵琶、およびその流儀。この事件後は独立した流派として活動が展開された。

７）昭和７年３月、４月号には通号の記載がなかった。また､同年５月号には第24号との記載があるが､その翌月号の「編輯後記」には、体裁を変更した際に一時期号数に誤りがあったため修正したという記載があり、本来は第25号であったと考えられる。

８）第54号が昭和９年10月に刊行され、第56号には「十一月号発刊遅延」(21頁）という記載があることから、本来は第55号が正しい号数である可能性が高い。

９）『錦心流月報』第32号（1932、25頁）掲載の演奏会報告記事。なお掲載順は、実際に演奏した順番とは異なると推測される。また､同誌第26号掲載の《四條畷》の詞章は､従来の錦心流のレパートリーのものであるため、新曲発表である本演奏会で演奏されたものと同一かは定かではない。

10）ただし､『錦心流月報』第56号の巻末広告には「錦心流月報　新年特大号予告」とあることから、第57号から『月刊　錦心流』という名称であったかは不明である。

11）通号での記載はなく、号数は当初「●月号」のみだが、途中から「第●号」が併記される。また、第４巻１月号は昭和13（1938）年１月号だが、発行日は前年12月であった。

結び

及川尊雄氏は、自身で収集した「鳴り物」を展示する「及川鳴り物博物館」（2003-2015年）の館長を務め、その「鳴り物」に及川氏独自の視点から解説を加えて『阿弗利加（あふりか）から旅して来た日本の楽器たち音の図書館をめざして』（アルテスパブリッシング、2018年）を出版されました。博物館はすでに閉館となり、また平成30（2018）年に及川氏も逝去され、これまで博物館で自ら来館者に案内・解説をしていたという及川氏本人の言葉を「直接」聞くことは望めなくなりました。私自身、残念ながら博物館を訪れることも、生前の及川氏にお目に掛かることも叶いませんでしたが、博物館の閉館を知って、改めてその「鳴り物」収集の経緯やお考えを聞きたいと思って電話を掛け、一度だけ及川氏とお話したことがあります。今思えば、これがお亡くなりになる２か月前でした。その時、図録に続く理論編の刊行を考えており、その構想はすでにあると仰っていたのを覚えています。

その後ご縁があり、ご家族の方々と連絡を取る機会を得て、閉館後の博物館と及川氏が残された膨大な紙媒体資料を拝見しました。楽器については、残念ながら当研究所としてできることが見つかりませんでしたが、これまで知られていなかった紙媒体資料については、ジャンルの幅広さ、時代の広がり、貴重な一次資料の豊富さを鑑みて、なるべくまとまった形でこの資料群を受け入れ、多くの研究者をはじめ関心のある方々に直接手に取っていただきたいと考え、ご家族の皆様にもご理解を賜りました。こうして概要調査に取り掛かってすでに２年以上がたちました。途中で追加資料のご提供もあり、また新型コロナウイルス禍もあって、その概要をつかむだけでも予想以上に時間がかかってしまいましたが、ここに、まだ完全とは言えない形ながら、及川氏の収集した紙媒体資料の全体像を「目録」という形で公開しました。今後は、当研究所のホームページを通じて「目録」をウェブ公開するとともに、さらに情報を更新していく所存です。

なお、本目録に掲載した紙媒体資料群の大部分は、及川氏ご家族のご厚意により当研究所に寄贈されることになりました。これらの資料が日本音楽および有形・無形の文化財に関心のある幅広い方々に豊かな情報をもたらすことを確信し、期待するとともに、改めて及川尊雄氏に敬意を表します。そして、この調査および目録刊行、資料受け入れに際し、温かいご理解・ご配慮を賜った及川淑子様はじめご家族の皆様に、重ねて感謝申し上げます。最後に、本目録にかかる調査・整理・執筆に辛抱強く関わってくださった、鎌田紗弓、曽村みずき、中川優子、橋本かおるの各氏に篤く御礼申し上げます。

令和３年３月

東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形文化財研究室長
前　原　恵　美

及川尊雄収集 紙媒体資料目録

Inventory of Texts and Manuscripts, Oikawa Takao Collection

令和 3（2021）年 3 月　発行

Issued in March 2021

共　　著：鎌田紗弓　曽村みずき　中川優子　橋本かおる　前原恵美

Co-authored by KAMATA Sayumi, SOMURA Mizuki, NAKAGAWA Yuko, HASHIMOTO Kaoru, and MAEHARA Megumi

監　　修：無形文化遺産部 無形文化財研究室長　前原恵美

Edited by MAEHARA Megumi, Head of Intangible Cultural Properties Section, Department of Intangible Cultural Heritage, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

発　　行：独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所
〒 110-8713　東京都台東区上野公園 13-43　電話 03-3823-2435

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
13-43 Ueno Park, Taito-ku, Tokyo, 110-8713 Japan

印　　刷：株式会社 松本文信堂

Printed by Matsumoto Bunshindo Corp.